

筑後西部地区遺跡群Ⅱ

福岡県筑後市大字島田、水田、折地、常用、井田所在遺跡の調査
筑後市文化財調査報告書
第29集

2000

筑後市教育委員会

筑後西部地区遺跡群Ⅱ

福岡県筑後市大字島田、水田、折地、常用、井田所在遺跡の調査
筑後市文化財調査報告書
第29集

2000

筑後市教育委員会

筑後西部地区遺跡群Ⅱ

福岡県筑後市大字島田、水田、折地、常用、井田所在遺跡の調査

- ・常用ビンセ田遺跡
- ・水田正吹遺跡
- ・島田外屋敷遺跡
- ・井田栗ノ内遺跡
- ・水田伊勢ノ脇遺跡
- ・折地長間寺遺跡
- ・井田堀越遺跡
- ・井田下堀越遺跡
- ・梅島遺跡（第2次調査）

2000

筑後市教育委員会

序

永きにわたって実施されてきました県営干拓地等農地整備事業に係る筑後西部地区の発掘調査は平成9年度をもって終了しました。

発掘調査の結果、筑後市南西部一帯には、広範囲に及んで多数の遺跡が分布していることがわかり、筑後市の中でも有数の遺跡宝庫地であることが明らかになりました。

こうした成果を挙げることができましたのも、調査にご理解とご協力をいただきました関係者及び地元の方々の賜と思っております。

最後に、本報告が文化財保護の一助として広く活用していただければ幸いです。

平成12年3月

筑後市教育委員会
教育長　牟田口和良

例 言

- 1.本書は、県営干拓地等農地整備事業に係る筑後西部地区の工事に伴い、福岡県筑後川水系農地開発事務所の委託を受けて、筑後市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
- 2.発掘調査及び出土遺物の整理は筑後市教育委員会が行い、出土遺物・図面・写真などは筑後市教育委員会において所蔵・保管をしている。なお、発掘調査及び整理作業の関係者は「I.調査経過と組織」に記したとおりで、調査担当者は本文中の「(1)はじめに」に記した。
- 3.調査用いた測量座標は、国土調査法第II座標系を基準としている。従って、本書に示される方位はすべてG.N.(座標北)を示し、本文中に記される遺構の角度はこれを基準としたものである。また、水準はT.P.を基準としている。
- 4.本書に使用した図面のうち、遺構の実測図は永見秀徳、小林勇作、田中剛、柴田剛、塚本映子(現:三浦町教育委員会)、大島真一郎(現:黒木町教育委員会)、田中洋子、末吉隆弥(現:川崎町教育委員会)、奥村太郎が作成した。また、遺構の全体図は、梅島遺跡(第2次調査)及び水田正吹遺跡をアジア航測株式会社、島田外屋敷遺跡は大成ジオテック株式会社に委託した。遺物の実測図は永見、平塚あけみ、江藤玲子が作成し、図版の浄書は永見、平塚が行った。
- 5.本書に使用した写真のうち、遺構の写真撮影は永見、小林、田中、柴田、塚本、大島、末吉が行い、遺物の写真撮影は永見、小林が行った。現場における空中写真撮影は(有)空中写真企画に委託した。
- 6.本書に使用した遺構表示は下記の略号による。
SB—掘立柱建物 SD—溝 SK—土壙 SP—ビット ST—墓 SX—周溝状遺構・不明遺構
- 7.本書に掲載した地図(Fig.1)は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したもの(承認番号 平12九版、第60号)である。
- 8.本書の執筆は「III-9.梅島遺跡(第2次調査)の調査」を永見、その他は小林が担当し、編集は小林が担当した。

本文目次

I.調査経過と組織	1
II.位置と環境	3
III.調査の概要	7
1.常用ピンセ田遺跡の調査	7
(1)はじめに	7
(2)遺構	7
(3)出土遺物	8
(4)小結	8
2.水田正吹遺跡の調査	9
(1)はじめに	9
(2)遺構	10
(3)出土遺物	20
(4)小結	30
3.島田外屋敷遺跡の調査	35
(1)はじめに	35
(2)遺構	35
(3)出土遺物	43
(4)小結	49

4. 井田栗ノ内遺跡の調査	53
(1) はじめに	53
(2) 遺構	53
(3) 出土遺物	54
(4) 小結	54
5. 水田伊勢ノ脇遺跡の調査	55
(1) はじめに	55
(2) 遺構	55
(3) 出土遺物	59
(4) 小結	63
6. 折地長間寺遺跡の調査	65
(1) はじめに	65
(2) 遺構	65
(3) 出土遺物	73
(4) 小結	80
7. 井田堀越遺跡の調査	83
(1) はじめに	83
(2) 遺構	83
(3) 出土遺物	84
(4) 小結	88
8. 井田下堀越遺跡の調査	91
(1) はじめに	91
(2) 遺構	92
(3) 出土遺物	92
(4) 小結	96
9. 梅島遺跡（第2次調査）の調査	97
(1) はじめに	97
(2) 遺構	97
(3) 出土遺物	100
(4) 小結	173
IV. 総括	175

挿図目次

Fig.1	周辺遺跡分布図 (1/25,000)	3
Fig.2	県営干拓地等農地整備事業筑後西部地区一般計画平面図 (1/10,000)	(折り込み)
Fig.3	常用ビンセ田遺跡調査地点位置図 (1/2,500)	7
Fig.4	常用ビンセ田遺跡遺構全体実測図 (1/200)	8
Fig.5	水田正吹遺跡調査地点位置図 (1/2,500)	9
Fig.6	調査区A (SB020) 実測図 (1/60)	10
Fig.7	調査区A (SB030) 実測図 (1/60)	11
Fig.8	調査区A (SB040) 実測図 (1/60)	12
Fig.9	調査区A (SK001 ~ 004・006・007・012 ~ 014、SX009・011、SP016) 実測図 (1/60)	13
Fig.10	調査区A (SK005・010・015) 実測図 (1/30・1/60)	14
Fig.11	調査区B (SD050) 実測図 (1/60)	15

Fig.12	調査区B (SK025・035・045) 実測図 (1/30・1/60) ······	16
Fig.13	調査区B (SX064) 実測図 (1/60) ······	17
Fig.14	調査区C (SD080・090、SX100) 実測図 (1/60) ······	18
Fig.15	調査区D (SD104・108・120, SK102・105・115・111・125) 実測図 (1/60) ······	19
Fig.16	調査区A (SB040-P3) 出土土器実測図 (1/3) ······	20
Fig.17	調査区A (SK002～006・010・069) 出土土器実測図 (1/3) ······	21
Fig.18	調査区A (SK015、SX011) 出土土器実測図 (1/3) ······	23
Fig.19	調査区B出土土器実測図 (1/3) ······	24
Fig.20	調査区C溝出土土器実測図 (1/3) ······	25
Fig.21	調査区C (SX100) 出土土器実測図① (1/3) ······	26
Fig.22	調査区C (SX100) 出土土器実測図② (1/3) ······	27
Fig.23	調査区C (SX100) 出土土器実測図③ (1/3) ······	28
Fig.24	調査区C (SX100) 出土土器実測図④ (1/3) ······	29
Fig.25	調査区C (SX100) 出土土器実測図⑤ (1/3) ······	30
Fig.26	調査区D溝出土土器実測図 (1/3) ······	30
Fig.27	石製品・鉄製品実測図 (1/2) ······	30
Fig.28	鳥田外屋敷遺跡調査地点位置図 (1/2,500) ······	35
Fig.29	調査区A (SD05・65・75, SK71～73) 実測図 (1/50・1/100) ······	36
Fig.30	鳥田外屋敷遺跡構全体実測図 (1/200) ······	(折り込み)
Fig.31	調査区C (SD15・20・60, SK22・23・SX31) 実測図 (1/50・1/100) ······	39
Fig.32	調査区D (SD10) 実測図 (1/50) ······	41
Fig.33	調査区D (SD30・35, SK40) 実測図 (1/50) ······	42
Fig.34	調査区D (SK24・26・45) 実測図 (1/50) ······	43
Fig.35	調査区A (SD05) 出土土器実測図 (1/3) ······	44
Fig.36	調査区C (SD20、ST02・03・12・23) 出土土器実測図 (1/3) ······	44
Fig.37	調査区D (SD10) 出土土器実測図① (1/3) ······	45
Fig.38	調査区D (SD10) 出土土器実測図② (1/3) ······	46
Fig.39	調査区D (SD10) 出土土器実測図③ (1/3) ······	47
Fig.40	調査区D (SD30、SK40、SP26) 出土遺物実測図 (1/3) ······	48
Fig.41	包含層出土土器実測図 (1/3) ······	49
Fig.42	井田栗ノ内遺跡調査地点位置図 (1/2,500) ······	53
Fig.43	SD1土層断面実測図 (1/40) ······	54
Fig.44	井田栗ノ内遺跡構全体実測図 (1/200) ······	54
Fig.45	水田伊勢ノ脇遺跡調査地点位置図 (1/2,500) ······	55
Fig.46	溝土層断面実測図 (1/40) ······	57
Fig.47	SX040・050遺構実測図 (1/40) ······	58
Fig.48	土壤実測図 (1/40) ······	59
Fig.49	溝出土土器実測図 (1/3) ······	60
Fig.50	周溝状遺構・土壤出土土器実測図 (1/3) ······	62
Fig.51	石製品実測図 (1/2) ······	63
Fig.52	折地長間寺遺跡調査地点位置図 (1/2,500) ······	65
Fig.53	SD05・10・20実測図 (1/40・1/80) ······	66
Fig.54	折地長間寺遺跡構全体実測図 (1/200) ······	(折り込み)
Fig.55	SD30・60実測図 (1/40・1/80) ······	70
Fig.56	土壤・ピット実測図 (1/30・1/60) ······	72
Fig.57	SD05・10・30・51・52出土土器実測図 (1/3) ······	74

Fig.58	SD60出土土器実測図 (1/3)	76
Fig.59	SK04・21・31・46・53出土土器実測図 (1/3)	77
Fig.60	SK50出土土器実測図 (1/3・1/6)	78
Fig.61	その他の出土土器実測図 (1/3)	79
Fig.62	石製品・鉄製品・銅製品実測図 (1/2)	79
Fig.63	井田堀越遺跡調査地点位置図 (1/2,500)	83
Fig.64	SD01土層断面実測図 (1/40)	84
Fig.65	SD05土層断面実測図 (1/40)	84
Fig.66	井田堀越遺跡遺構全体実測図 (1/200) (折り込み)	
Fig.67	SD10土層断面実測図 (1/40)	87
Fig.68	SD15土層断面実測図 (1/40)	88
Fig.69	SD10出土土器実測図 (1/3)	88
Fig.70	SD10出土木製品実測図 (1/2)	88
Fig.71	SD15出土土器実測図 (1/3)	88
Fig.72	井田下堀越遺跡調査地点位置図 (1/2,500)	91
Fig.73	井田下堀越遺跡遺構全体実測図 (1/200)	91
Fig.74	SD15実測図 (1/60)	92
Fig.75	土壤実測図 (1/60)	93
Fig.76	SD15出土土器実測図 (1/3)	93
Fig.77	SK10出土土器実測図 (1/3)	94
Fig.78	石製品実測図 (1/2・1/4)	95
Fig.79	SP01出土土器実測図 (1/3)	96
Fig.80	梅島遺跡（第2次調査）調査地点位置図 (1/2,500)	97
Fig.81	周溝状遺構平面図① (1/100)	98
Fig.82	周溝状遺構平面図② (1/100)	99
Fig.83	周溝状遺構平面図③ (1/100)	100
Fig.84	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図① (1/3)	101
Fig.85	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図② (1/3)	102
Fig.86	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図③ (1/3)	103
Fig.87	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図④ (1/3)	104
Fig.88	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑤ (1/3)	105
Fig.89	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑥ (1/3)	106
Fig.90	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑦ (1/3)	107
Fig.91	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑧ (1/3)	108
Fig.92	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑨ (1/3)	109
Fig.93	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑩ (1/3)	110
Fig.94	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑪ (1/3)	111
Fig.95	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑫ (1/3)	112
Fig.96	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑬ (1/3)	113
Fig.97	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑭ (1/3)	114
Fig.98	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑮ (1/3)	115
Fig.99	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑯ (1/3)	116
Fig.100	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑰ (1/3)	117
Fig.101	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑱ (1/3)	118
Fig.102	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑲ (1/3)	119
Fig.103	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑳ (1/3)	120

Fig.104	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図① (1/3)	121
Fig.105	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図② (1/3)	122
Fig.106	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図③ (1/3)	123
Fig.107	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図④ (1/3)	124
Fig.108	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑤ (1/3)	125
Fig.109	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑥ (1/3)	126
Fig.110	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑦ (1/3)	127
Fig.111	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑧ (1/3)	128
Fig.112	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑨ (1/3)	129
Fig.113	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑩ (1/3)	130
Fig.114	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑪ (1/3)	131
Fig.115	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑫ (1/3)	132
Fig.116	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑬ (1/3)	133
Fig.117	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑭ (1/3)	134
Fig.118	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑮ (1/3)	135
Fig.119	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑯ (1/3)	136
Fig.120	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑰ (1/3)	137
Fig.121	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑱ (1/3)	138
Fig.122	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑲ (1/3)	139
Fig.123	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑳ (1/3)	140
Fig.124	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉑ (1/3)	141
Fig.125	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉒ (1/3)	142
Fig.126	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉓ (1/3)	143
Fig.127	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉔ (1/3)	144
Fig.128	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉕ (1/3)	145
Fig.129	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉖ (1/3)	146
Fig.130	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉗ (1/3)	147
Fig.131	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉘ (1/3)	148
Fig.132	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉙ (1/3)	149
Fig.133	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉚ (1/3)	150
Fig.134	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉛ (1/3)	151
Fig.135	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉜ (1/3)	152
Fig.136	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉝ (1/3)	153
Fig.137	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉞ (1/3)	154
Fig.138	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉟ (1/3)	155
Fig.139	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉟ (1/3)	156
Fig.140	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉟ (2/3)	156
Fig.141	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉟ (2/3)	157
Fig.142	梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㉟ (2/3)	158
付図①	水田正吹遺跡遺構全体実測図 (1/350)	
付図②	水田伊勢ノ脇遺跡遺構全体実測図 (1/200)	
付図③	梅島遺跡（第2次調査）遺構全体実測図 (1/350)	

I. 調査経過と組織

筑後西部地区遺跡群は、福岡県の南部、筑後の南西部に位置する。この地区は古くから米や麦を中心とした二毛作農耕が盛んに行われており、近年では農業經營の多様化によってハウスでの園芸栽培といった施設園芸が導入されるようになった。こうした状況の中、耕地の集団化や大区画整理、農道整備、用排水路分離などの営農体系を確立させるため、平成元年度から大規模な農地整備事業が実施されるようになった。

これに伴い、工事によって破壊される恐れのある埋蔵文化財の取り扱いについて、福岡県筑後川水系農地開発事務所から筑後市教育委員会へ照会があった。これを受けて筑後市教育委員会は、工事前に確認調査を実施し、その結果をもとに協議を行った。協議の結果、埋蔵文化財が確認された場所において掘削・削平の及ぶ箇所を「筑後西部地区遺跡群埋蔵文化財発掘調査」として実施することになった。発掘調査は工事の進行状況に応じて平成3年度～9年度まで実施された。なお、埋蔵文化財発掘調査に係る費用は、国・福岡県から一部の補助を受け、受益者負担分については筑後市が負担し、残る費用については福岡県筑後川水系農地開発事務所において負担した。

発掘調査において出土した遺物の整理と報告書作成については、隨時、筑後市役所内文化財整理室を行った。なお、筑後西部地区遺跡群内で発掘調査された榎崎遺跡（平成4年度調査）：井田西中野遺跡（平成5年度調査）；島田三反田遺跡；古島島相遺跡（平成6年度調査）の報告書は既に刊行されている。

以下は、発掘調査及び整理における組織を挙げるが、各発掘調査の実施期間や面積、調査担当者などについては、各章の「(1)はじめに」に記した。

調査組織

報告する調査が多年度にまたがるため、ここで一括して調査体制をあげる。

1) 平成3年度調査体制（梅島遺跡－第2次調査－）

総括	教育長	森田 基之
	教育部長	橋本 益夫
庶務	社会教育課長	延 文雄
	社会教育係長	松永盛四郎
	社会教育係	永見 秀徳
		小林 勇作（嘱託：H3.8.1～）

2) 平成7年度調査体制（常用ビンセ田遺跡・水田正吹遺跡・島田外屋敷遺跡）

総括	教育長	森田 基之
	教育部長	津留 忠義
庶務	社会教育課長	下川 雅晴（～H7.9.30）
		山口 逸郎（H7.10.1～）
	社会教育係長	本村 正晴
	社会教育係	永見 秀徳
		小林 勇作
		田中 剛
		塚本 映子（嘱託）
		大島真一郎（嘱託：H7.12.1～H8.3.31）

3) 平成8年度調査体制（井田栗ノ内遺跡）

総括	教育長	森田 基之
	教育部長	津留 忠義
庶務	社会教育課長	山口 逸郎
	社会教育係長	本村 正晴

社会教育係

永見 秀徳
小林 勇作
田中 剛
柴田 剛（嘱託）

4) 平成9年度調査体制（水田伊勢ノ脇遺跡・折地長間寺遺跡・井田堀越遺跡・井田下堀越遺跡）

総括	教育長	森田 基之
	教育部長	津留 忠義
庶務	社会教育課長	山口 邦郎
	社会教育係長	田中 清通
	社会教育係	永見 秀徳
		小林 勇作
		田中 剛
		上村 英士（H9.6.1～）
		上村 英士（嘱託：H9.4.1～H9.5.31）
		柴田 剛（嘱託）
		立石 真二（嘱託：H9.8.1～）

5) 平成11年度報告書作成

総括	教育長	牟田口和良
	教育部長	下川 雅晴
庶務	社会教育課長	庄村 國義
	文化係長	田中 僚一
	文化係	永見 秀徳
		小林 勇作
		上村 英士
		柴田 剛（嘱託）
		立石 真二（嘱託）

6) 発掘調査参加者（順不同、敬称略）

調査補助員

塙本 映子
大島真一郎
野田 洋子
永田 佳子
地元有志

発掘作業員

平塚あけみ
江藤 玲子
整理作業員
江藤 玲子、野間口靖子、馬場 敏子、野口 晴香、
湯川 琴美、深川 善子、湊 まど香、末吉 隆弥、
江崎 貴浩、奥村 太郎

なお、調査及び報告書作成に際しては、以下の方々にご指導、ご教示を賜った。記して感謝の意を表したい。

佐々木隆彦、伊崎俊秋、馬田稔、小田和利（福岡県教育庁）、城戸康利、中島恒次郎、山村信榮（太宰府市教育委員会）、富永直樹、白木守（久留米市教育委員会）、大塚恵治（八女市教育委員会）、片岡宏二（小郡市教育委員会）、塩地調一（大分市教育委員会）、狹川真一（元興寺文化財研究所）、宮本佐知子（財団法人大阪市文化財協会）

II.位置と環境

本題に入る前に、当遺跡が所在する筑後市について若干紹介する。

筑後市は、福岡県の南部で、日本有数の穀倉地帯である筑後平野のはば中央部に位置する。市域の北緑は久留米市、北東緑は八女郡広川町、東緑は八女市、北西緑は三瀬郡三瀬町、西緑は三瀬郡大木町、南緑は山門郡瀬高町、同郡三橋町と接する。人口約47,000人、面積41.85km²、標高3.5~40.5mで、主な交通網としては、久留米市と大牟田市を結ぶ国道209号線、八女市と大川市を結ぶ国道442号線、JR鹿児島本線（西牟田駅・羽犬塚駅・船小屋駅）、九州縦貫自動車道（八女インターチェンジ）である。筑後市は水田農業・酪農・烟作農耕・電子工業・印刷業といった農業と工業が調和のとれた街で、なかでもい草、なし、ぶどうは地場の特産品となっている。

さて、今回報告する筑後西部地区遺跡群は筑後市の南西部に位置し、標高4~6mの低位段丘から低湿地へと移行するところにあたり、西流する花宗川と矢部川に挟まれた平野部に所在する。近年、この地区はほ場整備や開発行為などに伴って実施されてきた発掘調査によって、多くの遺跡が点在していることがわかりつつあり、太古から住みやすい立地であったことが窺える。

ここでは、現在わかっている筑後西部地区並びにその周辺の遺跡をFig.1に示し、県営干拓地等農地整備事業筑後西部地区の一般計画概要をFig.2に示した。また、Fig.1に示した各遺跡の概略についてはTab.1に表したので参照されたい。

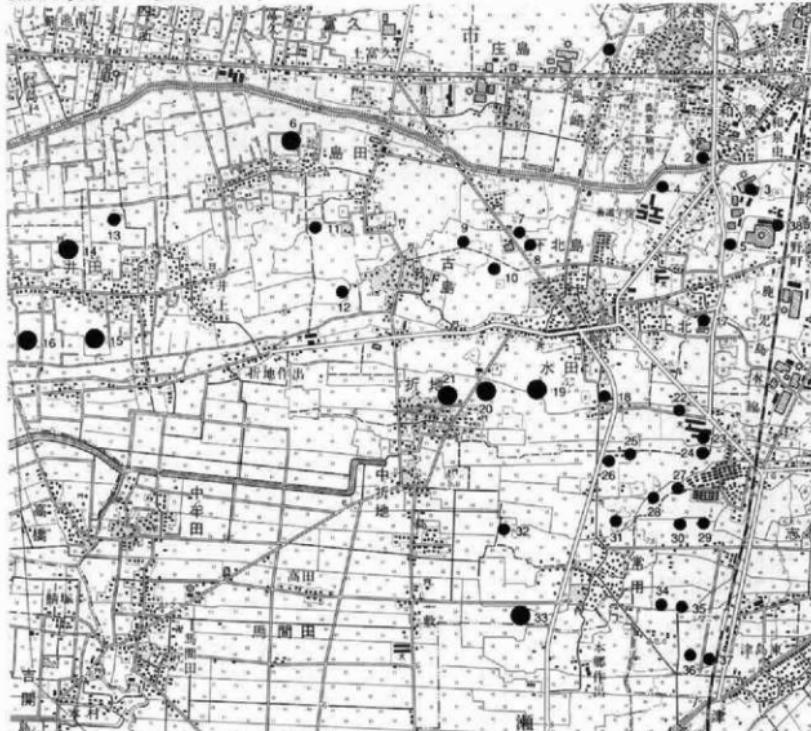


Fig.1 周辺遺跡分布図 (1/25,000)

遺跡No.	遺跡名	所在地	調査期間	遺跡の時代・性格(特記事項)
1	長崎砂田遺跡	筑後大字長崎砂田	1991年09月～11月	繩文～中世：(区画溝など)
2	相原近道遺跡	* 相原字近道	1997年06月～07月	弥生～中世：集落(漢など)
3	井原口遺跡	* 上北島字井原口	1985年06月	奈良：集落(整穴式住居など)
4	下北島鳥引遺跡	* 下北島字禪引	1992年02月	中世：(区画溝など)
5	上北島古須遺跡	* 上北島字花畠	1992年09月	弥生：集落(整穴式住居など)
6	鳥田外屋敷遺跡	* 鳥田字外屋敷	1996年03月	中世～近世：集落(溝など)
7	下北島久清遺跡	* 下北島字久清	1991年09月～1992年02月	弥生：集落(獨立柱建物など)
8	下北島久テ遺跡	* 下北島字久テ	1989年09月～11月	弥生：集落(土塁など)
9	古島櫻崎遺跡(第1次調査)	* 古島字櫻崎	1997年04月～07月	繩文～弥生：集落(整穴式住居など)
9	古島櫻崎遺跡(第2次調査)	* 古島字櫻崎	1998年05月	繩文～弥生：(溝)
9	古島櫻崎遺跡(第3次調査)	* 古島字櫻崎	1998年05月～06月	繩文～弥生：集落(整穴式住居など)
10	下北島櫻崎遺跡	* 下北島字櫻崎	1992年05月～12月	弥生：集落(獨立柱建物など)・中世～近世：道路
11	鳥田三反田遺跡	* 鳥田字三反田	1994年09月～12月	弥生・中世・近世：集落(土塁など)
12	古島鳥相遺跡	* 古島字鳥相	1994年09月～12月	弥生・中世：集落(土塁など)
13	井田西小野遺跡	* 井田字西小野	1993年11月	中世：(区画溝など)
14	井田字ノ内遺跡	* 井田字ノ内	1996年09月～11月	中世：(溝)
15	井田櫻越遺跡	* 井田字櫻越	1997年12月～1998年02月	弥生・中世：集落(溝など)
16	井田下櫻越遺跡	* 井田字下櫻越	1998年01月～02月	古墳：集落(土塁など)
17	上北島田遺跡	* 上北島字前田	1989年07月～09月	中世：集落(溝など)
18	水田下板町遺跡	* 水田字下板町	1997年03月	中世：集落(獨立柱建物、土塁、溝など)
19	水田正吹遺跡	* 水田字正吹	1996年01月～03月	繩文～近世：集落(落とし穴、獨立柱建物など)
20	水田伊ノ山遺跡	* 水田字伊ノ山	1997年10月～11月	弥生～近世：集落(区画溝など)
21	折地長崎寺遺跡	* 折地字長崎寺	1997年11月～12月	中世～近世：(溝など)
22	水田杉ノ元遺跡(第1次調査)	* 水田字杉ノ元	1996年07月～09月	弥生：集落(土塁群など)
22	水田杉ノ元遺跡(第2次調査)	* 水田字杉ノ元	1997年07月～12月	弥生：集落
23	水田山伏遺跡(第1次調査)	* 水田字山伏	1992年10月	弥生：集落(獨立柱建物など)
23	水田山伏遺跡(第2次調査)	* 水田字山伏	1994年07月～08月	弥生：墓地(斐桙墓)
24	水田上仁良業遺跡(第1次調査)	* 水田字上仁良業	1998年09月～10月	中世：集落(溝など)
24	水田上仁良業遺跡(第2次調査)	* 水田字上仁良業	1998年11月	中世～近世：集落(溝、土塁など)
25	水田上平雲石遺跡(第1次調査)	* 水田字上平雲石	1998年07月	弥生：集落(土塁など)・中世(溝など)
25	水田上平雲石遺跡(第2次調査)	* 水田字上平雲石	1998年10月～11月	弥生：集落(土塁群)・中世(水路)
25	水田上平雲石遺跡(第3次調査)	* 水田字上平雲石	1998年12月	弥生：(斐惟)
26	水田上平雲石遺跡	* 水田字下平雲石	1998年09月～10月	弥生：集落(小土壤群)
27	常用ニラバ遺跡	* 常用字ニラバ	1997年05月～06月	弥生～中世：集落(土塁、櫛列)
28	常用日行遺跡(第3次調査)	* 常用字日行	1999年02月～03月	弥生：集落(溝、土塁など)
28	常用日行遺跡(第1次調査)	* 常用字日行	1996年09月～12月	弥生：集落(土塁群など)
28	常用日行遺跡(第2次調査)	* 常用字日行	1996年12月～1997年02月	弥生：集落(土塁群など)
29	常用野々下遺跡	* 常用字野々下	1997年10月	不明：(溝など)
30	常用相原遺跡	* 常用字相原	1997年10月	不明：(溝など)
31	常用北長田遺跡(第1次調査)	* 常用字北長田	1996年12月	弥生・中世：集落(溝、土塁など)
31	常用北長田遺跡(第2次調査)	* 常用字北長田	1997年01月～05月	弥生・中世：集落(溝、土塁など)
32	梅島遺跡(第1次調査)	* 常用字梅島	1990年12月～1991年01月	弥生：集落(土塁など)
32	梅島遺跡(第2次調査)	* 常用字梅島	1991年12月～1992年04月	弥生・中世～近世：集落(土塁など)
33	常用ビンセ田遺跡	* 常用字ビンセ田	1995年06月～11月	中世：(土塁など)
34	津島南御佛遺跡(第1次調査)	* 津島字南御佛	1996年07月	中世：(溝)
34	津島南御佛遺跡(第2次調査)	* 津島字南御佛	1997年10月	弥生～古墳：集落(土塁など)・中世：(溝)
35	津島北石伏遺跡	* 津島字北石伏	1997年06月～09月	弥生：集落
36	津島字北石伏遺跡	* 津島字北石伏	1997年09月～10月	弥生：(溝など)

Tab.1 周辺遺跡概要一覧表



III. 調査の概要

1. 常用ビンセ田遺跡の調査

(1) はじめに (Fig.3)

当遺跡は、筑後市大字常用字ビンセ田に所在し、標高6m位の低湿地上にある。平成7年度に実施された農地整備事業支線用排水路設置範囲において遺構を確認した183m²を調査対象とし、調査区は東西方向の長方形に設定した。調査期間は平成7年8月28日から11月9日までであった。この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行い、調査区からは溝1条、土壤4基を検出した。本調査は小林勇作が担当した。



Fig.3 常用ビンセ田遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

(2) 遺構

溝 (Fig.4)

SD5

調査区のほぼ中央から検出した溝で、南部はSK4に切られる。上幅0.23～0.43m、下幅0.13～0.22m、深さ約0.10mを測り、埋土は黒茶色粘土を基調とする。出土遺物は皆無であった。

土壤

SK1 (Fig.4, Pla.1)

調査区の東端で検出した隅丸方形状の土壤である。長軸1.18m、短軸1.03m、深さ約0.35mを測り、埋土は濃黒茶色粘土（黄茶色・灰茶色粘土ブロックを含む）であった。出土遺物は土師器片を僅かに認めたが図示できなかった。

SK2 (Fig.4, Pla.1)

橢円形状を呈し、長軸1.11m、短軸0.81m、深さ約0.39mを測る。埋土は濃黒茶色粘土（灰茶色粘土を含む）で、出土遺物は土師器片を僅かに認めたが図示できるものではなかった。

SK3 (Fig.4, Pla.1)

隅丸方形状を呈した土壤で、調査区の東端で検出した。長軸0.97m、短軸0.87m、深さ約0.32mを測り、埋土は淡黒茶色粘土（灰茶色粘土を含む）を基調とする。遺物は土師器片を僅かに出土したが図示できなかった。

(3) 出土遺物

当調査区からは図示できる遺物は出土しなかった。

(4) 小結

当地は弥生時代中期～後期・中世の複合遺跡である梅島遺跡の南、約400mのところにあり、中世に画期となった水田庄の領内でもあった。

試掘調査においてこれらに関連する遺跡の存在に大きな期待感を膨らませていた。しかし、調査の結果、遺構の上層部はかなりの削平を受けていたためか、土壤4基、溝1条を僅かに確認したに過ぎず、出土遺物も皆無に等しい状況であった。このため、遺構の時期を断定することは難しく、周辺の調査に期待せざるを得ない結果となつた。

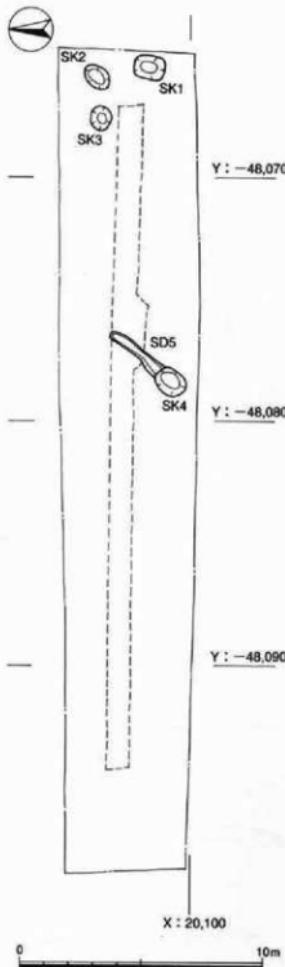


Fig.4 常用ピンセ田遺跡遺構全体
実測図 (1/200)

2. 水田正吹遺跡の調査

(1) はじめに (Fig.5)

当遺跡は、筑後市大字水田字正吹、小塚、柳ノ内、鬼塚、汁蒲に所在する。一帯は水田地帯で標高5.5~6.5m位の低湿地上にある。調査は平成7年度に施工された農地整備事業支線用排水路設置範囲において遺構を確認した4,340m²を実施した。調査期間は平成8年1月16日から3月31日までであった。この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行い、遺構測量の一部をアジア航測株式会社に委託した。

調査区からは掘立柱建物、溝、周溝状遺構、土壤、ピットなどを検出した。

ところで、筑後市内に分布する遺跡の名称は、通常の場合「大字名」と「小字名」を兼ね合わせた名前を称している。今回調査した範囲は大字水田地区内の複数の小字にまたがったが、調査時点において「水田正吹遺跡」を代表名とし、小字単位で調査区「A~E」を設定して調査を実施した。本来、報告にあたっては各遺跡名で統一すべきであったが、今回は混乱を避けるため、あえて調査時点での遺跡名と調査区を生かすこととした。

本調査は小林勇作が担当し、柴田剛、永田佳子の協力を得た。



Fig.5 水田正吹遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

(2) 遺構

調査区A

掘立柱建物

SB020 (Fig.6, Pla.2)

調査区北東部で検出した1×1間の建物で、各柱穴で径11~18cmの柱痕を認めた。南北軸の方位はN-48°50' -Wを示し、P1-P2間2.71m、P2-P3間3.11m、P3-P4間3.05m、P4-P1間3.17mを測る。各柱穴の埋土においては、特に叩き締められた痕跡はなく、出土遺物は皆無であった。

SB030 (Fig.7, Pla.3)

調査区中央付近で柱穴P1~P5を検出し、柱穴はほとんどが隅丸方形状を呈する。P1の底部はフラット、P2~P4においては底部から小穴を認め、P5は底部に窪みを呈する。P1-P2間3.94m、P2-P3間3.12m、P3-P4間3.53m、P4-P5間2.87mを測り、南北軸の方位はN-41° -Wを示す。SB030は検出時において2×1間の南北棟の建物と想定していたが、P1の底部から柱痕となる小穴が認められなかったこと、P1-P2間は他の柱間よりも距離が離れること、P1に対する柱穴が認められなかったことから、1×1間の建物になる可能性も考えられる。遺物はP1~P5の各柱穴において弥生土器（片）が出土している。

SB040 (Fig.8, Pla.3)

SB030の南西部で検出した1×1間の建物である。それぞれ梢円形形状を呈し、P1・P2・P4の底部からは柱の痕跡と思われる小穴が検出された。南北軸の方位はN-27° -Wを示し、P1-P2間2.27m、P2-P3間2.68m、P3-P4間2.87m、P4-P1間2.84mを測る。出土遺物はP2から弥生土器（片）、P3からは弥生土器（甕）が検出面で出土した。

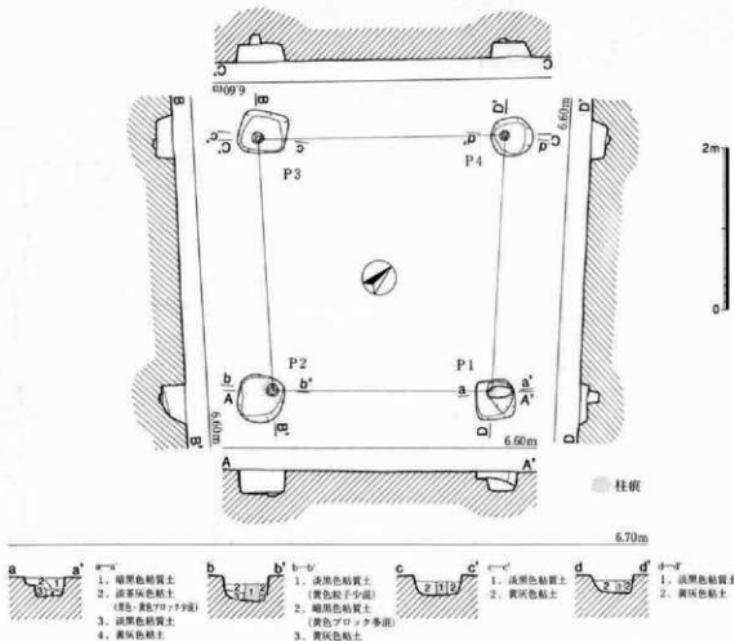


Fig.6 調査区A (SB020) 実測図 (1/60)

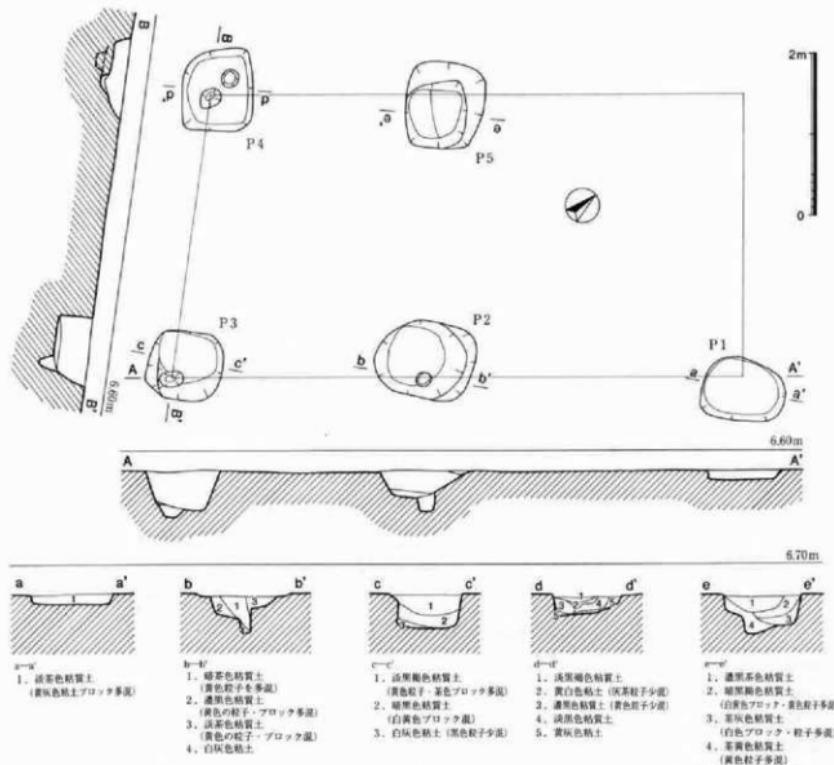


Fig.7 調査区A (SB030) 実測図 (1/60)

土壤

SK001 (Fig.9, Pla.4)

調査区北西部で検出した隅丸長方形状の土壤である。長軸1.40m、短軸0.61m、深さ0.25mを測り、埋土は濃黒褐色粘質土と濃茶灰色粘質土であった。遺物は弥生土器(片)、土師器(小皿・片)、サヌカイト(片)が出土した。

SK002 (Fig.9, Pla.4)

調査区北西部で検出した隅丸長方形状の土壤で、SK003・004を切る。長軸1.80m、短軸0.87m、深さ0.21mを測り、埋土は淡茶白色粘質土と淡茶灰色粘土であった。遺物は須恵器(片)、土師器(坏・片)が出土した。

SK003 (Fig.9, Pla.4)

SK002に切られ、SK004を切る。楕円形状の土壤で、幅約1.20m、深さ0.17mを測る。黒褐色粘質土の单一土層で、土師器(小皿)が出土した。

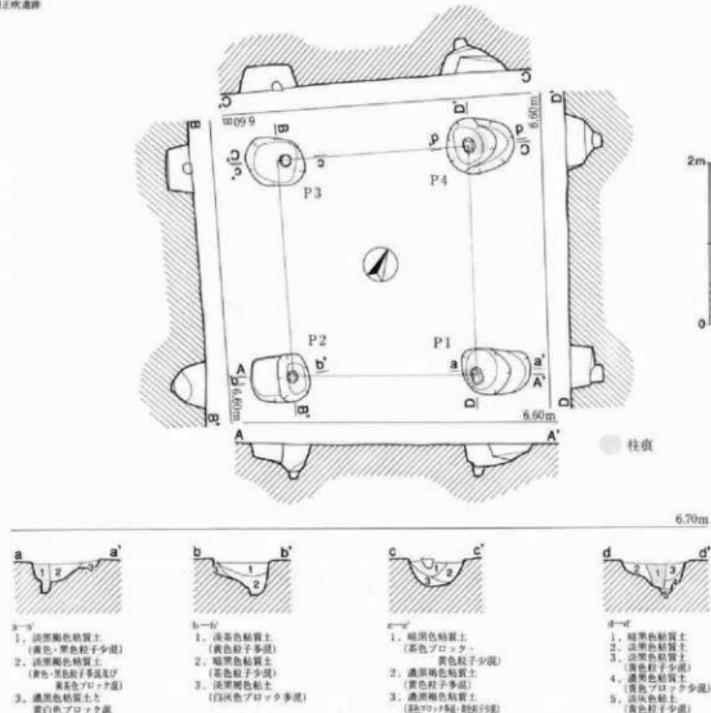


Fig. 8 調査区A (SB040) 実測図 (1/60)

SK004 (Fig.9, Pla.4)

SK003に切られた梢円形状の土壤で、幅約0.77m、深さ0.20mを測る。淡黒褐色粘質土の單一土層で、土師器（片）が出土した。

SK005 (Fig.10, Pla.4)

調査区北部で検出した梢円形状の土壤で、内部にテラスを呈する。長軸1.50m、短軸1.11m、深さ1.19mを測り、廃棄土壤として使用された可能性がある。遺物は弥生土器（甕・高坏・片）が出土した。

SK006 (Fig.9, Pla.4)

SP016を切るように検出した梢円形状の土壤で、底面の南部は段がついて下がる。長軸1.42m、短軸0.83m、深さ0.20～0.27mを測り、埋土は黒褐色粘質土であった。出土遺物は土師器（甕・片）、青磁（片）を認めた。

SK007 (Fig.9, Pla.4)

SK006に隣接した梢円形状の土壤で、長軸1.32m、短軸0.77m、深さ0.07mを測る。底面はフラットを呈し、埋土は黒褐色粘質土の單一土層であった。出土遺物は土師器（片）、土師器（片）を認めた。

SK008 (Fig.9, Pla.4)

SX009に切られた梢円形状の土壤である。長軸1.10m、短軸0.95m、深さ0.24mを測り、黒褐色粘質土を基調とする埋土であった。出土遺物は皆無であった。

SK010 (Fig.10, Pla.5)

調査区北部で検出した梢円形状の土壤である。径は9.10～9.70m、深さ1.00mを測り、黒褐色粘質

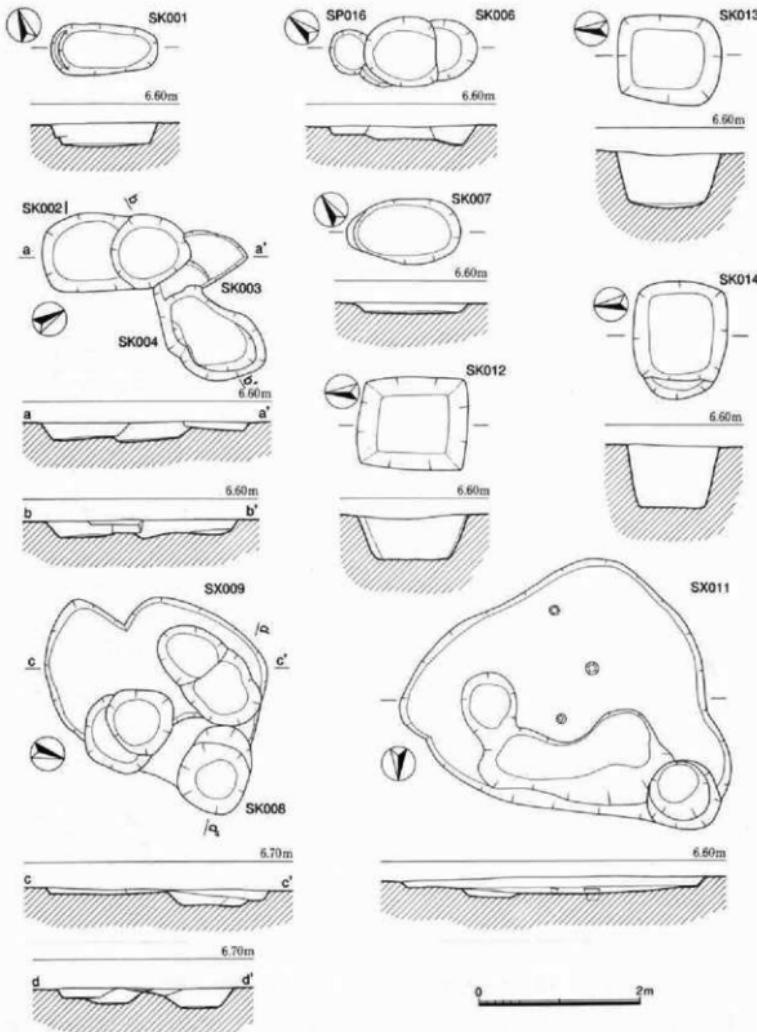


Fig.9 調査区A (SK001~004・006・007・012~014、SX009・011、SP016) 実測図 (1/60)
土を基調とする埋土であった。遺物は須恵器(壺)、土師器(皿・壺・片)が出土した。

SK012 (Fig.9)

調査区中央部で検出した。プランは長方形状を呈し、長軸1.43m、短軸1.12m、深さ0.52mを測る。

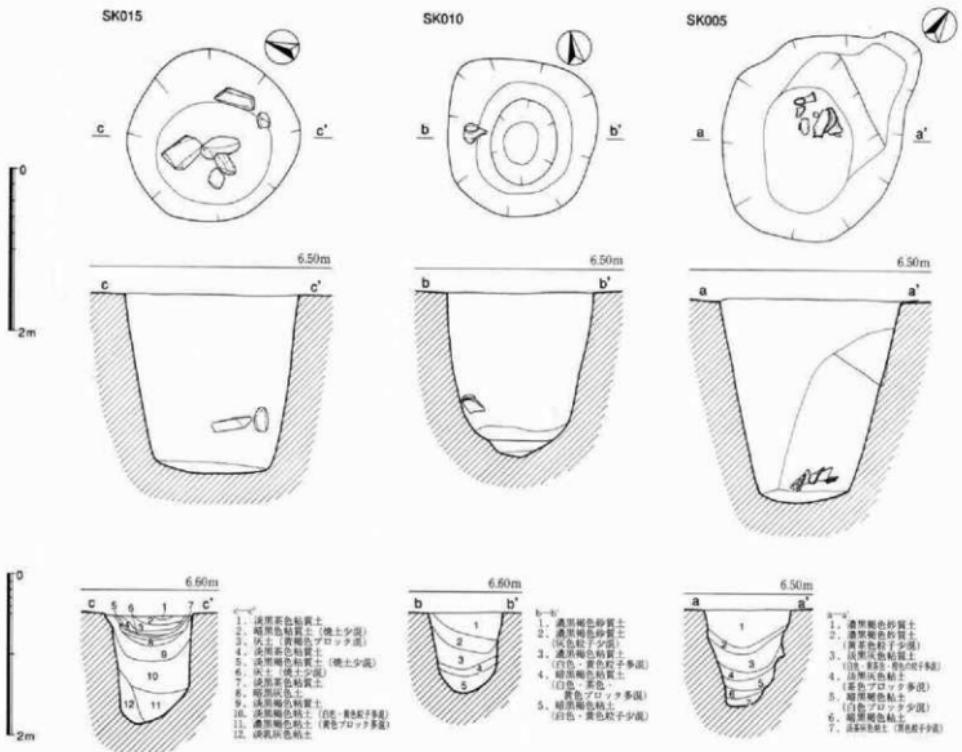


Fig.10 調査区A (SK005・010・015) 対測図 (1/30・1/60)

埋土は濃灰色粘質土（黄色・黒色粒子を多く含む）の單一土層で、一気に埋められたと思われる。遺物は土師器（片）、白磁（片）が出土している。

調査区中央部で検出した獨立長方形状の土壙である。長軸1.35m、短軸1.10m、深さ0.62mを測り、埋土は上層から淡黃灰色粘質土→濃灰色と黄白色粘質土であった。遺物は須恵器（片）、土師器（片）、青磁（片）が出土している。

SK014 (Fig.9)

SK013の南で検出した隅丸方形状の土壙で、長軸1.41m、短軸1.11m、深さ0.70mを測る。埋土は上層から淡灰色砂質土→黄白色粘土→淡灰色粘質土で、須恵器(甕・片)、土師器(片)、青磁(片)、染付(片)が出土した。

SK015 (Fig.10, Pla.5)

調査区北東部で検出した円形状の土壙で、径は1.07m前後、深さ1.34mを測る。上層には灰と焼土が堆積しており、2・3度の焚き火が行われたものと思われる。更に下層からは複数の河原石や土器を散在に認め、廃棄土壙として使用されていた可能性が考えられる。遺物は須恵器(甕)、土師器(甕)、瓦器(坏・椀)、黒色土器(椀)、黒曜石(片)、粘土塊が出土した。

不明遺構

SX009 (Fig.9, Pla.4)

SK008を切るように検出した溜まり状の遺構で、底面は凹凸が著しい。かなりの削平を受けているもので、黒褐色土を基調とした埋土であった。土師器(片)が僅かに出土した。

SX011 (Fig.9, Pla.4)

調査区北西部で検出した溜まり状の遺構である。規模は3.71m×3.06mで、深さ0.05~0.15mとかなりの削平を受けているものと思われる。濃黒褐色土の單一土層で、弥生土器(甕)、須恵器(甕)、土師器(皿・甕)、陶器(片)が出土した。

樹木跡(付図①)

調査区南部からは20個体程度の樹木跡を検出したが、掘削はしていない。地山によく似た埋土と黒色土で構成されるもので、平面プラン上で黒色土が「半月状」若しくは「三日月状」に確認される。

調査区B

溝

SD050 (Fig.11, Pla.6)

東西溝で11.1m分を検出した。溝の中央部は突出したように検出され、平面での切り合いは確認されなかったため一連の溝としたが、別遺構になる可能性も捨てきれない。溝は幅0.40~1.55m、深さ0.18~0.52mを測り、黒色粘質土を基調とした埋土であった。遺物は弥生土器(甕)、須恵器(坏・甕)、土師器(皿・坏・蓋)が出土し、溝底からは少數の河原石を認めた。

土壙

SK025 (Fig.12, Pla.6)

SD050の南側で検出した指円形状の土壙で、長軸2.85m、短軸2.60m、深さ約0.97mを測る。土壙は壁

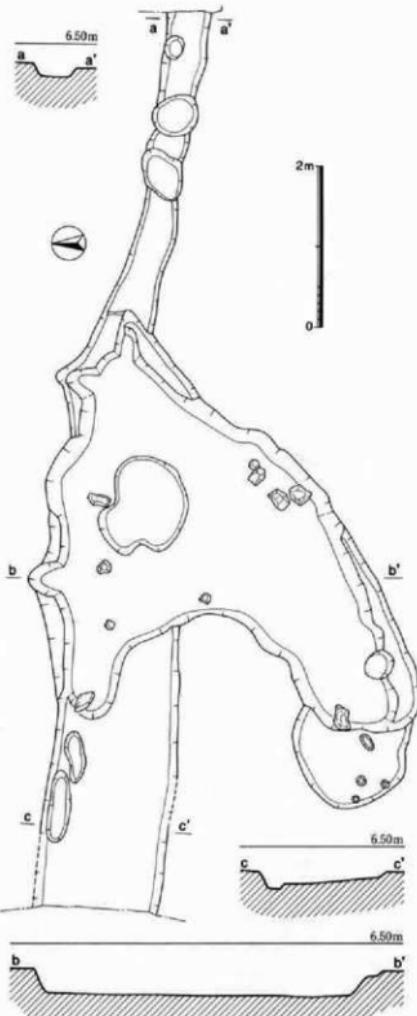


Fig.11 調査区B (SD050) 実測図 (1/60)

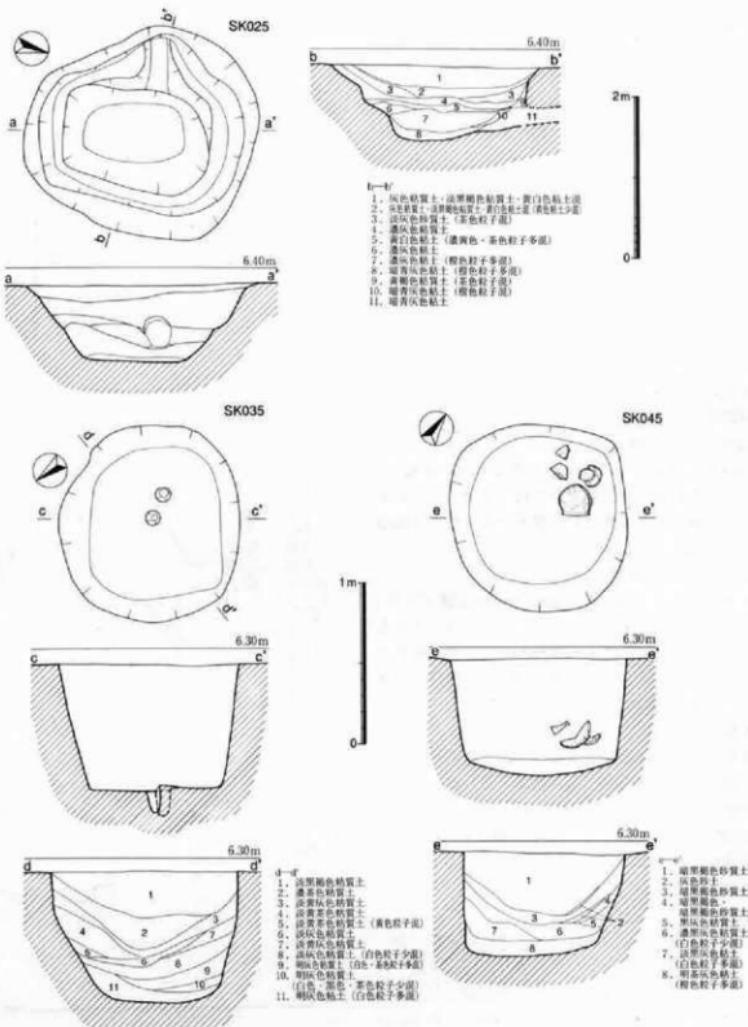


Fig.12 調査区B (SK025・035・045) 実測図 (1/30・1/60)

部の一部がトンネル状に抉られており、底部はほぼフラットを呈する。出土遺物は皆無であった。

SK035 (Fig.12, Pla.7)

調査区の南部で確認した土壤で、底部に径9cm前後の2つの小穴を呈する。長軸1.21m、短軸1.11m、深さ0.80mを測る。自然堆積による埋土で出土遺物は皆無で、落とし穴になる可能性がある。

SK045 (Fig.12, Pla.7)

調査区南部で検出した隅丸方形状の土壙で、黒褐色土を基調とした自然堆積による埋土であった。径は1.00m、深さ0.64mを測り、底部はほぼフラットな面を呈する。遺物は弥生土器（甕・高坏・片）が出土し、廃棄土壙として使用された可能性がある。

土壤群

SK018・019・021～024・026～029・031～034・036
～039・041～044・046～049・052～054・066・
067・074（付図①）

調査区の北部からは近世から現代にかけての土壤（カクラン）が数十基検出された。プランは隅丸方形や不定形なものが多く、ほとんどが灰色土を基調とした埋土である。

不明遺構**SX064 (Fig.13)**

調査区南部で5.80m分を確認し、幅3.20m、深さ0.29mを測る。茶褐色土を基調とした埋土で、出土遺物は皆無であった。

調査区C**溝****SD060 (付図①)**

SD070を切るように39.2m分を検出した南北溝である。溝断面は逆台形状を呈し、埋土は灰色土を基調とした埋土であった。遺物は土師器（片）、白磁（碗）、染付（片）、陶器（甕）が出土した。時間の制約から完掘までには至っていない。

SD070 (付図①)

39.2m分を検出した南北溝で、埋土は黒茶色土である。時間の制約から一部の掘削に止まり、土師器（片）が出土している。

SD080 (付図①, Pla.14)

調査区西側で検出した南北溝でSX100を切る。38.2m分を確認し、時間の制約から一部の掘削に止まる。埋土は黒茶色土を基調とした埋土で、弥生土器（片）、土師器（片）が僅かに出土した。

SD090 (付図①, Pla.14)

SX100を切る南北溝で38.1m分を検出した。時間の制約から完掘までには至っておらず、溝の断面は逆台形状を呈する。灰色土の埋土で、遺物は弥生土器（甕・高坏）、土師器（土鍋）が出土し、弥生土器はSX100から流れ込んだものと思われる。

周溝状遺構**SX100 (Fig.14, Pla.8・9)**

調査区西北部で検出し、埋土は黒色土を基調とする单一土層であった。著しく削平を受けており、遺構の南西部はプランが不明確であった。周溝状遺構の規模は外径約6.6m、内径約4.0mに復原され、溝幅1.03～1.84m、深さ0.11～0.18mを測る。遺物は弥生土器（小鉢・甕・壺・高坏）が溝底に集積していた。

調査区D**溝****SD104 (Fig.15)**

調査区東部で検出したやや蛇行した南北溝で、4.05m分を確認した。幅約0.60m、深さ約0.27mを測り、

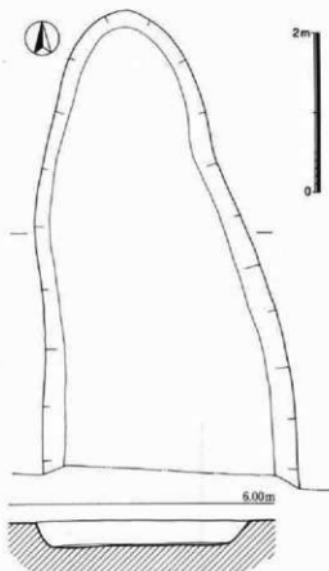


Fig.13 調査区B (SX064) 実測図 (1/60)

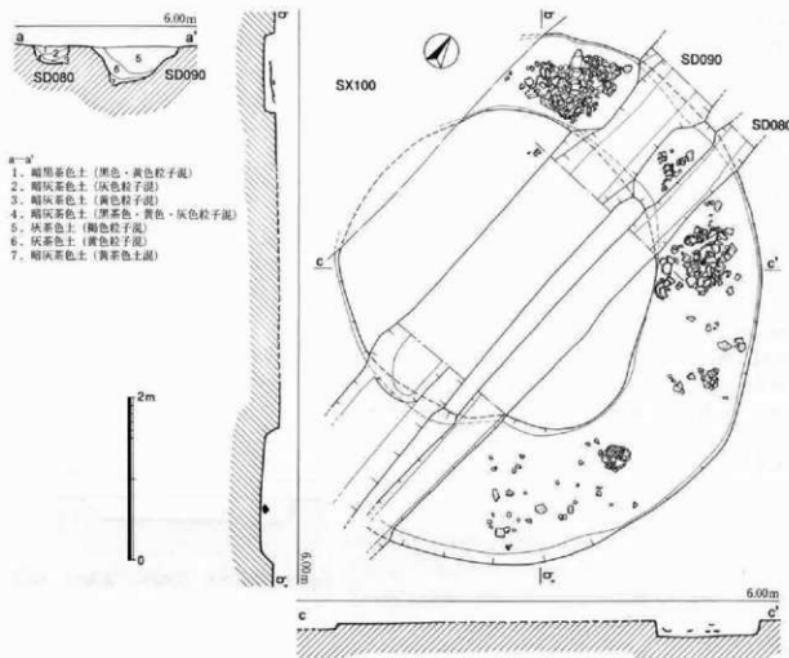


Fig.14 調査区C (SD080・090, SX100) 実測図 (1/60)

土師器（片）が多量に出土した。

SD108 (Fig.15)

SD104の溝底から検出し、一連の溝の可能性がある。3.35m分を検出し、幅約1.10m、深さ約0.40mを測り、土師器（皿・片）、鉄製品（釘）が出土した。

SD120 (Fig.15)

調査区中央部で検出した南北溝で3.65m分を確認した。幅0.37～0.65m、深さ約0.20mを測り、遺物は須恵器（甕）、土師器（壺・片）が出土している。

土壌

SK102 (Fig.15)

土壤の南部は調査区にかかり、深さは0.61mを測る。埋土は黒茶色土を基調とし、埋土中からは土師器（皿・甕）が出土した。

SK105 (Fig.15)

椭円形状の土壤で、径は0.95m、深さは0.40mを測る。埋土中からは土師器（甕）、染付（片）、陶器（擂鉢）、ガラス（片）が出土している。

SK111 (Fig.15)

不整円形状の土壤で底面の凹凸は著しい。黒茶色土の埋土で出土遺物は皆無であった。

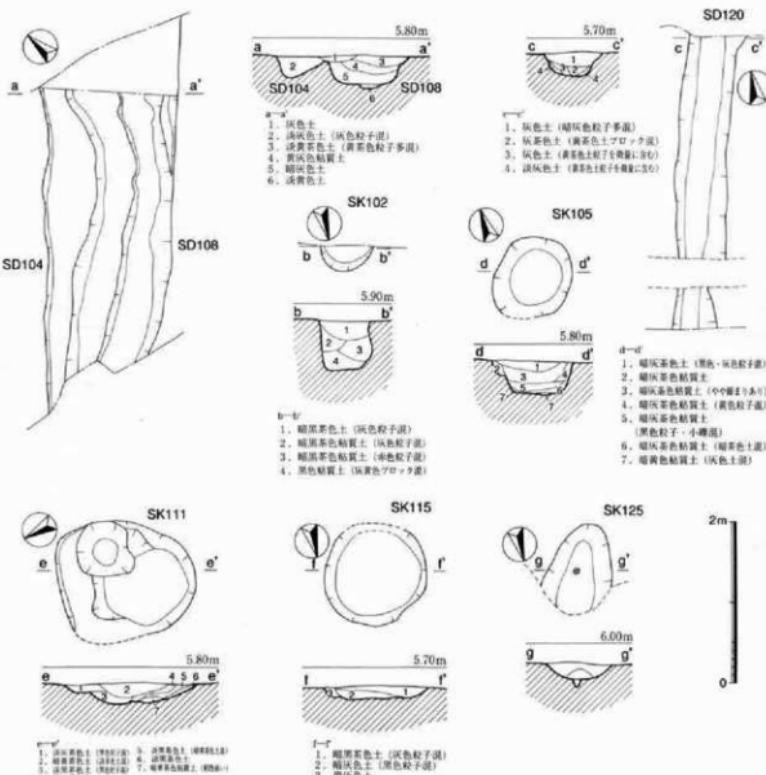


Fig.15 調査区D (SD104・108・120、SK102・105・111・115・125) 実測図 (1/60)

SK115 (Fig.15)

径は1.23mを測るほぼ円形状の土壤で深さは0.15mと浅い。出土遺物はない。

SK125 (Fig.15)

調査区東部で検出し、遺構の北部はカクランを受ける。深さ0.20mを測り、溝底から径7cmの小穴1つを認める。埋土は黒褐色土で出土遺物は皆無であった。

調査区E

溝

SD136 (付図①)

調査区東側で確認した南北溝で2.75m分を検出した。溝は途中、現代のカクランを受けており、幅0.55～1.05m、深さ約0.10mを測る。出土遺物は皆無であった。

SD137 (付図①、Pla.10)

調査区中央で確認した南北溝で2.35m分を検出した。幅0.55～1.12m、深さ約0.10mを測り、出土遺物は皆無であった。

SD138 (付図①)

調査区東部から2.37m分を検出し、幅約0.73m、深さ約0.12mを測る。出土遺物は皆無であった。

(3) 出土遺物

調査区A

掘立柱建物

SB040—P3 (Fig.16, Pla.11)

弥生土器

甕 (1) 口径20.0cmを測る「く」字形口縁甕で内外面の調整は著しく磨耗しているため不明である。

土壤

SK001 (Fig.27, Pla.13)

石製品

二次加工石器 (98) 石材はサスカイト製で、一側縁の一部 Fig.16 調査区A (SB040—P3) 出土土器に二次加工を施して利器としたものである。

実測図 (1/3)

SK002 (Fig.17, Pla.11)

土師器

壺 (2) 口径12.4cm、底径6.4cm、器高3.3cmを復原し、口縁部はやや外反する。内外面の調整はヨコナデで底部外面はヘラケズリである。内外面には漆が部分的に付着しており、特に内面は厚く残存する。

SK003 (Fig.17)

土師器

壺 (3) 口径11.4cm、底径6.4cm、器高3.3cmを復原する。内外面の調整はヨコナデで底部外面はヘラケズリである。

椀 (4) 底部のみの細片で、高台径は9.5cmを測る。外面はヨコナデで、底部内面はナデ調整である。底部外面の一部に小動物による爪痕を認める。

SK004 (Fig.17)

須恵器

鉢 (5) 底部が欠損した細片で、口径14.5cmを復原する。内外面はヨコナデ調整である。

SK005 (Fig.17, Pla.11)

弥生土器

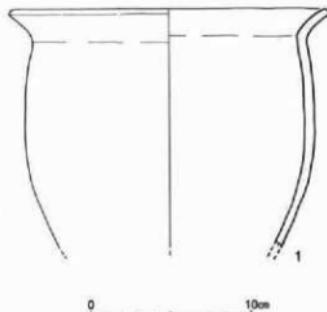
壺 (6) 口径18.0cm、底径4.3cm、器高29.4cmを測る。頸部から口縁部にかけて大きく開く広口壺で、口縁部の器厚は厚くやや短めである。体部はやや長胴化し、底部はやや丸みを帯びている。外面の口縁部はヨコナデ、体部から底部にかけては刷毛目、内面の口縁部は刷毛目、体部から底部にかけてはヘラケズリで一部刷毛目調整を施す。

甕 (7~10) 7は底部を欠損した小型の「く」字形口縁甕で、口径12.5cm、底径4.6cm、器高12.7cmを測る。口縁部内外面はヨコナデ、体部内面はナデ、外面は刷毛目調整を施す。8・9は口縁部が外反した小型の甕で、共に口縁部内外面はヨコナデ、体部の外面は刷毛目、内面はヘラケズリの調整である。8は口径15.5cm、9は口径16.0cmを復原する。10は「く」字形口縁甕で口径27.8cmを復原する。

鉢 (11) 口縁部が穢やかに外反した鉢で、口径18.0cmを復原する。口縁部内外面はヨコナデ、外面の体部上位は刷毛目、下位はヘラナデ、体部内面は指押さえ後刷毛目調整を施す。

高壺 (12) 杯部の細片で口径26.0cmを復原する。口縁部はほぼ直立し、口縁部内外面はヨコナデ、体部内外面は刷毛目調整を施す。

器台 (13) 口縁部は欠損し、脚据径は11.1cmを測る。頸部内面はナデ、内外面は刷毛目、脚据端部はヨコナデ調整を施す。



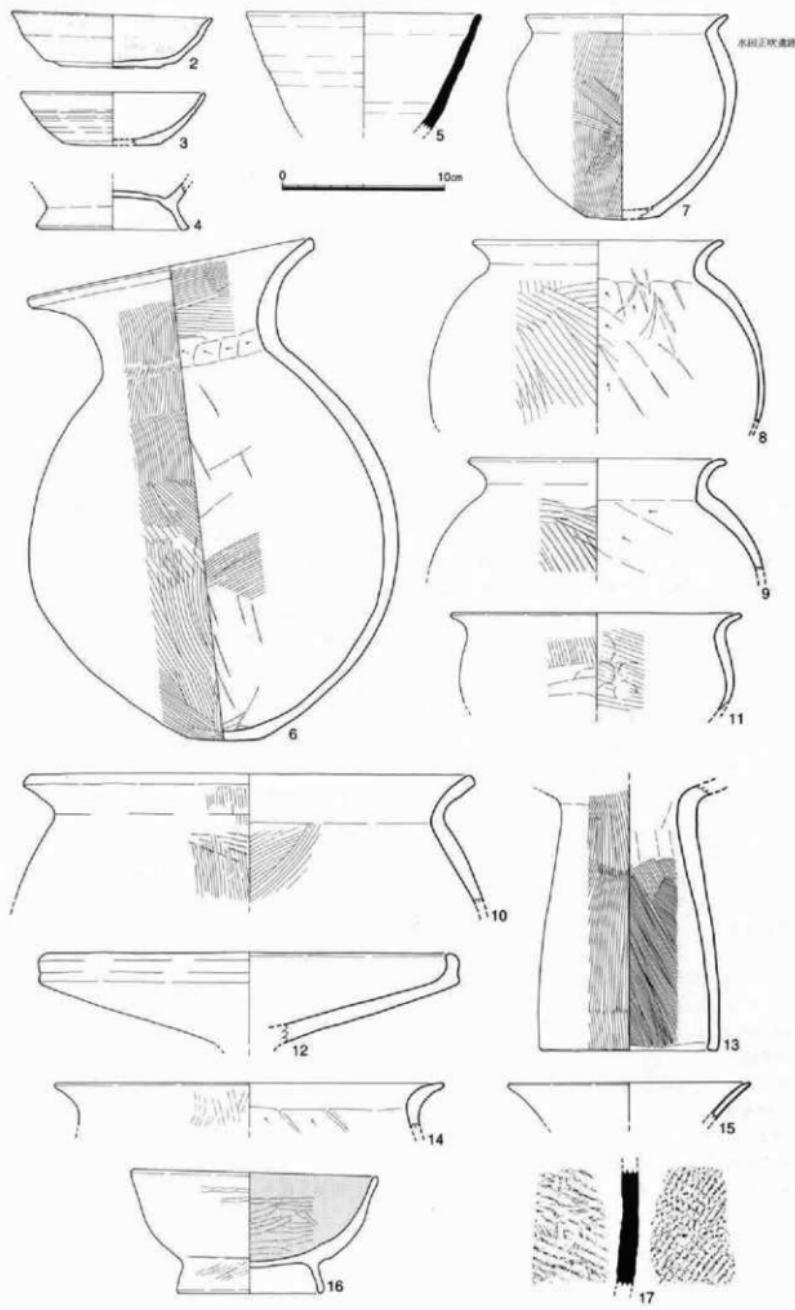


Fig.17 調査区A (SK002~006・010・069) 出土土器実測図 (1/3)

SK006 (Fig.17)

土師器

甕 (14) 口縁部の細片で口径24.0cmを復原し、口縁部は外反する。

青磁

碗 (15) 同安窯系青磁で口径15.0cmを復原する。内外面にはくすんだ緑色の釉を薄く施す。

SK010 (Fig.17)

黒色土器A

椀 (16) 口径15.3cm、高台径9.1cm、器高7.5cmを測る。内黒で内面と口縁部外面にヘラミガキを施し、高台部は接合によるナデを斜め方向に施す。

SK015 (Fig.18, Pla.11)

須恵器

甕 (18~20) 18は体部下位の細片と思われ、内面は平行叩き、外面は格子叩き後ナデ消しを施す。

19・20は体部の細片で共に内面は平行叩き、外面は格子叩きを施す。

土師器

皿 (21) 口径11.0cm、底径7.8cm、器高1.8cmを復原する。体部外面はヨコナデで、内面は調整不明。ヘラ切りか。

椀 (22~30) 22は口径11.0cmを復原し、内外面は著しく磨耗しているため調整不明。口縁部はやや外反する。23は口径11.6cmを復原し、内外面はヨコナデ調整を施す。口縁部はやや外反する。24は口縁部の細片で、口径14.0cmを復原する。口縁部がやや外反し、口縁部外面及び内面はヨコナデ、体部外面はヘラケズリを施す。内面にはコテあて痕を認める。25は口径14.2cm、高台径8.1cm、器高5.8cmを復原する。口縁部外面はヨコナデ、体部外面はヘラケズリ、高台内外面は接合によるナデを施し、内面は調整不明。26は細片で口径14.4cmを復原する。27~30は底部の細片で、29は高台径7.8cm、30は高台径8.8cmを復原する。

甕 (31) 口縁部の細片で口径26.0cmを復原する。口縁部は外反し、口縁部内面上位及び口縁部外面はヨコナデ、口縁部内面下位はヘラケズリ調整である。

不明土製品 (32) 片側が欠損した不明土製品で、長さ2.2cmを測る。焼成前に穿孔されている。

黒色土器A

椀 (33~39) 33は口径11.5cmを復原し、内外面は磨耗のため調整不明である。底部は押し出し技法を用いる。34は口径12.2cmを復原し、内外面は磨耗のため調整不明であるが、内面の一部に僅かにヘラミガキ痕を認める。35は口径14.2cmを復原し、内面はヨコナデ後ヘラミガキ、外面は磨耗のため調整不明である。36は口径15.0cmを復原し、口縁部外面はヨコナデで内面及び体部外面は調整不明。37~39は底部の細片で、38は高台径7.5cm、39は高台径8.0cmを復原する。

黒色土器B

椀 (40~41) 40は口径13.6cmを復原し、表面剥離のため調整不明。41は口径14.2cm、高台径8.4cm、器高5.4cmを復原する。口縁端部はヨコナデ、外面及び体部内面はヘラミガキ、底部内面はナデ、高台内外面は接合によるナデ後ヘラナデ、底部外面はヘラ切りである。

SK069 (Fig.17)

須恵器

甕 (17) 体部の細片と思われ、内面は平行と同心円の叩き、外面は格子叩きを施す。

不明遺構

SX011 (Fig.18)

黒色土器A

椀 (42) 底部を口径15.0cmを復原し、内外面はヨコナデ調整を施す。

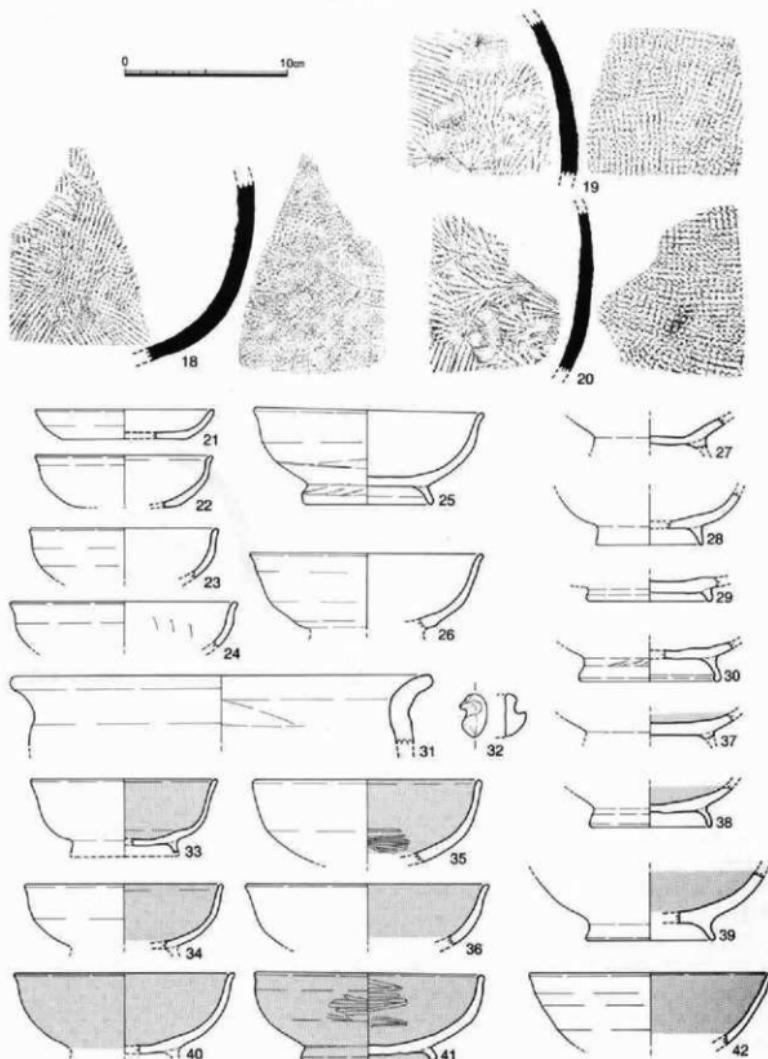


Fig.18 調査区A (SK015、SX011) 出土土器実測図 (1/3)

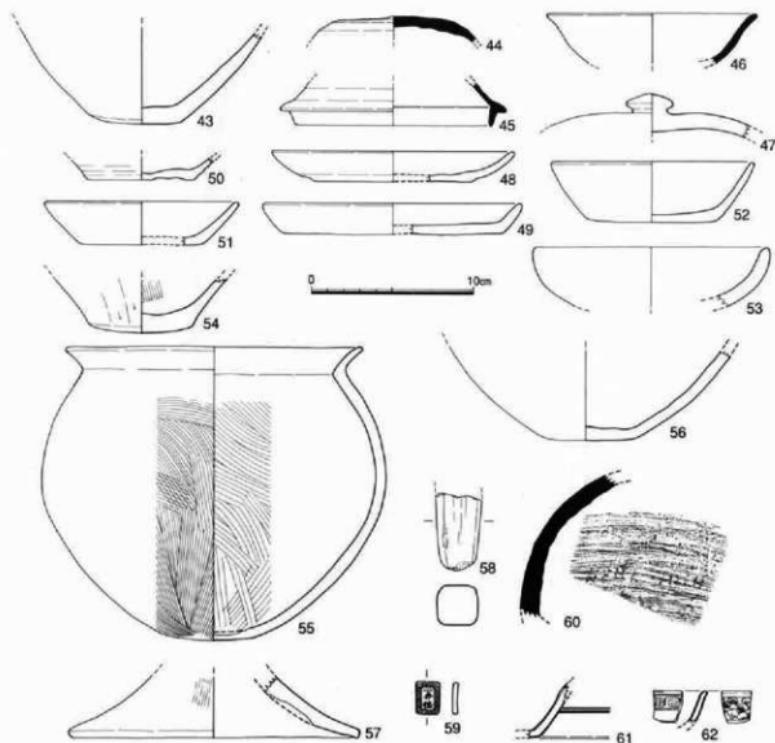


Fig.19 調査区B出土土器実測図 (1/3)

調査区B

溝

SD050 (Fig.19、Pla.11)

弥生土器

壺 (43) 底部の細片で底径5.0cmを測り、底部はやや丸みをもつ。内外面の調整は磨耗のため不明。
須恵器

蓋 (44・45) 44は天井部のみの細片である。天井部外面は回転ヘラケズリ、体部及び内面はヨコナデを呈する。45は口縁部の細片で最大径14.0cm、かえり径12.0cmを復原する。かえりは若干内傾し、内外面の調整はヨコナデである。44と45は同一個体の可能性がある。

壺 (46) 細片で内外面の調整は不明。口径13.0cmを復原する。

土師器

蓋 (47) 天井部に宝珠つまみを呈し、内外面の調整は磨耗のため不明である。

皿 (48・49) 48・49は著しく磨耗しているため調整不明である。48は口径15.0cm、底径9.8cm、器高1.9cm、49は口径16.0cm、底径13.6cm、器高2.0cmを復原する。

壺 (50～53) 50は底部のみの細片で底部外面はヘラ切りである。51は口径12.0cm、底径7.6cm、器高

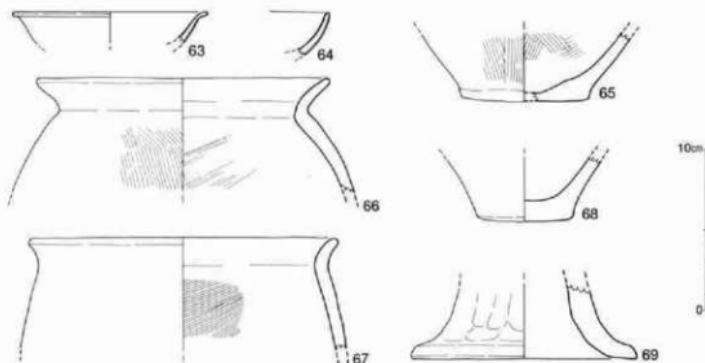


Fig.20 調査区C溝出土土器実測図 (1/3)

2.7cmを復原。52は口径12.6cm、底径8.0cm、器高3.8cmを復原し、底部外面はヘラ切りである。53は口径14.2cmを復原する丸底壺である。いずれも内外面の調整は磨耗のため不明である。

石製品 (Fig.27、Pla.13)

石鏡 (99) 石材は黒曜石製で、抉りが比較的浅い両面加工の石鏡である。表面には僅かに自然面を残し、裏面の中央部にはポジティブ面が看取される。

土壙

SK034 (Fig.27、Pla.13)

石製品

二次加工石器 (100) 石材はサムカイト製で、縁には二次加工を施し、利器としている。表面の中央部にはネガティブ面、裏面にはポジティブ面が看取される。

SK045 (Fig.19、Pla.11)

弥生土器

甕 (54・55) 54は底部の細片で底径6.4cmを測る。底部はやや丸みをもち、内外面は刷毛目調整を施す。55は「く」字形甕で、口径18.3cm、底径5.0cm、器高18.2cmを測る。口縁部内外面はヨコナデ、体部内外面は刷毛目、底部内外面はナデ調整で、体部外面には煤が付着している。

壺 (56) 底部の細片で底径6.0cmを測る。風化のため調整不明。

高壺 (57) 壺部が「ハ」字状に大きく聞くタイプで、壺部径は18.0cmを復原する。外面は刷毛目、壺部外面及び内面はヨコナデである。

SK048 (Fig.19、Pla.11)

土師器

柱状土製品 (58) 断面は方形状を呈し、面取りを施す。厚さは2.6cmを測る。

SK067 (Fig.19、Pla.11)

土製品

玩具 (59) 「一分銀」の玩具で、長さ2.0cm、幅1.5cm、厚さ0.3cmを測る。

ピット

SP051 (Fig.19、Pla.11)

陶器

大甕 (60) 頸部の細片で、内面は横方向のナデ、外面はヨコナデと格子叩きを施す。

青磁

不明 (61) 内外面に青緑色の釉を施し、外面にはヘラ先による細線を2条施す。

染付

碗 (62) 口縁部の細片で内面には雷文、外面には花文を具須で描く。

調査区C

溝

SD060 (Fig.20)

白磁

皿 (63) 口縁部は外反し、口径12.0cmを復原する。

染付

碗 (64) 口縁部の細片で、外面には具須で文様を描くが、発色が悪く文様不明。

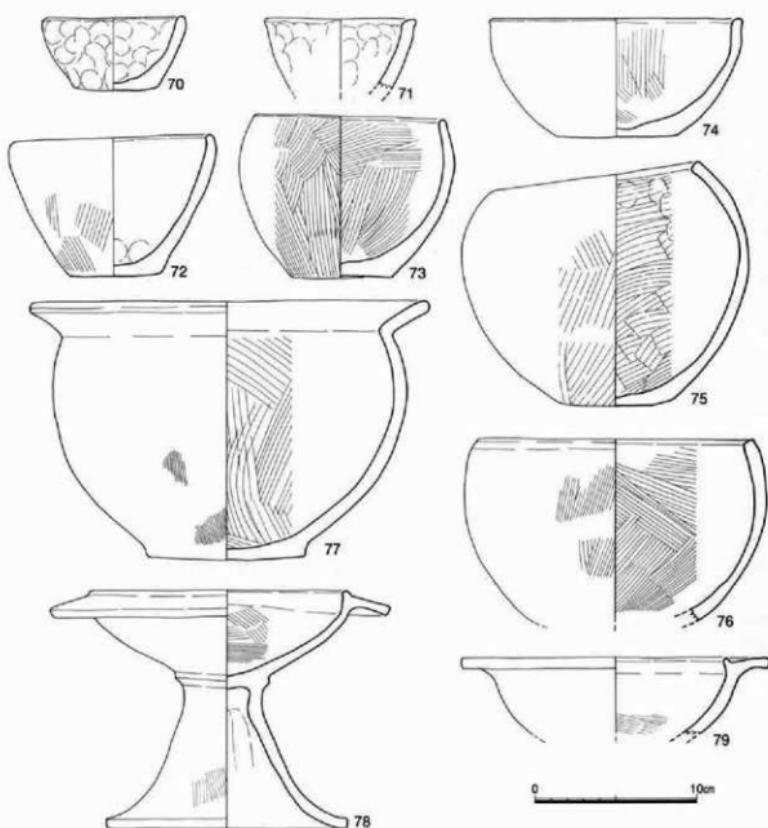


Fig.21 調査区C (SX100) 出土土器実測図① (1/3)

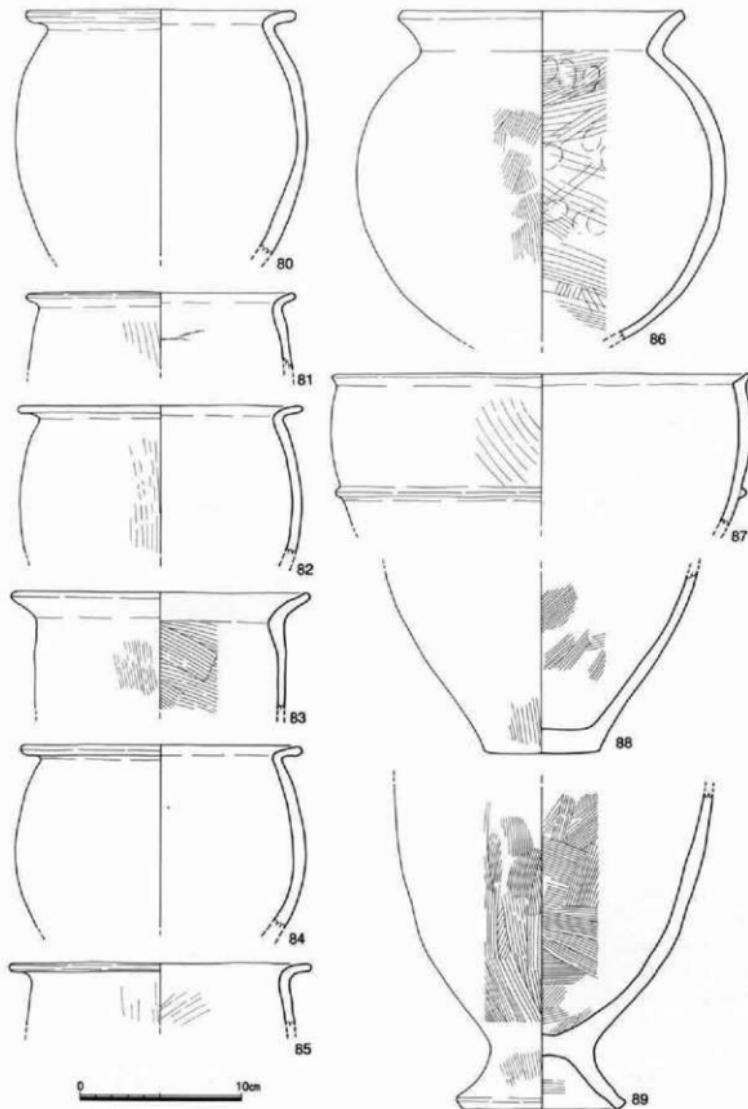


Fig.22 調査区C (SX100) 出土土器実測図② (1/3)

SD075 (Fig.20)

弥生土器

壺 (65) 底部の細片で底径7.8 cmを測る。体部内外面は刷毛目、底部内面はナデ、底部外表面は不定方向に刷毛目を施す。

SD090 (Fig.20)

弥生土器

壺 (66～68) 66は「く」字形口縁壺で、口径18.0 cmを測る。口縁部内外面はヨコナデ、体部外面は刷毛目、体部内面は工具ナデを施す。67は口径19.0 cmを復原する。口縁部はヨコナデ、体部内面は刷毛目、体部外表面は磨耗のため調整不明である。68は底部の細片で底径5.8 cmを復原し、底部外表面はナデ調整である。

器台 (69) 脚据部の細片で脚据径は14.0 cmを測る。脚据端部外表面はヨコナデ、体部外表面はナデで、内面は調整不明である。

周溝状遺構

SX100 (Fig.21～25, Pla.12・13)

弥生土器

小鉢 (70・71) 70は完形品で口径8.8 cm、底径5.1 cm、器高4.5 cmを測る。調整は内外面がオサエナデ、底部外表面はナデを施し、胎土に細砂粒、赤色粒子、金雲母、角閃石を含む。71は口縁部の細片で口径9.4 cmを復原する。内外面の調整はオサエナデである。

鉢 (72～77) 72は口径12.8 cm、底径5.8 cm、器高8.6 cmを測る。口縁部はやや内湾し、口縁部内外面はヨコナデ、体部外表面は刷毛目、体部内面及び底部外表面はナデの調整を施す。73は口縁部が内湾した細片で、口径11.8 cm、底径6.3 cm、器高10.0 cmを測る。口縁端部はヨコナデ、体部内外面及び底部外表面は刷毛目、底部内面はナデの調整である。

74は口径15.6 cm、底径7.7 cm、器高7.3 cmを復原し、口縁端部はやや外反する。口縁部内外面はヨコナデ、体部内面は刷毛目、体部外表面及び底部外表面はナデの調整を施す。75は口径12.6 cm、底径

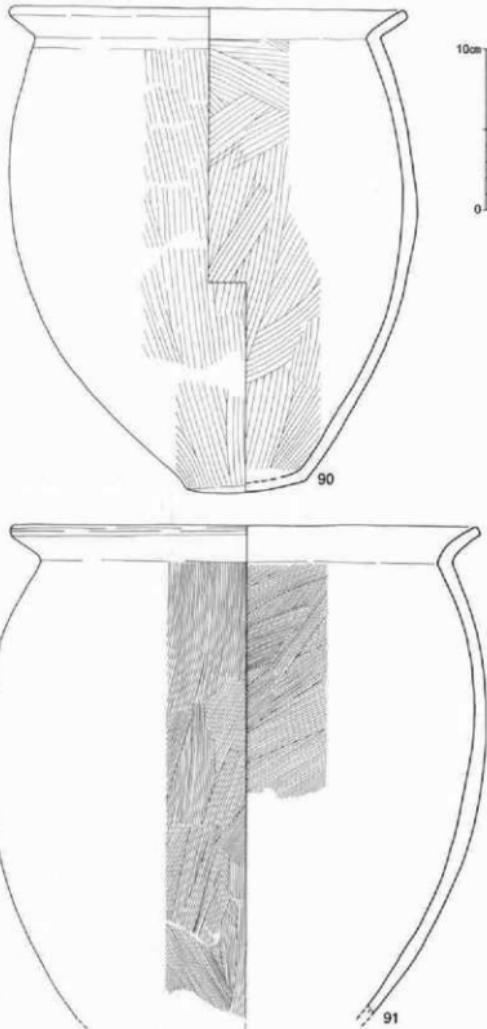


Fig.23 調査区C (SX100) 出土土器実測図③ (1/3)

6.9cm、器高13.5～15.2cmを測る。口縁端部及び外面はヨコナデ、口縁部内面はオサエナデ後刷毛目、体部及び底部の内外面は刷毛目調整である。76は口径16.9cmを測る口縁部の細片で、口縁端部及び外面はヨコナデ、口縁部内面及び体部内外面は刷毛目の調整を施す。77は口縁部が大きく開くタイプで、口縁部外面はヨコナデ、体部内外面及び底部内面は刷毛目、底部外面はナデの調整を施す。口径24.6cm、底径9.7cm、器高16.0cmを測る。

高壺（78・79）78は杯部に鋤先口縁を呈し、脚部のくびれ部が中位にある。口径20.9cm、脚裾径は14.8cm、器高14.7cmを測る。79は同じく杯部に鋤先口縁を呈し、口径19.0cmを復原する。

壺（80～92）80～85は口縁部の細片で口縁部が大きく外反する壺で、80は口径16.6cmを復原し、表面磨耗のため調整不明。81は口径16.6cmを復原し、口縁部内外面はヨコナデ、体部外面は刷毛目、体部内面はナデの調整を施す。82は口径17.6cmを復原し、口縁部内外面はヨコナデ、体部外面は刷毛目、体部内面はナデの調整を施す。

83は体部が張らないタイプで、口径18.4cmを復原する。口縁部外面はヨコナデ、体部外面は刷毛目の調整を施す。84は口径17.6cmを復原し、口縁部内外面はヨコナデ、体部内外面はナデの調整である。85は口径18.6cmを復原し、口縁部内外面はヨコナデ、体部内外面は刷毛目調整。86は「く」字形口縁壺で、口径17.8cmを復原する。口縁部外面はヨコナデ、体部外面は刷毛目、体部内面は指押さえ後刷毛目の調整を施す。87は口縁端部が外側へ屈曲するタイプで、口径25.8cmを復原する。体部中位に断面が台形状の貼付突帯を1条施し、口縁部内外面はヨコナデ、体部外面上位は刷毛目、体部外面下位及び体部内面はナデの調整である。88～89は底部の細片である。88は底径7.2cmを復原し、外面及び体部内面は刷毛目、底部内面はナデの調整である。89は底部に高台を付す壺で、高台径10.5cmを測る。90～92は「く」字形口縁壺で、90はやや丸みを呈する底部で、口径24.8cm、底径7.5cm、器高30.0cmを測り、口縁部はヨコナデ、体部は刷毛目、底部はナデの調整である。91は口径29.15cmを測り、口縁部はヨコナデ、体部は刷毛目の調整を施す。92はやや丸みを呈する底部で、口径27.8cm、底径8.0cm、器高43.3cmを測る。調整は口縁端部がヨコナデ、口縁部は刷毛目、くびれ部はヨコナデ、体部は刷毛目、底部はナデで、体部外面下位には細かい刷毛目の調整を施す。

壺（93・94）93は体部の細片で、外面には断面が三角形状の貼付突帯を2条施す。内外面は刷毛目調整で、外面には丹塗りが施される。94は底部の細片で、底径12.0cmを復原する。

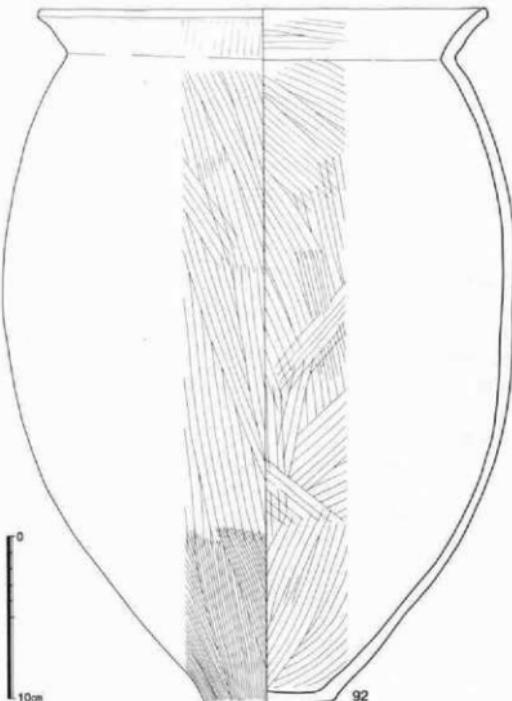


Fig.24 調査区C (SX100) 出土器実測図④ (1/3)

調査区D

溝

SD108 (Fig.26)

土器器

小皿 (95) 糸切りで、口径 10.2 cm、底径 7.0 cm、器高 1.6 cm を復原する。内外面の調整は不明。

鉄製品 (Fig.27, Pla.13)

釘 (101) 釘の断面は丸形で、径は 5 mm 前後を測る。上下部は欠損している。

SD120 (Fig.26)

土器器

坏 (96) 糸切りで、口径 11.0 cm、底径 7.0 cm、器高 2.6 cm を復原する。内外面の調整はヨコナデである。

土壤

SK102 (Fig.26)

土器器

坏 (97) 底部の細片で、底部外面はヘラ切りである。内外面はヨコナデで、底径 8.0 cm を復原する。

(4) 小結

今回の調査で最も古い遺構は調査区Bから検出したSK035の落とし穴状遺構である。

「落とし穴状遺構」については、これまで北部九州においてもしばしば報告の類をみるようになり、筑後市内でも「田佛遺跡」をはじめ、総計 33 基以上を数える。市内で確認された「落とし穴状遺構」の内、現段階で認識できた主要なものについて Tab.2 に示したので参照されたい。なお、記載した「落とし穴状遺構」は、何れも遺構底部に多穴や単穴の小穴を呈するもので、無穴のものは土壤と区別が戸惑い、明らかに判断ができるものを挙げた。また、本表に使用した分類は、「『安武地区遺跡群 II』久留米市文化財調査報告書第 60 集—久留米市教育委員会 1989—」に記載されている分類を用いた。

さて、当遺跡から検出された SK035 についてみてみると、平面プランは橢円形状を呈し、底部に 2 つの小穴を認め タイプであることから、分類による

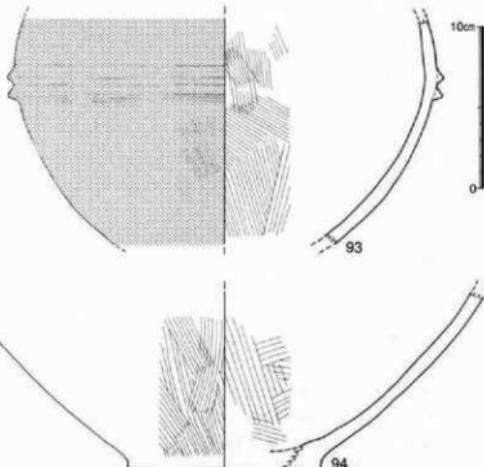


Fig.25 調査区C (SX100) 出土土器実測図⑤ (1/3)

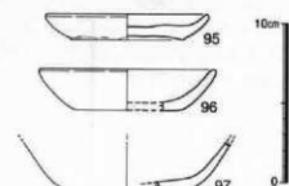


Fig.26 調査区D 溝出土土器実測図 (1/3)

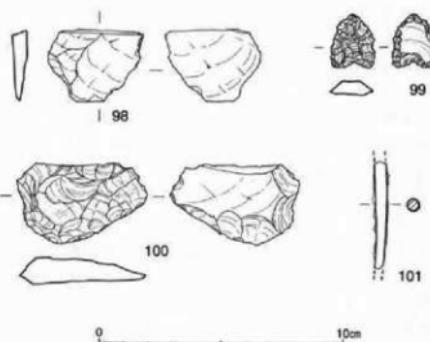


Fig.27 石製品・鉄製品実測図 (1/2)

(単位: cm)

遺跡名	遺構番号	遺構上端		遺構下端		底部の 深さ	ビット数	分類	備考
		長軸	短軸	長軸	短軸				
田佛遺跡	4号	96	75	80	59	54	1	B-1	筑後市文化財調査報告書第5集
*	5号	77	72	62	55	50	1	B-2	*
*	12号	99	88	70	50	85	0	A-2	*
*	13号	125	104	76	51	88	1	B-2	*
*	14号	111	97	81	64	78	1	B-1	*
藏敷森ノ木遺跡(1次)	1号	174	91	107	80	125	0	A-1	筑後市文化財調査報告書第6集
*	2号	115	48	90	30	84	3	C-1	*
*	3号	142	78	87	47	96	3	C-1	*
藏敷森ノ木遺跡(2次)	2SK05	130	73	120	65	80	1	B-1	筑後市文化財調査報告書第20集
鶴田岸添遺跡(1次)	1SX015	110	76	94	64	45	4	C-1	筑後市文化財調査報告書第11集
鶴田岸添遺跡(2次)	2SX011	158	117	105	76	106	42	C-1	筑後市文化財調査報告書第12集
*	2SX012	140	135	92	50	101	5	C-2	*
*	2SX013	130	122	55	52	115	2	C-2	*
*	2SX014	132	107	81	45	79	1	B-2	*
*	2SX016	158	113	113	73	72	3	C-1	*
*	2SX018	162	150	133	74	110	1	B-2	*
*	2SX019	160	125	130	62	112	5	C-2	*
*	2SX021	125	116	75	62	74	11	C-1	*
*	2SX022	114	106	90	75	80	1	B-2	*
*	2SX023	165	155	100	88	129	13	C-2	*
*	2SX026	155以上	97	123	43	98	4	C-1	*
*	2SX027	175	160	110	90	90	33	C-2	*
*	2SX028	135	125	80	76	92	27	C-2	*
*	2SX029	106	95	56	46	100	2	C-2	*
*	2SX031	121	102	77	66	75	1	B-2	*
*	2SX032	151	104	70	59	103	9	C-1	*
*	2SX034	186	165	115	68	108	49	C-2	*
前津中ノ玉遺跡(2次)	SX050	85以上	95	80以上	80	55	11以上	C-1	筑後市文化財調査報告書第22集
志西田遺跡	S-10	130	126	78	60	80	6	C-2	現在整理中
*	S-05	135以上	99以上	116	60	67	1	B-1	*
長浜鍾遺跡(3次)	S-3	107	77	90	55	67	1	B-1	*
水田上仁真業遺跡	S-5	130	78	84	36	72	5	C-1	*
志野添遺跡	S-5	146	62	121	36	80	6	C-1	*

Tab.2 市内出土の落とし穴状遺構一覧表

[注]

遺構の詳細については各報告書を参照されたい。

なお、上記の他に若菜森坊遺跡でも確認されているが、現段階において不明な点が多くあったため今回は除外した。

とC群—2型にあたる。

ここでTab.2に注目してみると、「落とし穴状遺構」は市内の広い範囲で分布しており、また、構造については久留米市出土例の分類にはほぼ同様のタイプが市内で検出されているのがわかる。「落とし穴状遺構」が広域にわたって確認されたほんの数例にすぎないが、その成果は大きい。

ところで、市内から出土した殆どの「落とし穴状遺構」は、直接年代を決定できる資料に恵まれておらず、遺構の時期の判定が困難であるといえる。このため、時期については今後の課題となるが、各遺跡の周辺からは縄文時代を示唆する何らかの資料が採集されていることや近隣における関連遺構の調査事例から、概ね縄文時代後期以降の遺構と考えられることができよう。

次に顯著な遺構がみられるのは弥生時代後期を中心とした時期で、遺構でいうと掘立柱建物（SB040）、溝（SD075）、土壙（SK045）、周溝状遺構（SX100）が該当する。

まず、SB040は1×2間若しくは1×1間に復原される建物で、惜しくも遺構の上部は削平を受けているものであった。規模からは特定できないが中心的な建物になっていた可能性は否定できない。時期は断定できないが、柱穴（P3）から唯一弥生土器片を認めたため、この時期を比定したものである。

さて、周溝状遺構であるSX100は前述した如く、周溝に遺物が集中的に廃棄されていたものである。調査時において一見単体で検出されたようにも思えたが、周辺遺跡である水田伊勢ノ脇遺跡の調査（本稿の5.に記載）において2基の周溝状遺構を新たに確認することができた。このことから、一帯は祭祀的要素をもった土地利用が行われていた地区であったことが窺える。なお、筑後市内における周溝状遺構の検出状況は、「筑後西部第二地区遺跡群（I）」第4節津島北石伏遺跡 4小結—筑後市文化財調査報告書第21集「筑後市教育委員会1998—」に記載されているとおりで、現時点においては新資料として追記するものはない。

次にあげられる時期としては、6世紀後半～8世紀代を中心とした遺物が出土している溝（SD050）がある。SD050は先述したとおり、溝の中央部は溜まり状になっていて決して安定した遺構とは言えないもので、埋土も自然堆積であった。このことから、自然にできた流路若しくは溜まり状の遺構であった可能性が強く、遺物は周辺から流入したものと思われる。

次にピークを迎える遺構としては掘立柱建物（SB020・030）、土壙（SK002・003・004・010・015）があり、何れも10世紀代を中心とする時期であろう。検出された掘立柱建物や土壙から、当該期に活発な土地利用が行われていたことを示唆することができる。

まず注目されるのが掘立柱建物で、何れも建物の規模は大きくないが、方位を意識して建てられているようである。また、その周辺で検出された土壙（SK010・015）は廃棄土壙として使用されていた可能性が強く、生活の匂いを感じせるものである。特にSK015からは10世紀前半のまとまった資料が出土しており、土器研究上貴重な資料を提供するものである。

この他、当遺跡からはこの段階以降の遺構や遺物を確認することができたが、何れも集落本体を示唆するものではなく、今後の調査に委ねられる結果となった。

【単位はcm. ○は復原値】

Fig.-No.	調査区	遺 情	名 称	器 種	口 径	底 径	器 高	長 宽	幅	厚 さ	切削し区分		備 考
											ヘラ	角	
16-001	A	SK040e	弥生土器	壺	○ 29.0	1	1	1	1	1	1	1	○ 内外面に漆付着
17-002	A	SK0002	土師器	环	○ 12.4	6.4	3.3	1	1	1	1	1	○
17-003	A	SK0003	土師器	环	○ 11.4	○ 6.4	3.3	1	1	1	1	1	
17-004	A	SK0003	土師器	壺	1	9.5	1	1	1	1	1	1	
17-005	A	SK0004	須恵器	鉢	○ 14.5	1	1	1	1	1	1	1	
17-006	A	SK0005	弥生土器	壺	1	18.0	4.3	29.4	1	1	1	1	
17-007	A	SK0005	弥生土器	壺	1	12.5	4.6	12.7	1	1	1	1	
17-008	A	SK0005	弥生土器	壺	○ 15.5	1	1	1	1	1	1	1	
17-009	A	SK0005	土師器	壺	○ 16.0	1	1	1	1	1	1	1	
17-010	A	SK0005	弥生土器	壺	○ 27.8	1	1	1	1	1	1	1	
17-011	A	SK0005	弥生土器	鉢	○ 18.0	1	1	1	1	1	1	1	
17-012	A	SK0005	弥生土器	高环	○ 26.0	1	1	1	1	1	1	1	
17-013	A	SK0005	弥生土器	器台	1	○ 11.1	1	1	1	1	1	1	
17-014	A	SK0006	土師器	壺	○ 24.0	1	1	1	1	1	1	1	
17-015	A	SK0006	青磁	碗	○ 15.0	1	1	1	1	1	1	1	岡安窯系、横田・森田: 昭一
17-016	A	SK010	黒色土器 A	瓶	○ 15.3	9.1	7.5	1	1	1	1	1	
17-017	A	SK069	須恵器	壺	1	1	1	1	1	1	1	1	
18-018	A	SK015	須恵器	壺	1	1	1	1	1	1	1	1	
18-019	A	SK015	須恵器	壺	1	1	1	1	1	1	1	1	
18-020	A	SK015	須恵器	壺	1	1	1	1	1	1	1	1	
18-021	A	SK015	土師器	皿	○ 11.0	○ 7.8	1.8	1	1	1	1	○	
18-022	A	SK015	土師器	碗	○ 11.0	1	1	1	1	1	1	1	
18-023	A	SK015	土師器	碗	○ 11.6	1	1	1	1	1	1	1	
18-024	A	SK015	土師器	碗	○ 14.0	1	1	1	1	1	1	1	
18-025	A	SK015	土師器	碗	○ 14.2	8.1	5.8	1	1	1	1	1	
18-026	A	SK015	土師器	碗	○ 14.4	1	1	1	1	1	1	1	
18-027	A	SK015	土師器	碗	1	1	1	1	1	1	1	1	
18-028	A	SK015	土師器	碗	1	1	1	1	1	1	1	1	
18-029	A	SK015	土師器	碗	1	○ 7.8	1	1	1	1	1	1	
18-030	A	SK015	土師器	碗	1	○ 8.8	1	1	1	1	1	1	
18-031	A	SK015	土師器	壺	○ 26.0	1	1	1	1	1	1	1	
18-032	A	SK015	土師器	不明土製品	1	1	1	1	1	1	1	1	
18-033	A	SK015	黒色土器 A	瓶	○ 11.5	1	1	1	1	1	1	1	
18-034	A	SK015	黒色土器 A	碗	○ 12.2	1	1	1	1	1	1	1	
18-035	A	SK015	黒色土器 A	瓶	○ 14.2	1	1	1	1	1	1	1	
18-036	A	SK015	黒色土器 A	碗	○ 15.0	1	1	1	1	1	1	1	
18-037	A	SK015	黒色土器 A	碗	1	1	1	1	1	1	1	1	
18-038	A	SK015	黒色土器 A	碗	1	7.5	1	1	1	1	1	1	
18-039	A	SK015	黒色土器 A	瓶	1	○ 8.0	1	1	1	1	1	1	
18-040	A	SK015	黒色土器 B	瓶	○ 13.6	○ 6.9	5.0	1	1	1	1	1	
18-041	A	SK015	黒色土器 B	瓶	○ 14.2	8.4	5.4	1	1	1	1	1	
18-042	A	SK011	黒色土器 A	碗	○ 15.0	1	1	1	1	1	1	1	
18-043	B	SD060	弥生土器	壺	1	5.0	1	1	1	1	1	1	
19-044	B	SD060	須恵器	蓋	1	1	1	1	1	1	1	1	
19-045	B	SD060	須恵器	蓋	○ 14.0	1	1	1	1	1	1	1	
19-046	B	SD060	須恵器	环	○ 13.0	1	1	1	1	1	1	1	
19-047	B	SD060	土師器	壺	1	1	1	1	1	1	1	1	
19-048	B	SD050	土師器	皿	○ 15.0	○ 9.8	1.9	1	1	1	1	1	
19-049	B	SD050	土師器	皿	○ 16.0	○ 13.6	2.0	1	1	1	1	1	
19-050	B	SD050	土師器	环	1	6.6	1	1	1	1	1	1	
19-051	B	SD050	土師器	环	○ 12.0	○ 7.6	2.7	1	1	1	1	1	
19-052	B	SD050	土師器	环	○ 12.6	8.0	3.8	1	1	1	1	1	
19-053	B	SD050	土師器	环	○ 14.2	1	1	1	1	1	1	1	
19-054	B	SK045	弥生土器	壺	1	6.4	1	1	1	1	1	1	
19-055	B	SK045	弥生土器	壺	○ 18.3	5.0	18.2	1	1	1	1	1	
19-056	B	SK045	弥生土器	壺	1	6.0	1	1	1	1	1	1	
19-057	B	SK045	弥生土器	高环	1	○ 18.0	1	1	1	1	1	1	
19-058	B	SK048	土師器	柱状土製品	1	1	1	1	1	1	2.6	1	
19-059	B	SK067	土智品	ミニチュア	1	1	1	1	1	1	1	1	[一分銀]
19-060	B	SP051	陶器	大甕	1	1	1	1	1	1	1	1	常滑
19-061	B	SP051	青磁	不明	1	1	1	1	1	1	1	1	
19-062	B	SP051	染付	碗	1	1	1	1	1	1	1	1	
20-063	C	SD060	白磁	皿	○ 12.0	1	1	1	1	1	1	1	森田: E群?
20-064	C	SD060	染付	碗	1	1	1	1	1	1	1	1	
20-065	C	SD070	弥生土器	壺	1	7.8	1	1	1	1	1	1	

Tab.3 水田正吹遺跡出土遺物一覧表①

【単位はcm、○は復原値】

Fig.-No	調査区	遺構	名 称	器 種	口 江	底 径	器 高	長さ	幅	厚さ	切離し区分			備 考
											ヘ	ラ	ホ	
20-066	C	SD090	弥生土器	甕	○ 18.0	—	—	—	—	—	—	—	—	
20-067	C	SD090	弥生土器	甕	○ 19.0	—	—	—	—	—	—	—	—	
20-068	C	SD090	弥生土器	甕	—	—	5.8	—	—	—	—	—	—	
20-069	C	SD090	弥生土器	器台	—	—	○ 14.0	—	—	—	—	—	—	
21-070	C	SX100	弥生土器	小鉢	—	8.8	5.1	4.5	—	—	—	—	—	
21-071	C	SX100	弥生土器	小鉢	○ 9.4	—	—	—	—	—	—	—	—	
21-072	C	SX100	弥生土器	鉢	—	12.8	5.8	8.6	—	—	—	—	—	
21-073	C	SX100	弥生土器	鉢	—	11.8	6.3	10.0	—	—	—	—	—	
21-074	C	SX100	弥生土器	鉢	○ 15.6	○ 7.7	7.3	—	—	—	—	—	—	
21-075	C	SX100	弥生土器	鉢	—	12.6	6.9	○ 15-15.2	—	—	—	—	—	
21-076	C	SX100	弥生土器	鉢	○ 16.9	—	—	—	—	—	—	—	—	
21-077	C	SX100	弥生土器	鉢	—	24.6	9.7	16.0	—	—	—	—	—	
21-078	C	SX100	弥生土器	高环	○ 20.9	○ 14.8	14.7	—	—	—	—	—	—	
21-079	C	SX100	弥生土器	高环	○ 19.9	—	—	—	—	—	—	—	—	
22-080	C	SX100	弥生土器	甕	○ 16.6	—	—	—	—	—	—	—	—	
22-081	C	SX100	弥生土器	甕	○ 16.6	—	—	—	—	—	—	—	—	
22-082	C	SX100	弥生土器	甕	○ 17.6	—	—	—	—	—	—	—	—	
22-083	C	SX100	弥生土器	甕	○ 18.4	—	—	—	—	—	—	—	—	
22-084	C	SX100	弥生土器	甕	○ 17.6	—	—	—	—	—	—	—	—	
22-085	C	SX100	弥生土器	甕	○ 18.6	—	—	—	—	—	—	—	—	
22-086	C	SX100	弥生土器	甕	○ 17.8	—	—	20.5	—	—	—	—	—	
22-087	C	SX100	弥生土器	甕	○ 25.6	—	—	—	—	—	—	—	—	
22-088	C	SX100	弥生土器	甕	—	—	○ 7.2	—	—	—	—	—	—	
22-089	C	SX100	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
23-090	C	SX100	弥生土器	甕	—	24.8	7.5	30.0	—	—	—	—	—	
23-091	C	SX100	弥生土器	甕	—	29.15	—	—	—	—	—	—	—	
24-092	C	SX100	弥生土器	甕	—	27.6	8.0	43.3	—	—	—	—	—	
25-093	C	SX100	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	丹繪 丸	
25-094	C	SX100	弥生土器	甕	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
26-095	D	SD108	土師器	小皿	○ 10.2	○ 7.9	1.6	—	—	—	—	—	○	
26-096	D	SD120	土師器	环	○ 11.0	○ 7.0	2.6	—	—	—	—	—	○	
26-097	D	SK108	土師器	环	—	○ 8.0	—	—	—	—	—	—	○	
27-098	A	SK001	石製品	次加工石器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石材：サスカイト
27-099	B	SD050	石製品	石盤	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石材：開礫石
27-100	B	SK034	石製品	次加工石器	—	—	—	—	—	—	—	—	—	石材：サスカイト
27-101	D	SD108	鐵製品	釘	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

Tab.4 水田正吹遺跡出土遺物一覧表②

【注】

本表に記載した分類は、下記の文献によっている。

〔青磁〕 横田賢次郎・森田勉 「大宰府出土の輸入中國陶磁について—形式分類と編年を中心にして—」 『九州歴史資料館研究論集4』 1978

〔白磁〕 森田勉 「14-16世紀の白磁の分類と編年」 『貿易陶磁研究No.2』 1982

3.島田外屋敷遺跡の調査

(1) はじめに (Fig.28)

当遺跡は、筑後市大字島田字外屋敷に所在する。一帯は縱横無尽にはしるクリークに囲まれた水田地帯で、標高4m位の低湿地上にある。調査は平成7年度に実施された農地整備事業支線用排水路設置範囲で遺構を確認した845mについて行い、調査区は北から「A～D」と設定した。調査期間は平成8年3月11日から3月31日までであった。この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などをを行い、遺構測量は大成ジオテック株式会社に委託した。調査区からは、溝10条、土壙7基、近世墓群、ピットを検出した。本調査は小林勇作が担当した。



Fig.28 島田外屋敷遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

(2) 遺構

調査区A

溝

SD05 (Fig.29)

調査区の東端で4.30m分を検出した南北溝である。溝の幅は調査区の制限により不明で、深さは約1.55mを測る。出土遺物は土師器（小皿・土鍋・片）、陶磁器（碗・片）を認めた。

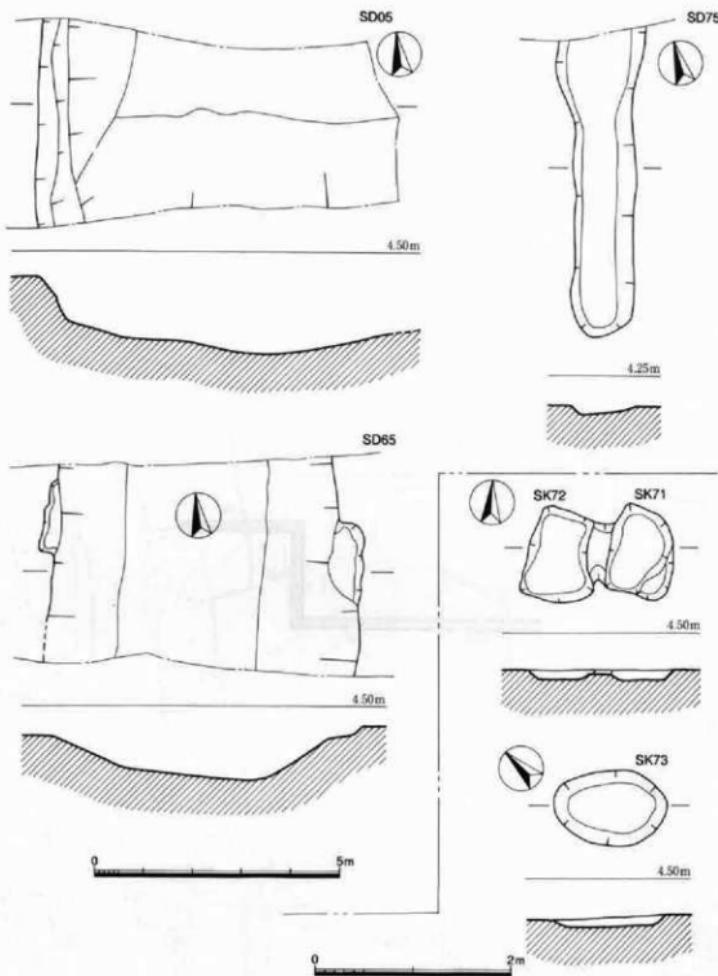


Fig.29 調査区A (SD05・65・75、SK71~73) 実測図 (1/50・1/100)

SD65 (Fig.29)

調査区の西側で検出した南北溝で4.00m分を認めた。幅約6.40m、深さ約1.00mを測り、断面はほぼ逆台形状を呈する。埋土は暗黒褐色粘質土を基調とし、出土遺物は皆無であった。

SD75 (Fig.29)

調査区の西側で検出した南北溝で北から3.10mのところで終息する。幅0.60～0.90m、深さ0.08mで著しく削平を受けているものと思われる。埋土は暗黒褐色粘質土で、出土遺物は皆無である。

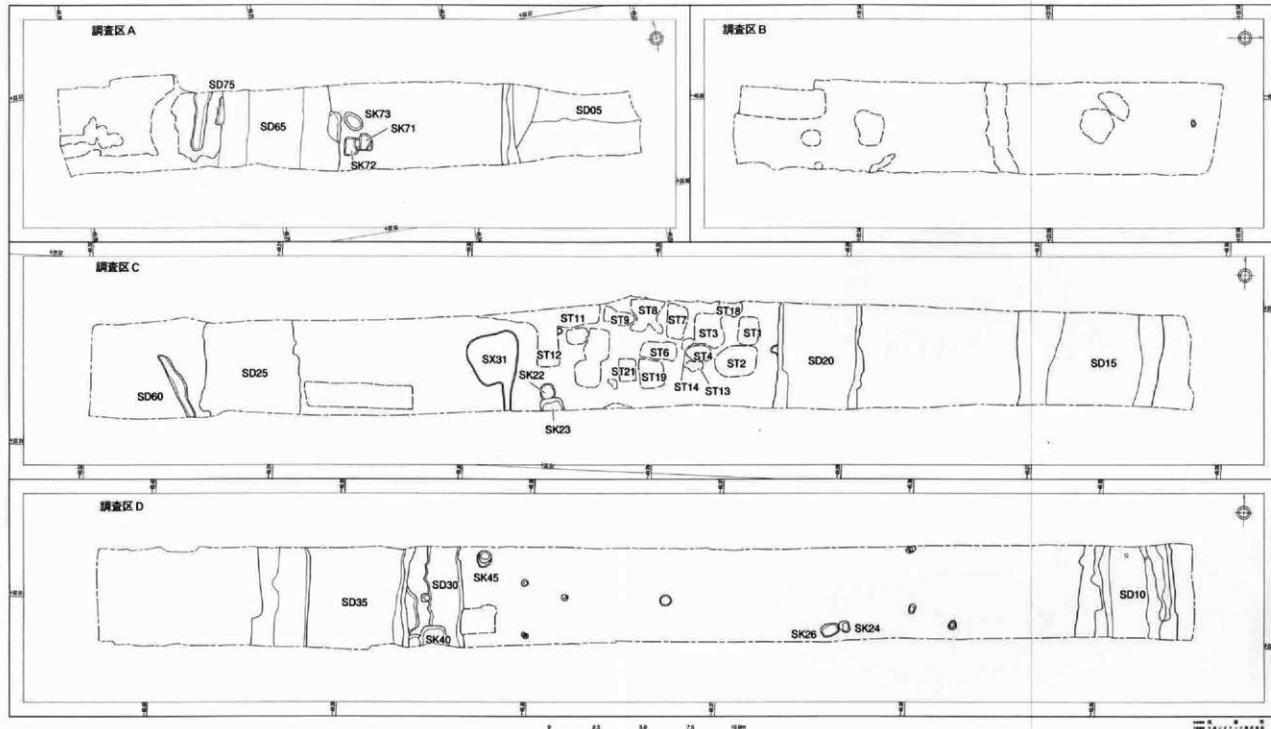


Fig.30 島田外屋敷遺跡全体実測図 (1/200)

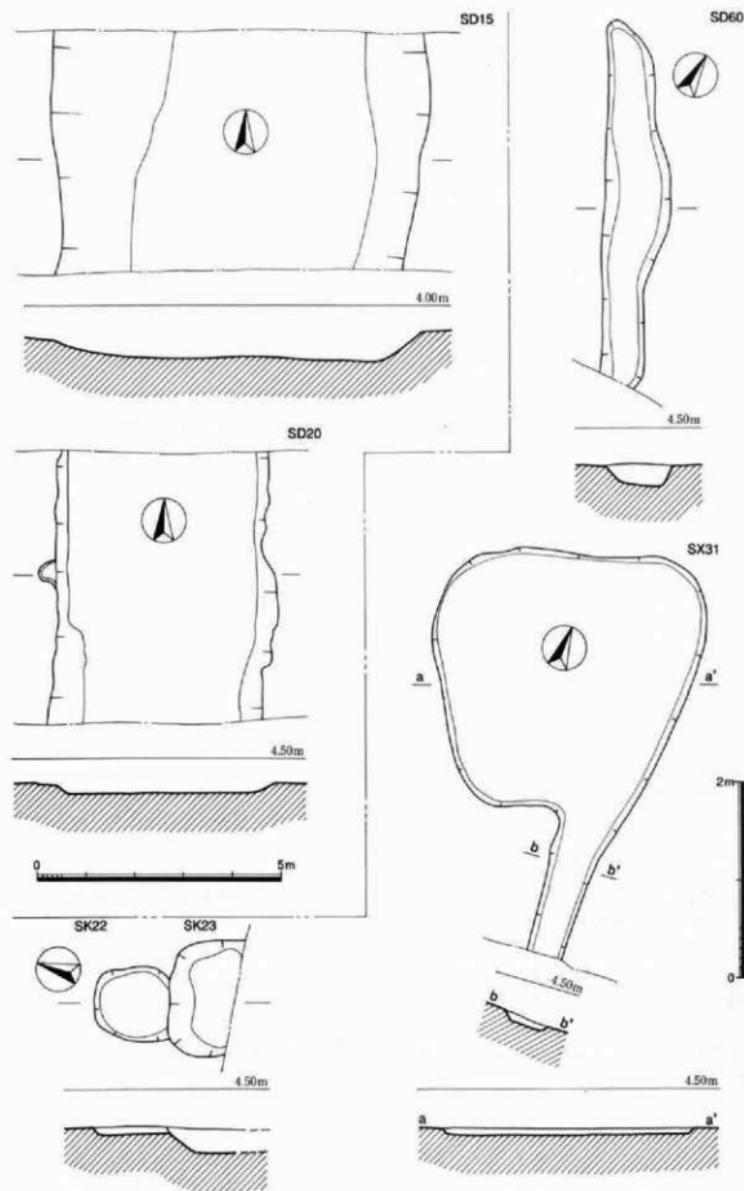


Fig.31 調査区C (SD15・20・60、SK22・23、SX31) 実測図 (1/50・1/100)

土壤**SK71 (Fig.29)**

調査区の中央部で検出した梢円形状の土壤でSK072に隣接する。暗黒褐色粘質土の单一土層で、出土遺物は皆無であった。

SK72 (Fig.29)

梢円形状の土壤で暗黒褐色粘質土の单一土層であった。出土遺物はない。

SK73 (Fig.29)

調査区の中央部で検出した梢円形状の土壤である。暗黒褐色粘質土の单一土層で、出土遺物はない。

調査区B (Fig.30)

当調査区の調査前は竹林であったため竹根によるカクランが確認されたのみで、顯著な遺構は認められなかった。

調査区C**近世墓群****ST1~4・6~9・11~14・18・19・21 (Fig.30)**

調査区のほぼ中央部付近に数十基の近世墓を確認したが、調査期間の制約から完掘までには至っていない。調査後、墓の改葬に立ち会った結果、主体部は甕棺（陶器甕）墓と木棺墓の2種類であることを確認した。

溝**SD15 (Fig.31)**

調査区の東端で5.00m分を検出した南北溝である。幅7.20~7.70m、深さ約0.61mを測り、断面はほぼU字状を呈する。埋土は暗黒褐色粘質土を基調とし、遺物は出土していない。

SD20 (Fig.31)

近世墓群の東側から5.60m分を検出した南北溝で、幅4.30~4.55m、深さ約0.25mを測る。溝の中位から数基の近世墓を確認し、完掘までには至っていない。上位堆積土からは土師器（小皿・壺・片）、陶器（甕）などが出土している。

SD25 (Fig.30)

調査区の西側で確認した南北溝で4.80m分を検出し、幅4.70~5.40mを測る。調査期間の制約から完掘までには至っておらず、詳細は不明である。

SD60 (Fig.31)

SD25の西側で検出した南北溝で南から3.75mのところで終息する。幅0.45~0.70m、深さ約0.13mで著しく削平を受けているものと思われる。埋土は黒褐色粘質土で、出土遺物は皆無である。

土壤**SK22 (Fig.31)**

南部はSK23を切り、径は約0.80m、深さ約0.08mと浅い。埋土は黒褐色粘質土で、土師器（片）、青磁（片）、白磁（片）、陶器（碗）を出土した。

SK23 (Fig.31)

径は約1.20mを測り、遺物は土師器（小皿・片）を僅かに出土したのみであった。

不明遺構**SX31 (Fig.31)**

埋土は黒褐色粘質土を基調とする不定形な遺構である。出土遺物は皆無であった。

調査区D**溝****SD10 (Fig.32, Pla.17)**

調査区の東端で検出した南北溝で4.70m分を確認した。上幅4.50~5.55m、下幅1.50~1.95m、深さ1.20mを測り、層位は大別して3つ（1・2と3~10と11・12）に分かれる。更に、溝の北端底部には径

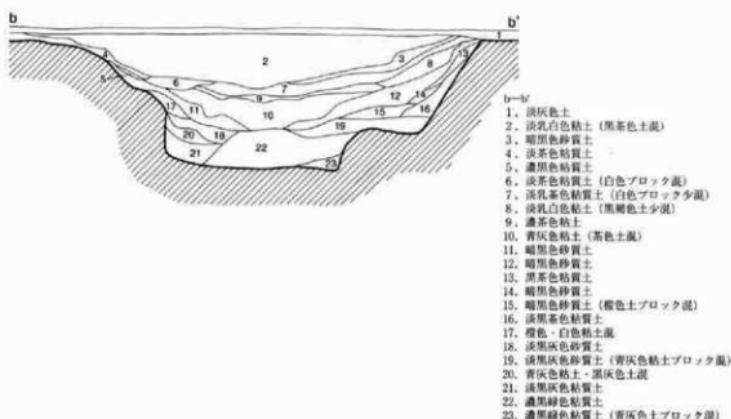
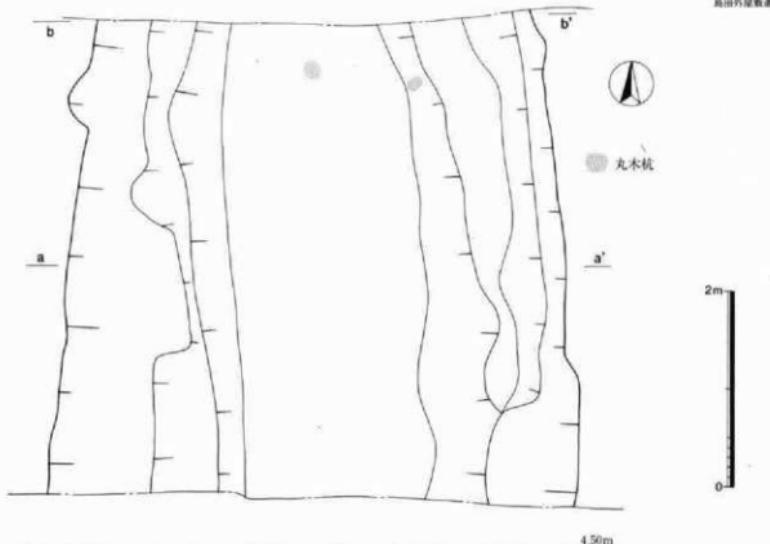


Fig.32 調査区D (SD10) 実測図 (1/50)

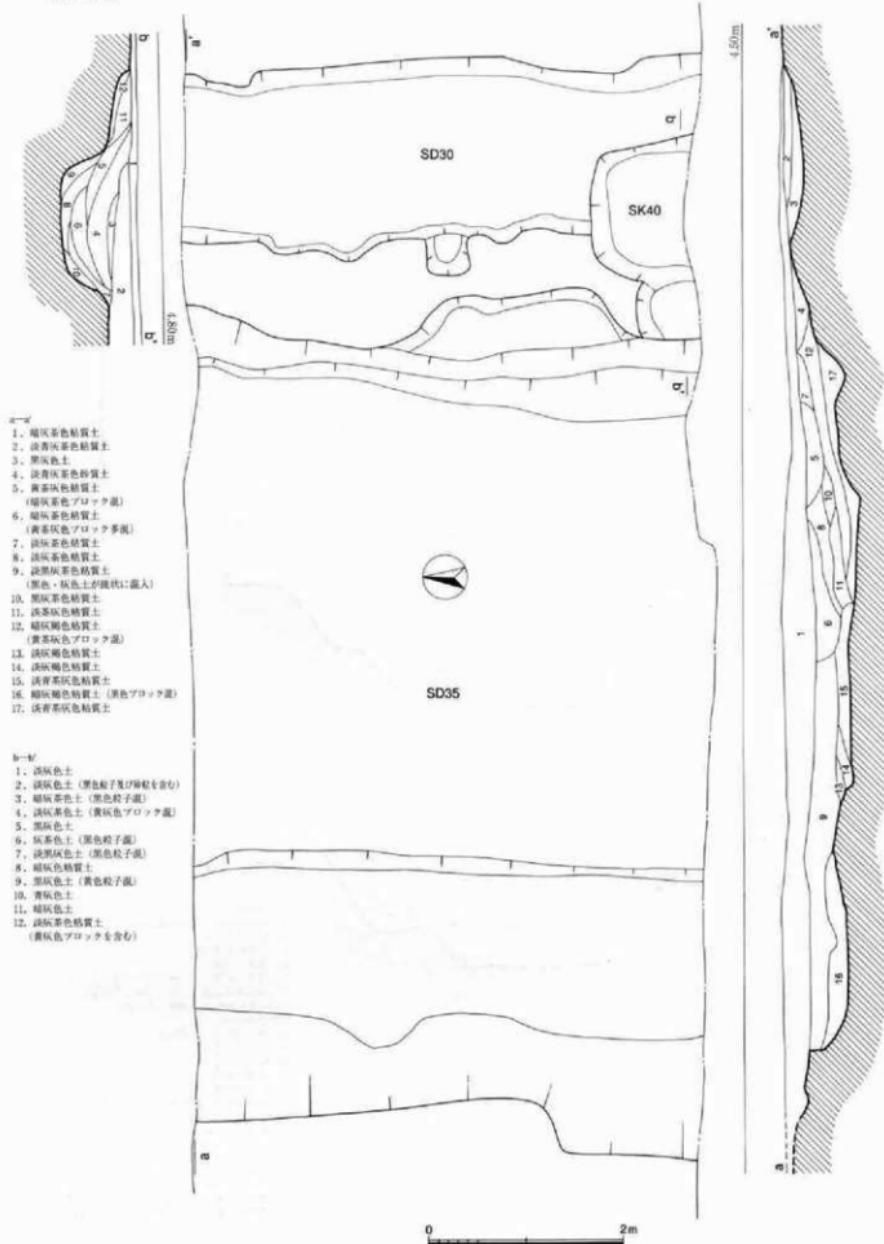


Fig.33 調査区D (SD30・35、SK40) 実測図 (1/50)

約0.15mを測る2本の丸太杭が垂直に打ち込まれていた。遺物は土師器（小皿・坏・土鍋・片）、瓦質土器（擂鉢・火鉢）、青磁（碗・深皿）、白磁（片）、陶器（擂鉢・片）、鉄製品（刀子）が出土した。

SD30 (Fig.33)

5.25m分を検出した南北溝で、南部はSK40に切られる。幅1.60～2.00m、深さ約0.27mを測り、断面はU字状を呈する。埋土は黒褐色粘質土で、遺物は土師器（小皿・片）を僅かに認めただけであった。

SD35 (Fig.33)

調査区の西部で検出した南北溝である。5.40m分を検出し、幅7.80～8.45m、深さ約0.29mを測る。埋土は淡灰茶色土を基調とし、断面は緩やかなU字状を呈する。出土遺物は皆無であった。

土壤

SK24 (Fig.34)

SK26に隣接した土壤で、径は約0.50m、深さ約0.13mと浅い。土師器（片）が出土した。

SK26 (Fig.34)

隅丸長方形を呈した土壤で、深さ0.07mとかなりの削平を受けているようである。埋土は黒色土で土師器（坏・片）が出土した。

SK40 (Fig.33, Pla.17)

SD30を切るように検出し、南部は調査区外にのびるものである。幅は約1.35m、深さ0.38mを測り、須恵器（甕）、土師器（土鍋・鉢・羽釜・片）、陶器（片）が出土した。

SK45 (Fig.34)

SD30の東隣から検出したほぼ円形を呈する土壤である。埋土は黒褐色土を基調とし、掘削時においてはかなりの湧水を認めたため、完掘をしていない。遺物は土師器（小皿・片）が出土した。

(3) 出土遺物

調査区A

溝

SD05 (Fig.35, Pla.18)

土師器

小皿（1） 糸切りで、口径7.0cm、底径4.8cm、器高1.7cmを復原し、内外面のほぼ全域に煤が付着する。

坏（2～6） すべて糸切りで、口径9.0～13.4cm、底径5.2～7.8cm、器高2.1～3.4cmを測る。

土鍋（7） 口縁部は玉縁状を呈し、内面は横方向の刷毛目、外面はヨコナデの調整を施す。

白磁

碗（8） 口径12.0cmを復原し、口縁端部は口禿である。淡灰色の胎土に淡青緑色の釉を施す。

染付

碗（9・10） 9は口径12.8cmを復元し、外面に呉須で草文を描く。10は口径16.0cmを復原し、口縁端部は釉を搔き取る。外面には呉須で文様を描く。

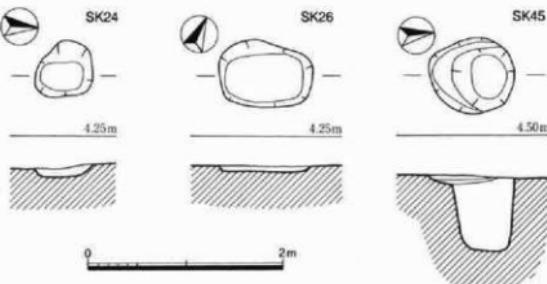


Fig.34 調査区D (SK24・26・45) 実測図 (1/50)

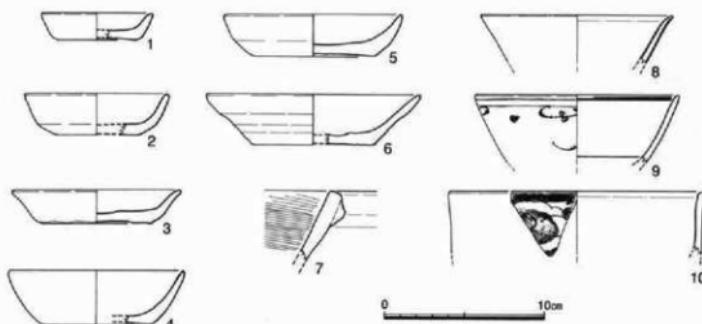


Fig.35 調査区A (SD05) 出土土器実測図 (1/3)

調査区C

溝

SD20 (Fig.36、Pla.18)

土師器

小皿 (11) 口径7.1cm、底径5.0cm、器高1.8cmを復原し、底部外面は糸切りである。

壺 (12) 口径13.0cm、底径9.0cm、器高3.1cmを復原する細片で、底部外面は糸切りである。

近世墓

ST02 (Fig.36)

染付

碗 (13) 底部の細片で、高台径は4.1cmを復原する。豊付けは露胎で、外面には呉須で文様を描く。

陶器

擂鉢 (14) 口縁端部は鍵状に外反し、内面にはすり目を施す。

ST03 (Fig.36、Pla.18)

陶器

碗 (15) 口径10.4cm、高台径4.0cm、器高5.6cmを復原する。内面には透明釉、外面には緑褐色釉を施し、体部下位から高台にかけては露体である。

ST12 (Fig.36)

土師器

小皿 (16) 糸切りで、口径9.7cm、底径7.5cm、器高1.8cmを復原する。

ST23 (Fig.36)

土師器

小皿 (17) 口径9.6cm、底径8.0cm、器高1.1cmを復原し、磨耗のため調整不明。

調査区D

溝

SD10 (Fig.37~39、Pla.18
~22)

土師器

小皿 (18~57) 18~57は

口径7.0~8.6cm、底径4.5~

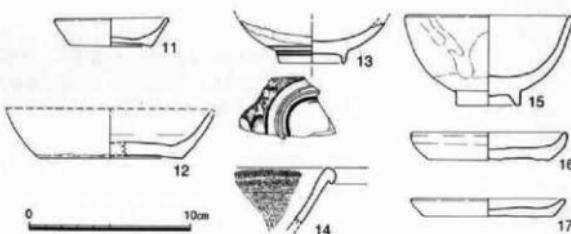


Fig.36 調査区C (SD20、ST02・03・12・23) 出土土器実測図 (1/3)

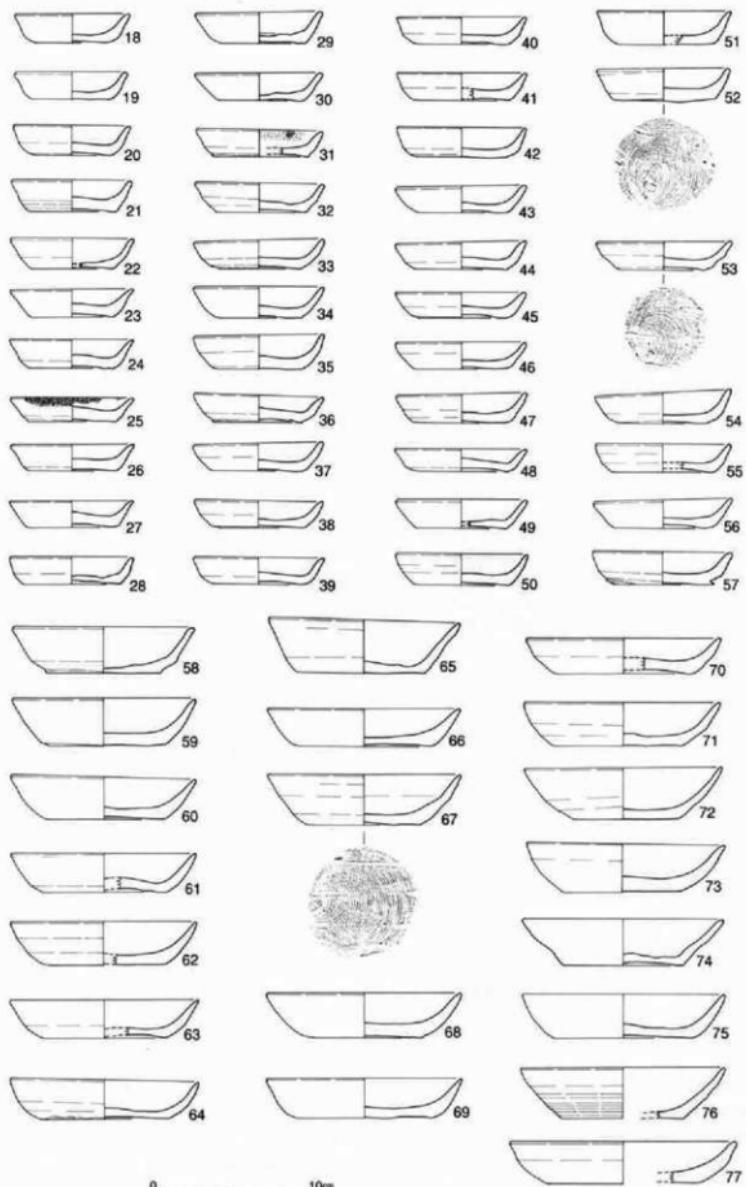


Fig.37 調査区D (SD10) 出土土器実測図① (1/3)

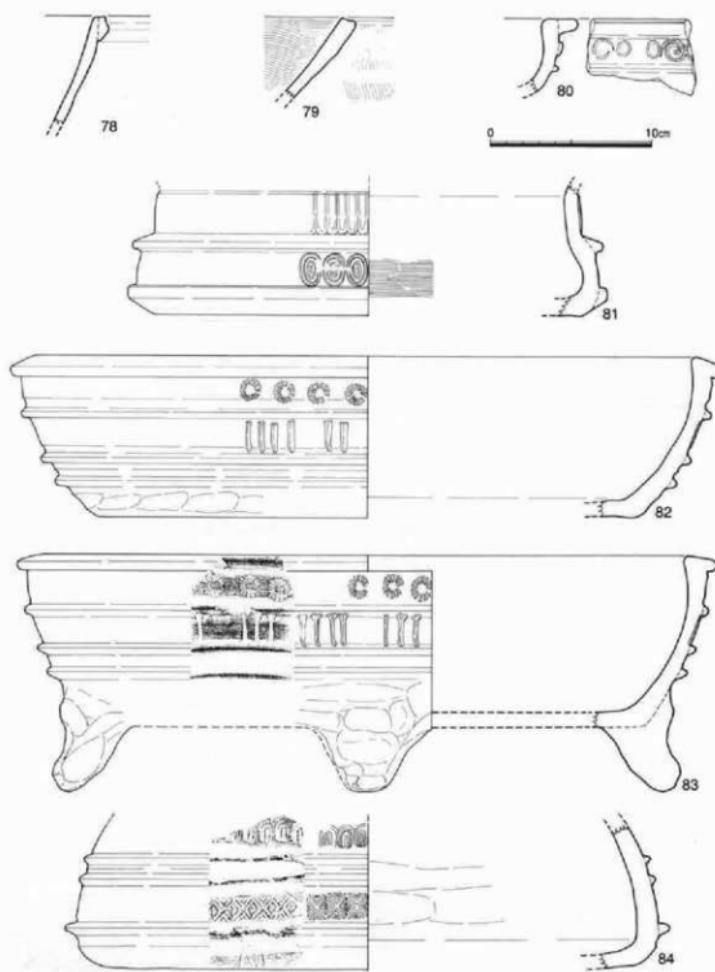


Fig.38 調査区D (SD10) 出土土器実測図② (1/3)

6.6cm、器高1.4～2.2cmを測り、底部外面はすべて糸切りである。25・31は口縁部付近に油煙痕が認められる。

坏 (58～77) 58～76は口径11.3～12.6cm、底径7.0～8.6cm、器高2.4～3.3cmを測り、底部外面はすべて糸切りである。77は糸切りで口径14.0cm、底径9.6cm、器高2.6cmを復原し、皿になる可能性がある。

土鍋 (78) 玉縁状の口縁部を呈し、外面の調整は磨耗のため不明。

鉢 (79～80) 79は口縁部の細片で、端部は素口縁である。内面は横方向の刷毛目、外面は縦方向の刷毛目を施す。表面には煤が付着し、二次焼成を受けている。80は口縁端部外側に屈曲した貼り付け突帯

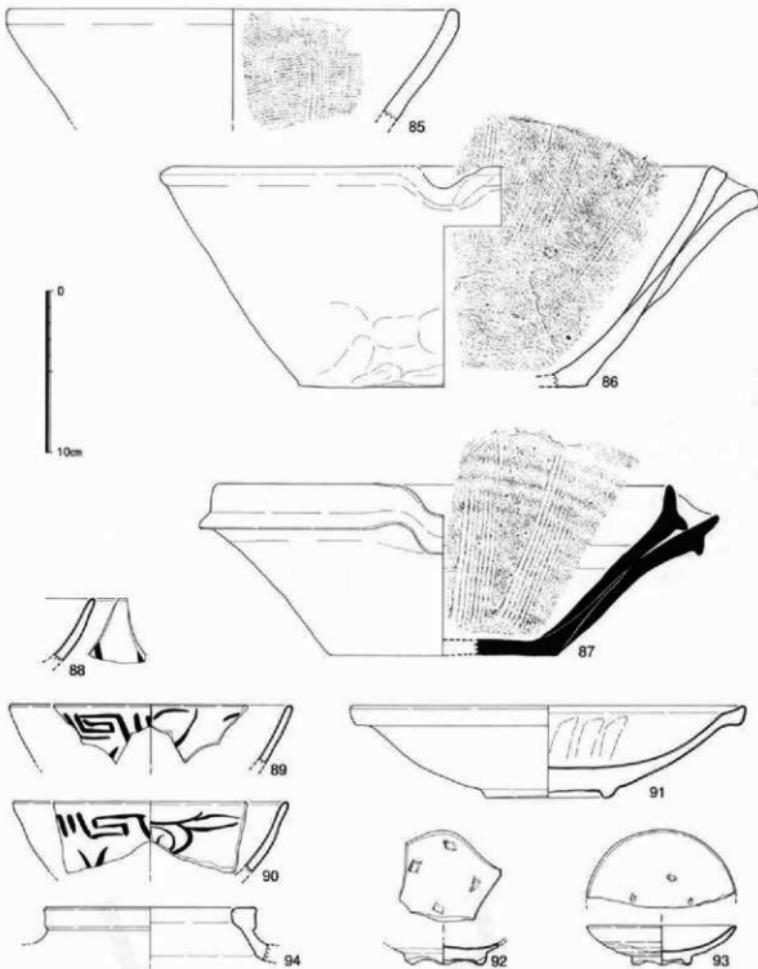


Fig.39 調査区D (SD10) 出土土器実測図③ (1/3)

を施し、更に体部外面上位にも貼り付け突帯が施される。突帯間にはボタン状の貼り付けと渦状の沈線を施す。

瓦質土器

火鉢 (81～84) 81は最大径29.5cm、底径26.2cmを復原し、体部下位にかけては袋状を呈する。体部下位と底部の外面には貼り付け突帯が施され、体部下位には型文、突帯間にはスタンプによる押印が施される。82と83は同一個体と思われ、83は口径43.2cm、底径34.0cm、器高14.7cmを復原する。口縁端部は外側に外反し、ナデ調整による大型の脚が施される。体部外面には3条の貼り付け突帯が施され、

菊花文と刻み目文のスタンプが押印される。84は最大径36.0cm、底径32.8cmを復原し、体部下位から底部にかけては袋状を呈する。体部下位には3条の貼り付け突帯が施され、鏡文と区画文のスタンプを押印する。

擂鉢（85・86） 85は口縁部の細片で、口径27.6cmを復原する。すり目は4本単位か。86は口径35.0cm、底径17.8cm、器高13.7cmを測る片口の擂鉢で、内面には7本単位のすり目を施す。

備前焼

擂鉢（87） 口径27.8cm、最大径30.0cm、底径14.0cm、器高10.6cmを測る片口の擂鉢である。口縁部はほぼ直立し、内面には放射状に8本単位のすり目を施す。

青磁

碗（88～90） 88～90は口縁部の細片で、89・90は外面口縁部付近に雷文帯を施す。89は口径17.0cm、90は口径17.4cmを復原する。

皿（91） 口径24.4cm、高台径7.6cm、器高5.7cmを測る。内外面に緑褐色の釉を厚く施し、豊付から高台内にかけては施釉後、蛇の目状に搔き取られる。口縁部は「ての字」状に外反し、体部内面には幅広の蓮弁状の凹みをもつ。明代と思われる。

白磁

碗（92） 底部のみの細片で、高台径は5.0cmを復原する。高台は4ヶ所を山形に削り出し、見込みには4ヶ所の砂目跡を認める。高台部は露胎である。

陶器

皿（93） 口径9.2cm、高台径3.7cm、器高2.4cmを測る。高台は4ヶ所を山形に削り出しているものと思われ、見込みには4ヶ所の砂目跡があったものと考えられる。胎土は白色で乳白色の透明釉を施すが、高台は露胎である。

壺（94） 口径13.0cmを測る壺の口縁と思われる。色調は暗灰色で、胎土に砂粒を多く含む。焼成はほぼ良好。

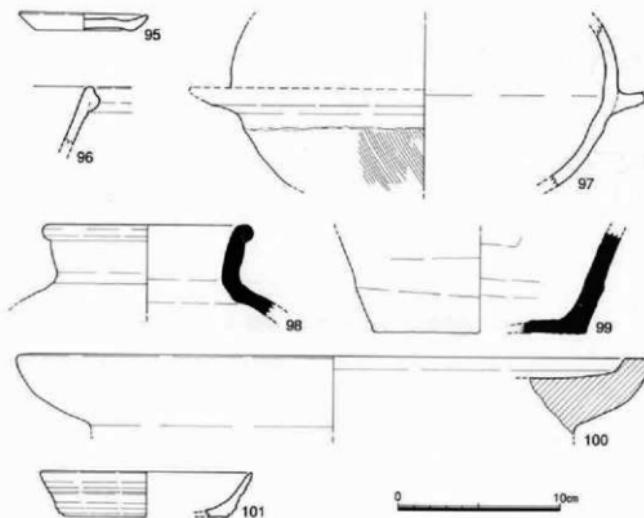


Fig.40 調査区D (SD30, SK40, SP26) 出土遺物実測図 (1/3)

SD30 (Fig.40)

土師器

小皿 (95) 糸切りで口径7.9cm、底径6.0cm、器高1.1cmを測る。

土壙

SK40 (Fig.40, Pla.22)

土師器

土鍋 (96) 玉縁状の口縁部を呈し、磨耗のため調整不明。

羽釜 (97) 最大径29.0cmを復原する。鋤はやや上方へ傾き、鋤から下位には煤が厚く付着する。煤は鋤が欠損した断面にも付着しており、欠損後も使用したものと考えられる。

備前焼

壺 (98・99) 98・99は同一個体と思われる。98は口縁部の細片で、口径13.0cmを復原する。口縁部はやや外反し、端部は外側に折り曲げて丸い帯状突起とした玉縁口縁を呈する。99は底部の細片で、底径13.0cmを復原する。

石製品

ひき白 (100) 下臼部分の細片と思われる。石材は安山岩製で、口径39.0cmを復原する。

ピット

SP26 (Fig.40)

土師器

壺 (101) 糸切りで、口径13.0cm、底径10.0cm、器高2.8cmを復原する。胎土は精選され、内外面はヨコナデ調整である。

包含層 (Fig.41)

土師器

小皿 (102・103) 共に糸切りである。102は口径8.9cm、底径6.9cm、器高1.2cm、103は口径10.0cm、底径8.0cm、器高2.0cmを復原する。

黒色土器

碗 (104) 口径14.0cmを復原する。著しく磨耗しているため調整は不明であるが、黒色土器B類と思われる。

瓦器

碗 (105～107) 105は口径15.0cmを復原し、口縁端部はややつまみ上げる。磨耗のため調整不明。106は口径16.0cm、107は口径16.6cmを復原し、共に内外面に横方向のミガキを施す。

(4) 小結

以上のように、今回の調査から確認された遺構は中世～近世に至るまでの遺構が主体である。この時期に該当する遺構は、溝 (SD05・15・20・25・10・30・35・65)、土壙 (SK40)、ピット (SP26) があり、ここでは、主体となる溝と近世墓について概観することでまとめとしたい。

・溝について

当地を含む筑後市西部一帯はかつて無数のクリーク地帯であった。これまで、過去の確認調査や発掘調査によって、旧クリークの存在が明らかにされている。このことから、当遺跡確認の一連の溝は、旧クリークであった可能性が考えられよう。

ところで、当遺跡が所在する島田地区は中世に画期となる水田荘の領内（莊園関係における詳細は「筑後市史」第一卷 第四編中世一、「長崎坊田遺跡」一筑後市文化財調査報告書第23集一」を参照されたい。）である。画期となる中世では、島田地区は水田荘内の村落として存在していたようで、当地は水田荘の北側境界付近に位置している。当地は、水田荘の北側境界ラインは現在の西流する花宗川に

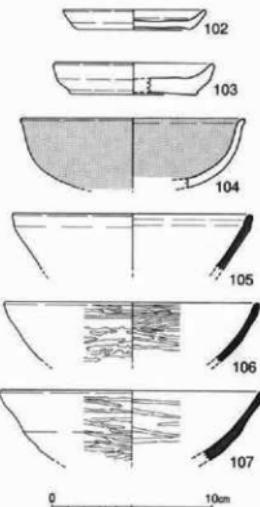


Fig.41 包含層出土土器実測図 (1/3)

沿うようで、北の広川莊と南の水田莊との間で歴史的背景や立地条件など、ある程度の制約を受けて存在していたことが考えられる。ここでいう「ある程度の制約」とは具体的には提示できないが、考えられることとしては莊園領内を防衛するために置かれた集落などが挙げられよう。

さて、当遺跡から検出した一連の溝は、旧クリークの可能性が考えられることは先述したが、当地における莊園関係を鑑みると館を巡る堀の可能性も否定できない。

更にこれを裏付けることとして、今回検出した一連の溝からは、在地土器の他に国産の搬入土器や輸入陶磁器が出土している。国産の搬入土器や輸入陶磁器は、当時の時代背景から一般庶民が保有していた遺物とは考え難いところで、少なくとも中～小級クラスの有力者が保有していた可能性を示唆するものである。しかし、当調査区からは溝を主体とする遺構のみであったため、結果として、今後の調査に期待せざるを得ない状況である。

溝が使用されたピークは15世紀代比定し、埋没時期は出土遺物から少なくとも16世紀後半であったと考えている。

・近世墓について

当地は近世になって墓地として土地利用が行われていた。

調査区Cからは15基を数える近世墓が検出されたが、惜しくも調査期間などの理由から十分な調査をすることができなかった。周辺には現在も近世墓（殆どは改葬されているようである。）が点在している場所で、今後の調査が待たれる。

【単位はcm。○は復原品】

Fig.-No.	調査区	造 構	名 称	器 横	口 径	底 径	器 高	副 径	切離し区分		備 考
									ヘラ	角	
35-001	A	SD05	土師器	小皿	○ 7.0	○ 4.8	1.7	-	○	復原品	
35-002	A	SD05	土師器	环	○ 9.0	○ 5.2	2.6	-	○		
35-003	A	SD05	土師器	环	○ 10.6	○ 7.0	2.1	-	○		
35-004	A	SD05	土師器	环	○ 11.0	○ 6.8	3.4	-	○		
35-005	A	SD05	土師器	环	○ 11.1	○ 7.7	2.7	-	○		
35-006	A	SD05	土師器	环	○ 11.4	○ 7.8	3.2	-	○		
35-007	A	SD05	土師器	土鍋	-	-	-	-	-	-	山村：Rea
35-008	A	SD05	白磁	碗	○ 12.0	-	-	-	-	-	森田：Rea
35-009	A	SD05	陶付	碗	○ 12.8	-	-	-	-	-	
35-010	A	SD05	陶付	碗?	○ 16.0	-	-	-	-	-	
36-011	C	SD10	土師器	小皿	○ 7.1	○ 5.0	1.8	-	○		
36-012	C	SD10	土師器	环	○ 13.0	○ 9.0	3.1	-	○		
36-013	C	SD10	陶付	碗	-	○ 4.1	-	-	-	-	小野：B-1
36-014	C	SD10	陶器	罐体	-	-	-	-	-	-	
36-015	C	SD10	陶器	瓶	○ 10.4	○ 4.0	5.6	-	-	-	
36-016	C	SD12	土師器	小皿	○ 9.7	○ 7.5	1.8	-	○		
36-017	C	ST25	土師器	小皿	○ 9.6	○ 8.0	1.1	-	○		
37-018	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.0	○ 4.5	1.8	-	○		
37-019	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.0	○ 5.0	1.8	-	○		
37-020	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.2	○ 5.3	1.9	-	○		
37-021	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.4	○ 5.3	2.0	-	○		
37-022	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.6	○ 5.0	1.9	-	○		
37-023	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.6	○ 5.1	1.7	-	○		
37-024	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.5	○ 5.3	1.8	-	○		
37-025	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.6	○ 5.4	1.5	-	○	油煙板あり	
37-026	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.6	○ 5.4	1.7	-	○		
37-027	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.6	○ 5.6	1.7	-	○		
37-028	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.6	○ 6.0	1.7	-	○		
37-029	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.8	○ 5.6	2.0	-	○		
37-030	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.8	○ 5.4	1.8	-	○		
37-031	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.8	○ 6.0	1.7	-	○	油煙板あり	
37-032	D	SD10	土師器	小皿	○ 7.9	○ 5.5	1.9	-	○		
37-033	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.0	○ 5.6	1.8	-	○		
37-034	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.0	○ 5.1	2.0	-	○		
37-035	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.0	○ 5.3	2.2	-	○		
37-036	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.0	○ 5.5	1.7	-	○		
37-037	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.0	○ 5.8	1.7	-	○		
37-038	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.0	○ 5.8	1.7	-	○		
37-039	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.0	○ 5.8	1.7	-	○		
37-040	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.0	○ 6.0	1.7	-	○		
37-041	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.0	○ 6.0	1.8	-	○		
37-042	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.0	○ 6.4	1.9	-	○		
37-043	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.1	○ 5.4	1.7	-	○		
37-044	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.1	○ 5.6	1.7	-	○		
37-045	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.1	○ 5.9	1.6	-	○		
37-046	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.1	○ 6.0	1.7	-	○		
37-047	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.1	○ 6.0	1.8	-	○		
37-048	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.2	○ 5.6	1.4	-	○		
37-049	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.2	○ 5.6	1.8	-	○		
37-050	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.2	○ 6.0	2.9	-	○		
37-051	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.2	○ 6.2	2.1	-	○		
37-052	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.2	○ 6.4	2.0	-	○		
37-053	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.4	○ 6.6	1.8	-	○		
37-054	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.4	○ 6.0	1.9	-	○		
37-055	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.4	○ 6.2	1.8	-	○		
37-056	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.6	○ 6.3	1.8	-	○		
37-057	D	SD10	土師器	小皿	○ 8.6	○ 6.6	2.0	-	○		
37-058	D	SD10	土師器	环	○ 11.2	○ 7.0	2.9	-	○		
37-059	D	SD10	土師器	环	○ 11.3	○ 7.5	3.0	-	○		
37-060	B	SD10	土師器	环	○ 11.4	○ 7.2	2.6	-	○		
37-061	D	SD10	土師器	环	○ 11.4	○ 7.6	2.4	-	○		
37-062	D	SD10	土師器	环	○ 11.4	○ 7.7	2.7	-	○		
37-063	D	SD10	土師器	环	○ 11.6	○ 7.8	2.4	-	○		
37-064	D	SD10	土師器	环	○ 11.6	○ 8.2	2.4	-	○		
37-065	D	SD10	土師器	环	○ 11.7	○ 7.8	3.3	-	○		

Tab.5 島田外屋敷遺跡出土遺物一覧表①

【単位はcm, ○は復原値】

Fig.-No.	調査区	遺 僧	名 称	器 横	口 横	底 深	器 高	削 素	切離し区分		備 考
									ハク	ホ	
37-066		SD010	土師器	环	○ 11.8	○ 8.4	1 2.4	+	+	○	
37-067	D	SD010	土師器	环	1 11.9	1 7.0	1 3.1	+	+	○	
37-068	D	SD010	土師器	环	○ 12.0	1 7.8	1 2.8	+	+	○	
37-069	D	SD010	土師器	环	○ 12.0	○ 8.3	1 2.5	+	+	○	
37-070	D	SD010	土師器	环	○ 12.0	○ 8.4	1 2.2	+	+	○	
37-071	D	SD010	土師器	环	1 12.1	1 8.0	1 2.7	+	+	○	
37-072	D	SD010	土師器	环	1 12.2	1 8.6	1 3.2	+	+	○	
37-073	D	SD010	土師器	环	○ 12.2	1 7.3	1 3.0	+	+	○	
37-074	D	SD010	土師器	环	○ 12.4	○ 7.5	1 2.9	+	+	○	
37-075	D	SD010	土師器	环	○ 12.5	○ 8.6	1 2.7	+	+	○	
37-076	D	SD010	土師器	环	○ 12.6	○ 7.5	1 3.1	+	+	○	
37-077	D	SD010	土師器	直立环	○ 14.0	○ 9.6	1 2.6	+	+	○	
38-078	D	SD010	土師器	土鍋	1	1	1	+	+	山村：Ea	
38-079	D	SD010	土師器	鉢	1	1	1	+	+	山村：AⅢ	
38-080	D	SD010	土師器	鉢	1	1	1	+	+		
38-081	D	SD010	瓦質土器	火鉢	1	○ 36.2	1	+	+		
38-082	D	SD010	瓦質土器	火鉢	○ 44.0	○ 32.4	1 10.0	+	+	E3と同一個体	
38-083	D	SD010	瓦質土器	火鉢	○ 43.2	○ 34.0	1 14.7	+	+	E2と同一個体	
38-084	D	SD010	瓦質土器	火鉢	1	○ 32.8	1	+	+		
39-085	D	SD010	瓦質土器	擂鉢	○ 27.6	1	1	+	+	山村：A	
39-086	D	SD010	瓦質土器	擂鉢	○ 35.0	○ 17.8	1 13.7	+	+	すり目7本単位、山村：A	
39-087	D	SD010	擂前瓶	擂鉢	○ 27.8	○ 14.0	1 10.6	+	+	すり目8本単位、擂前・閑窓：Ⅳ期	
39-088	D	SD010	青磁	碗	1	1	1	+	+		
39-089	D	SD010	青磁	碗	○ 17.4	1	1	+	+	上田：C-II	
39-090	D	SD010	青磁	碗	○ 17.0	1	1	+	+	上田：C-II	
39-091	D	SD010	青磁	盤	○ 24.4	1 7.5	1 5.7	+	+	明日?	
39-092	D	SD010	白磁	碗	1	○ 5.0	1	+	+		
39-093	D	SD010	陶器	盤	○ 9.2	○ 3.7	1 2.4	+	+		
39-094	D	SD010	陶器	甕	○ 13.0	1	1	+	+		
40-095	D	SD09	土師器	小皿	1 7.9	1 6.0	1 1.1	+	+	○	
40-096	D	SK49	土師器	土鍋	1	1	1	+	+	山村：Ea	
40-097	D	SK49	土師器	羽釜	1	1	1	+	+		
40-098	D	SK49	擂前瓶	甕	○ 13.0	1	1	+	+	閑窓：Ⅲ期	
40-099	D	SK49	擂前瓶	甕	1	○ 13.0	1 21.0	+	+	閑窓：Ⅲ期	
40-100	D	SK49	石製品	ひき臼	○ 39.0	1	1	+	+		
40-101	D	SP26	土師器	环	○ 13.0	○ 10.0	1 2.8	+	+	○	
41-102	-	匂合箱	土師器	小皿	1 8.9	1 6.9	1 1.2	+	+	○	
41-103	-	匂合箱	土師器	小皿	○ 10.0	○ 8.0	1 2.0	+	+	○	
41-104	-	匂合箱	黒色土器B	碗	○ 14.0	1	1	+	+		
41-105	-	匂合箱	瓦器	碗	○ 15.0	1	1	+	+		
41-106	-	匂合箱	瓦器	碗	○ 16.0	1	1	+	+		
41-107	-	匂合箱	瓦器	碗	○ 16.6	1	1	+	+		

Tab.6 島田外屋敷遺跡出土遺物一覧表②

【注】

本表に記載した分類は、下記の文献によっている。

- 《中世堆器》 山村信義 「太宰府出土の瓦質土器」 『中古世土器の基礎研究』 1990
 《青磁》 上田勇夫 「14~16世紀の青磁碗の分類について」 『貿易陶磁研究』 1982
 《白磁》 森田敏 「14~16世紀の白磁の分類と年表」 『貿易陶磁研究』 1982
 《染付》 小野正敏 「15~16世紀の染付碗・皿の分類と年代」 『貿易陶磁研究』 1982
 《擂前瓶》 閑窓忠彦 「擂前瓶」 『考古学ライブリー』 平成3年

4. 井田栗ノ内遺跡の調査

(1) はじめに (Fig.42)

当遺跡は、筑後市大字井田字栗ノ内に所在し、標高4.2m位の低湿地上にある。平成8年度に施工された支線用排水路の設置範囲において、遺構が確認された283m²を調査範囲とし、調査区はL字状に設定した。調査期間は平成8年10月2日から10月15日までで、この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行った。調査区からは溝1条を検出した。本調査は田中剛が担当し、野田洋子の協力を得た。



Fig.42 井田栗ノ内遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

(2) 遺構

溝

SD1 (Fig.43, Pla.23)

やや蛇行しながら東西方向にはしる溝で、6.40m分を検出した。幅2.00～2.90m、深さ0.28～0.42mを測り、溝底は西方が低下している。土層からは大きく2つに大別（土層番号3～5と6・7）され、堀直しが看取される。遺物は各層から土師器（小皿・鍋・片）、瓦質土器（擂鉢）を認めているが図示できなかった。

(3) 出土遺物

当調査区からは図示できる遺物は出土しなかった。

(4) 小結

当遺跡は、かつて縦横無尽にはしついでいたクリーク地帯に位置していることで、今回検出した溝SD1は、旧クリークの可能性が考えられる。出土遺物が極めて少ないとから時期決定は難しいが、SD1は遺物から概ね中世の遺構と思われ、少なくとも江戸時代初頭には埋没していた可能性が考えられる。

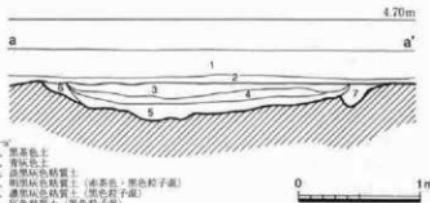


Fig.43 SD1 土層断面実測図 (1/40)

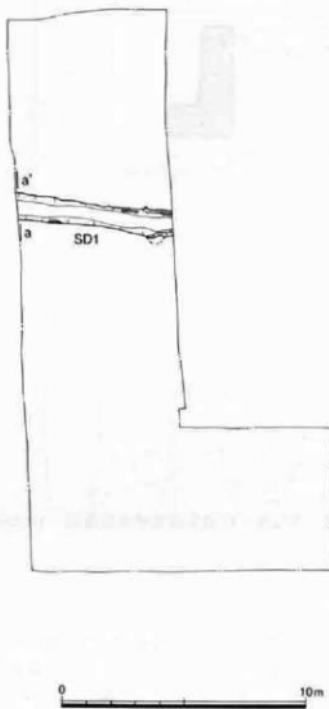


Fig.44 井田栗ノ内遺跡遺構全体実測図 (1/200)

5. 水田伊勢ノ脇遺跡の調査

(1) はじめに (Fig.45)

当遺跡は筑後市大字水田字伊勢ノ脇に所在し、標高5m位の低地上にある。調査は、平成9年度に実施された農地整備事業支線用排水路設置範囲で、遺構を確認した696m²を実施した。調査期間は平成9年10月14日から11月6日までで、この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行った。調査区からは主に溝15条、周溝状遺構2基、土壙5基、ピットを検出した。本調査は小林勇作が担当し、末吉隆弥の協力を得た。

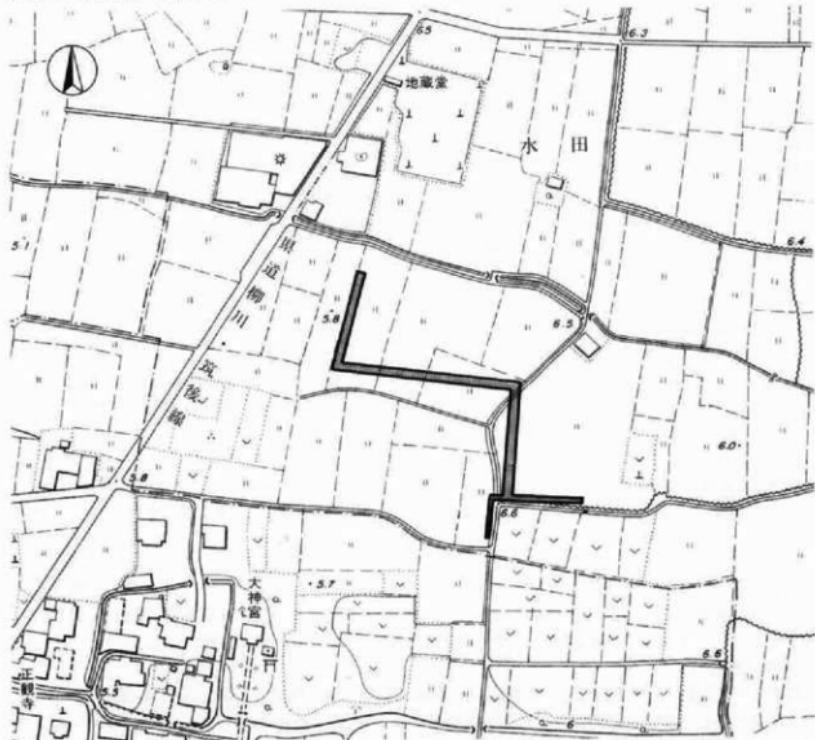


Fig.45 水田伊勢ノ脇遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

(2) 遺構

溝

SD010 (付図②、Fig.46、Pla.27)

調査区北側から検出した東西溝で、SD020・030を切る。7.6m分を検出し、幅約0.80m、深さ0.12～0.44mを測る。溝の断面は逆台形状を呈し、溝底は凹凸が著しく不安定である。埋土は黒茶色土がレンズ状に3層堆積しており流水があったものと思われる。遺物は弥生土器(甕)、須恵器(甕)、土師器(皿・甕・片)、石製品(砥石)などが出土した。

SD020 (付図②、Fig.46、Pla.27)

SD010に切られた幅約0.60m、深さ約0.36mを測る東西溝で約6.00m分を検出した。溝の東端部は南方へ屈曲しており、SD030へ続くものと考えられる。溝の断面はほぼU字状を呈し、溝底は不安定であった。埋土は黒茶色土がおよそ4層堆積しており、流水があったものと考えられる。遺物は弥生土器(甕)、土師器(片)などが出土した。

SD025 (付図②)

調査区中央部で検出した南北溝で、埋土は茶褐色土の單一土層であった。検出長3.45m、幅0.35~0.55m、深さ0.16~0.19mを測る。出土遺物は皆無であった。

SD030 (付図②、Fig.46)

調査区西側で南北にはしる溝を51.40m分検出し、溝の幅は0.70~1.00mを測る。SD010に続ぐ溝と考えられ、溝断面は逆台形状を呈する。土層観察から緩やかな流水があったものと考えられるが、溝の高低差はあまり感じられず、溝底は凹凸が著しく不安定である。地形的にみて北→南方向への流れがあつたものと考えられる。遺物は弥生土器(甕)、須恵器(甕)、土師器(皿・壺・土鍋・鍋・片)、瓦器(椀)、陶器(甕)などが出土した。

SD045 (付図②、Fig.46)

調査区の中央部で検出した南北溝で、3.20m分を検出した。断面はほぼV字状を呈し、黒茶色土がレンズ状に堆積していた。幅1.25~1.30m、深さ0.43~0.54mを測り、溝底は比較的安定していた。遺物は土師器(土鍋・火鉢・擂鉢・茶釜)、染付(碗)が出土した。

SD055 (付図②)

調査区中央部で6.25m分を検出し、SD090に切られる。幅0.51~0.86m、深さ0.05~0.13mを測る浅い溝で、土師器(皿・片)が出土している。

SD060 (付図②、Fig.46、Pla.27)

調査区の中央部で検出した南北溝で、SD070に切られる。3.35m分を検出し、幅約4.00m、深さ1.15mを測り、断面はほぼU字状を呈する。溝底は凹凸が著しく不安定である。遺物は須恵器(甕)、土師器(土鍋・土鍋)、白磁(碗)、陶器(擂鉢)を出土した。

SD070 (付図②、Fig.46、Pla.27)

SD060に隣接した南北溝で、長さ3.35m、幅約2.55m、深さ約0.60mを測る。灰色土を基調とする埋土で、断面は緩やかなU字状を呈する。出土遺物は土師器(壺・茶釜・片)、瓦質土器(擂鉢)、青磁(碗)、染付(碗)、懶前焼(甕)を認めた。

SD080 (付図②、Fig.46、Pla.28)

調査区の中央部東よりで検出した溝で、検出長約9.00m、幅約2.20m、深さ0.45mを測る。埋土は灰茶褐色土を基調とするレンズ状堆積で、溝底はほぼフラットである。遺物は須恵器(甕)、土師器(土鍋・茶釜・片)、瓦質土器(擂鉢・片)、青磁(碗)、白磁(片)、染付(碗)、陶器(甕)が出土した。

SD090 (付図②)

調査区の中央東よりで約2.00m分を検出した。幅約2.90m、深さ0.43~0.50mを測り、埋土は灰茶褐色土を基調とする。遺物は土師器(片)、瓦質土器(茶釜)、白磁(碗)、染付(片)、陶器(擂鉢)が出土した。SD080と同一の溝か。

SD100 (付図②、Pla.46)

SD030に接する溝で、検出時ではSD030に切られたように確認された。土層観察からSD100埋没後にSD030が掘り直されたと考えられる。遺物は僅かに土師器(片)、瓦質土器(擂鉢)が出土した。

SD110 (付図②)

調査区の南部で検出した。検出長3.50m、幅0.35~0.63m、深さ約0.19mを測り、埋土は灰色土の單一土層。出土遺物は弥生土器(片)、土師器(片)を僅かに認めた。

SD115 (付図②)

SD110に切られた溝で、現況を留めていない。2.50m分を検出し、深さ0.03~0.11と浅い。出土遺物は

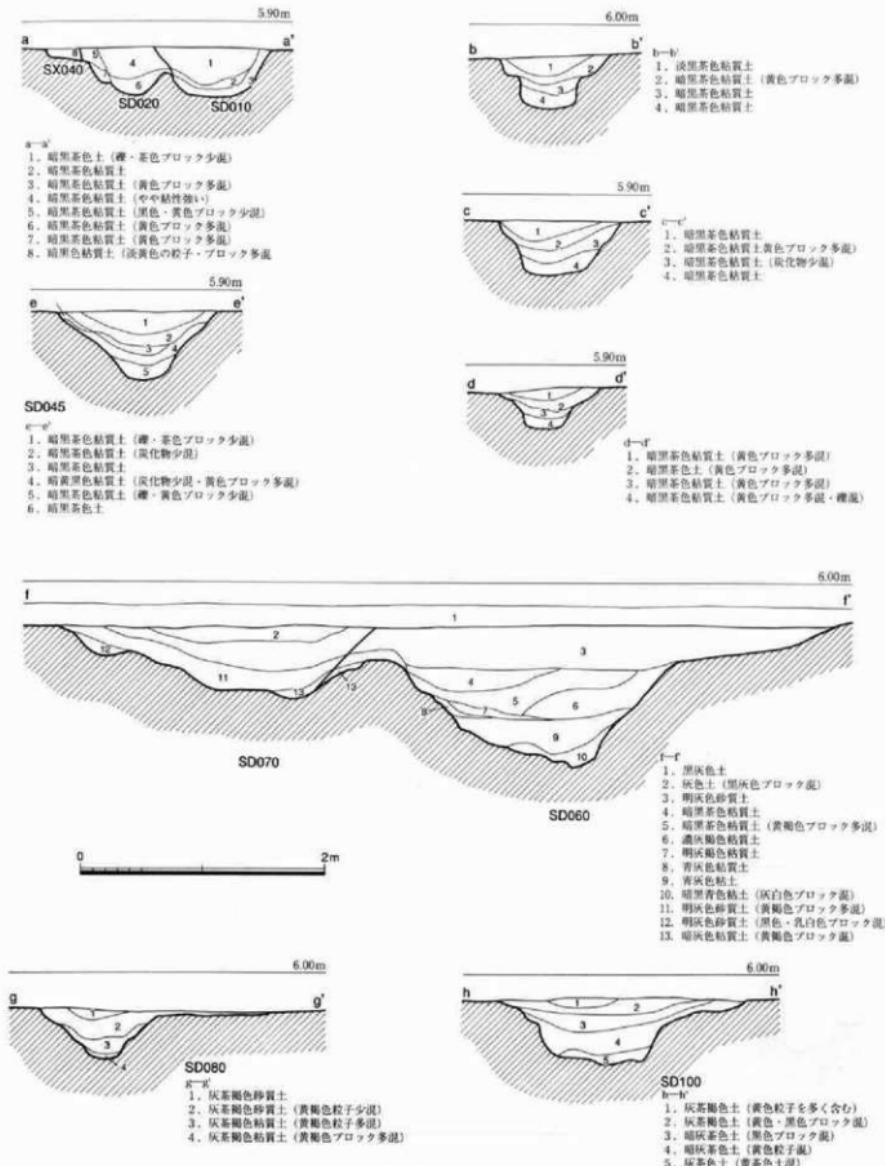


Fig.46 溝土層断面実測図 (1/40)

皆無であった。

SD120 (付図②)

1.33m分を検出し、幅0.60m、深さ0.07mと浅い。出土遺物は僅かに土師器（片）を認めた。

SD130 (付図③)

SK135に切られた南北溝で、現況水路とほぼ一致する。約12.20m分を確認し、幅約1.70m、深さ約0.56mを測る。土師器（土鍋・片）、瓦などが出土した。

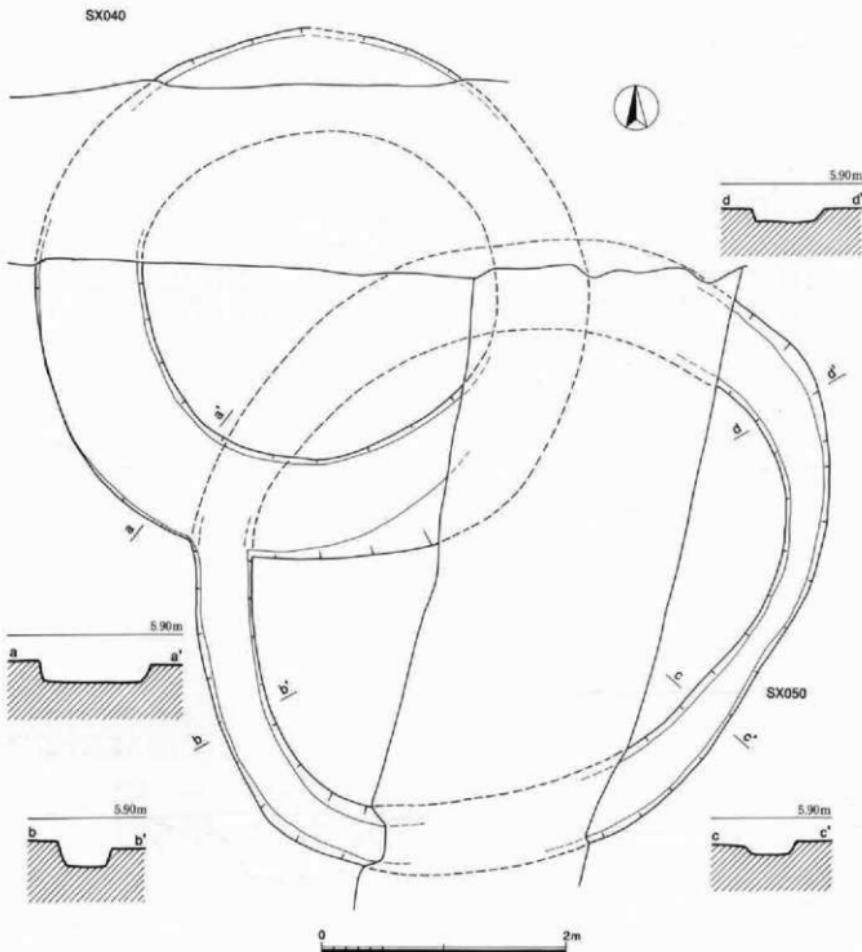


Fig.47 SX040・050実測図 (1/40)

SD140 (付図②)

1.75 m 分を検出し、幅約 0.25 m、深さ 0.18 m を測る。出土遺物は皆無で、方向的に SD110・115 何れかの延長部分と考えられる。

周溝状遺構**SX040 (Fig.47、Pla.28)**

調査区の北側で検出し、著しく削平を受けていた。周溝状遺構の規模は外径 4.35 m、内径 3.00 m (推定)、溝幅 9.30 m、深さ約 0.13 m である。埋土は黒色土を基調とする单一土層であった。遺物は弥生土器 (甕・壺・器台) が出土した。

SX050 (Fig.47、Pla.28)

調査区の北側で検出し、周溝状遺構の規模は外径 5.70 m (推定)、内径 4.65 m (推定)、溝幅 2.80 ~ 6.40 m、深さ約 0.10 m で著しく削平を受けていた。遺物は弥生土器 (甕・器台) が出土した。

土壤**SK001 (付図③)**

SX40 溝底から検出された梢円形状の土壤で、幅約 0.50 m、深さ 0.33 m を測る。埋土は黒色土を基調とし、遺物は弥生土器 (甕) を認めた。

SK005 (Fig.48、Pla.29)

調査区の北側で検出した隅丸方形形状の土壤で、幅 1.30 ~ 1.35 m、深さ 1.15 m を測る。出土遺物は各層から散在的に弥生土器 (鉢・甕・壺・片)、石包丁が出土した。

SK015 (付図④)

SK005 に隣接した梢円形状の土壤で、幅約 0.60 m、深さ 0.17 m を測る。黒茶褐色土を基調とした埋土で、出土遺物は僅かに弥生土器 (甕) を認めた。

SK035 (Fig.48、Pla.29・30)

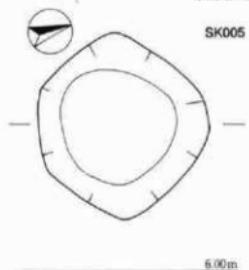
SD020 に切られた梢円形状の土壤で、若干袋状を呈する。長軸 1.45 m、短軸 1.06 m、深さ 0.57 m を測り、黒茶色土を基調とする埋土であった。土壤内からは二次造成を受けた安山岩、片岩が各 1 個づつ出土し、片岩の直下には土師器 (坏) が上向きの状態で確認された。遺物はこの他に土師器 (甕・片) が出土している。

SK135 (付図⑤、Pla.30)

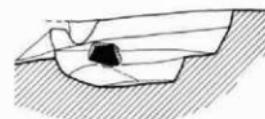
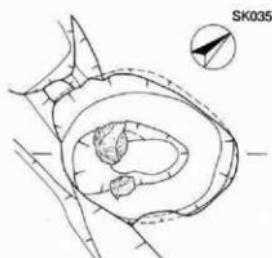
調査区南側で SD130 を切るように検出した。土壤の 3/4 は調査区外で規模は不明。黒茶色土を基調とした埋土で、深さは 0.43 m を測る。遺物は須恵器 (甕)、土師器 (片) を認めたが、周辺からの流入と考えられる。

(3) 出土遺物**SD010 (Fig.51、Pla.31)****石製品**

砥石 (29) 石材は安山岩製で、2 面を砥面とする。砥面には線状痕が認められ、鐵製品用に利用されたものと推定される。周縁の一部に敲打痕を認め、敲石としても利用された可能性が考えられる。



1. 茶褐色土
2. 淡褐色土 (茶褐色ブロック多混)
3. 淡褐色土 (白色・青褐色ブロック及び粘土多混)
4. 濃褐色土 (白色・黄色ブロック少混)
5. 濃褐色砂質土 (白色ブロック少混)
6. 濃褐色砂質土
7. 茶褐色粘質土

**Fig.48 土壤実測図 (1/40)**

SD030 (Fig.49)

須恵器

壺 (1) 底部の細片で、底径10.0cmを復原する。内面はヨコナデ、体部中位は平行叩き、下位はヘラナデの調整を施し、胎土は良好である。内面と断面には煤が付着している。

土師器

壺 (2・3) 共に系切りであるが、磨耗のため調整は不明である。2は口径12.6cm、底径7.5cm、器高2.9cm、3は口径12.8cm、底径9.8cm、器高2.4cmを復原する。

土鍋 (4) 玉縁状の口縁部を呈し、内面は横方向の刷毛目、口縁部外面はヨコナデ、体部上位はナデ調整を施す。外面には煤が厚く付着している。

青磁

皿 (5) 口縁端部は外反し、口径12.0cmを復原する。青緑色の釉を内外面に施し、貫入がみられる。

SD045 (Fig.49)

土師器

土鍋 (6) 口縁部の細片で、口縁部は玉縁状を呈する。

SD060 (Fig.49)

土師器

土鍋 (7) 口縁部の細片で、口径32.0cmを復原する。口縁部は素口縁を呈し、内面は横方向の刷毛目調

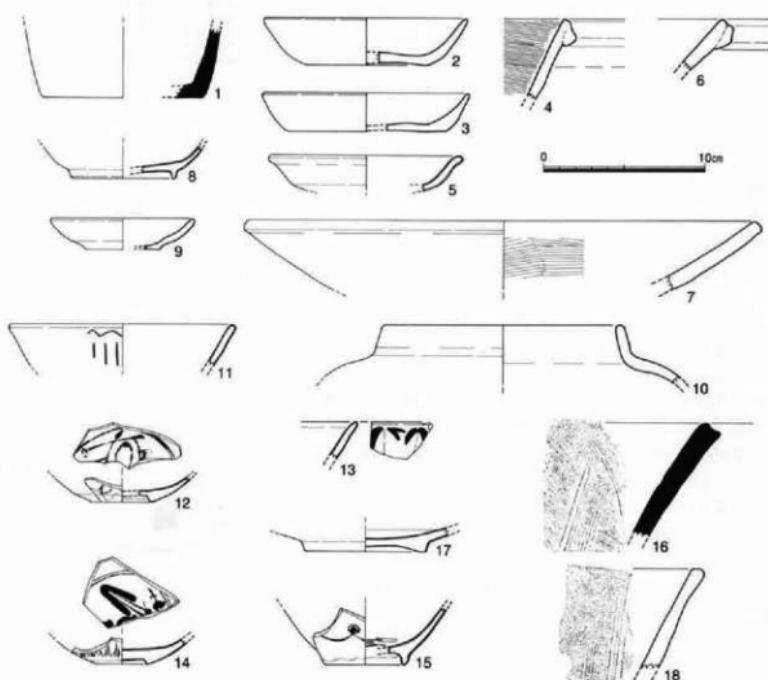


Fig.49 溝出土土器実測図 (1/3)

整を施す。外面は磨耗のため調整不明で、胎土に赤色粒子や砂粒を少量含む。

白磁

碗 (8) 底部の細片で、底径6.6cmを復原する。白灰色の胎土に乳白色の透明釉を全面に施すが、豊付けは露胎である。

SD070 (Fig.49, Pla.31)

土師器

壺 (9) 糸切りで、内外面はヨコナデである。口径9.0cm、底径4.6cm、器高1.9cmを復原する。

茶釜 (10) 口縁部の細片で、口径15.0cmを復原し、口縁部はやや内側へ立ち上がる。調整は口縁部の内面が刷毛目、外面はヨコナデ、体部の内面はナデ、外面は磨耗のため調整不明である。

青磁

碗 (11) 口縁部の細片で、口径14.0cmを復原する。青緑色の釉を内外面にかけ、ヘラ先による細線の線描連弁文を外面に施すが、刺頭が連弁としての単位をなしていない。

染付

碗 (12) 底部が基筒底を呈した底部のみの細片で、見込みには呉須で文様を描く。底径3.8cmを復原する。

SD080 (Fig.49, Pla.31)

青磁

碗 (13) 口径15.0cm前後を復原し、外面には鑄連弁が施される。

染付

碗 (14・15) 14は底部は基筒底を呈し、見込みと外面には呉須で文様を描く。底径3.0cmを復原する。15は底部の細片で、見込みと外面には呉須で文様を描かれている。底径5.0cmを復原し、豊付け付近は露胎である。

SD090 (Fig.49)

須恵器

播鉢 (16) 口縁部の細片で、口縁端部に沈線を施す。砂粒を少量含む胎土で、焼成はほぼ良好。8本単位のすり目を施すものと思われる。

白磁

皿 (17) 底部のみの細片で、底径7.6cmを復原する。白色の胎土に透明釉を施すが、高台内は露胎である。見込みには僅かに段を認める。

SD100 (Fig.49)

瓦質土器

播鉢 (18) 口縁部は素口縁で、外面はナデ、口縁端部と内面は横方向の刷毛目調整を施す。内面には6本単位のすり目が施されている。

SX040 (Fig.50, Pla.31)

弥生土器

壺 (19・20) 19は外面に暗赤色顔料を施した丹塗り壺である。底径5.0cmを測り、胎土に砂粒、角閃石を多く含む。20は底部の細片で、底径7.9cmを測る。砂粒、角閃石を多く含む胎土で、底部外面に煤が付着する。

甕 (21) 底部の細片で、底径12.0cmを復原する。胎土は細砂粒を多く含み、焼成はやや不良である。磨耗のため調整は不明。

器台 (22) 下端部のみの細片で、底径19.0cmを復原する。外面は縱方向の刷毛目、内面はヨコナデ調整を施し、下端部は未調整である。胎土は砂粒を多く含む。

SX050 (Fig.50)

弥生土器

器台 (23) 上端部のみの細片で、口径16.7cmを復原する。上端部は面を呈し、胎土は少量の砂粒を含

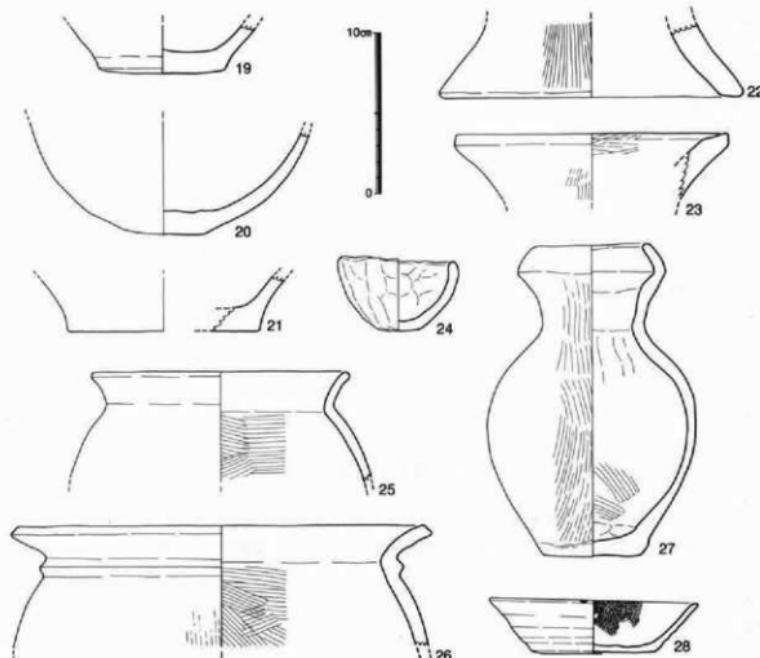


Fig.50 周溝状遺構・土壤出土土器実測図 (1/3)

む。内面は刷毛目後ナデ、外面上位はヨコナデ、下位は刷毛目調整を施す。

SK005 (Fig.50, Pla.31)

弥生土器

小鉢 (24) 完形で、手づくねによるミニチュアである。口径7.2cm、底径2.8cm、器高4.3～4.8cmを測る。胎土は多量の砂粒を含む。

壺 (25・26) 25は口径16.0cmを復原する口縁部の細片である。口縁部は「く」の字状を呈し、外面には煤が薄く付着する。26は口径26.0cmを復原し、口縁部は外反する。口縁部と体部の境には断面が三角形状の突帯が施される。

壺 (27) ほぼ完形で、口径6.8cm、底径6.1cm、器高19.4cmを測る。袋状の口縁部を呈し、口縁部内外面はヨコナデ、内面はナデで一部に刷毛目調整を施す。頸部内面にはシボリ痕が認められ、外面は刷毛目調整である。底部外面は未調整。

石製品 (Fig.51, Pla.31)

石包丁 (30) 2/3程度を欠損した石包丁片で、風化による器表剥落を認める。石材は片岩製で、刃部は両面から研磨された両刃タイプである。両面から穿孔された穴の部分から割れている。

SK035 (Fig.50)

土師器

壺 (28) 口径12.9cm、底径7.8cm、器高3.1～3.5cmを測る完形で、底部外面は糸切りである。口縁部附近には油煙と思われる煤が付着する。

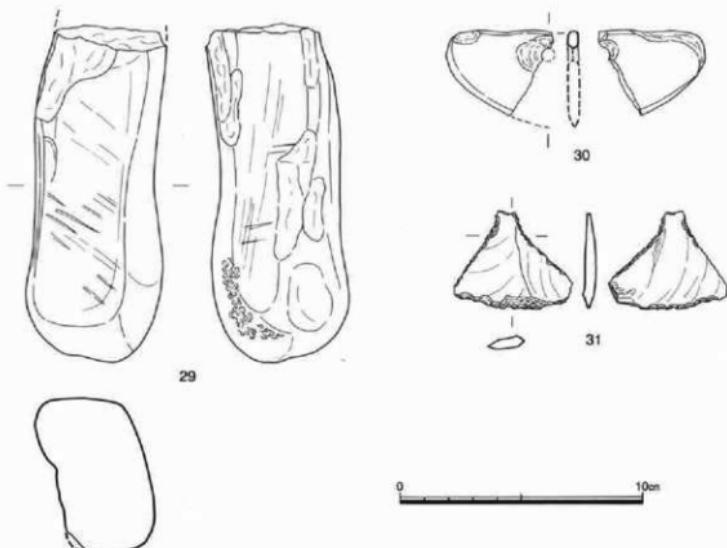


Fig.51 石製品実測図 (1/2)

表土採集

石製品 (Fig.51、Pla.31)

石匙 (31) 石材はサヌカイト製で、剥片の末端に自然面を残し、端部は僅かに欠損する。概ね全周縁に刃部を作り出し、つまみにも刃縁を呈する。

(4) 小結

当遺跡は水田正吹遺跡（調査区C・D）に隣接した場所に位置する。このため、調査前では水田正吹遺跡（調査区C・D）に関連した遺構が存在することが想定された。

調査は、は場整備によって掘削される水路部分のみの区域に限定されたため、遺跡の一部を確認したにすぎなかった。調査の結果、当遺跡から検出された遺構は大半が溝であることがわかった。ここでは、確認された主要な遺構や遺物について概略する。

・SX040・050について

調査区の北端から検出されたSX040・050は、遺構の大半が著しく削平を受けていたため遺構の残存は極めて悪い状況であったが、出土遺物から弥生後期～終末にかけての遺構と考えられる。周溝状遺構については、本書の「2.水田正吹遺跡（4）小結」において触れているが、当遺跡の北側付近には祭祀的要素をもった土地利用が当該期において行われていたものと考えることができる。残念ながら、祭祀的な土地利用の在り方について語る資料は少なく、今回明らかにすることはできない。今後の検討課題である。

・溝について

調査区から検出された溝の内、SD020・030・100は同一時期の区画溝であったと思われる。出土遺物から概ね16世紀以降に埋没した時期が考えられる。更に、SD060・070・080についても遺構の切り合いで新旧関係はあったものの、遺物の出土傾向から概ね16世紀代の溝として比定されよう。

・土壤について

調査区内から検出された土壤で注目されるのは、SK005とSK035である。

SK005は弥生時代後期に比定されるもので、出土した土器は高三瀬式土器の後期2式（編年は「柳田康雄、高三瀬式と西新町式土器『弥生文化の研究』4弥生土器「雄山聞一」による。）に該当されよう。遺構は廃棄土壌として使用された可能性が考えられる。

次にSK035であるが、先述したとおり土壤内からは上向きに廃棄された土器（壺）の直上に、二次焼成を受けた安山岩が重なるように確認された。更に、出土した土器（壺）は口縁部付近に油煙と思われる煤が多量に付着していた。出土状況からは祭祀的要素を含む遺構の可能性は考えられるが、このことについては再度検討する必要がある。

【単位はcm. ○は復原値】

Fig.-No.	遺構	名 称	器 種	口 径	底 径	器 高	切離し区分		備 考
							ヘラ	ホ	
49-01	SD030	遺墳底部	壺?	1	○ 10.0	1			
49-02	SD030	土器器	壺	○ 12.6	○ 7.5	2.9		○	
49-03	SD030	土器器	壺	○ 12.8	○ 9.8	2.4		○	
49-04	SD030	土器器	土鍋	1	1	1			山村：Ea
49-05	SD030	青磁	壺	○ 12.0	1	1			山村：Ea
49-06	SD045	土器器	土鍋	1	1	1			山村：Ea
49-07	SD060	土器器	土鍋	○ 32.0	1	1			
49-08	SD060	白磁	碗	1	1	5.6			
49-09	SD070	土器器	壺	○ 9.0	○ 4.6	1.9		○	
49-10	SD070	土器器	茶釜	○ 15.0	1	1			山村：A II
49-11	SD070	青磁	碗	○ 14.0	1	1			上田：B-IV
49-12	SD070	染付	碗	1	○ 3.8	1			上田：C群
49-13	SD080	青磁	碗	1	1	1			森田：I-16
49-14	SD080	染付	碗	1	○ 3.0	1			上田：C群
49-15	SD080	染付	碗	1	○ 5.0	1			
49-16	SD090	黑漆器	楕円	1	1	1			すり日日本学館
49-17	SD090	白磁	皿	1	○ 7.6	1			
49-18	SD100	瓦質土器	楕円	1	1	1			すり日日本学館
50-19	SX040	弥生土器	壺	1	1	7.9			
50-20	SX040	弥生土器	壺	1	1	5.0			
50-21	SX040	弥生土器	壺	1	○ 12.0	1			
50-22	SX040	弥生土器	器台	1	○ 19.0	1			
50-23	SX050	弥生土器	器台	○ 16.7	1	1			
50-24	SK005	弥生土器	小鉢	1	7.2	2.8	4.3 - 4.8		手づくね
50-25	SK005	弥生土器	壺	○ 16.0	1	1			
50-26	SK005	弥生土器	壺	○ 26.0	1	1			
50-27	SK005	弥生土器	壺	1	6.8	6.1	19.4		
50-28	SK035	土器器	壺	1	12.9	7.8	31 - 35		油煙あり
51-29	SD010	石製品	砥石	1	1	1			石材：砂岩
51-30	SK005	石製品	石泡丁	1	1	1			石材：片岩
51-31	表採	石製品	石塊	1	1	1			石材：サメカイト

Tab.7 水田伊勢ノ脇遺跡出土遺物一覧表

【注】

本表に記載した分類は、下記の文献によっている。

- 《中世漆器》 山谷信榮 「太宰府出土の瓦質土器」 『中近世土器の基礎研究VI』 1990
- 《青磁》 横田賀次郎・森田牠 「太宰府出土の輸入中国陶磁器について—形式分類と編年を中心にして—」 『九州歴史資料館研究論集4』 1978
上田秀夫 「14~16世紀の青磁碗の分類について」 『貿易陶磁研究12』 1982
- 《白磁》 森田牠 「14~16世紀の白磁の分類と編年」 『貿易陶磁研究12』 1982
- 《染付》 小野正敏 「15~16世紀の染付碗・皿の分類と年代」 『貿易陶磁研究No.2』 1982
- 《彫前焼》 關屋忠彦 「彫前焼」 『考古学ライブクリー60』 平成3年
- 《常滑焼》 本羽一部・中野晴久 「生産地における編年について」 『中世常滑焼をとおして』 シンポジウム資料集 1994
- 《石鍋》 木戸雅寿 「石鍋の生産と流通について」 『中近世土器の基礎研究IX』 1993

6. 折地長間寺遺跡の調査

(1) はじめに (Fig.52)

当遺跡は筑後市大字折地字長間寺に所在する。標高5m位の低地上にあり、一帯はクリークに囲まれている。調査は、平成9年度に施工された農地整備事業支線用排水路設置範囲で、遺跡を確認した560m²を実施した。調査期間は平成9年11月11日から12月16日までで、この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行った。調査区からは主に溝11条、土壙15基、ピット群を検出した。本調査は小林勇作が担当し、末吉隆弥の協力を得た。

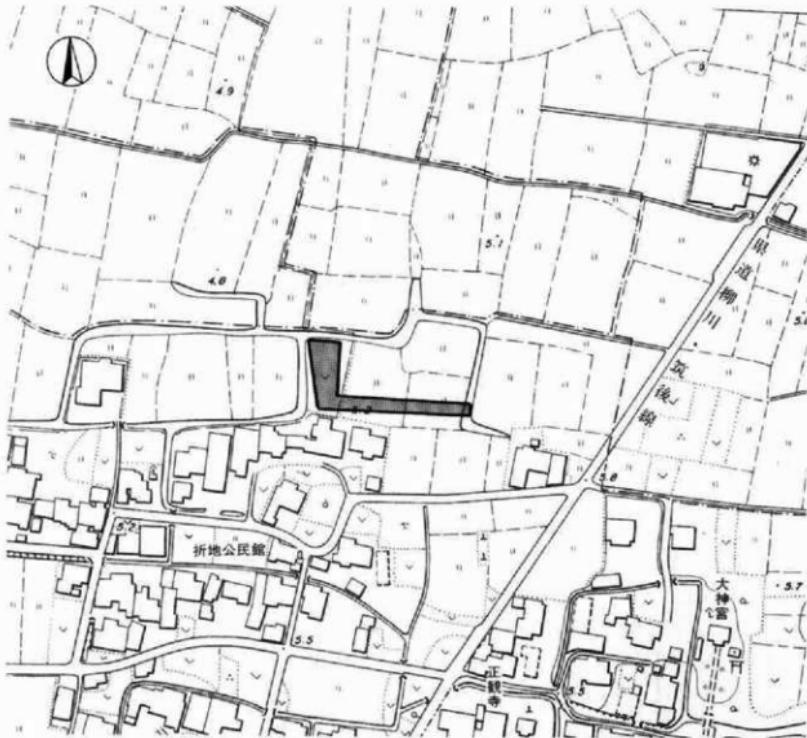


Fig.52 折地長間寺遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

(2) 遺構

溝

SD03 (Fig.54)

調査区の西側中央で検出した東西溝で、約4.00分を確認した。SK04・SD40に切られ、幅は約0.75m、深さは0.27～0.46mを測る。遺物は土師器（小皿・火鉢・片）、染付（碗・片）、石製品（砥石）が出土した。

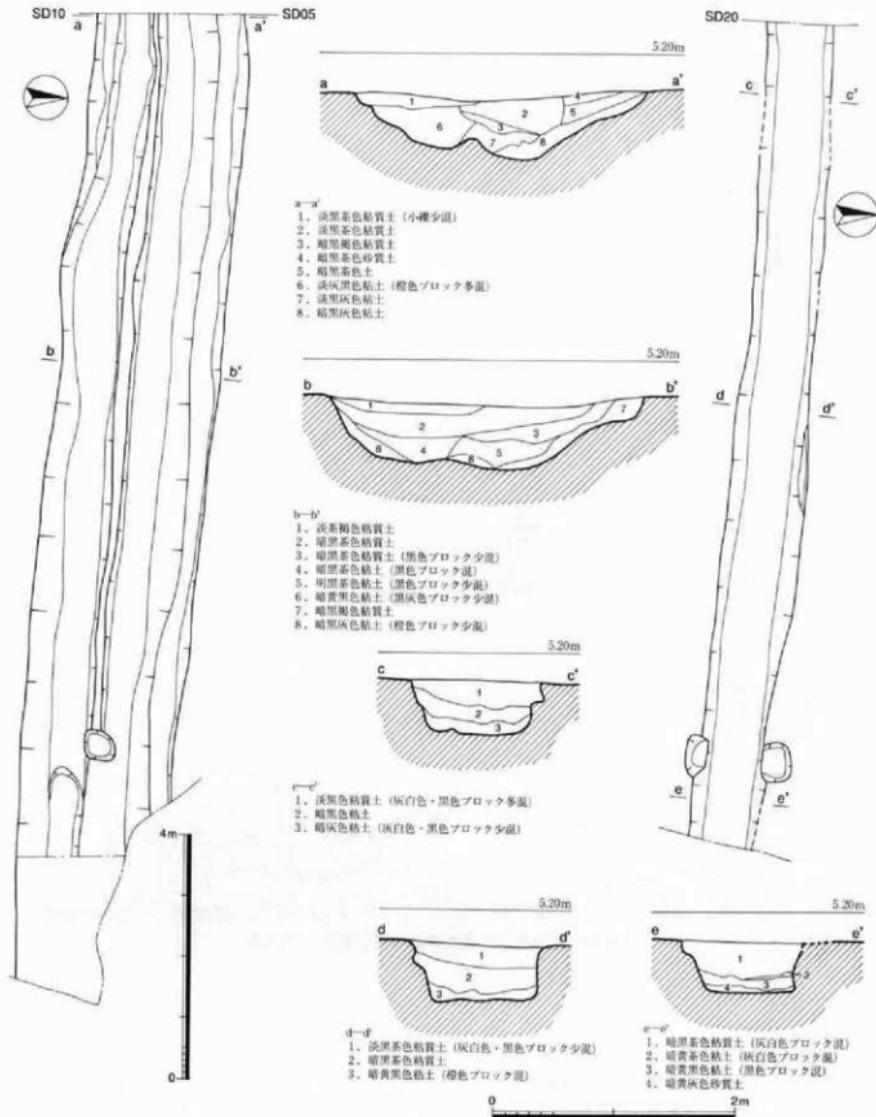


Fig.53 SD05・10・20実測図 (1/40・1/80)

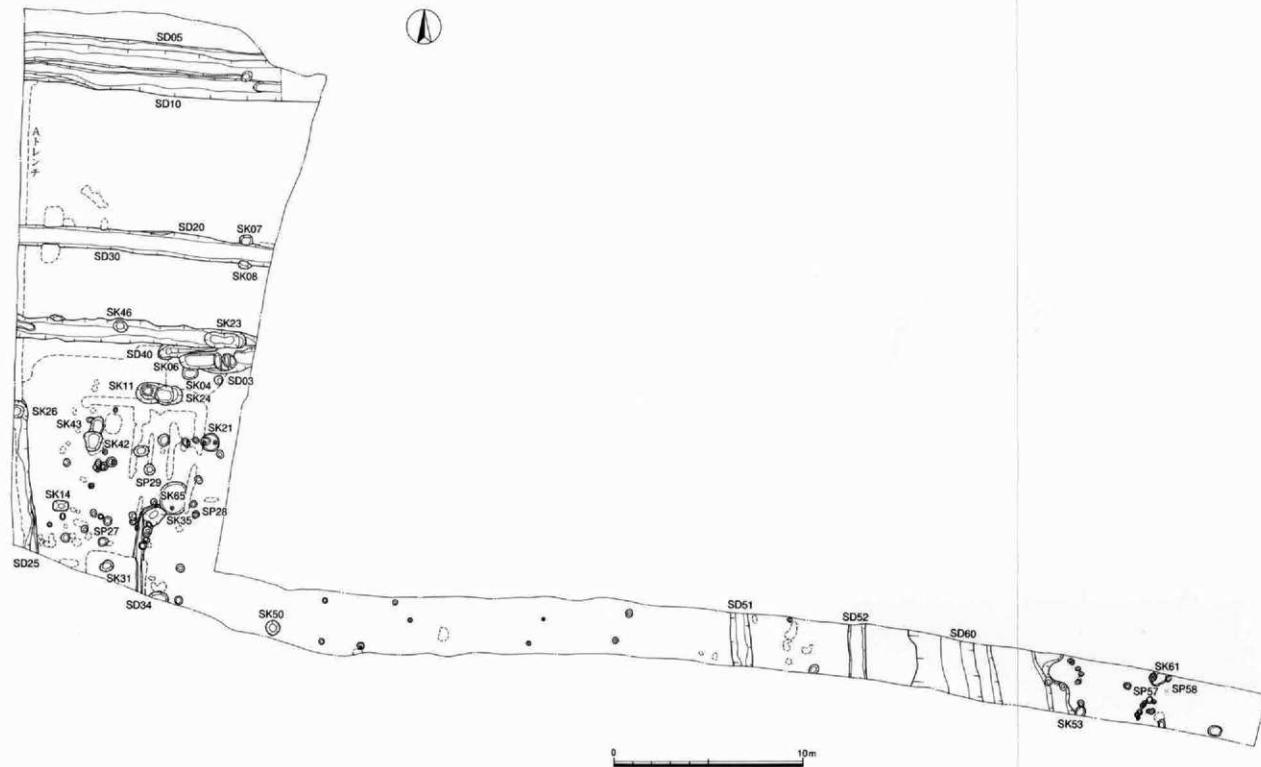


Fig.54 折地長間寺遺跡遺構全体実測図（1/200）

SD05 (Fig.53, Pla.33)

調査区の西側北部で検出した東西溝で、約13.00m分を確認した。溝はSD10に切られ、幅1.43～1.53m、深さ0.54～0.63mを測る。埋土は茶褐色土を基調とし、埋土中からは土師器（土鍋・茶釜・片）、瓦質土器（擂鉢・茶釜）、磁器（皿・碗・瓶・片）、陶器（擂鉢）が出土している。

SD10 (Fig.53, Pla.33)

SD05を切るように検出した東西溝で、約15.60m分を確認した。黄褐色土を基調とする埋土で、幅0.92～1.13m、深さ0.53～0.67mを測る。遺物は土師器（大甕）、磁器（皿・碗・瓶）、陶器（擂鉢）、鉄製品（釘）が出土した。

SD20 (Fig.53, Pla.33)

約13.15m分を検出した東西溝で、途中、SK07・SK08に切られる。黒色土を基調とした埋土で、幅1.07～1.27m、深さ0.43～0.55mを測る。溝の断面は逆台形状を呈する。遺物は須恵器（甕）、土師器（小皿・片）を認めた。

SD25 (Fig.54)

調査区の南西端で検出した南北溝で、埋土は上層から黒色土、灰色土であった。約7.90m分を検出し、深さは0.27mを測る。遺物は黒色土から須恵器（甕）、磁器（皿・碗）、陶器（皿・擂鉢）を認め、灰色土からは土師器（片）、磁器（片）が出土した。

SD30 (Fig.55, Pla.33)

SD20とはほぼ並行にはしる東西溝で、約12.10m分を検出した。埋土は黒色土を基調とし、幅0.92～1.24m、深さ0.41～0.59mを測る。溝の断面はU字状を呈する。遺物は土師器（土鍋・火鉢・甕）、磁器（皿・碗）、陶器（擂鉢）が出土した。

SD34 (Fig.54)

南北溝で、約3.90m分を検出した。埋土は茶色土を基調とし、幅0.30～0.56m、深さ0.10～0.26mと浅く、溝の断面はU字状を呈する。遺物は土師器（土鍋）が僅かに出土した。

SD40 (Fig.54)

SD03とSD30を切るように確認した東西溝で、約5.20m分を検出した。埋土は黒色土を基調とする。遺物は土師器（土鍋・こね鉢・片）、瓦質土器（火鉢）、染付（片）、陶器（鉢）が出土した。

SD51 (Fig.54, Pla.34)

東西方向にのびる調査区のはば中央から検出した南北溝で、約2.80m分を確認した。幅0.95～1.06m、深さ0.16～0.21mを測り、溝の断面はU字状を呈する。埋土は黒色土であった。遺物は土師器（小皿・羽釜・片）、瓦質土器（擂鉢）、青磁（碗）、陶器（甕）が出土した。

SD52 (Fig.54, Pla.34)

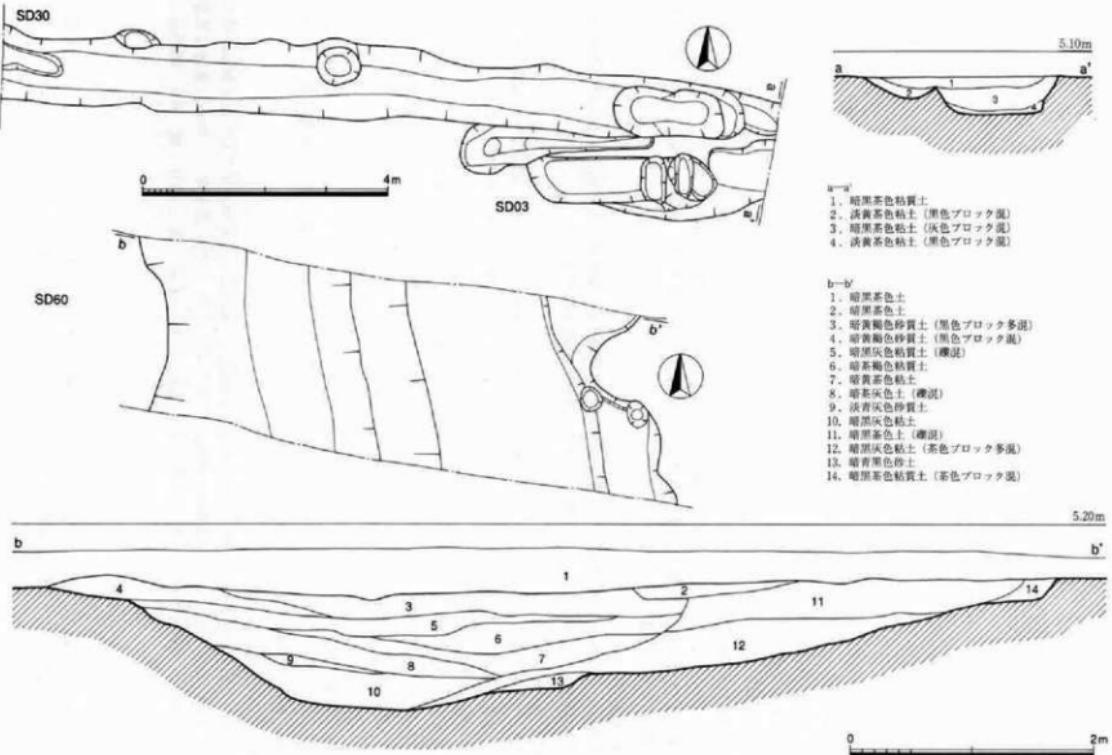
SD51の東側で検出した南北溝で、約2.80m分を確認した。幅0.76～0.83m、深さ約0.10mと浅く、溝の断面はU字状を呈する。埋土は黒色土であった。遺物は土師器（火鉢・片）、磁器（皿）、陶器（擂鉢・瓶・甕）、木製品（漆器片）が出土した。

SD60 (Fig.55, Pla.35)

調査区の東側で検出した南北溝で、約2.80m分を確認し、幅3.92～4.60m、深さ1.33mを測る。溝の断面ははば逆台形状を呈する。当調査区の周辺に存在する旧クリークの一部と考えられる。遺物は須恵器（甕）、土師器（土鍋・擂鉢・火鉢）、瓦質土器（火鉢・羽釜）、青磁（碗）、染付（碗・片）、銅製品（把手）が出土した。

土壤**SK04 (Fig.54)**

調査区西側の中央部で検出した梢円形状の浅い土壤で、SD03・30・40とSK06・23を切る。遺物は土師器（片）、瓦質土器（擂鉢）、磁器（皿・碗）、白磁（皿）、陶器（擂鉢）を出土したが、埋土は灰色土で現代のカクランと考えられる。



SK06 (Fig.56)

SD03、SK04に切られた梢円形状の土壤で黑色土の埋土であった。土師器（壺・片）が出土した。

SK07 (Fig.56)

SD20の東側を切るように検出した円形状の土壤で、幅約0.65m、深さ0.09mを測る。遺物は土師器（片）が出土したが、埋土は灰色土で現代のカクランと考えられる。

SK08 (Fig.54)

SK07に隣接した円形状の土壤で、幅約0.67m、深さ0.21mを測る。遺物は土師器（片）が出土したが、埋土は灰色土で現代のカクランと考えられる。

SK11 (Fig.56, Pla.35)

調査区西側の中央部で検出した隅丸方形状を呈した土壤で、SK24を切る。長軸1.12m、短軸0.24m、深さ0.75～0.80mを測る。埋土は灰色土で、土師器（片）、磁器（碗・片）、陶器（擂鉢）、鉄製品（釘）が出土している。

SK14 (Fig.56)

調査区の南西隅で検出した土壤で、幅0.55～0.77m、深さ0.41mを測る。埋土は茶色土で、土師器（粘土塊・壺）、陶器（擂鉢）、焼石が出土した。

SK21 (Fig.56)

調査区西側の南部で検出した梢円形状の土壤で、底面からは2つの小ビットを認めた。幅約0.88m、深さ0.12mを測り、土師器（壺・片）が出土した。

SK23 (Fig.56, Pla.36)

SD30の東側溝底から検出した隅丸方形状を呈した土壤である。長軸2.16m、短軸0.74m、深さ0.63mを測り、埋土は上層から黒色土→青灰色土へと移行する。陶器（擂鉢）が出土した。

SK24 (Fig.56)

SK11に切られた土壤で全体プランは不明である。埋土は黒色土で、土師器（片）が出土した。

SK26 (Fig.56)

SD25の溝底から検出した梢円形状を呈した土壤で、深さ0.74mを測る。埋土は上層から黒色土→黄褐色土へと移行し、陶器（片）が出土した。

SK31 (Fig.54)

調査区西側の南部から検出した梢円形状の土壤で、幅約0.75mを測る。土師器（片）、磁器（碗・片）、陶器（片）が出土した。

SK35 (Fig.56)

SD34とビットに切られた梢円形状を呈した土壤で、埋土は黒色土であった。幅約0.86m、深さ0.29mを測り、土師器（片）、陶器（片）が出土した。

SK42 (Fig.56, Pla.36)

調査区西側の南部から検出した梢円形状の土壤で、幅約0.90m、深さ0.52mを測る。埋土は茶色土で、土師器（皿）、磁器（片）が出土した。

SK43 (Fig.56, Pla.36)

SK42に切られた土壤で、埋土は茶色土である。幅約0.72m、深さ0.21mを測り、遺物は土師器（片）、磁器（片）が出土している。

SK46 (Fig.54)

SD30の溝底から検出した梢円形状の土壤で、幅約0.71m、深さ0.89mを測る。土師器（片）が僅かに出土している。

SK50 (Fig.56, Pla.37)

調査区の西側南端で検出され、大壺内に遺物が散乱した状態で確認された。遺構は大壺ぎりぎりに掘り込まれた土壤で、径約0.82m、深さ0.33mを測る。土壤は、大壺内に土師器（小皿・土管）、陶器（壺）、瓦（平瓦）、石製品（砥石・硯）、鉄製品（鎌状鉄製品）が一括廃棄されたような状態で出土された。

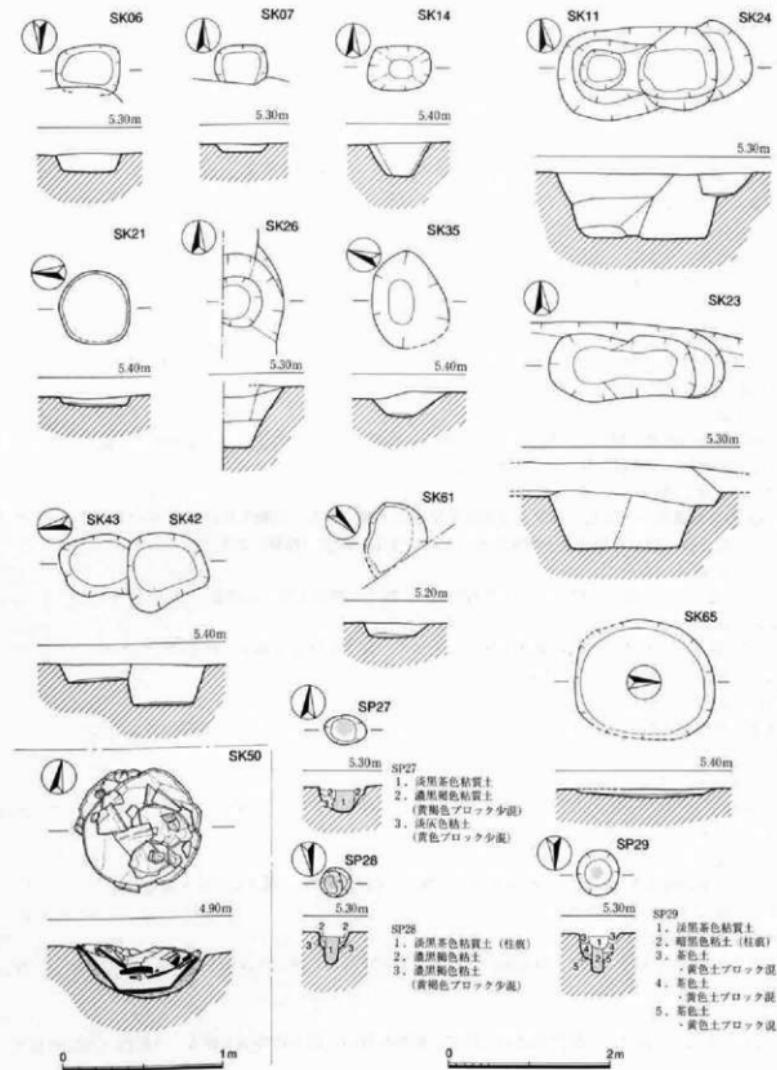


Fig.56 土壌・ピット実測図 (1/30 · 1/60)

SK53 (Fig.54)

調査区東端から検出した楕円形状の土壤でSD60を切る。埋土は黒色土を呈し土器（壺）が出土した。

SK61 (Fig.56)

調査区西端から検出した梢円形状の土壙で、幅約0.80m、深さ0.16mを測る。底部には2つの小ピットを認め、遺物は土師器（片）が僅かに出土した。

SK65 (Fig.56)

SK35に切られた土壙で、幅1.73m、深さ0.10mを測る。埋土は茶色土で、出土遺物は皆無であった。

ピット群 (Pla.37)

調査区の南西からは多数のピットが検出された。ピット群は複数の小規模な掘立柱建物の一部を構成していると思われるが、確実に確認できたものはなかった。このため、ここでは柱痕が確認されたSP27・28・29と遺物が出土したSP57・58について報告する。

SP27 (Fig.56)

梢円形状を呈したピットで、径25cmを測る柱痕が確認された。遺物は土師器（片）が僅かに出土した。

SP28 (Fig.56)

ほぼ円形状を呈したピットで、柱痕は径15cmを測る。遺物は土師器（片）が僅かに出土した。

SP29 (Fig.56)

ほぼ円形状を呈したピットで、柱痕は径13cmを測る。遺物は皆無であった。

SP57 (Fig.54)

調査区の東端で検出した梢円形状のピットで、土師器（坏・片）が出土した。

SP58 (Fig.54)

SK61を切るように検出した円形状のピットで、土師器（片）が出土した。

(3) 出土遺物**SD03 (Fig.62, Pla.41)****石製品**

砥石 (53) 泥岩を石材とし、4面を使用し砥面とする。

SD05・10 (淡茶褐色粘質土層出土) (Fig.57, Pla.38)**青磁**

皿 (1) 底部の細片で、高台径は5.0cmを測る。内面に濃緑色、外面は淡青茶色の釉を施し、見込みは蛇ノ目状に釉を搔き取る。

小壺 (2) 高台径6.2cm、体部径7.8cmを測り、淡青緑色の釉を厚めに施す。

SD05 (黒茶色粘土層出土) (Fig.57, Pla.38)**染付**

水滴 (3) 上面間に径6mmの水注孔を施し、中心部にも穿孔を認める。器高3.3cmを測り、中心部の穿孔を中心として6×11cmを復原する。型押成形で、上面に草花文を描く。

SD10 (黄黒色粘土層出土) (Fig.57, Pla.38)**瓦質土器**

火鉢 (4) 口径30.0cm、底径22.8cm、器高9.0cmを復原する。口縁部は内面に突出しており、調整は内面と口縁部外側がヨコナデ、体部外面上位がナデ、下位は刷毛目、底面はナデを施す。

磁器

碗 (5) 高台径5.1cmを測り、茶褐色の釉を施す。見込みは蛇ノ目状に搔き取り、高台部は露胎である。

大皿 (6) 底部の細片で、高台径は9.0cmを測る。明黄褐色の釉を施し、見込みは蛇ノ目状に釉を搔き取る。壘付けから高台内は露胎である。

染付

皿 (7) 口径13.0cm、高台径5.0cm、器高4.0cmを復原し、内面には区画した文様を具須で描く。見込みは蛇ノ目状に釉を搔き取り、壘付けは露胎である。

碗 (8) 破片で、高台径は4.4cmを測り、外面には具須で草花文を施している。壘付けには重ね焼の目跡を認める。

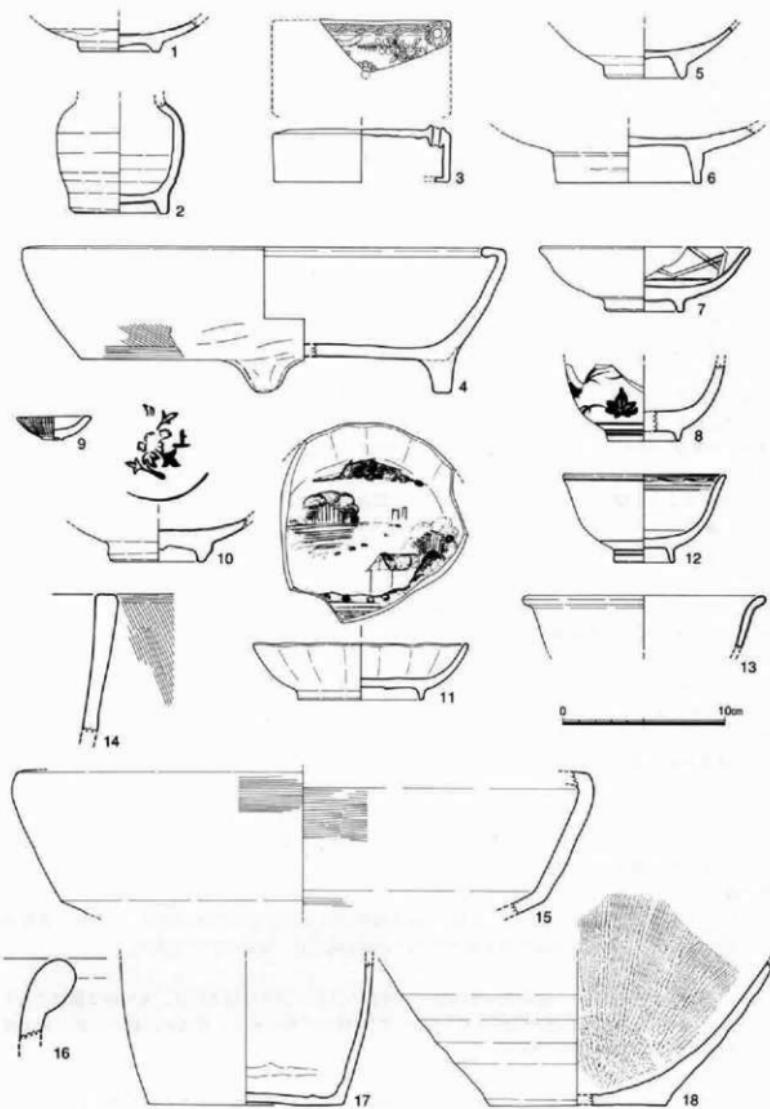


Fig.57 SD05 · 10 · 30 · 51 · 52出土土器実測図 (1/3)

SD30 (Fig.57, Pla.38)

磁器

紅皿 (9) 口径4.6cm、底径1.2cm、器高1.4cmを測る。白色の胎土に淡青灰色の釉を内面及び口縁部外面に施す。

青磁

碗 (10) 高台径6.3cmを測り、見込みにスタンプを施す。釉は青緑色の透明釉を全体に厚く施し、高台内は釉を搔き取る。

染付

皿 (11) 輪花で口径13.2cm、高台径7.8cm、器高3.5cmを復原する。全面に乳白色の釉を施し、高台内は蛇目状に釉を搔き取る。見込みには家屋、樹木、山、土坡などの文様を具須で描く。

湯呑み (12) 口径10.0cm、高台径3.8cm、器高5.5cmを復原する。内面の雷文と外面の帶線は具須による手描きで、外面体部には型紙刷りによると思われる菊花文(図示省略)が施される。

SD51 (Fig.57)

青磁

碗 (13) 口径15.0cmを測る口縁部の細片である。口縁部はやや外反し、青緑色の透明釉を施す。

SD52 (Fig.57, Pla.39)

瓦質土器

鉢 (14・15) 14は素口縁で、外面は斜め方向の刷毛目で、その他は磨耗のため不明である。15は最大径36.0cmを復原し、口縁部は内面突出のタイプと考えられる。

備前焼

壺 (16・17) 16は口縁部の細片で、口縁端部を外に折り曲げて丸い帯状突起とした玉縁口縁である。17は底部の破片で、底径12.0cmを測る。

陶器

捕鉢 (18) 底径11.0cmを復原し、8本単位のすり目を施す。底部は糸切り。

SD60 (第8・9層出土) (Fig.58, Pla.39)

須恵器

壺 (19) 肩部の細片で、肩部外面には平行叩き文を施す。常滑焼か。

土師器

土鍋 (20・21) 20は玉縁口縁、21は素口縁を呈する。21の外面には煤が付着する。

瓦質土器

茶釜 (22) 口径15.0cm、鉢径30.4cmを復原し、体部内面は箱形を呈する。鉢下面から体部下位にかけては煤が厚く付着する。

青磁

碗 (23) 口径14.0cmを復原し、外面にはヘラ先による細線連弁文を施す。連弁文は刺頭が連弁としての単位を意識しないで施されている。釉は青緑色で細かい貫入がみられる。

染付

碗 (24) 底部の細片で、高台径4.5cmを復原する。見込みには人物などの文様を具須で描き、外底部には銘が施されている。

SD60 (第10層出土) (Fig.58, Pla.39)

瓦質土器

茶釜 (25・26) 25は肩部の細片で、外面には菊花文などの印刻文を押印する。26は口径15.6cmを復原し、肩部には6の穿孔を施す。肩部外面には渦文の印刻文を施す。

青磁

碗 (27) 高台径5.5cmを測り、見込みには「福」の印刻を施す。青緑色の釉を全面に施し、高台内は蛇目状に釉を搔き取る。

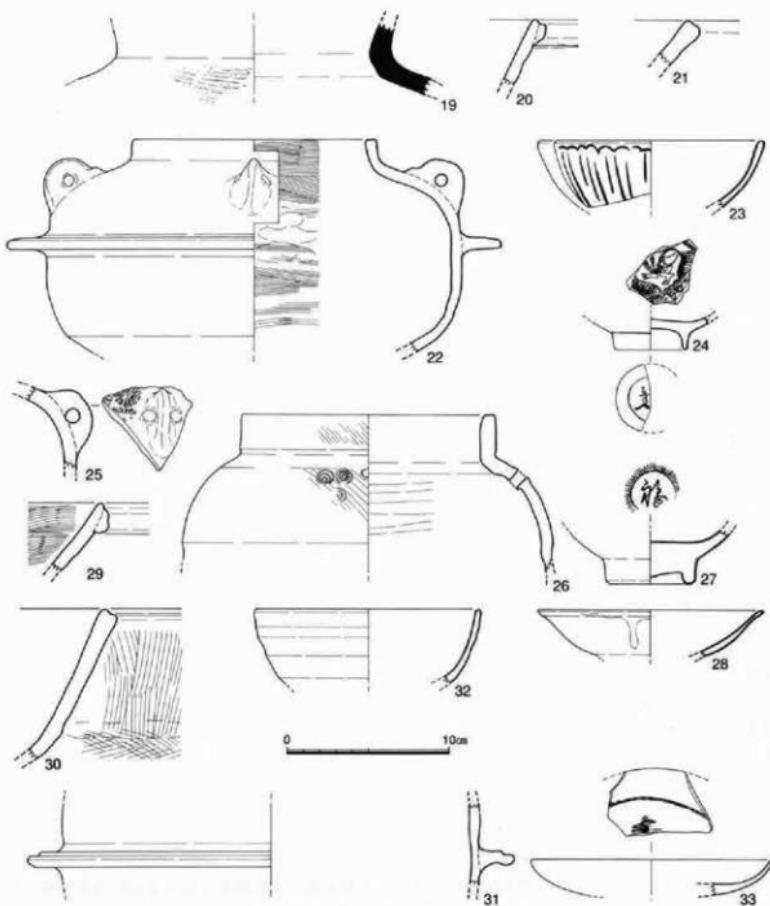


Fig.58 SD60 出土土器実測図 (1/3)

磁器

Ⅲ (28) 口径14.0cmを復原する。淡緑色の透明釉を施し、外面の一部に釉ダレを認める。

SD60 (第11～14層出土) (Fig.58, Pla.39)

土器

土鍋 (29・30) 29は玉縁口縁、30は素口縁を呈し、供に外面には煤が付着する。

瓦質土器

茶釜 (31) 鍋は「S」字状に屈曲し、鍋径30.0cmを復原する。

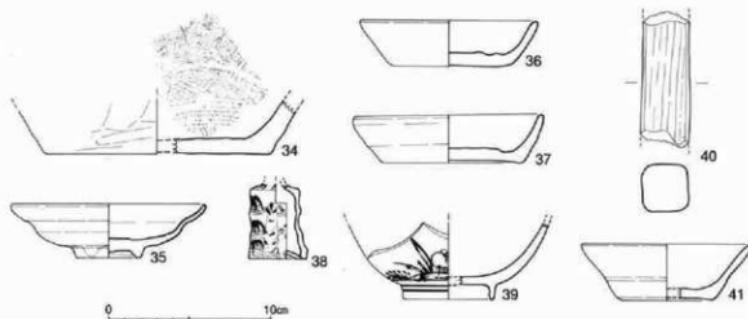


Fig.59 SK04・21・31・46・53出土土器実測図 (1/3)

青磁

碗 (32) 口径14.0cmを復原し、青緑色の透明釉を施す。朝鮮系か。

染付

皿 (33) 口径15.0cmを復原する。見込みには呉須で文様を描く。

銅製品 (Fig.62, Pla.41)

把手 (58) 完形で、径は5 前後を測る。茶釜などの把手か。

SK04 (Fig.59, Pla.40)

瓦質土器

擂鉢 (34) 底径14.0cmを復原し、6本単位のすり目を内面の体部、底部に施す。

青磁

皿 (35) 口径12.0cm、高台径4.0cm、器高3.4cmを復原し、体部から口縁部にかけては「S」字状に湾曲する。灰緑色の釉を内面、口縁部外面、体部外面に施釉する。高台の一部に釉ダレが認められ、見込みは蛇ノ目状に搔き取る。

SK21 (Fig.59, Pla.40)

土師器

壺 (36・37) 共に糸切りではほぼ完形である。36は口径11.0cm、底径7.3cm、器高2.85cmを測り、37は口径11.8cm、底径8.7cm、器高3.0cmを測る。

SK31 (Fig.59, Pla.40)

磁器

花瓶 (38) 花瓶のミニチュアと思われ、底径3.6cmを測る。型押し成形で、白地に赤・緑・黒色の彩色で竹文を描く。

染付

碗 (39) 底部の細片で、高台径は5.6cmを測る。外面には草花文を呉須で描き、見込みには4ヶ所の針支えを認める。

SK46 (Fig.59)

土師器

柱状土製品 (40) 断面は隅丸方形状を呈し、表面はすべて刷毛目調整が施される。この内の1面には二次焼成痕が看取られる。厚さは3.0cmを復原する。

SK50 (Fig.60, Pla.40・41)

土師器

小皿 (42) 糸切りで、口径7.6cm、底径3.9cm、器高1.6cmを復原する。

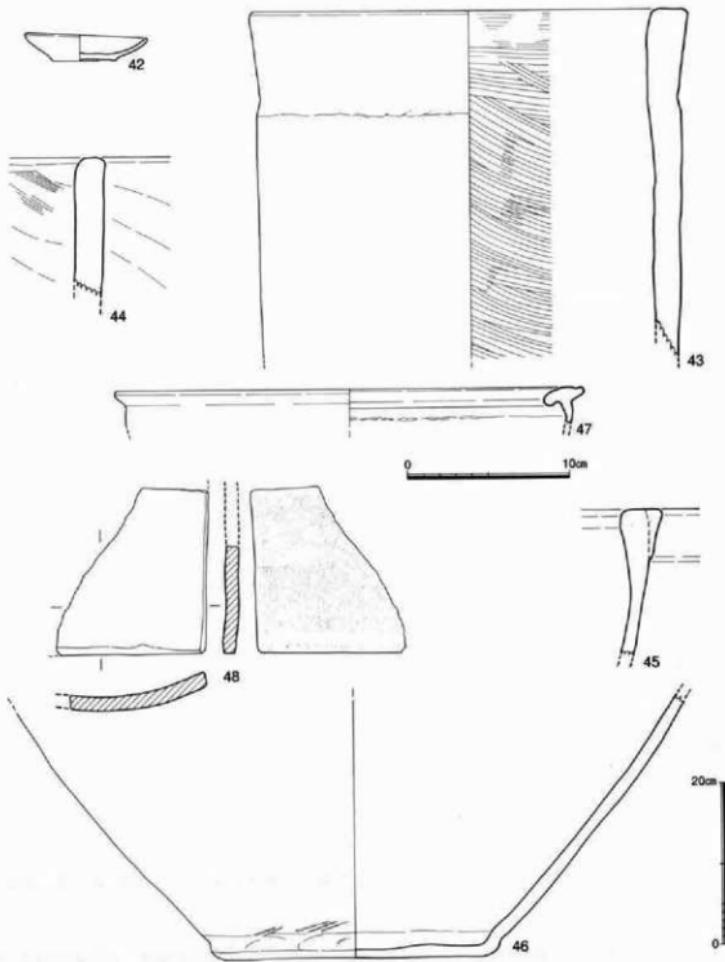


Fig.60 SK50出土土器実測図 (1/3・1/6)

土管(43) 口径37.0cmを測る。内面は刷毛目、口縁端部はヨコナデ、外面はナデ調整を施し、体部上位の一部は僅かに凹面を認める。

大甕(44～46) 44は口縁部の細片で、口径80cm前後、器厚は1.8cm前後を測る。口縁部はほぼ直立し、外面には煤が付着する。45は口縁部外面に厚い貼付突帯を施し、口縁端部に面を呈する。口径は100cm前後を復原するものと思われる。46は45と同一個体と考えられ、底径35.2cmを測る。

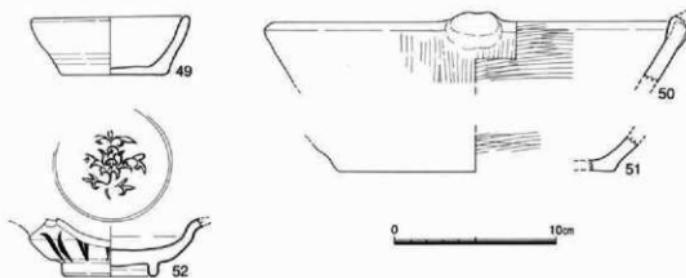


Fig. 61 その他の出土土器実測図 (1/3)

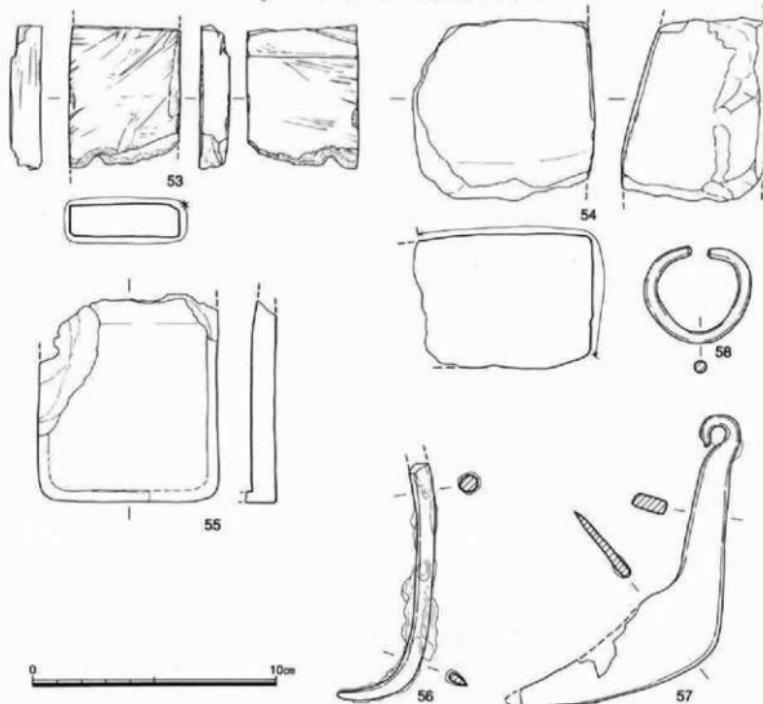


Fig. 62 石製品・鉄製品・銅製品実測図 (1/2)

陶器

甕 (47) 口縁部は「T」字状を呈し、口径29.0cmを復原する。

瓦

平瓦 (48) 側面は削りによる面取りを施し、表面はナデ、裏面は刷毛目調整を施す。色調は淡赤褐色

で、胎土は細砂粒、角閃石を多く含む。

石製品 (Fig.62、Pla.41)

砥石 (54) 石材は砂岩製で、2面を砥面とする。

硯 (55) を石材とする隅丸方形状を呈する方形硯である。硯頭部は欠損し、底面部は僅かに使用痕を認める。墨書の痕跡はない。

鉄製品 (Fig.62、Pla.41)

鎌状鉄製品 (56・57) 56は緩やかにカーブした内側に刃部を造る。57は鎌に類似した形状をなし、端部に鈎状のフックを造り出している。何れも製品であるが使用の用途が不明であったため、ここでは鎌状鉄製品とした。

SK53 (Fig.59)

土師器

坏 (41) 糸切りで、口径10.6cm、底径5.7cm、器高3.5cmを復原する。

SP57 (Fig.61、Pla.41)

土師器

坏 (49) 糸切りで、口径9.8cm、底径6.5cm、器高3.6cmを測る。

SP58 (Fig.61)

瓦質土器

鉢 (50・51) 50・51は同一個体と考えられる。50は口縁部に粘土貼付による把手らしき部分を認め、口径26.0cmを復原する。51は底径17.0cmを復原する。

Aトレンチ (Fig.61、Pla.41)

青磁

皿 (52) 高台径5.9cmを復原し、口縁部は「S」字状に外反するものと思われる。見込みには花文の印刻、外面には連弁を施す。内外面に明青緑色の釉を施すが、高台内は露胎である。

(4) 小結

出土した遺物から中世～近世にかけての複合遺跡であることがわかった。主要な遺構や遺物について概観する。

・溝について

調査区から検出された遺構で主体となる溝は、SD05・10・20・25・30・51・52・60が挙げられる。

SD05・10・20・25・30・51・52は遺物の出土傾向から概ね近世に比定される。更に、SD60は中世～近世にかけての埋没課程があったものと考えられよう。

ここで、注目されるのは一連の溝の性格である。当遺跡は本稿に記載した「水田正吹遺跡（調査区E）」と「水田伊勢ノ脇遺跡」の付近にあたり、各遺跡からは多くの区画溝が確認されている。更に、当地一帯は中世に画期となる水田莊の領内でもあった。よって、今回検出した溝のすべてが区画溝に該当するとは言い難いが、可能性は捨てきれない。

・SK50について

次に大甕内にあたかも一括廃棄されたように確認されたSK50からは、土師器（小皿・土管）、陶器（甕）、瓦（平瓦）、石製品（砥石・硯）、鉄製品（鎌状鉄製品）など様々な遺物が出土した。先に述べたように、検出状況からは一括廃棄された可能性は高く、そうであれば出土した遺物は一括資料として捉えることができる。

・柱状土製品について

柱状土製品は当遺跡（SK46出土Fig.59—40）の他に、「水田正吹遺跡（調査区B SK048出土Fig.19—58）」からも出土している。柱状土製品については徳永貞紹氏が「『中近世土器の基礎研究』」佐賀平野の瓦器碗にみる中世土器生産の一様相—日本中世土器研究会1996—」の中で触れており、多くの出土類例が報告されている。この中で徳永氏は、柱状土製品について厚さ5cm前後、断面が方形ないし多角形を示し、僅かに反って両端がすぼまり、長さは30cm前後を推定するとある。更に、具体的な用途について

は横に据えた上に製品を積み重ねる焼き台のような窯道具ではないかと指摘している。当遺跡及び水田正吹遺跡から出土した柱状土製品を文献資料と比較してみると、何れも断面が方形状を呈するが厚さが2.6～3.0cmとやや小ぶりである。柱状土製品が出土した各遺跡付近において、当該期における窯跡の存在については明らかにされておらず、現段階においては窯道具であるのか、他の用途として用いた道具であったのかは特定できないが、今後注目される資料として挙げられよう。

【単位はcm。○は復原物】

Fig.-No.	遺 情	名 称	器 形	口 径	底 径	器 高	刷 織	厚 さ	切離し区分		備 考
									ヘラ	高	
57-01	SD05-10(淡茶褐色粘土層)	青磁	皿			5.0			+	+	
57-02	SD05-10(淡茶褐色粘土層)	青磁	小碟			6.2			+	+	
57-03	SD05(黒茶褐色粘土層)	樂付	水滴					3.3	+	+	
57-04	SD10(黄黒色粘土層)	瓦質土器	火鉢	○ 30.0	○ 22.8	9.9			+	+	
57-05	SD10(黄黒色粘土層)	磁器	碗			5.1			+	+	
57-06	SD10(黄黒色粘土層)	磁器	大皿			9.0			+	+	
57-07	SD10(黄黒色粘土層)	樂付	皿	○ 13.0	○ 5.0	4.0			+	+	
57-08	SD10(黄黒色粘土層)	樂付	碗		○ 4.4				+	+	
57-09	SD39	陶器	花瓶			4.6	1.2	1.4	+	+	
57-10	SD39	青磁	碗			6.3			+	+	
57-11	SD39	樂付	皿	○ 13.2	○ 7.8	3.5			+	+	輪花
57-12	SD39	樂付	圓香み	○ 10.0	○ 3.8	5.5			+	+	
57-13	SD51	青磁	碗	○ 15.0							上田:B合D
57-14	SD52	瓦質土器	鉢								山村:E?
57-15	SD52	瓦質土器	鉢					○ 36.0			
57-16	SD52	備前焼	甕								開壁:+,期
57-17	SD52	備前焼	甕			12.0					開壁:+,期
57-18	SD52	備前焼	種鉢		○ 11.0						すり日8本單位
58-19	SD60(8~9層)	頬迫器	壺								
58-20	SD60(8~9層)	土師器	土鍋								山村:Ea
58-21	SD60(8~9層)	土師器	土鍋								山村:Eb
58-22	SD60(8~9層)	瓦質土器	茶釜	○ 15.0				○ 30.4			山村:A
58-23	SD60(8~9層)	青磁	碗	○ 14.0							上田:B-,
58-24	SD60(8~9層)	樂付	碗		○ 4.5						外底部に露あり
58-25	SD60(10層)	瓦質土器	茶釜								
58-26	SD60(10層)	瓦質土器	茶釜	○ 15.6							山村:B?
58-27	SD60(10層)	青磁	碗			5.5					上田:E,見込みに「福」
58-28	SD60(10層)	磁器	皿	○ 14.0							
58-29	SD60(11~14層)	土師器	土鍋								山村:Ea
58-30	SD60(11~14層)	瓦質土器	土鍋								山村:Eb
58-31	SD60(11~14層)	瓦質土器	茶釜					○ 30.0			
58-32	SD60(11~14層)	青磁	碗	○ 14.0							
58-33	SD60(11~14層)	樂付	皿	○ 15.0							
59-34	SK04	瓦質土器	種鉢			○ 14.0					すり日8本單位
59-35	SK05	青磁	高台付皿	○ 12.0	○ 4.0	3.4					
59-36	SK21	土師器	甕	11.0	7.3	2.85					
59-37	SK21	土師器	甕	11.8	8.7	3.0					
59-38	SK31	磁器	花瓶			3.6					ミニチュア
59-39	SK31	樂付	碗		○ 5.5						
59-40	SK46	土師器	柱状土製品						○ 3.0		二次焼成あり
59-41	SK53	土師器	甕	○ 10.6	○ 5.7	3.5				○	
60-42	SK50	土師器	小皿	○ 7.6	3.9	1.6				○	
60-43	SK50	土師器	土管	○ 37.0							外面漆付着
60-44	SK50	土師器	大甕								
60-45	SK50	土師器	大甕								
60-46	SK50	土師器	大甕			35.2					
60-47	SK50	陶器	甕	○ 29.0							
60-48	SK50	瓦	平瓦?								
61-49	SP57	土師器	甕	9.8	6.5	3.6				○	
61-50	SP58	瓦質土器	鉢	○ 26.0							
61-51	SP58	瓦質土器	鉢			○ 17.0					
61-52	Aトレンチ	青磁	皿			5.9					
62-53	SD03	石製品	砾石								泥岩
62-54	SK50	石製品	砾石								砂岩
62-55	SK50	石製品	礫								
62-56	SK50	鉄製品	不明								
62-57	SK50	鉄製品	不明								
62-58	SD60(11~14層)	綿製品	把手								

Tab.8 折地長間寺遺跡出土遺物一覧表

【註】

本表に記載した分類は、下記の文献によっている。

《中世神器》 山内修榮 「太宰府出土の瓦質土器」 『中近世土器の基礎研究』 1990

《青磁》 上田秀夫 「14~16世紀の青磁瓶の分類について」 『貿易陶磁研究』2 1982

《備前焼》 間堀忠彦 「備前焼」 『考古学ライブリーリー60』 平成3年

7. 井田堀越遺跡の調査

(1) はじめに (Fig.63)

当遺跡は、筑後市大字井田字堀越に所在する。一帯は縱横無尽にはしるクリークに囲まれた水田地帯で、標高3.8m位の低湿地上にある。調査は、平成9年度に施工された農地整備事業支線用排水路設置範囲において遺跡を確認した1,930m²を実施した。調査期間は平成9年11月13日から平成10年1月27日までで、この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行った。調査区からは主に溝5条を検出した。本調査は小林勇作・柴田剛が担当し、末吉隆弥の協力を得た。



Fig.63 井田堀越遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

(2) 遺構

SD01 (Fig.64)

調査区の西端で西—南方向の溝を32.30m分を検出し、平面プランはL字状を呈する。途中、屈曲した部分はSD10と接し、SD10がSD01に切られる。幅0.90～2.25m、深さ0.10～0.16mと削平を受けているらしく、埋土中からは弥生土器（片）、土師器（片）を多く出土した。

SD05 (Fig.65)

調査区の西側で検出した南北溝で、7.90m分を確認した。幅0.75～1.40m、深さ0.05～0.08mとかなり

の削平を受けている。遺物は土師器（小皿・片）が僅かに出土した。

SD10 (Fig.67, Pla.45)

東一北方向の溝で102.5m分を検出し、溝の幅は1.30～3.30mを測る。溝の深さはSD15に対面した部分（SD10—スクリントーン）が1.0～1.2mと深く、断面は逆台形状を呈する。更に、これより東方面にかけては0.3～0.4mと浅く、断面はU字状を呈する。出土遺物は土師器（小皿・杯・粘土塊・片）、青磁（碗・片）、白磁（片）、木製品（木鏺・柄）を認めた。

SD15 (Fig.68, Pla.44)

SD10と接する東一北方向の溝で24.0m分を検出した。検出時においてSD10との切り合いは不明確であったが、調査では便宜上SD15とした。幅1.00～2.30m、深さ0.27～0.35mを測り、断面はほぼU字状を呈する。埋土中からは僅かに土師器（小皿・片）を出土した。

(3) 出土遺物

SD10 (Fig.69, Pla.46)

弥生土器

甕（1） 底部のみの細片で、底径7.4cmを復原する。内面はナデで指頭圧痕を認め、外面の調整は不明。

土師器

小皿（2・3） 2・3は糸切りと思われる。2は口径8.8cm、底径6.6cm、器高2.0cmを復原し、3は口径9.0cm、底径7.0cm、器高1.7cmを復原する。

杯（4） 底部は糸切りで、口径14.3cm、底径11.0cm、器高2.7cmを復原する。

青磁

碗（5・6） 共に龍泉窯系青磁である。5は口縁部の細片で、外面に鎬蓮弁が施される。6は底部の細片で、底径5.0cmを復元する。外面には鎬蓮弁が施されているものと思われ、外底は露胎である。

木製品 (Fig.70, Pla.46)

木鏺（7） 芯持ち丸木材の両端部を切断し、軸部は低い円錐形に削り込む。全長15.4cm、両端の円柱部径5.3～5.5cm、軸部径3.9cmを測る。加工は粗く工具痕をダイナミックに残し、一部の欠損を認めるが保存状態は良好である。

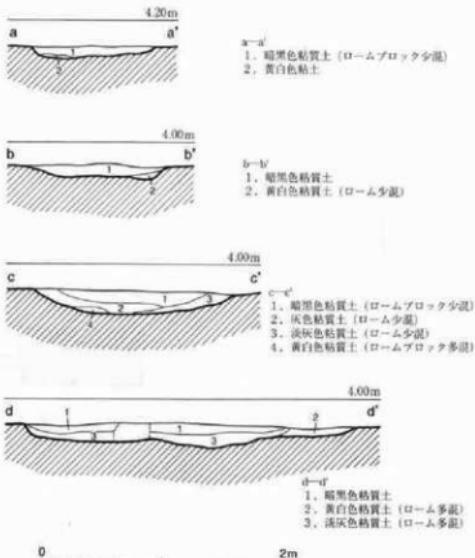


Fig. 64 SD01 土層断面実測図 (1/40)

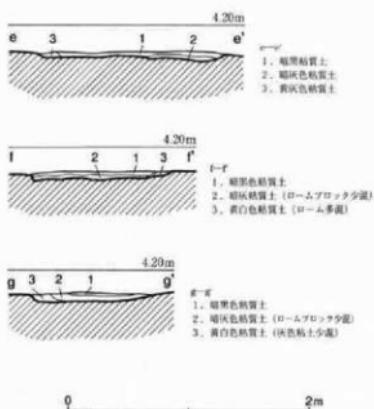


Fig. 65 SD05 土層断面実測図 (1/40)

Ⓐ

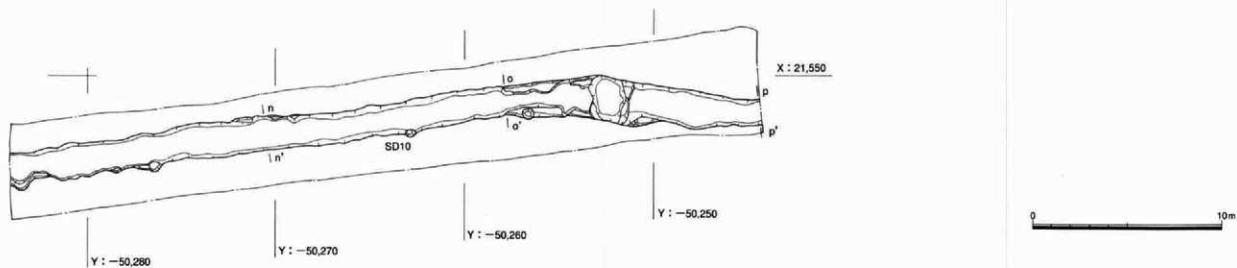
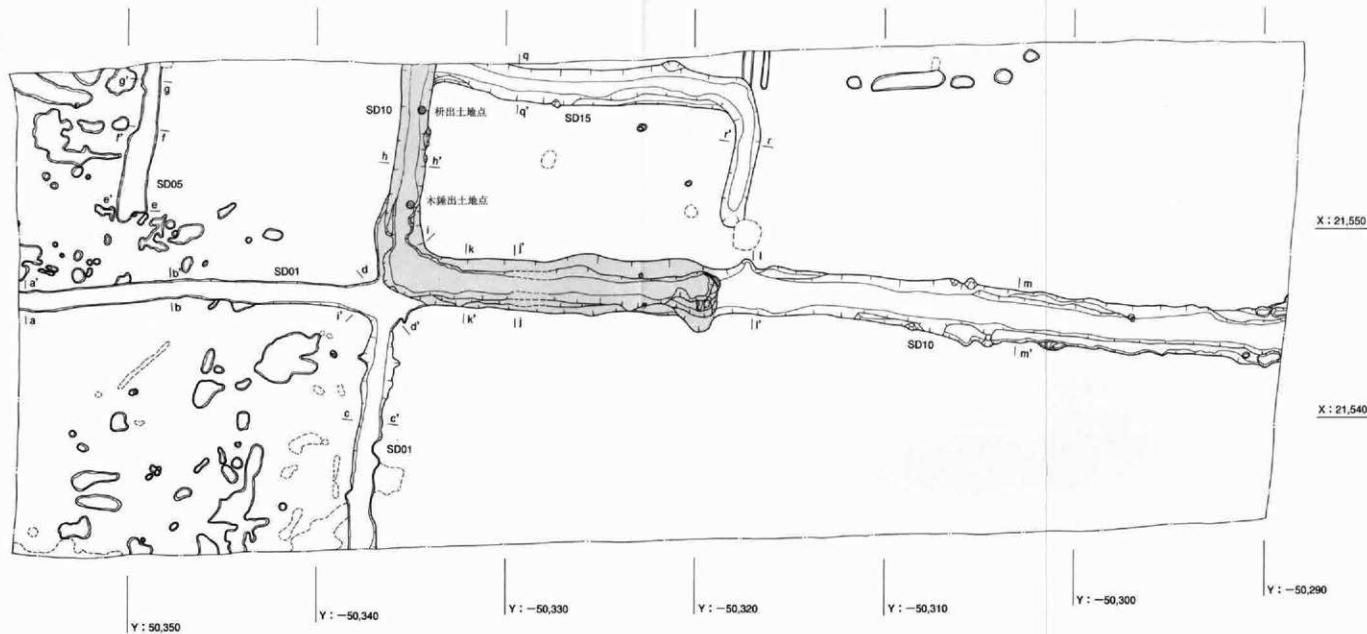
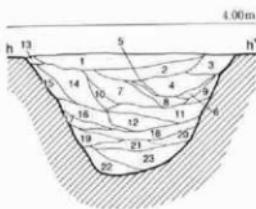
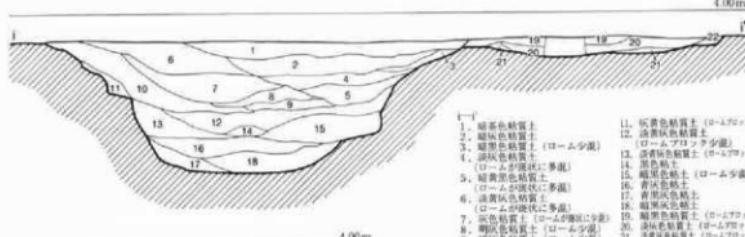


Fig. 66 井田堀越遺跡遺構全体実測図 (1/200)

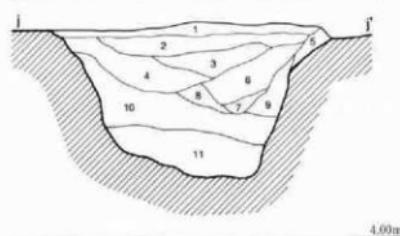


13. 淡灰褐色粘質土
14. 黃褐色粘質土 (ローム少泥)
15. 黃褐色粘質土 (ローム少泥)
16. 褐色粘質土
17. 黃褐色粘質土
18. 黃褐色粘質土
19. 黑褐色粘質土
20. 黄褐色粘質土
21. 明灰色粘土
22. 黃褐色粘土
23. 青灰色粘土

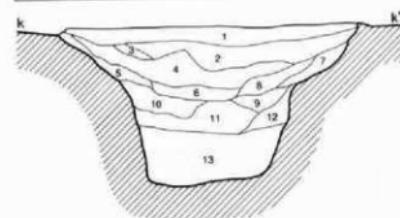
井田地区地図



1. 細葉褐色粘質土
2. 褐色粘質土
3. 淡灰褐色粘質土 (ローム少泥)
4. 黑褐色粘土
5. 淡灰褐色粘質土 (ローム少泥)
6. 黃褐色粘質土 (ローム少泥)
7. 淡灰褐色粘土 (ローム少泥)
8. 淡灰褐色粘土 (ローム少泥)
9. 淡灰褐色粘土 (ローム少泥)
10. 淡灰褐色粘土 (ローム少泥)
11. 淡灰褐色粘土 (ローム少泥)
12. 淡灰褐色粘土 (ローム少泥)
13. 黄褐色粘土
14. 黄褐色粘土
15. 黄褐色粘土
16. 黄褐色粘土
17. 黄褐色粘土
18. 黄褐色粘土
19. 黄褐色粘土
20. 黄褐色粘土
21. 黄褐色粘土
22. 黄褐色粘土
23. 黄褐色粘土



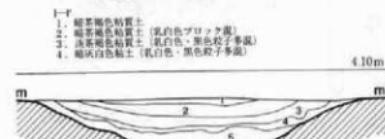
1. 細葉褐色粘質土
2. 淡灰褐色粘質土 (ロームブロック)
3. 淡灰褐色粘質土 (ロームブロック少泥)
4. 淡灰褐色粘質土 (ロームブロック少泥)
5. 淡灰褐色粘質土
6. 淡灰褐色粘質土 (ロームブロック)
7. 淡灰褐色粘質土 (ロームブロック少泥)
8. 淡灰褐色粘質土
9. 淡灰褐色粘質土
10. 淡灰褐色粘土
11. 淡灰褐色粘土 (青灰色粘土少泥)



1. 淡灰褐色粘質土
2. 淡灰褐色粘質土 (ロームブロック)
3. 淡灰褐色粘質土
4. 細葉褐色粘質土 (ロームブロック)
5. 細葉褐色粘質土 (ロームブロック)
6. 淡灰褐色粘質土 (ロームブロック)
7. 淡灰褐色粘質土 (ロームブロック少泥)
8. 淡灰褐色粘質土
9. 淡灰褐色粘質土
10. 淡灰褐色粘土
11. 淡灰褐色粘土
12. 淡灰褐色粘土 (ロームブロック少泥)
13. 淡灰褐色粘土 (青灰色粘土少泥)



1. 淡灰褐色粘質土
2. 淡灰褐色粘質土 (青灰色粘土少泥)
3. 淡灰褐色粘土



1. 淡灰褐色粘質土
2. 淡灰褐色粘質土 (乳白色)
3. 淡灰褐色粘土

1. 淡灰褐色粘質土 (乳白色)
2. 淡灰褐色粘質土 (乳白色)
3. 淡灰褐色粘土 (乳白色)

Fig.67 SD10 土層断面

実測図 (1/40)

橋 (8) 1枚の側板で、一部の欠損を認めるが保存状態は良好である。橋は側板の形状から、1ヶ所の切り込みのある相欠き扉の側板を組み、木釘で固定しているものと考えられる。側板及び木釘の材質は不明で、側板の法量は一辺が16.5cmで、内々が14.8cm、高さは5.5cmを測る。これにより橋の容量は1,095.2cm³と予測される。これを一般的に標準化されている京橋(1,803.9cm³)に換算すると0.607升の数値が与えられる計算となる。

SD15 (Fig.71)

土器

杯 (9・10) 共に磨耗のため調整不明。9は底径8.0cm、10は底径10.0cmを復原する。

(4) 小結

今回の調査で確認された主な遺構は、大半が溝であった。ここでは、検出された溝と出土遺物について概観することで小結としたい。

・溝について

検出された溝で主要なものは、SD01・10・15があげられる。

SD01は調査区の南西部から検出した鉤状に屈曲した溝（屈曲した部分はSD10に切られるように検出さ

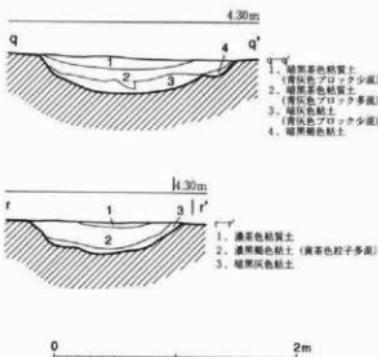


Fig. 68 SD15 土層断面実測図 (1/40)

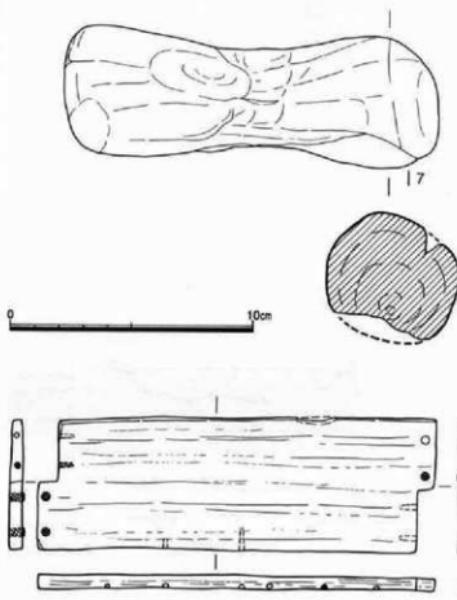


Fig. 70 SD10 出土木製品実測図 (1/2)

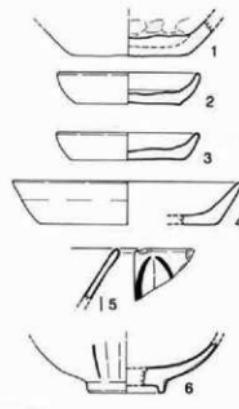


Fig. 69 SD10 出土土器実測図 (1/3)

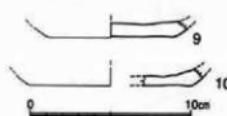


Fig. 71 SD15 出土土器実測図 (1/3)

れたと先述したが、検出時においてはSD10との埋土が類似しており、現段階では切り合いは不明である。)で比較的浅いものであった。出土遺物からは概ね中世に比定され、近世までは下らないものと思われる。

SD10は調査区の中央部を東西方向に延びる溝で、溝の西部は北方向へ屈曲する。溝の北端はSD15と接し、切り合いは不明であった。

さて、SD10は極端に深くなっている西側部分（深さ1.0～1.2m）と浅くなっている東側部分（0.3～0.4m）で深さが明らかに異なっていた。先述したとおり、西側の深い溝はSD15の対面にあたる部分で、意図的に深く掘られた可能性を示すものである。これにより、SD10西側部とSD15によって区画されたエリアには何らかの土地利用があった可能性が考えられるが、残念ながら調査ではこれを示す手がかりは得ることができなかった。

・木製品について

次にSD10から出土した木製品について概観する前に、注目される点について挙げる。

各地の発掘調査において木製品を出土することは希で、報告事例からはたいていの場合、低湿地化した土壤中において出土するケースが多いようである。これは、低湿地化した土壤によって資料がパックされた状態になり、これが直接外気とふれない環境をつくり出していることにより、資料の保存状態を良好に保っていることと考えられる。勿論、これだけの理由だけとは限らないが、筑後市内から出土した木製品の出土状況をみても、上記の環境下において確認されることがほとんどである。

今回調査した場所は標高3.8m位の低湿地上で、検出したSD10西側部分からは木鍤・枡の2点の木製品を出土することができた。何れも保存状態が良好で、加工痕などを顕著に看取できる資料であった。

さて、木鍤については福岡県内及び近隣において多くの出土類例が報告されているが、枡については出土類例が少ないようである。

そこで、今回出土した枡について、宮本佐知子氏（財団法人 大阪市文化財協会）にご教示を賜ったので紹介する。

() 内は復原値

遺跡名	所在地	年代	材質	容量 (ml)	京枡換算値(枡)	備考
平城宮跡-4	奈良県奈良市	7世紀後半	須恵器			墨書き「一升一合」
平城宮跡-5	奈良県奈良市	8世紀	木質			
平城宮跡-6	奈良県奈良市	8世紀	須恵器			墨書き「九合三勺」
平城宮跡-7	奈良県奈良市	8世紀中頃	須恵器	252	0.45	墨書き「三合二勺」
秋田城跡	秋田県秋田市	8世紀中頃	木質	約700	0.388	
上能屋遺跡	石川県金沢市	8世紀後半	須恵器			墨書き「四合九勺」
平城宮跡-7	奈良県奈良市	8世紀後半	須恵器			墨書き「五合」
平城宮跡-3	奈良県奈良市	8世紀後半	須恵器	212	0.47	墨書き「二合半」
平城宮跡-2	奈良県奈良市	9世紀後半	木質 (杉小樽)	691.2	0.383	
平城宮跡-4	奈良県奈良市	11～12世紀	木質	1015.85	0.563	
唐古・鍛造跡	奈良県大和郡山市	12世紀後半	木質	2178.66	1.21	
高見の里六丁目遺跡	大阪府大阪市	12世紀後半	木質	2178.3	1.2075	
平城宮跡-3	京都府京都市	13世紀	木質	(3136)	0.5796	
觀底町遺跡	神奈川県藤沢市	14世紀	木質 (杉)	2719.8	1.508	
北古墳遺跡	福島県利根郡長沼町	15～16世紀	木質	4512.5	2.5	
初田遺跡	兵庫県多紀郡丹南町	15～16世紀	木質 (杉)	(1729)	0.964	
井田塙遺跡	福岡県福岡市	中世	木質	1095.2	0.607	

Tab.9 枠出土の遺跡地名一覧表

[注]

本表は「宮本佐知子 きし・ます・はかりー考古学による日本歴史と交易 雄山閣」に記載されている表3を抜粋し、一部改編した。

宮本氏によると、「耕については出土例が少なく、また、充分に調べられていないため何合になるのかは困難である。耕の種類も、京耕の単位に合わせてみると近いのは六合であるが、明治の資料からは六合合耕の存在は明らかではなく、七合耕であれば少量であるとのことである。また、耕は穀物を計量するときに使用されたことは充分考えられ、使用者（耕作者か、耕作させていた側）によっても大きさが異なる」と指摘されている。

これにより、今回出土した耕について簡単にまとめると以下のとおりである。

- ・耕が出土したSD10が概ね中世に比定されることで、耕に与えられる時期は、現段階において当該期を想定している。

- ・耕の計量値は時代によって単位が変化していることや出土例が少ないとことから、現段階においての換算は難しい。

- ・耕の大きさは使用者によっても異なるようである。

最後に、末文ではありますが、ご多忙のところご教示をして頂いた宮本氏に感謝の意を表したい。

【単位はcm. ○は復原値】

Fig.-No.	遺 構	名 称	器 種	口 径	底 径	器 高	長 宽	内柱部径	軸部往	切削し区 分		備 考
										ヘラ	ホ	
69-1	SD10	陶生土器	壺	—	○ 7.4	—	—	—	—	—	—	
69-2	SD10	土師器	小甕	○ 8.8 ○	6.6	2.0	—	—	—	—	—	
69-3	SD10	土師器	小甕	○ 9.0 ○	7.0	1.7	—	—	—	—	○	
69-4	SD10	土師器	环	○ 14.3 ○	11.0	2.7	—	—	—	—	○	
69-5	SD10	青磁	瓶	—	—	—	—	—	—	—	—	森田：I-5b
69-6	SD10	青磁	瓶	—	○ 5.0	—	—	—	—	—	—	
70-7	SD10	木製品	木棒	—	—	—	—	15.4	53-55	—	3.9	
70-8	SD10	木製品	研	—	—	—	—	5.5	16.5	—	—	
71-9	SD15	土師器	环	—	○ 8.0	—	—	—	—	—	—	
71-10	SD15	土師器	皿か环	—	○ 10.0	—	—	—	—	—	—	

Tab.10 井田堀越遺跡出土遺物一覧表

【註】

本表に記載した分類は、下記の文献によっている。

《青磁》 横田賀次郎・森田龍 「大宰府出土の輸入中國陶磁器について—形式分類と編年を中心にして—」 『九州歴史資料館研究論集』 1978

8. 井田下堀越遺跡の調査

(1) はじめに (Fig.72)

当遺跡は筑後市の最西端に位置し、タリードを挟んだ西側は大本町となる。標高4.2m位の低湿地上で筑後市大字井田字下堀越に所在する。調査は、平成9年度に施工された農地整備事業支線用排水路設置範囲で、遺跡を確認した411m²を実施した。調査期間は平成10年1月28日から2月18日までで、この間、重機による表土除去、遺構の検出、掘削、実測、写真撮影などを行った。調査区からは主に溝3条、土壙6基を検出した。本調査について小林勇作が担当し、末吉隆弥の協力を得た。



Fig.72 井田下堀越遺跡調査地点位置図 (1/2,500)

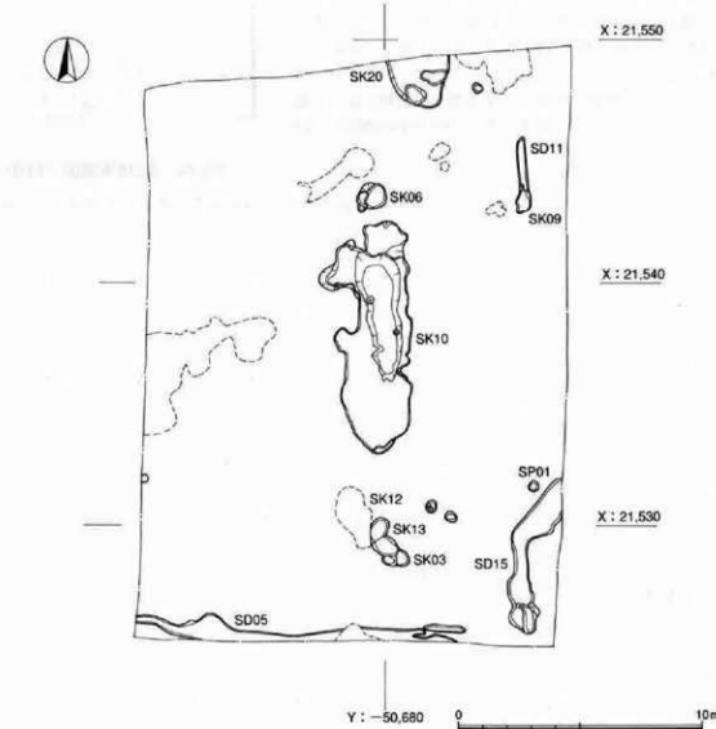


Fig.73 井田下堀越遺跡遺構全体実測図 (1/200)

(2) 遺構

溝

SD05 (Fig.73)

調査区の南端で13.00m分を検出した東西溝である。溝は蛇行しており、深さ0.06mと浅い。埋土は黒褐色土を基調とし、埋土中からは土師器（片）が多く出土した。

SD11 (Fig.73)

調査区の東側で検出した南北溝で、SP9を切る。長さ2.20m、幅約0.35m、深さ0.05mと浅く、埋土は黒褐色土であった。出土遺物は皆無であった。

SD15 (Fig.74, Pla.47)

調査区の南東隅で検出した。5.50m分を確認し、幅0.60~1.25m、深さ0.11~0.23mを測る。埋土は黒褐色粘質土で、埋土中からは土師器（壺・鉢・高坏・片）が出土した。

土壤

SK03 (Fig.75)

調査区の南側で検出した隅丸長方形の土壤でSK13を切る。長軸1.07m、深さ約0.10mを測り、底面は凹凸が著しい。遺物は土師器（壺・片）、磁器（片）を僅かに認めた。

SK06 (Fig.75)

SK10の北部に隣接した不定形な土壤で、長軸1.17m、短軸0.98m、深さ0.17mを測る。埋土中からは土師器（片）が出土したのみである。

SK09 (Fig.75)

SD11に切られた梢円形の土壤で、径は約84cm、深さは約20cmを測る。埋土は黒色粘土で、弥生土器（壺）が僅かに出土した。

SK10 (Fig.75, Pla.48)

調査区のはば中央部から検出した不定形な土壤である。遺物は各層から散在的に土師器（壺・鉢・高坏・土鍋・片）、石製品（石鎚・砥石）が出土し、他の遺構よりも遺物量が多く、廃棄土壤として活用されていた可能性が考えられる。

SK12 (Fig.75)

SK13を切るように検出した土壤で、埋土は黒褐色土であった。深さ0.09mと浅いため削平を受けているものと思われる。出土遺物は皆無であった。

SK13 (Fig.75)

SK03、SK12に切られた土壤で、埋土は黒褐色土。深さ0.14mと浅く、出土遺物は皆無であった。

SK20 (Fig.75)

調査区の北部で検出した。土壤の底面は凹凸が著しく、深さ約0.10mと浅い。出土遺物はない。

SP01 (Fig.73)

SD15の北部から検出したピットで、土師器（壺）が僅かに出土した。

(3) 出土遺物

溝

SD11 (Fig.78, Pla.50)

石製品

石鎚（33） 完成品で、石材はサヌカイト製。抉りのある長二等辺三角形状を呈する。

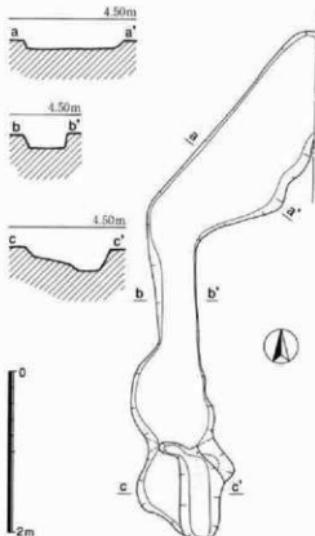
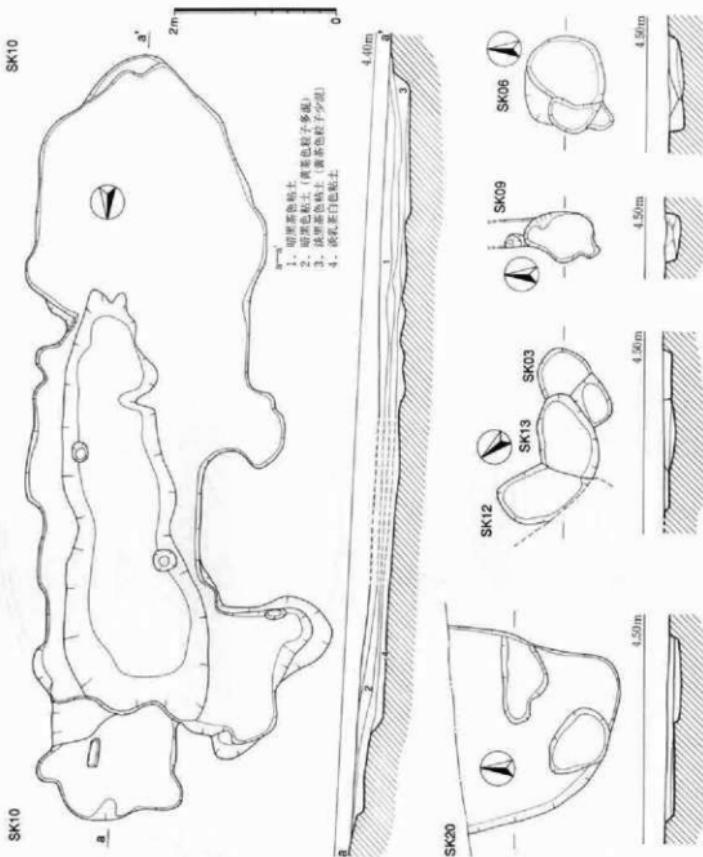


Fig.74 SD15実測図 (1/60)



SD15 (Fig.76)

土器

小型丸底壺 (1・2) 共に底部のみの細片で、胎土は砂粒を少量含む。

高环 (3~5) 3~5は脚部の細片で、5は裾部に穿孔が等間隔に3ヶ所施されている。

石製品 (Fig.78, Pla.50)

磨製石器 (34) 石材は片岩製で完形品である。表面に研磨が施され、抉りのある長二等辺三角形状を呈する。

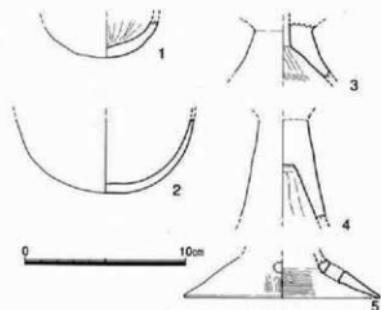


Fig.76 SD15出土土器実測図 (1/3)

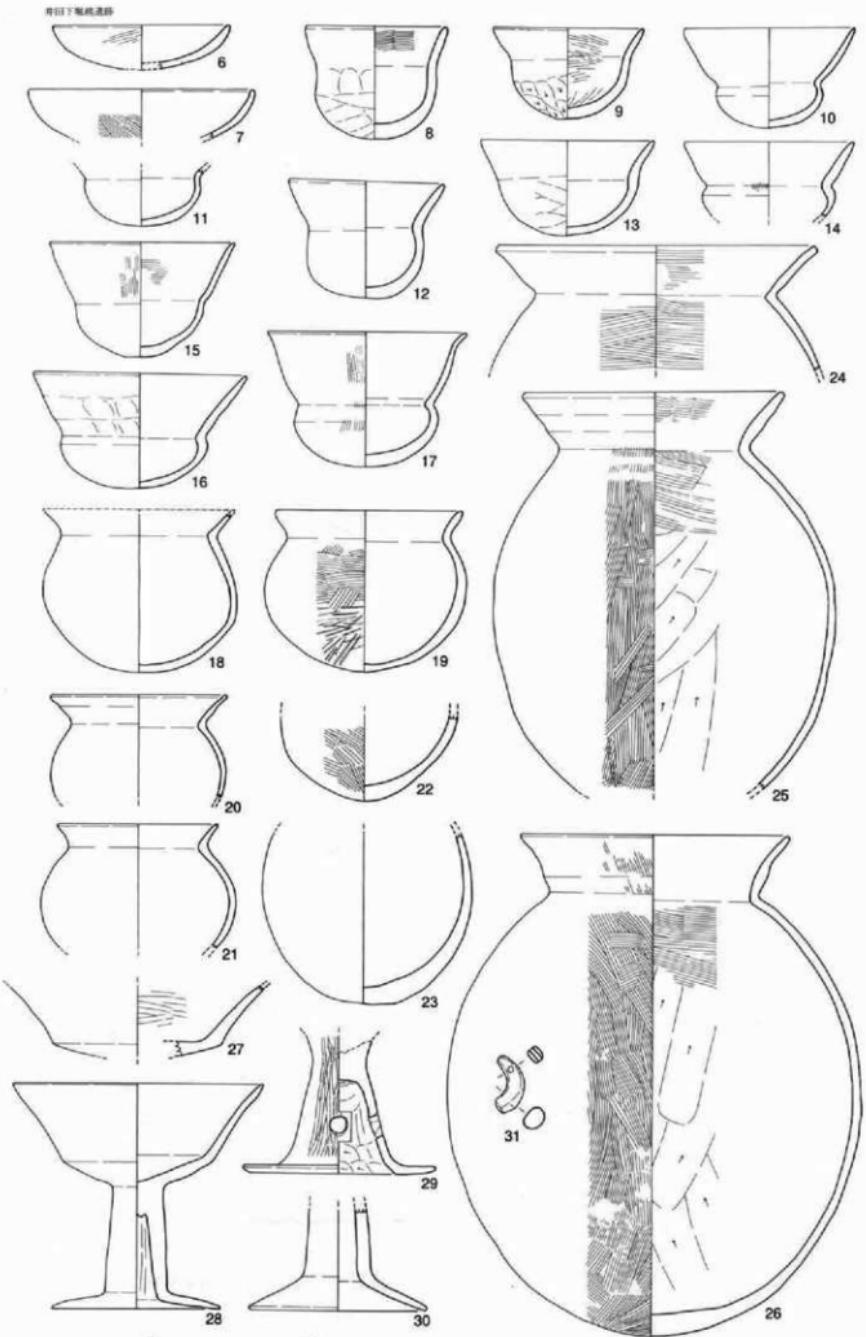


Fig.77 SK10出土土器実測図 (1/3)

土壙

SK10 (Fig.77, Pla.49・50)

土築器

壺 (6・7) 6は1層出土土器で、口径11.0cm、器高2.8cmを復原する。やや磨耗しており、口縁部外面に刷毛目調整が若干残る。7は2層出土土器で、口径14.0cmを復原する。外面上位は刷毛目、口縁部内外面はヨコナデ、底部内面はナデ調整を施す。外面に薄く煤が付着している。

小型丸底壺 (8~22) 8~22の内、18・21は1層、14・20は2層、8・9・12・15・19は3層からの出土土器である。口径は8.8~13.2cm、器高は5.9~10.1cmを測る。

壺 (23) 下半部のみの破片である。最大径13.0cmを復原し、磨耗のため調整不明。

甕 (24~26) 24は口縁部の破片で、口径20.0cmを復原する。口縁部は「く字状」を呈し、口縁部外面は薄く煤が付着し、調整はヨコナデ。この他は横方向の刷毛目調整を施す。25は1層出土土器で底部は欠損する。口縁部は「く字状」を呈し、体部から底部にかけては煤が付着している。調整は外面において、体部は縦方向の刷毛目、口縁部はヨコナデを施し、内面においては口縁部上位は横方向の刷毛目、下位はヨコナデ、体部上位はヘラケズリ後刷毛目、下位はヘラケズリを施す。26は3層出土土器で、口縁部は「く字状」を呈する。調整は外面の体部は縦方向の刷毛目、口縁部は刷毛目後ヨコナデを施し、内面の口縁部は強いヨコナデ、体部上位はヘラケズリ後刷毛目、下位はヘラケズリを施す。

高壺 (27~30) 27~30の内、28・30は2層、27は3層出土土器である。27は杯部の細片で体部は屈曲しながら外反する。磨耗のため調整不明であるが、体部内面に若干刷毛目調整が残る。28は破片で磨耗のため、調整は不明。口径15.5cm、脚根径10.5cm、器高13.9cmを復原する。29は脚根径11.9cmを測り、脚部にはほぼ等間隔で穿孔を3ヶ所施す。30は脚根径11.0cmを測り、磨耗のため調整不明。

土製品

勾玉 (31) 勾玉の土製品で先端に3mm程度の穿孔を施す。

石製品 (Fig.78, Pla.50・51)

石錐 (32) 完成品で石材は黒曜石製である。表面の一部に自然面を残し、裏面にはポジティブ面が看取される。両面とも丁寧に整形加工が施されている。

砥石 (35) 石材を砂岩製とする大型砥石で、剥離面以外はほぼ砥面として使用している。

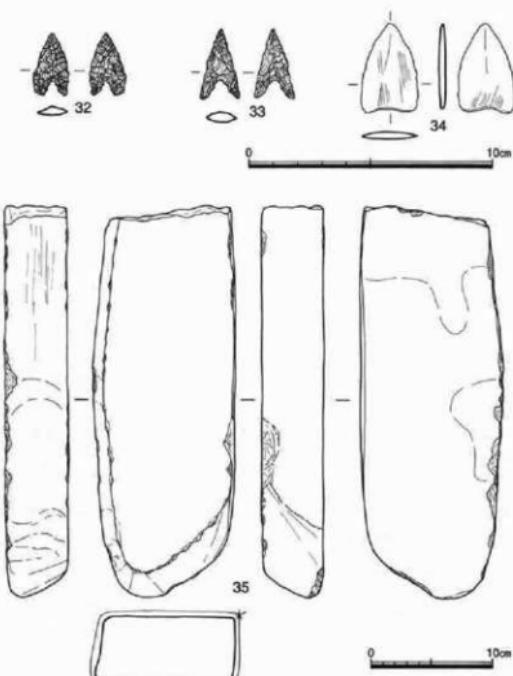


Fig.78 石製品実測図 (1/2・1/4)

SP01 (Fig.79)

土師器

小型丸底壺 (36) 口径12.0cm、体部径11.6cm、器高9.3cmを測り、外面に煤が付着している。調整は内面においては不明で、外面は口縁部がヨコナデ、体部は刷毛目、底部は手持ちのヘラケズリである。

(4) 小結

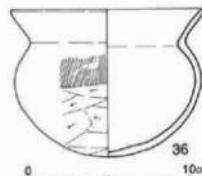
今回の調査において確認された遺構や遺物について振り返ることにより小結としたい。

先述したとおりSK10からは、縄文時代晚期頃に属する石鏡が出土 Fig.79 SP01出土土器実測図 (1/3) した。当調査区内からは該期における顯著な遺構は検出されておらず、周辺からも遺物は採集されていない。このため、集落本体はどの辺りであるかは予測がつかず、現段階では不明である。

ところで、SK10からは古墳時代前期に比定される遺物も多く出土した。SK10は低湿地化した灰色粘土上から検出された溜まり状の土壤で、非常に不安定なものであった。ここから出土した該期の土器は壺・小型丸底壺・高壺・甕などで、分層して土器の抽出をした結果、一括廃棄された傾向があるものと思われる。更に、土器中には脚部に穿孔された高壺や土製勾玉が出土していることで、祭祀的要素を含んだ遺構と考えることができる。

当遺跡は限られた範囲において実施されたためか、顯著な遺構や遺物は少なかったといえる。しかし、今回報告した該期の遺跡は周辺では確認されておらず、この地区の新たな発見になったことは大きな成果といえよう。

最後に、今回の調査からは残念ながら集落本体を明らかにすることできなかつたが、今後の調査で確認されることを期待する。



【単位はcm. ○は復原値】

Fig.-No.	遺構	名 称	器種	口径	底径	器高	側往	包覆し区分		備 考
								ハラ	ホ	
76-01	SD15	土師器	小型丸底壺	-	-	-	-	-	-	
76-02	SD15	土師器	小型丸底壺	-	-	-	-	-	-	
76-03	SD15	土師器	高壺	-	-	-	-	-	-	
76-04	SD15	土師器	高壺	-	-	-	-	-	-	
76-05	SD15	土師器	高壺	-	-	12.2	-	-	-	脚部に穿孔3ヶ所
77-06	SK10(1層)	土師器	壺	○ 11.0	-	○ 2.8	-	-	○	
77-07	SK10(2層)	土師器	壺	○ 14.0	-	-	-	-	○	
77-08	SK10(3層)	土師器	小型丸底壺	○ 8.8	-	7.0	-	-	-	
77-09	SK10(3層)	土師器	小型丸底壺	○ 9.4	-	5.6	-	-	-	
77-10	SK10	土師器	小型丸底壺	○ 10.6	-	6.2	-	-	-	
77-11	SK10	土師器	小型丸底壺	-	-	-	-	-	-	
77-12	SK10(3層)	土師器	小型丸底壺	○ 9.7	-	7.2	-	-	-	
77-13	SK10	土師器	小型丸底壺	-	-	5.9	-	-	-	
77-14	SK10(2層)	土師器	小型丸底壺	○ 10.4	-	-	-	-	-	
77-15	SK10(3層)	土師器	小型丸底壺	○ 11.5	-	7.1	-	-	-	
77-16	SK10	土師器	小型丸底壺	○ 13.2	-	7.1	-	-	-	
77-17	SK10	土師器	小型丸底壺	○ 12.8	-	8.3	-	-	-	
77-18	SK10(1層)	土師器	小型丸底壺	○ 12.0	-	○ 10.1	-	12.0	-	
77-19	SK10(3層)	土師器	小型丸底壺	○ 11.5	-	10.0	-	-	-	
77-20	SK10(2層)	土師器	小型丸底壺	○ 11.0	-	-	-	-	-	
77-21	SK10(1層)	土師器	小型丸底壺	○ 10.0	-	-	-	12.0	-	
77-22	SK10	土師器	小型丸底壺	-	-	-	-	-	-	
77-23	SK10	土師器	甕	-	-	-	-	○ 13.0	-	
77-24	SK10	土師器	甕	○ 20.0	-	-	-	-	-	
77-25	SK10(1層)	土師器	甕	-	-	-	-	21.3	-	
77-26	SK10(3層)	土師器	甕	○ 16.8	-	30.9	-	-	-	
77-27	SK10(3層)	土師器	高壺	-	-	-	-	-	-	
77-28	SK10(2層)	土師器	高壺	○ 15.5	○ 10.5	13.9	-	-	-	深村着
77-29	SK10	土師器	高壺	-	-	11.9	-	-	-	穿孔3ヶ所
77-30	SK10(2層)	土師器	高壺	-	-	○ 11.0	-	-	-	
77-31	SK10	土製品	勾玉	-	-	-	-	-	-	
79-32	SP01	土師器	小型丸底壺	○ 12.0	-	9.3	○	11.6	-	外側埋付着
78-33	SK10(1層)	石瓶	-	-	-	-	-	-	-	石材: 黒曜石
78-34	SD11	石製品	石瓶	-	-	-	-	-	-	石材: サメカイト
78-35	SK15	石製品	磨輪石	-	-	-	-	-	-	石材: 片岩
78-36	SK10	石製品	砾石	-	-	-	-	-	-	

Tab.11 井田下堀越遺跡出土遺物一覧表

9. 梅島遺跡（第2次調査）の調査

（1）はじめに

本章は平成3年度に発掘調査を行った、梅島遺跡第2次調査の成果を記録している。今回の調査は、平成3年度県営干拓地等農地整備事業筑後西部地区に伴い、工事によって消滅する部分について記録保存の措置をとったものである。

平成3年度に入ってから、工事主体である福岡県筑後川水系農地開発事務所（工事3課）から、当該工事地区内の埋蔵文化財の有無について照会があった。その後協議を重ね、試掘調査を経て埋蔵文化財の包蔵範囲を確認した。その結果、水路掘削部分と土盛り調整によっても遺構の破壊を防ぎえない面工事部分について発掘調査を実施することになった。調査は永見と小林が担当し、塚本映子（現、三浦町教育委員会）の協力を得た。調査面積は約3,500m²で、平成3年12月から平成4年5月にかけて調査を行った。

なお、整理作業は平成11年度に、筑後市教育委員会文化財整理室で行った。

（2）遺構

今回の調査では、水路部分を中心とした調査となったことから、当然の制約として非常に細長い調査区を設定せざるを得なかった。また、調査区の一部は面的な調査となり、面的な調査と線状の調査を組



Fig.80 梅島遺跡（第2次調査）調査地点位置図（1/2,500）

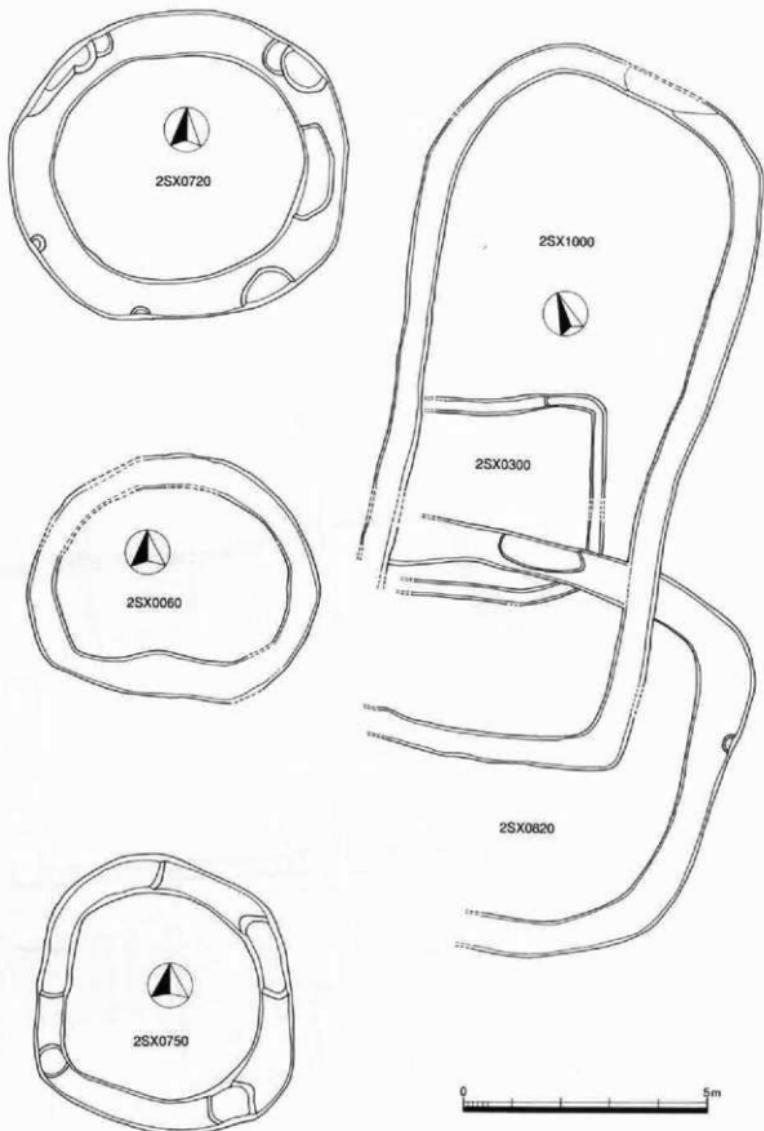


Fig.81 周溝状遺構平面図① (1/100)

み合わせた調査区形状となった。さらに、面的な調査区の中央を前年度に導水路を敷設した道路が横断している。もちろん、その部分は記録保存の措置をとっている（第1次調査）が、調査時点での広がりがつかみにくかったことは否定できない。

今回の調査では、周溝状遺構・溝状遺構・廃棄土壌などを確認した。以下、主要遺構について遺構種類別に報告したい。

周溝状遺構

周溝状遺構は、調査区全体からみると西に片寄った部分に集中して検出した。周溝の平面プランは、おまかにいって方形と円形がある。以下、遺構ごとに報告する。なお、本文中の規模はすべて周溝の外側の遺構上端で計測している。

2SX0720

中央調査区の西端に位置する、円形周溝状遺構である。直径は6.9mである。

2SX0060

東西の調査区の中央に位置する、円形周溝状遺構である。直径は5.4mである。

2SX0750

面的に調査を行った部分の西側調査区南端に位置する、方形周溝状遺構である。東西5.4m、南北5.7mの規模である。

2SX1000

面的に調査を行った部分の西側調査区北西隅に位置する、長方形の平面形を呈する周溝状遺構である。東西6.5m、南北14.6mの規模である。

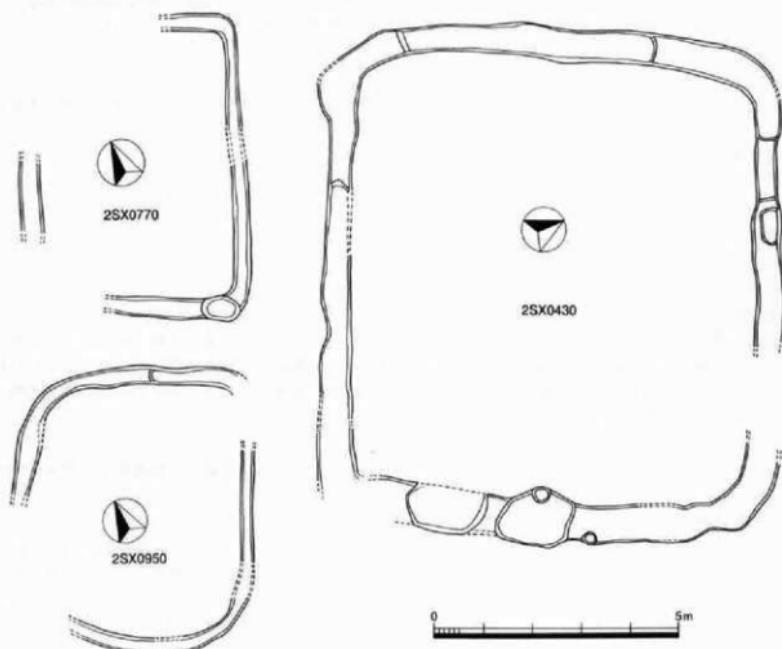


Fig.82 周溝状遺構平面図① (1/100)

2SX0830

面的に調査を行った部分の西側調査区北西隅に位置する、方形周溝状遺構である。南北4.2mの規模である。2SX1000に切られている。

2SX0820

面的に調査を行った部分の西側調査区北西隅に位置する、方形周溝状遺構である。南北8.4mの規模である。2SX1000に切られている。

2SX0770

面的に調査を行った部分の西側調査区西隅に位置する、長方形の平面形を呈する周溝状遺構である。東西4.7m、南北6.3mの規模である。

2SX0950

面的に調査を行った部分の西側調査区北西隅に位置する、方形周溝状遺構である。東西5.0m、南北6.0mの規模である。

2SX0430

面的に調査を行った部分の東側の調査区東端に位置する、方形周溝状遺構である。東西10.4m、南北9.4mの規模である。

2SX0468

面的に調査を行った部分の西側調査区南西隅に位置する、長方形の平面形を呈する周溝状遺構である。東西3.7m、南北6.9mの規模である。

溝状遺構

溝状遺構は、大きくわけて弥生時代のものと中世のものとがある。前者は先に報告した周溝状遺構を別にすれば小規模なものが多い。後者のうち、多くの土器を出土した遺構について報告する。

2SD0260

面的に調査を行った部分の東端を南北に走る。断面形状は崩れた逆台形を呈する。染付の楕を多量に出土した。

廃棄土壙

今回の調査では、廃棄土壙とみられる遺構も数多く検出したが、そのなかで弥生時代の遺物を出土したものの中主要なものを以下に報告する。

2SK0210

面的に調査を行った部分の西端にある。上層からは土師器等も出土しているが、下層からは弥生土器のみが出土している。上層部分は後世の掘込みがあったと考えられる。

2SK0299

東西の調査区の西寄りにある。多量の土器片を出土したが、そのなかで高坏と鉢の出土状況が特異であったので報告する。高坏は坏部と脚部が切り離されていて、脚部の上に甕が伏せた状態でかぶせられていた。さらに、その上に切り離した坏部をのせていた。別の表現をすれば、高坏の坏部と脚部の間に鉢が挟まれていた状況であった。

2SK0840

面的に調査を行った部分の東寄りにある。2SD0680に切られている。多量の土器を出土したが、すべて上層からの出土である。

(3) 出土遺物

出土遺物には、弥生土器・土師器・須恵器などがあり、総量ではパンコンテナー200箱近くにのぼる。なお、遺物の個々についての詳細は、文章を省略しているので、遺物観察表を参照されたい。剥片等で図示しないものも、一部を一覧表で報告した。また、自然石利用の利器は相当数を採集している。散石や石皿等の可能性を認めるが、今回の報告からは除外している。以下、遺構順に報告する。なお、第1次調査の遺物写真も今回報告した。

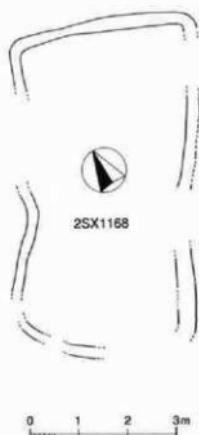
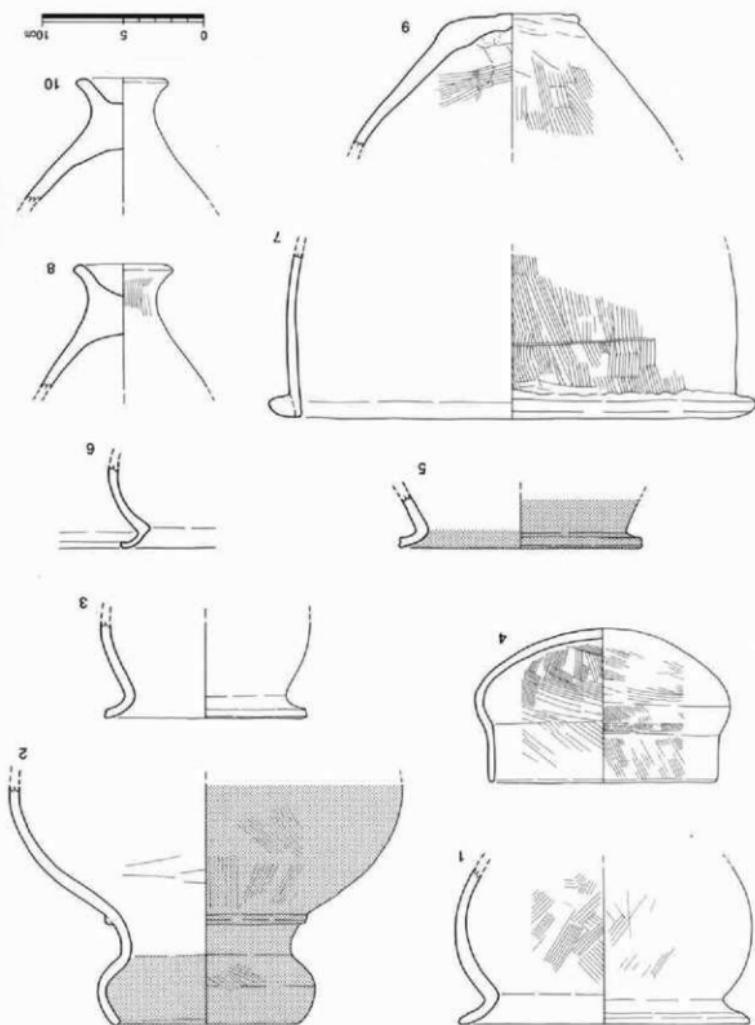


Fig83 周溝状遺構平面図③
(1/100)

FIG.84 梅昌遺跡(第2次調查)出土遺物實測圖① (1/3)



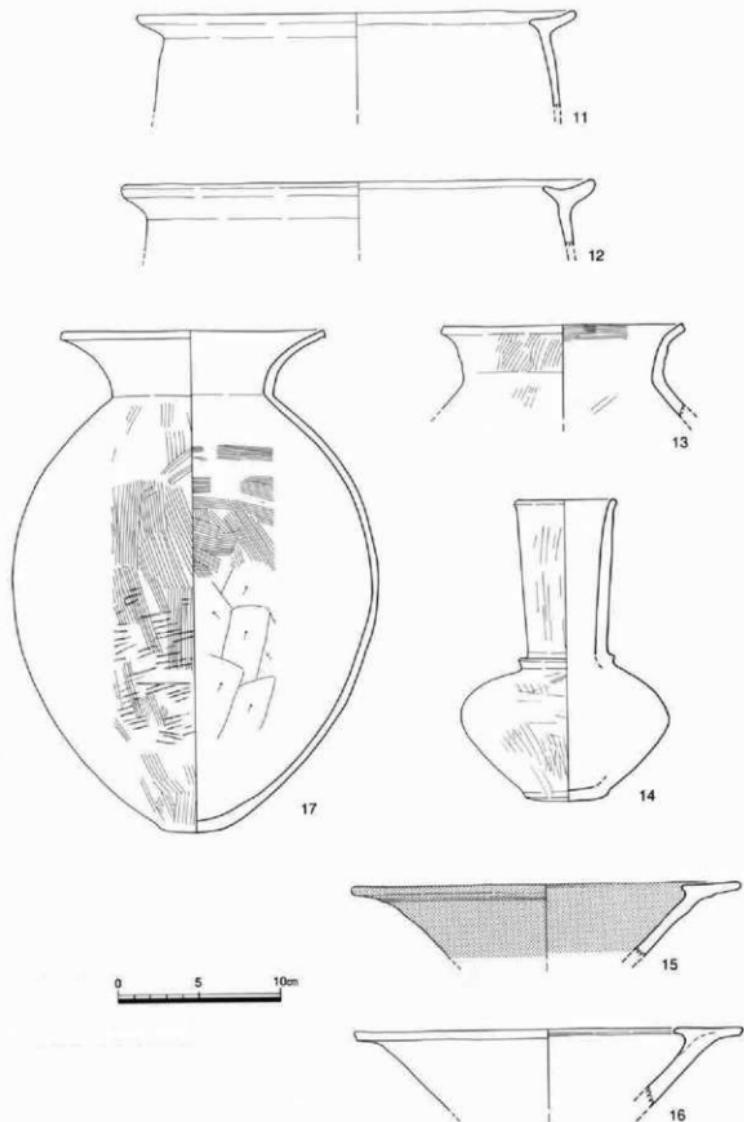


Fig.85 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図②（1/3）

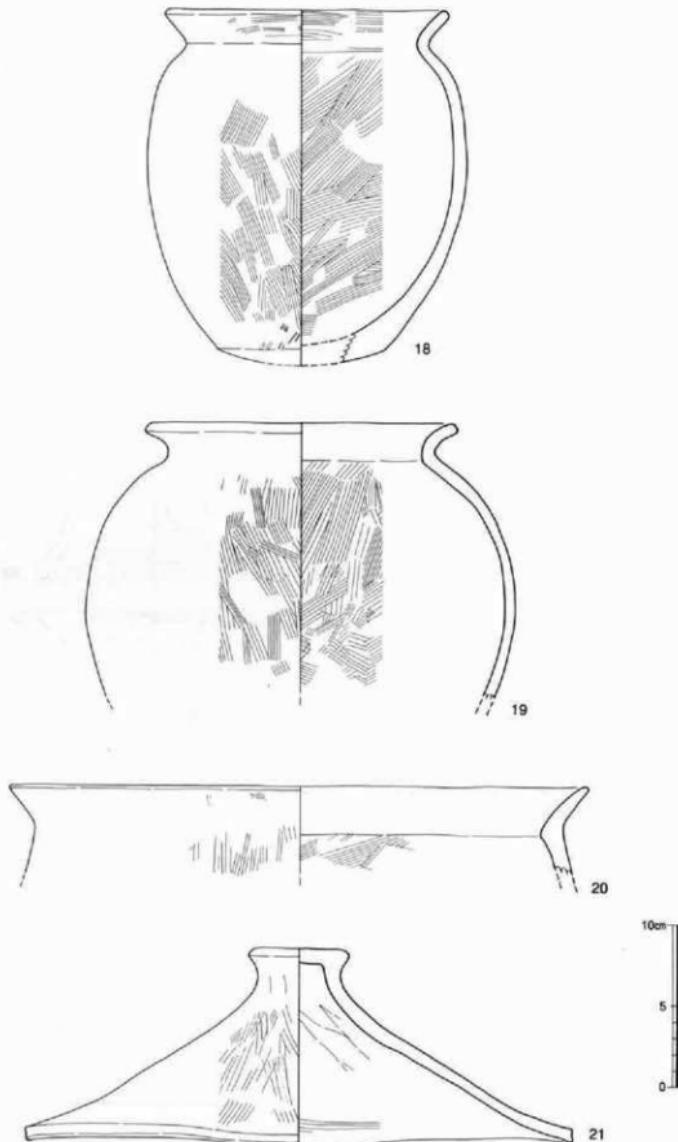


Fig.86 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図③（1/3）

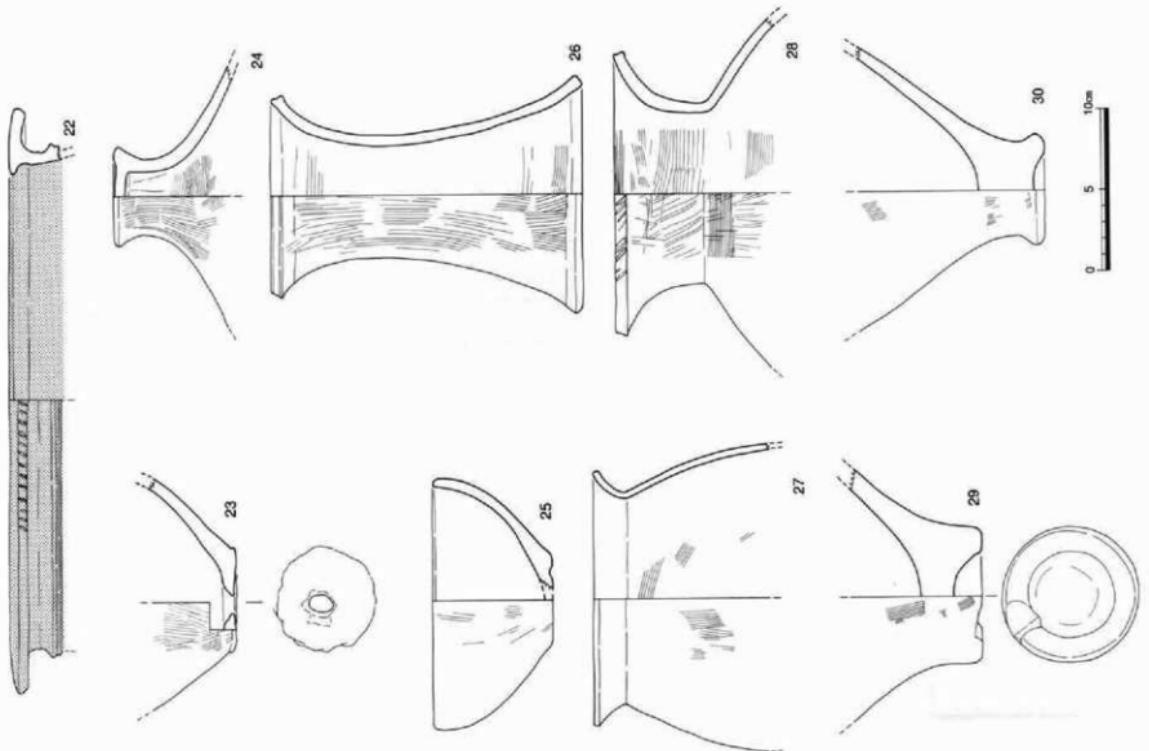


Fig. 87 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図④ (1/3)

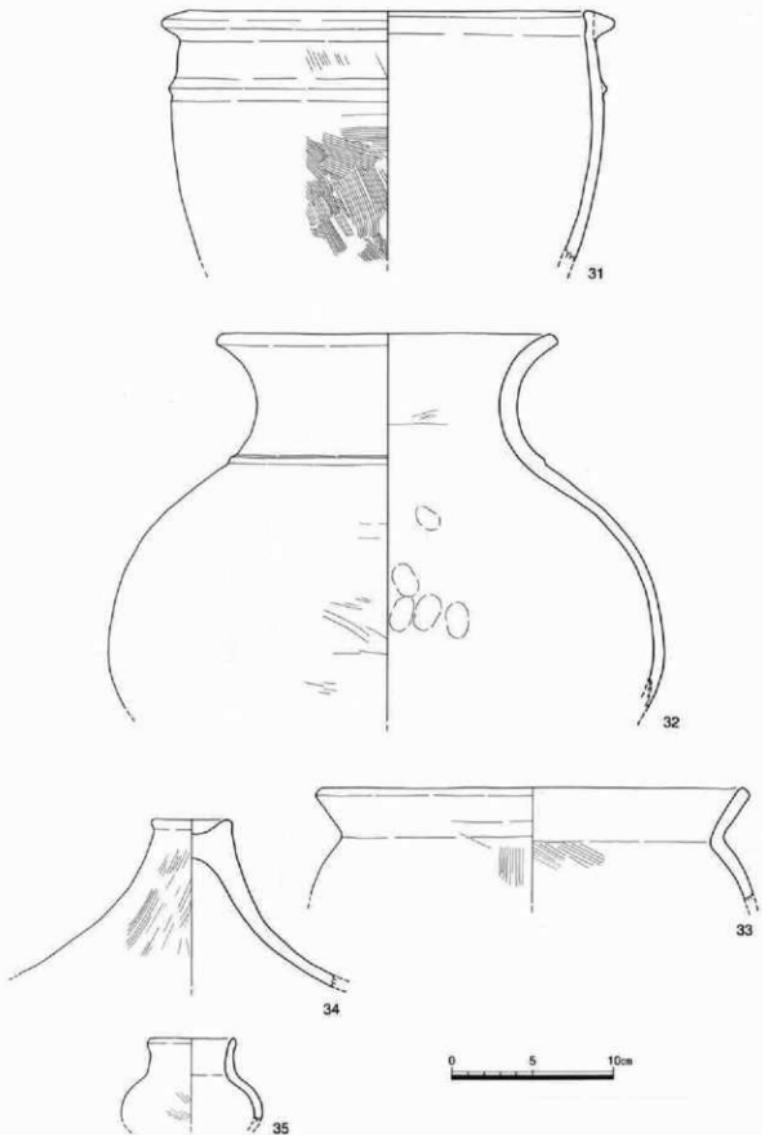


Fig.88 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑤（1/3）

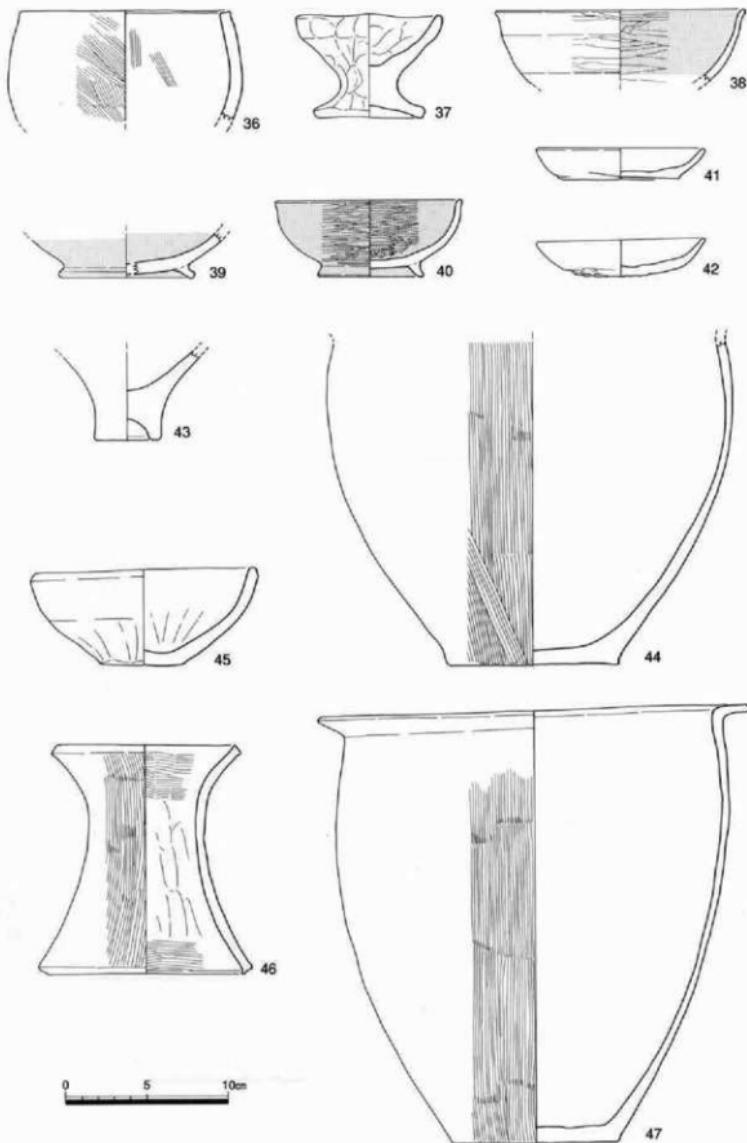


Fig.89 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑥（1/3）

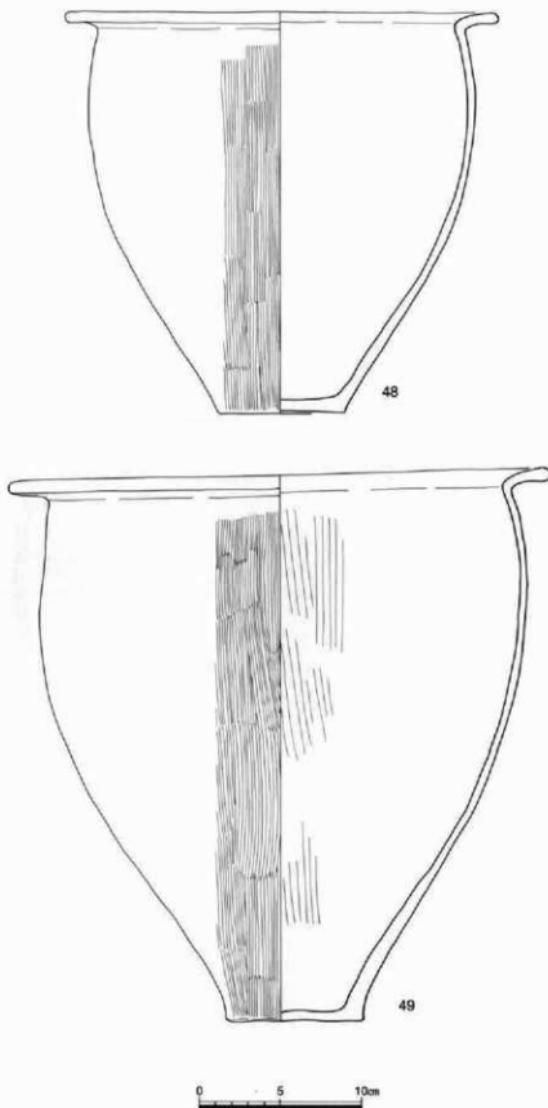


Fig.90 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑦（1/3）

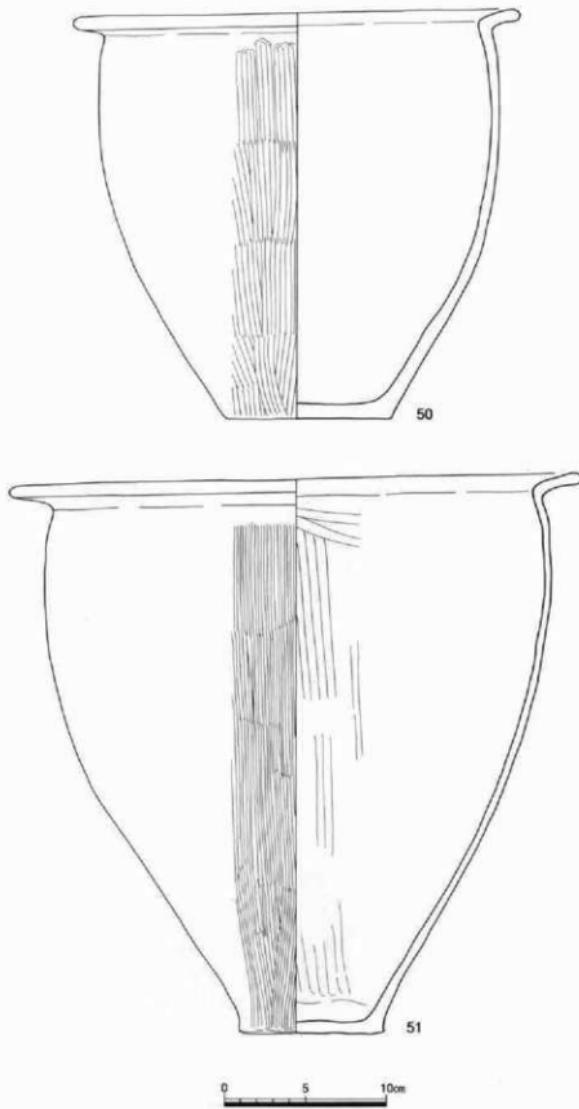
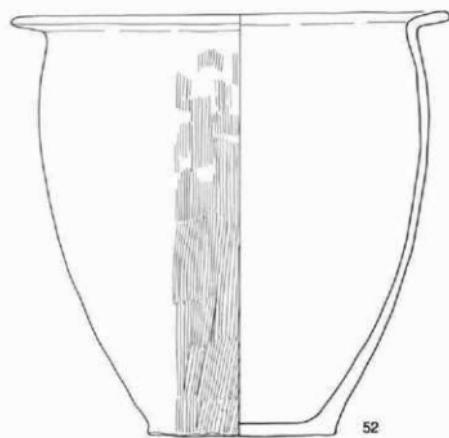
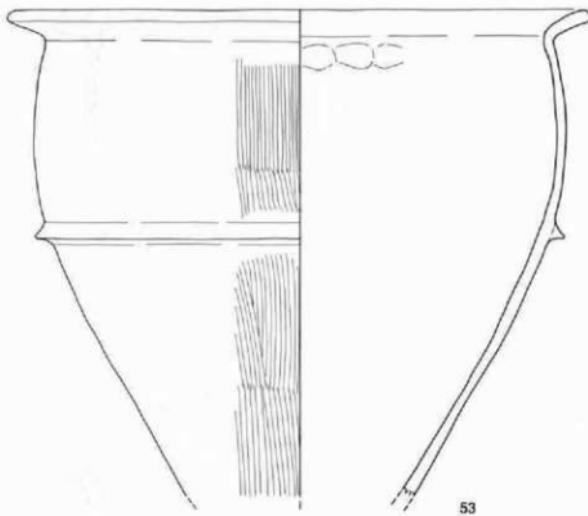


Fig.91 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑧（1/3）



52



53



Fig.92 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑨（1/3）

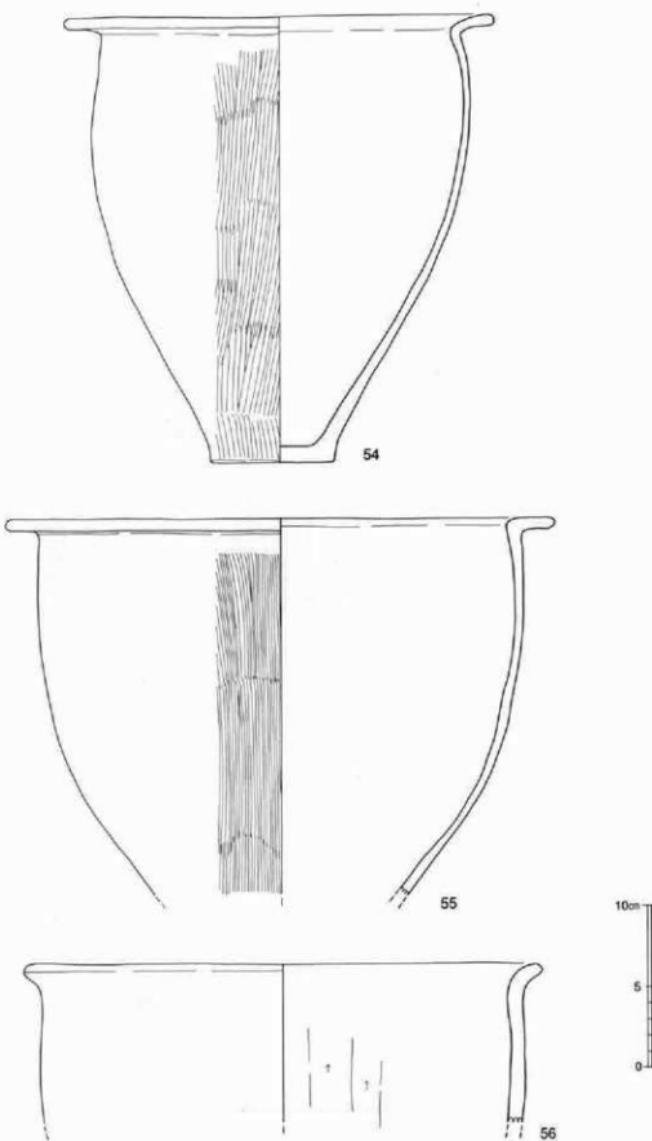


Fig.93 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑩（1/3）

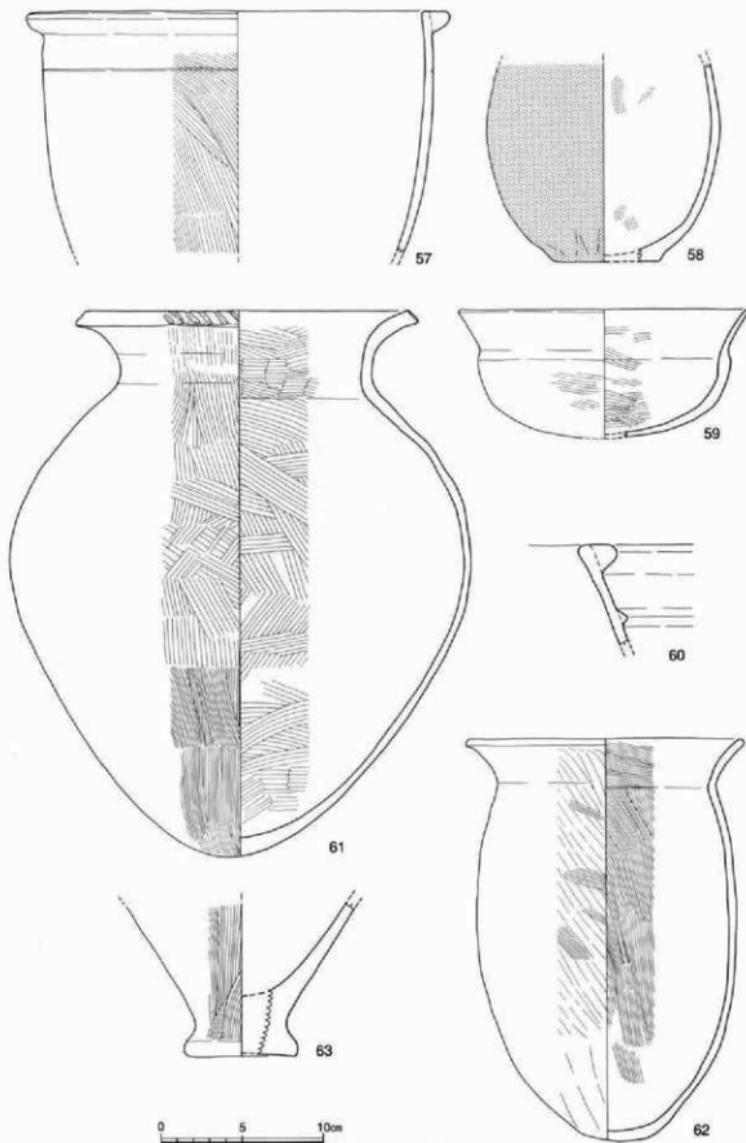


Fig.94 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図① (1/3)

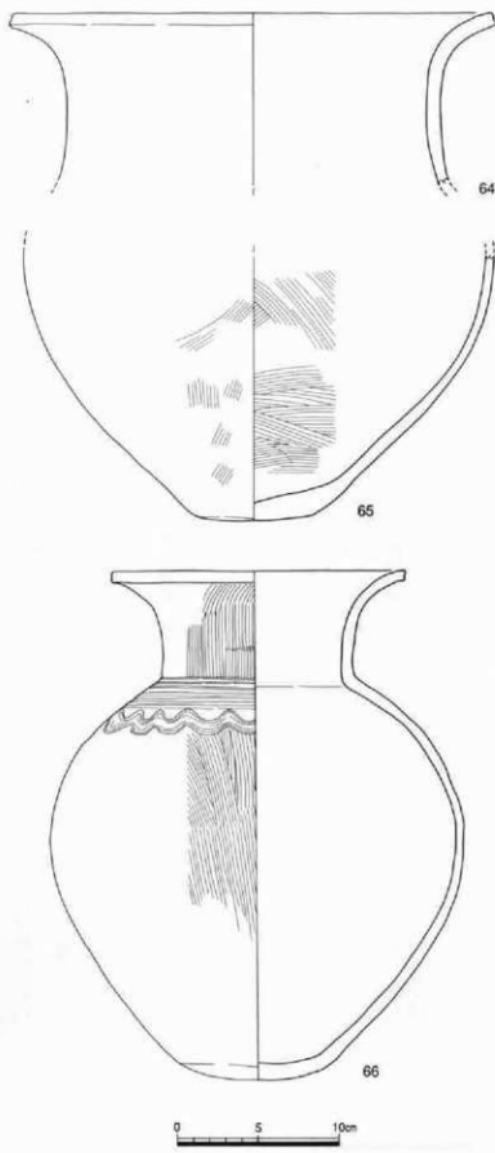


Fig.95 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑫（1/3）

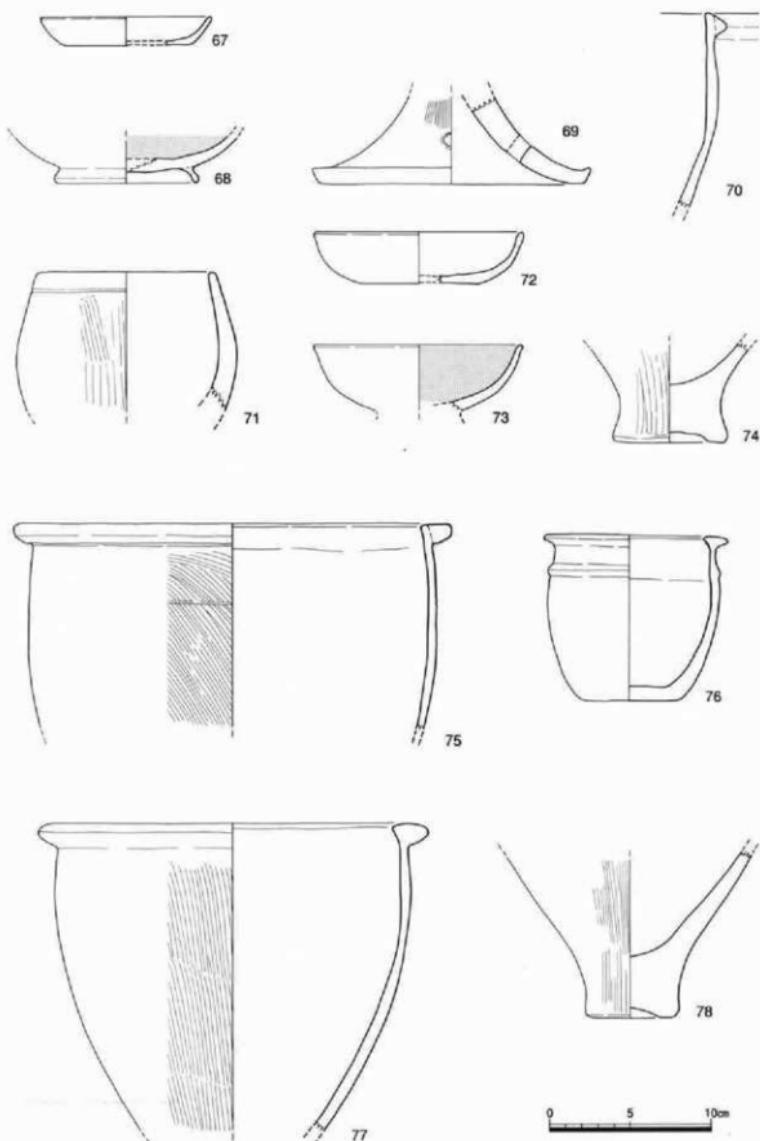


Fig.96 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑬（1/3）

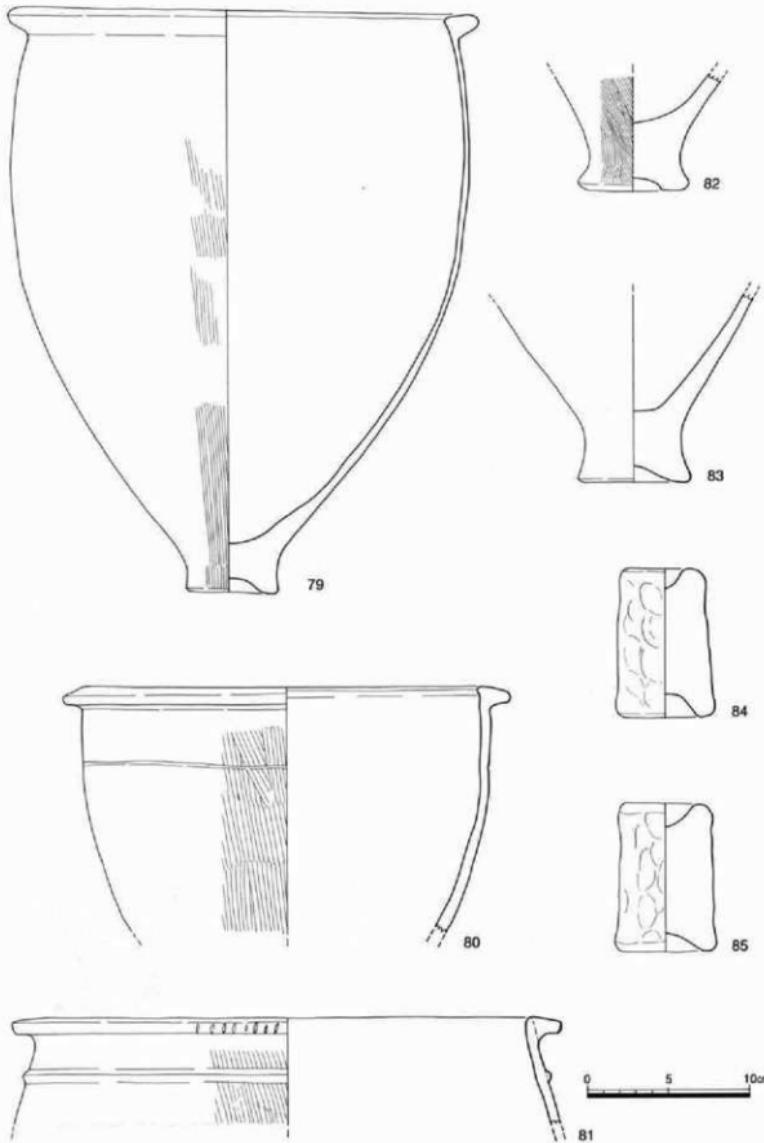


Fig.97 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑭（1/3）

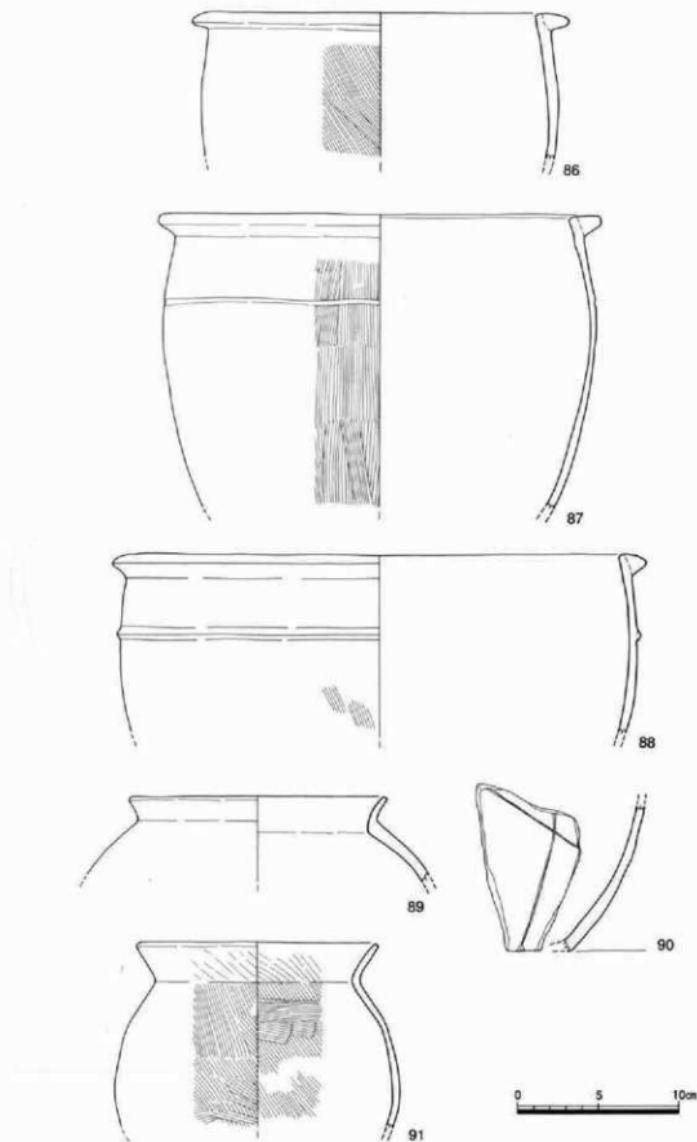


Fig.98 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑮（1/3）

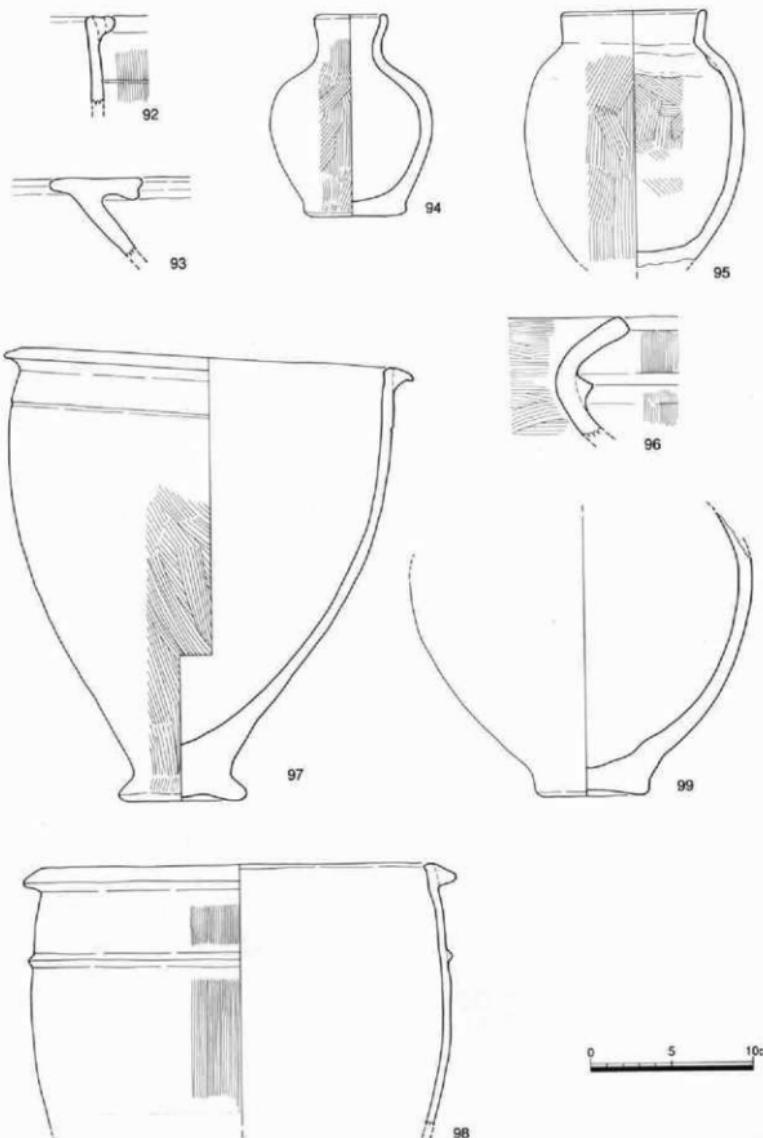


Fig.99 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図16 (1/3)

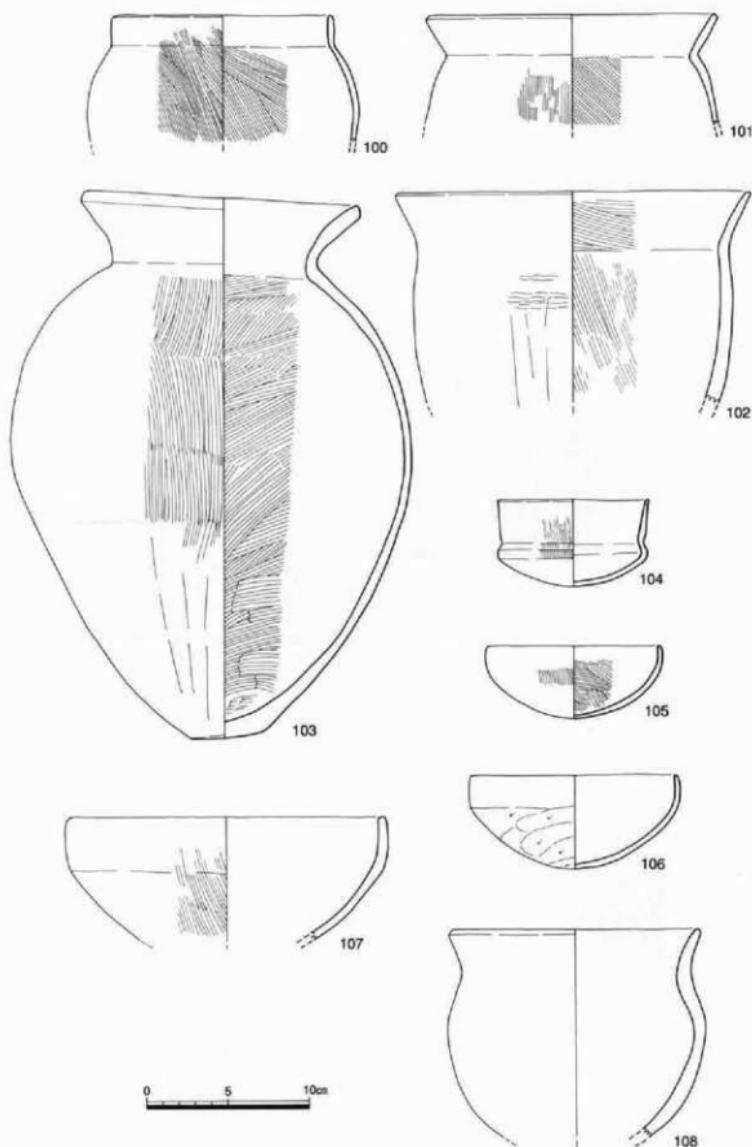


Fig.100 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑰（1/3）

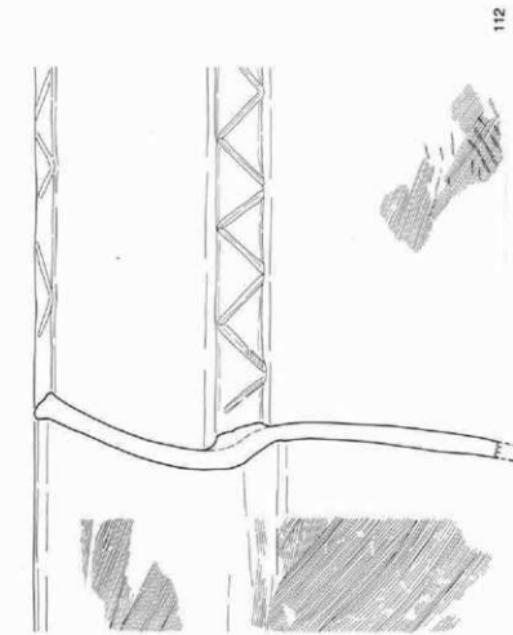
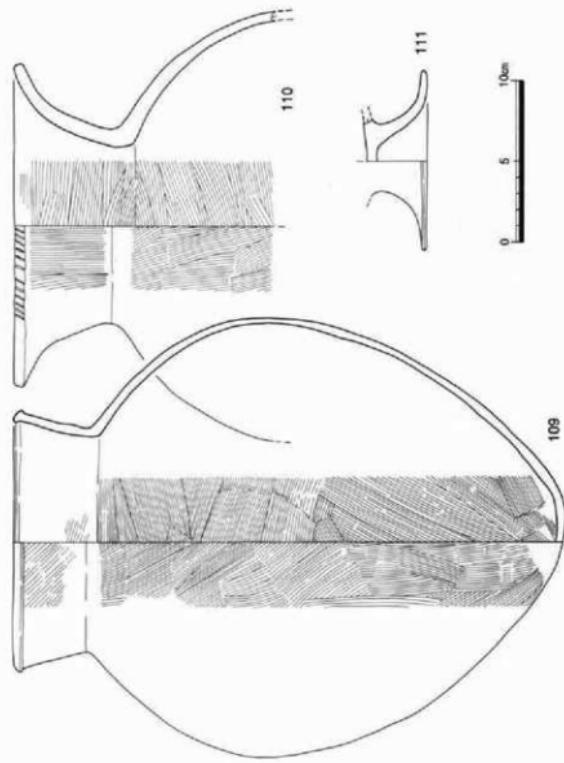


Fig.101 梅鳥遺跡（第2次調查）出土遺物實測圖§ (1/3)

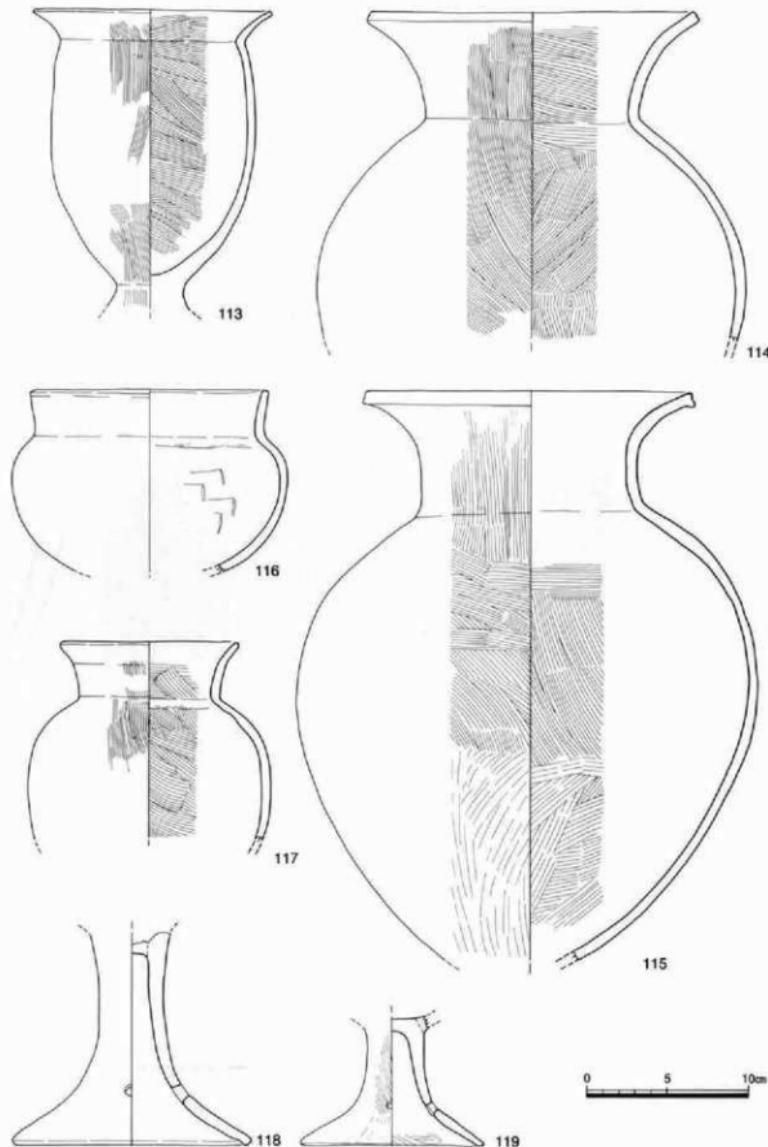


Fig.102 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図19 (1/3)

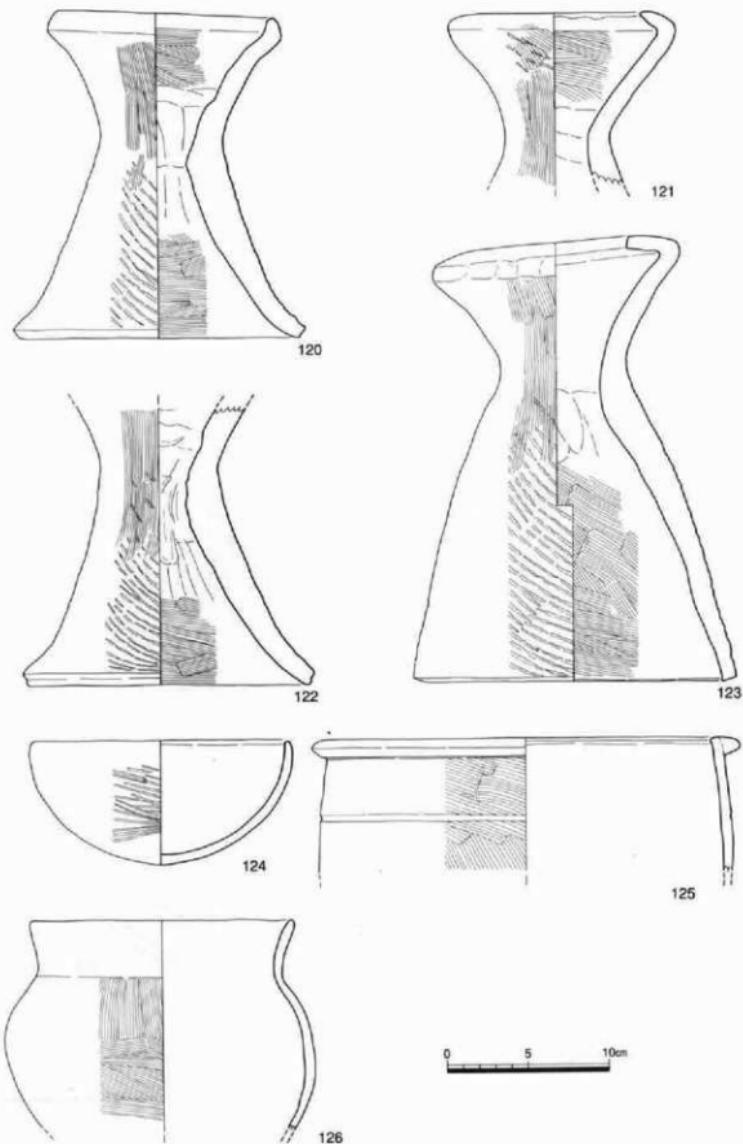


Fig.103 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図② (1/3)

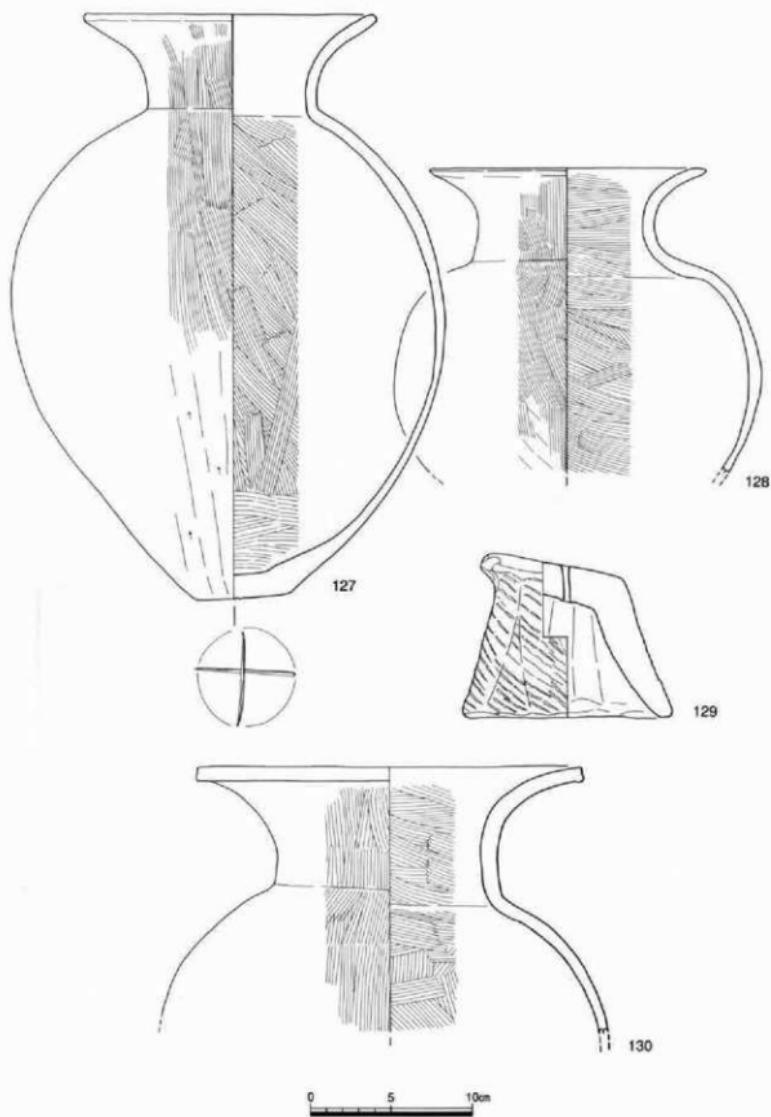


Fig.104 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図② (1/3)

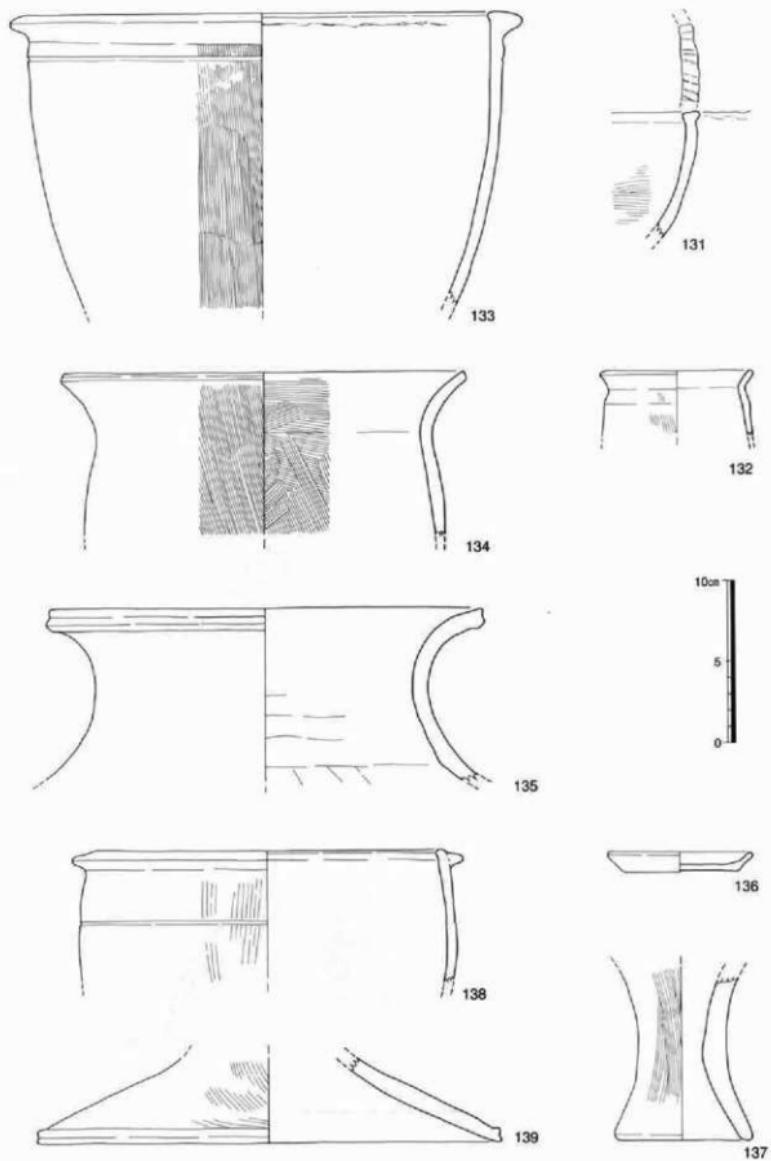


Fig.105 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図22（1/3）

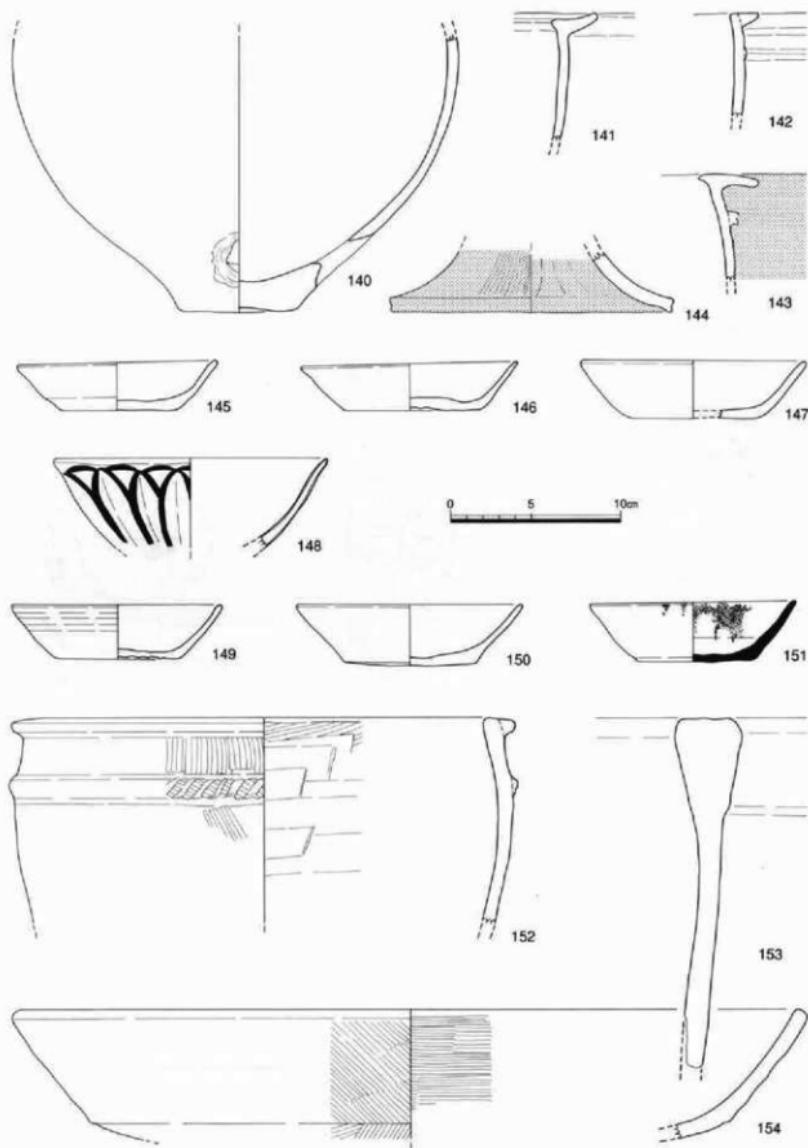


Fig.106 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図23 (1/3)

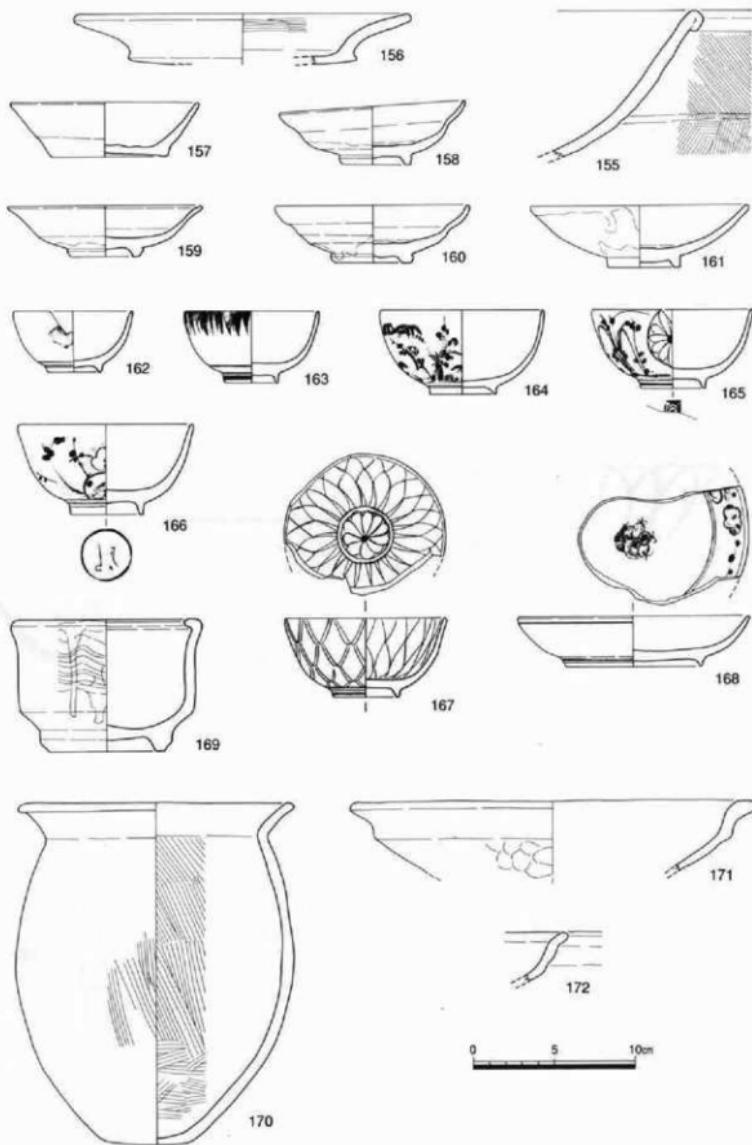


Fig.107 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図録（1/3）

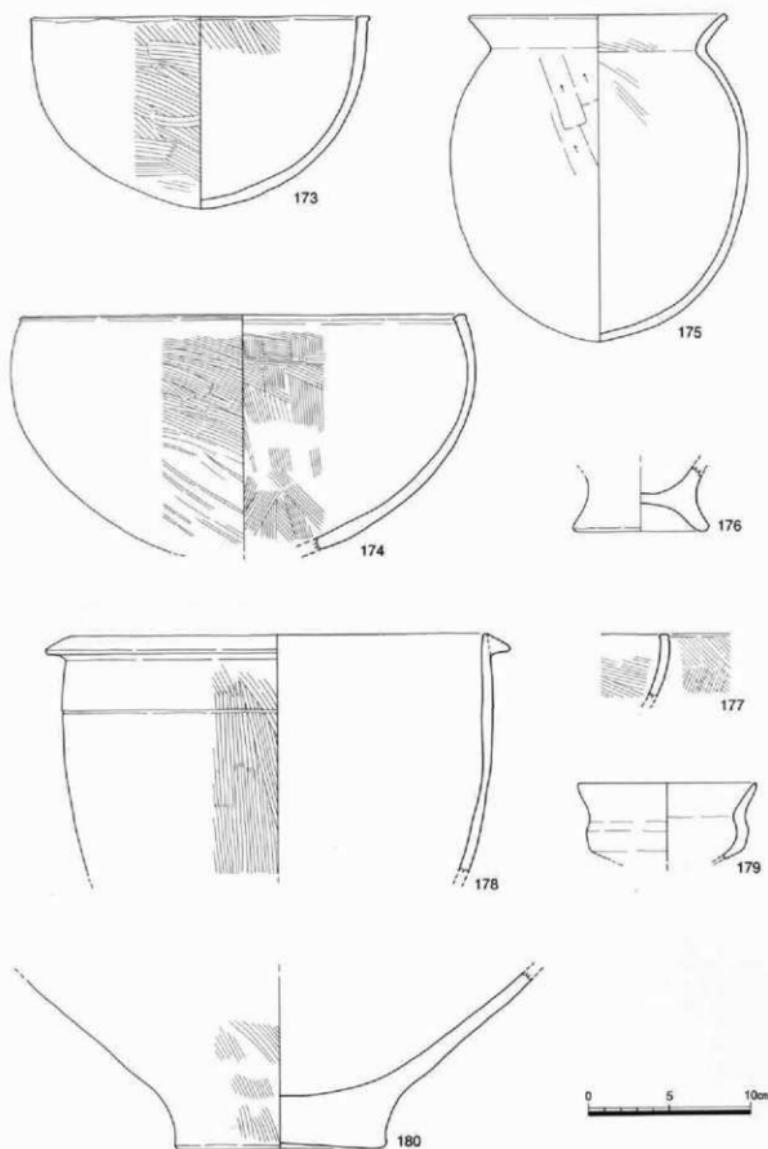


Fig.108 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図（1/3）

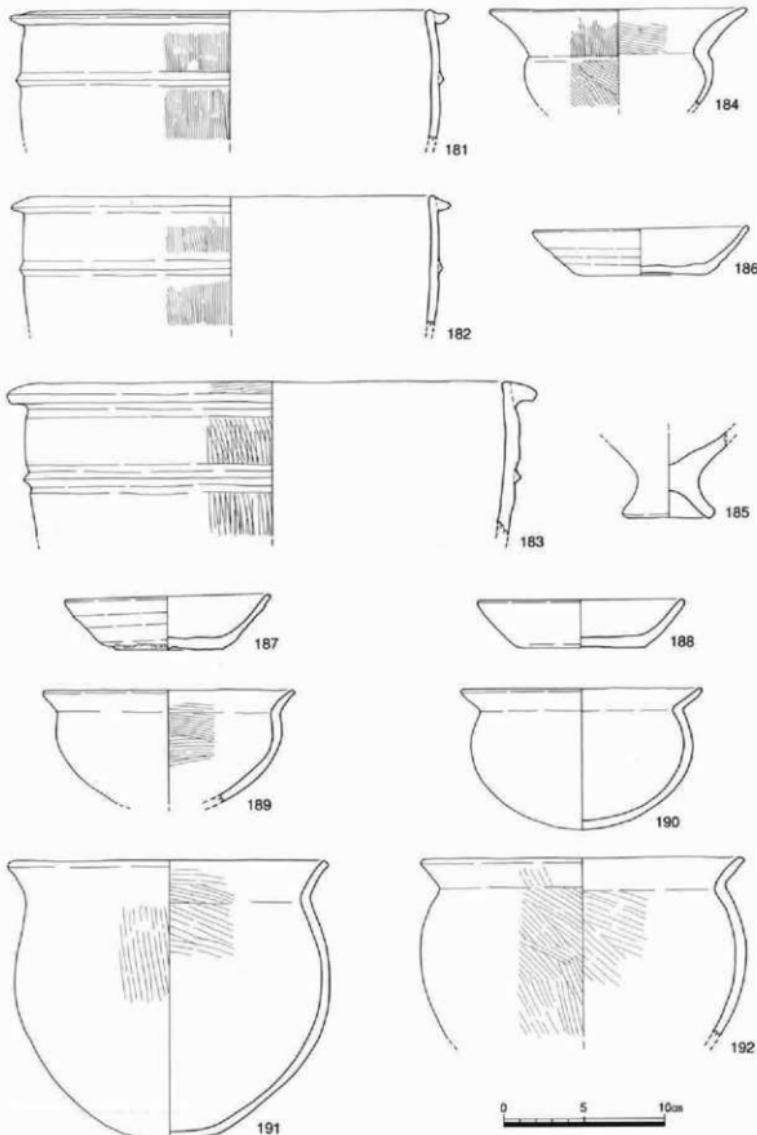


Fig.109 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図巻（1/3）

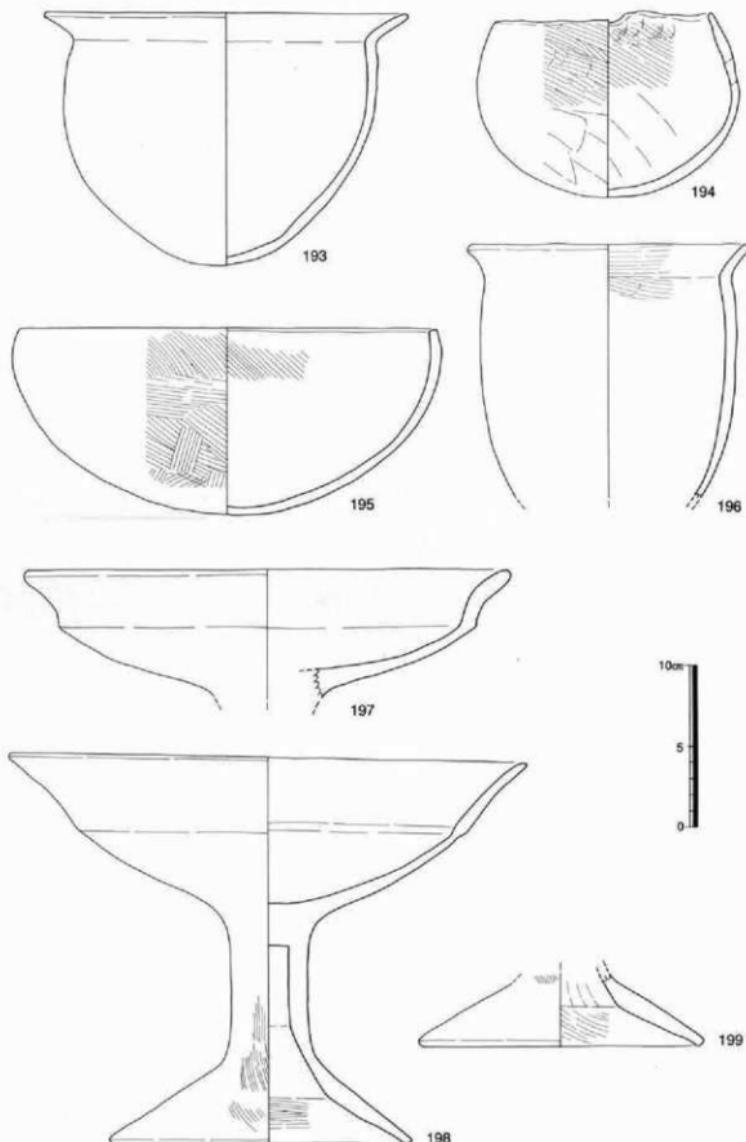


Fig.110 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図② (1/3)

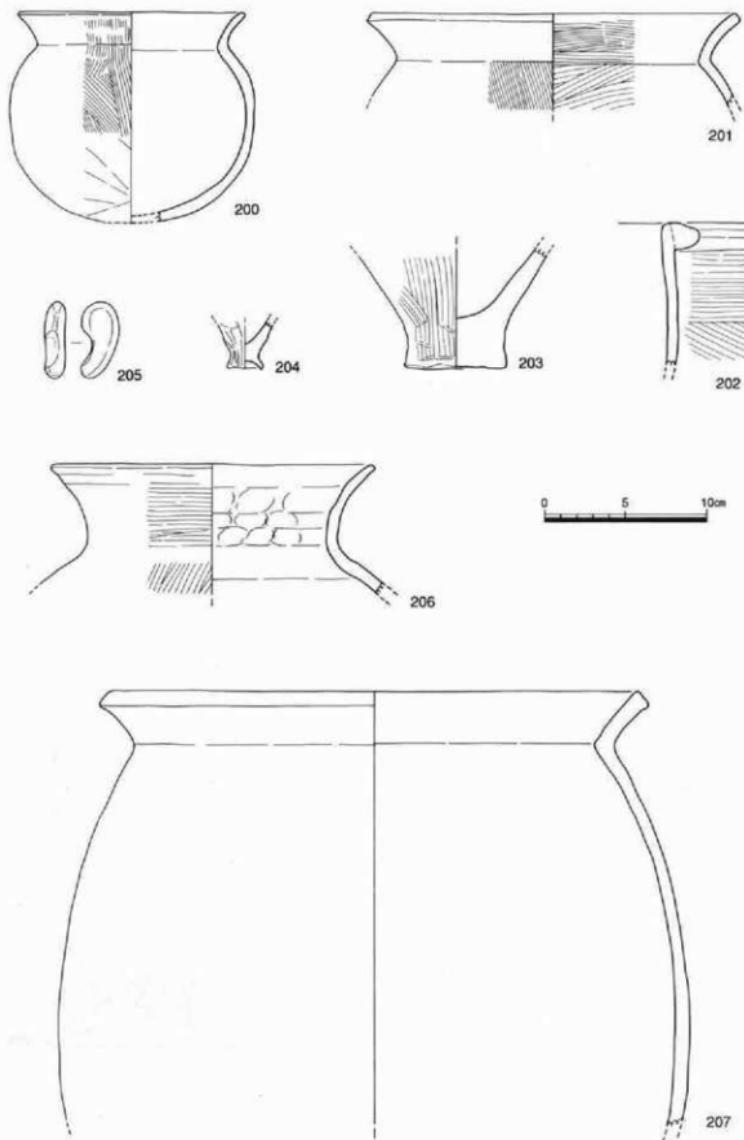


Fig.111 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図②（1/3）

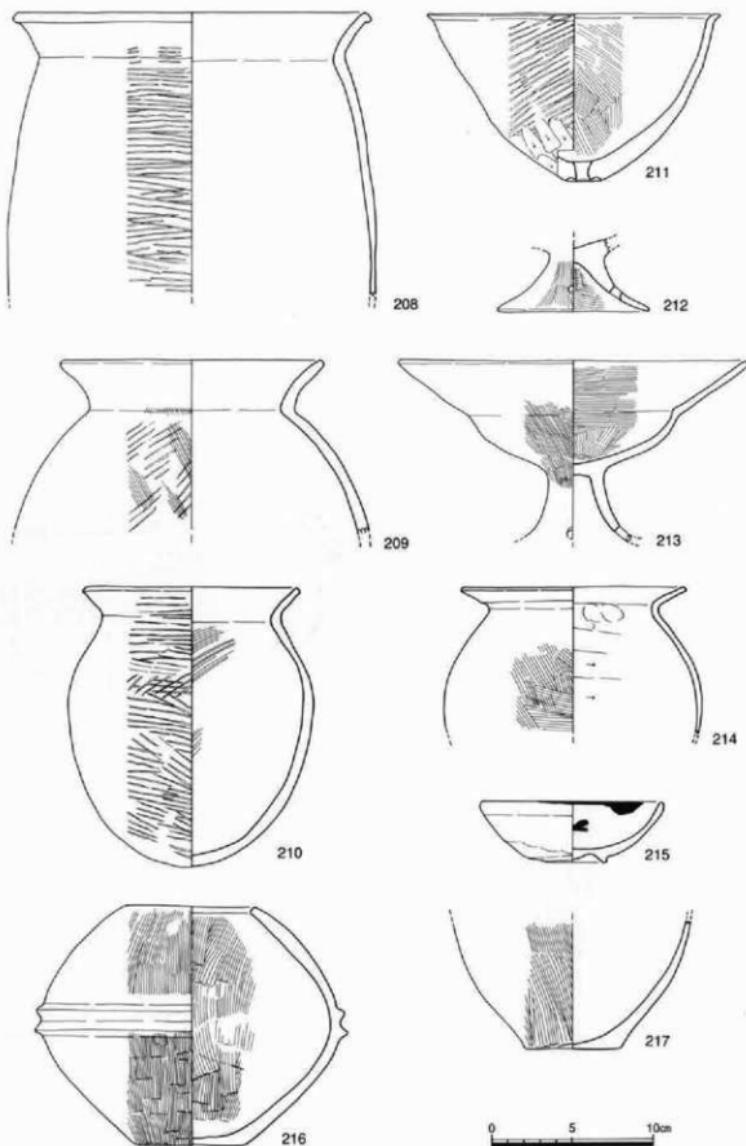


Fig.112 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図29（1/3）

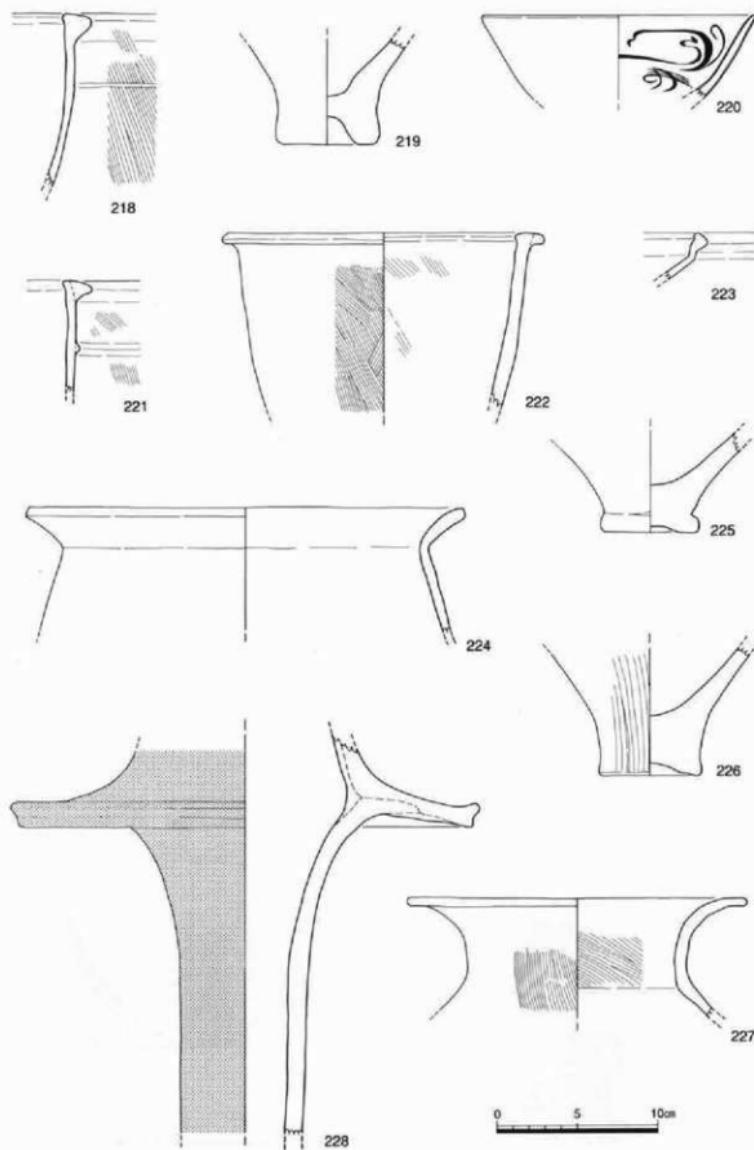


Fig.113 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑩ (1/3)

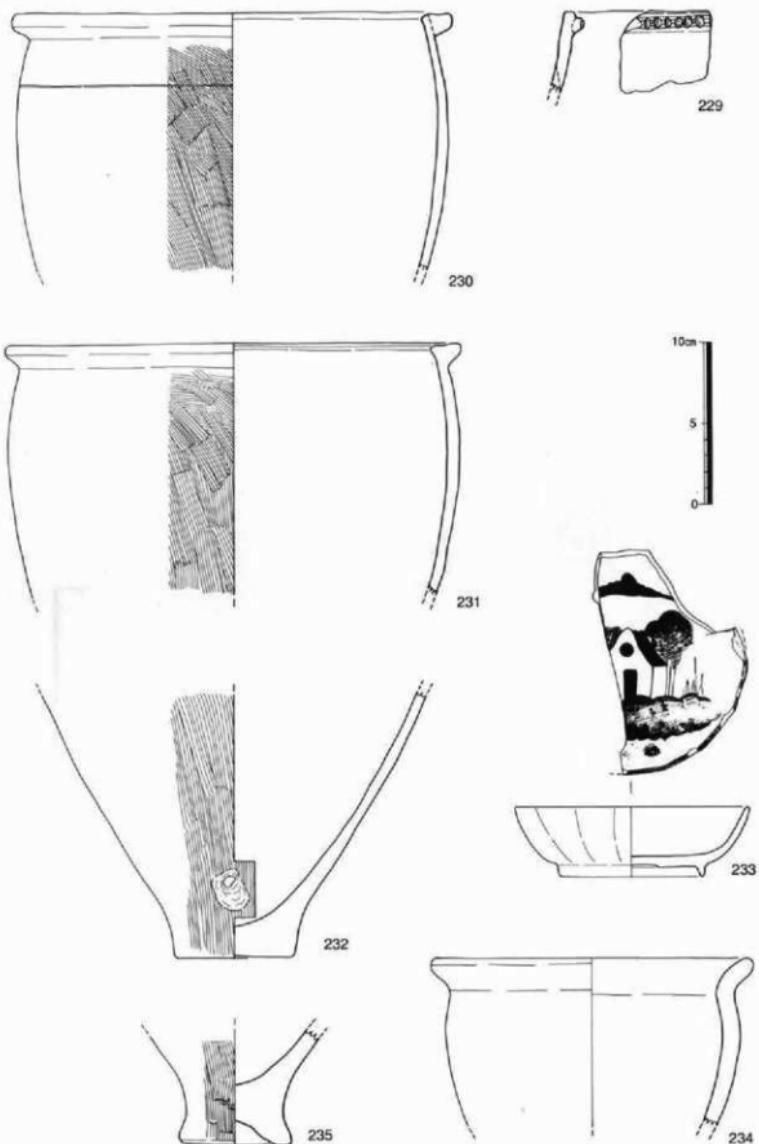


Fig.114 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図③ (1/3)

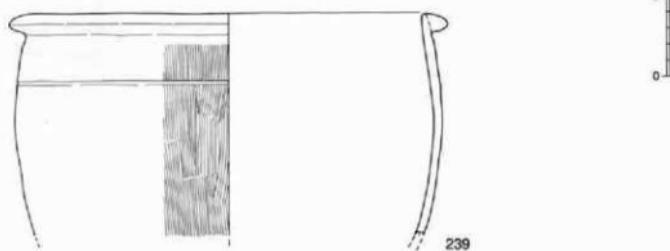
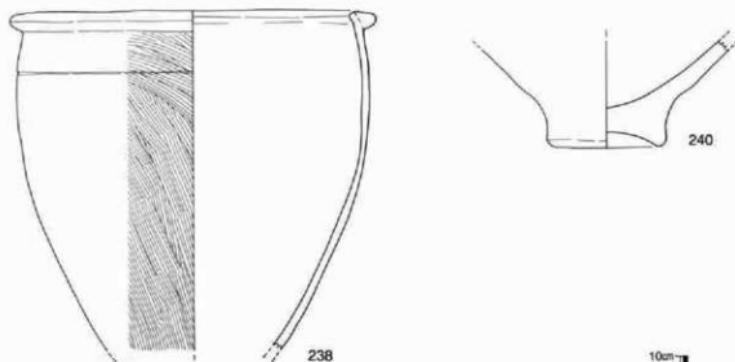
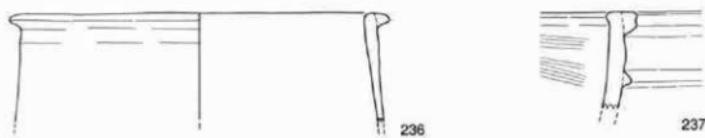
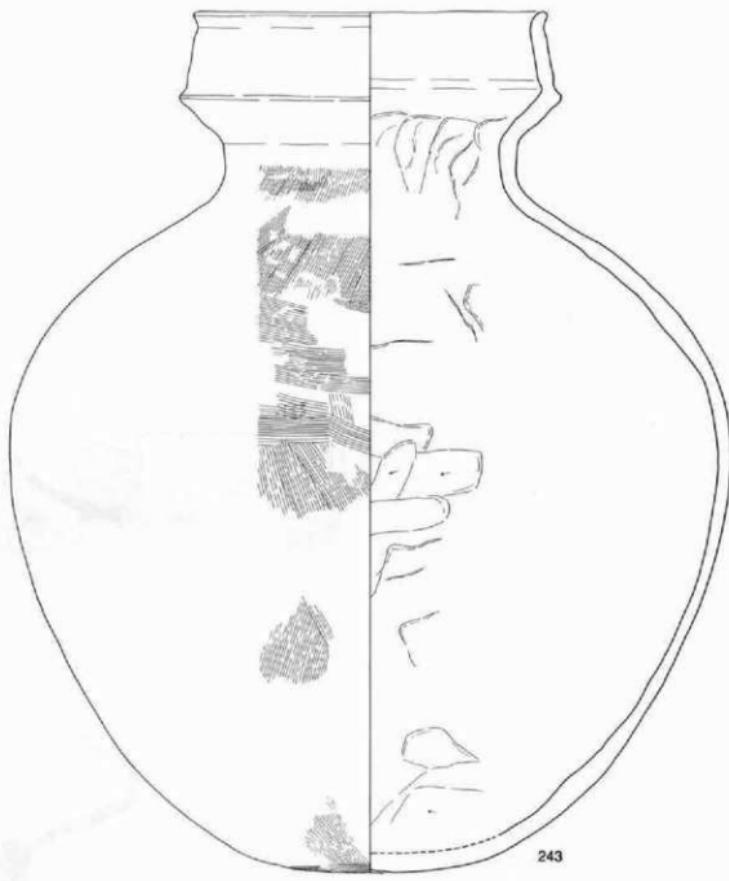


Fig.115 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図32（1/3）



243

0 5 10cm

Fig.116 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図33 (1/3)

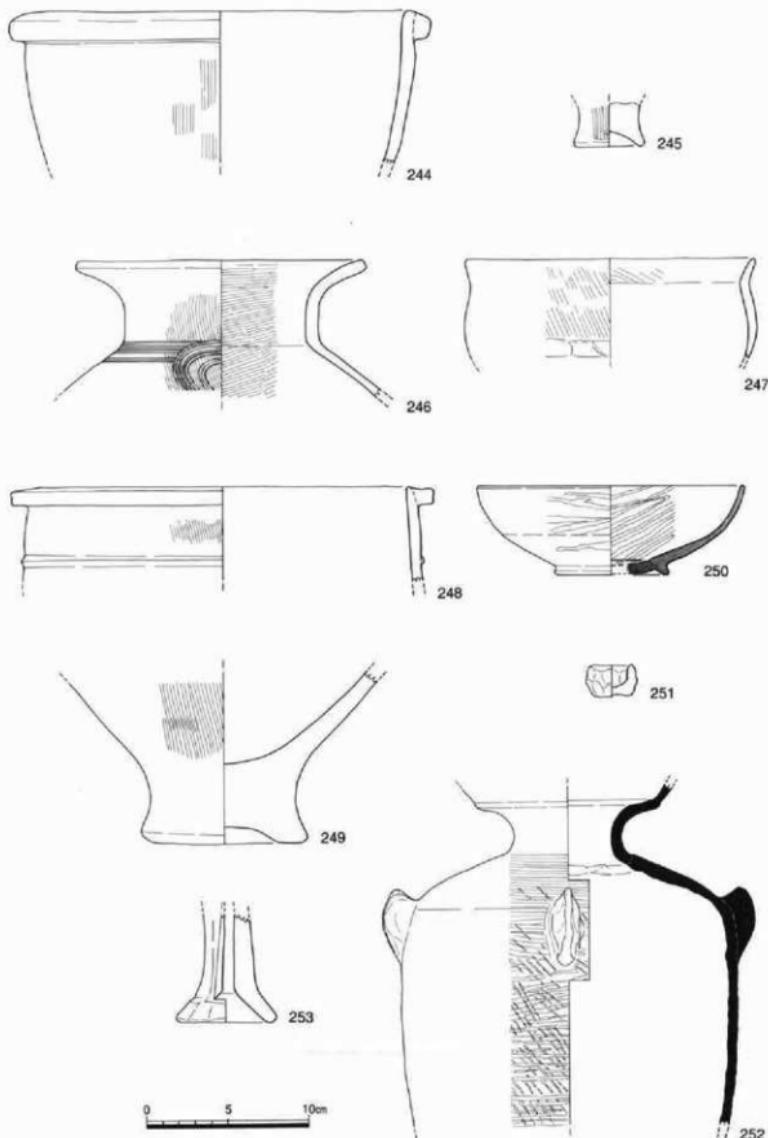


Fig.117 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図36（1/3）

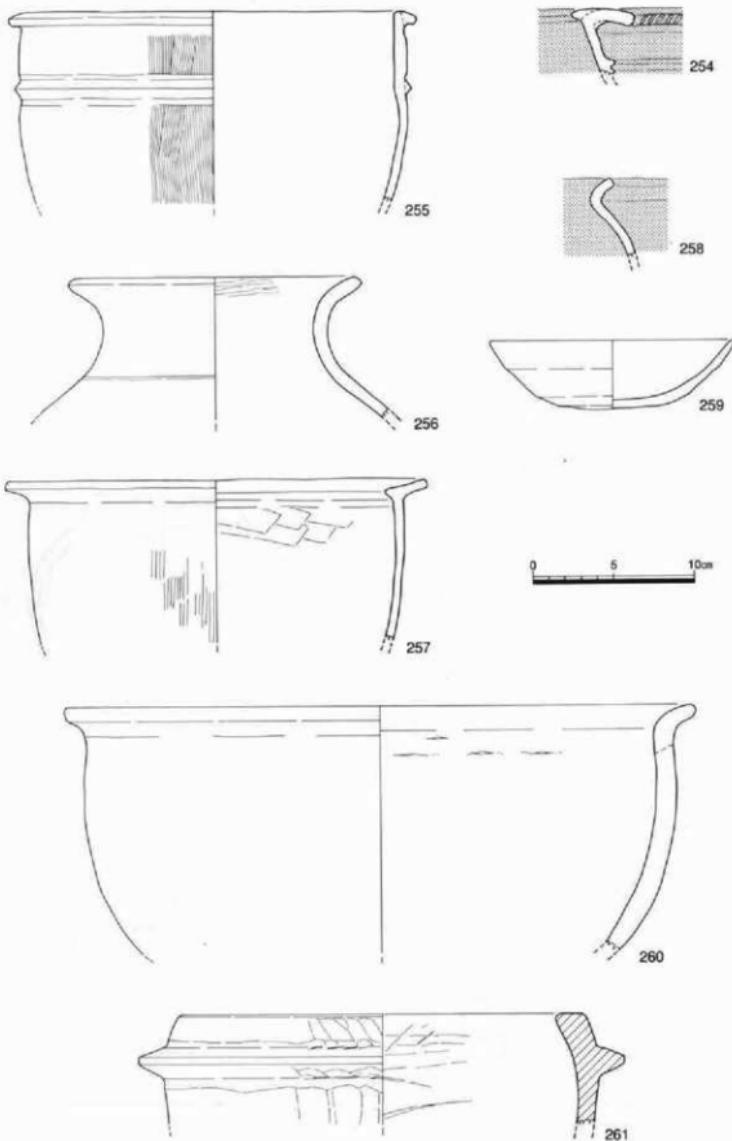


Fig.118 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊾（1/3）

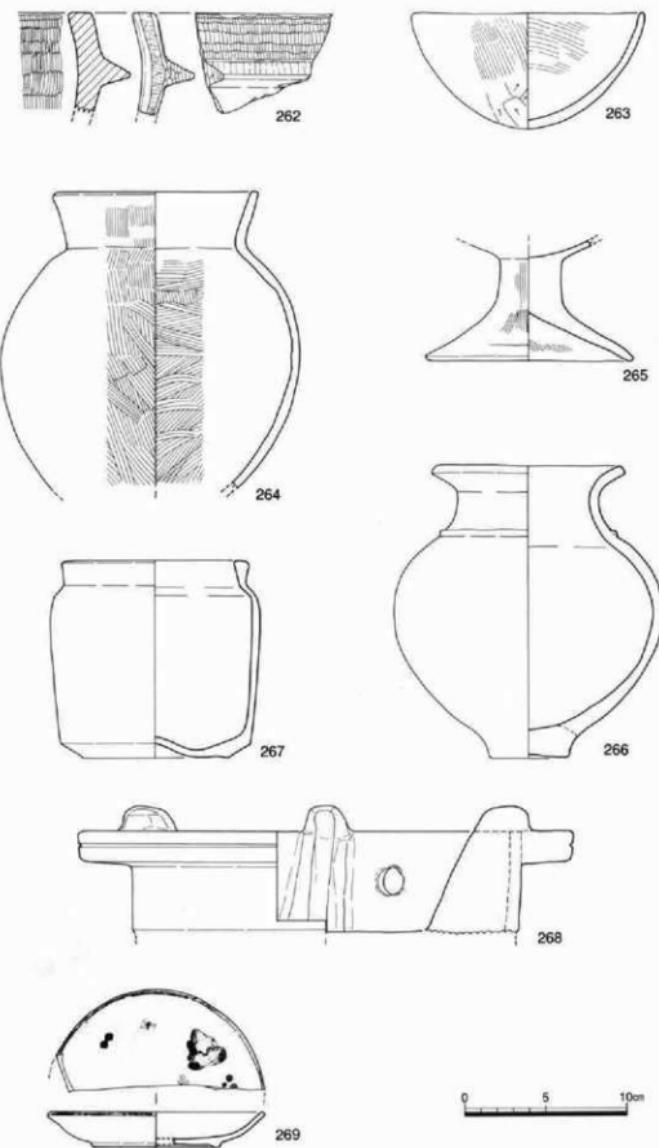
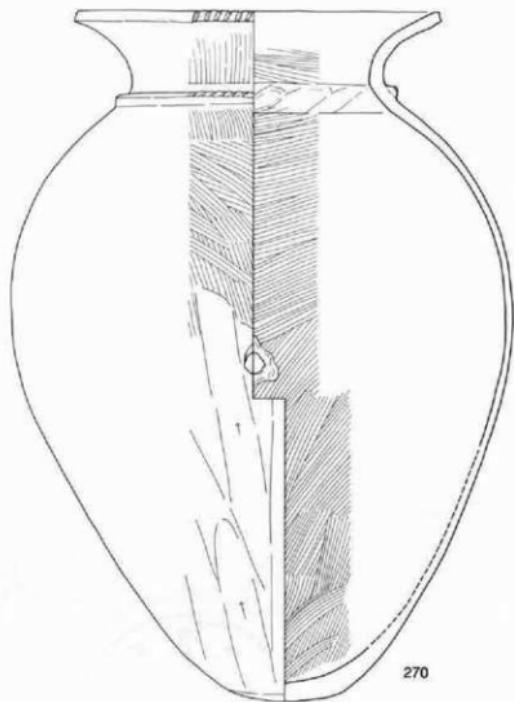
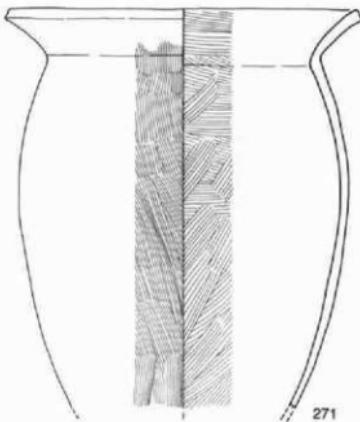


Fig.119 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図㊂（1/3）



270

0 5 10cm



271

Fig.120 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑦ (1/3)

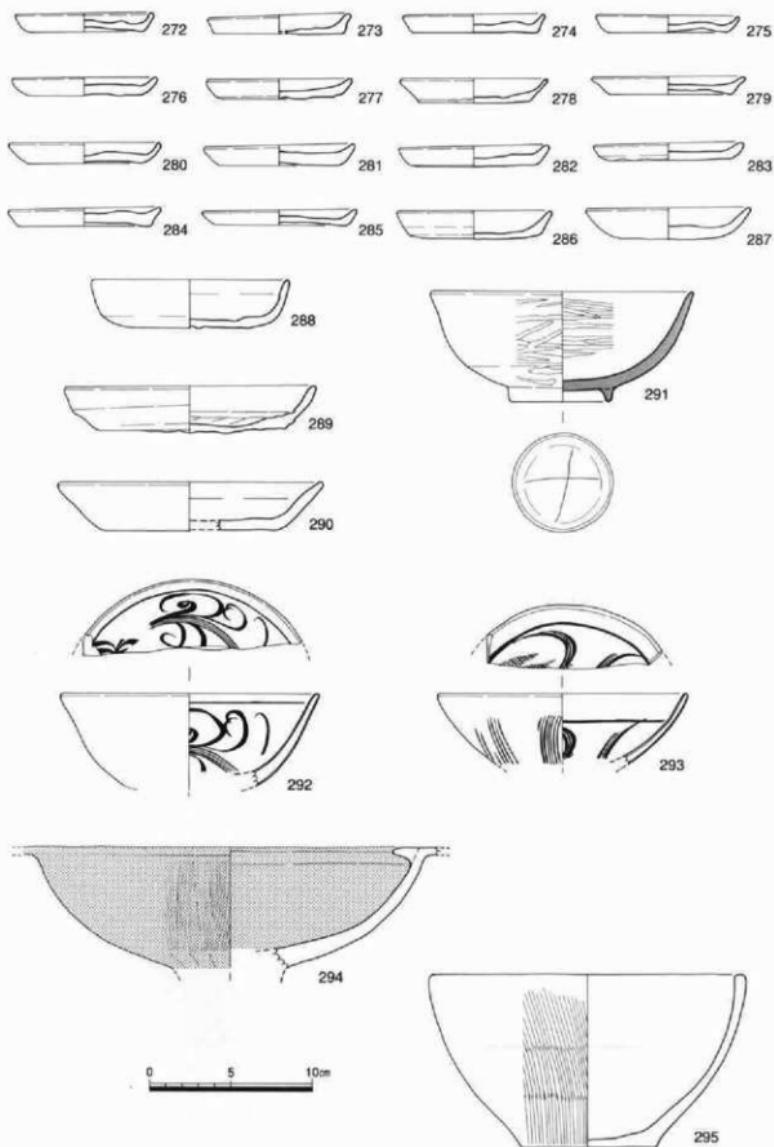


Fig.121 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図3 (1/3)

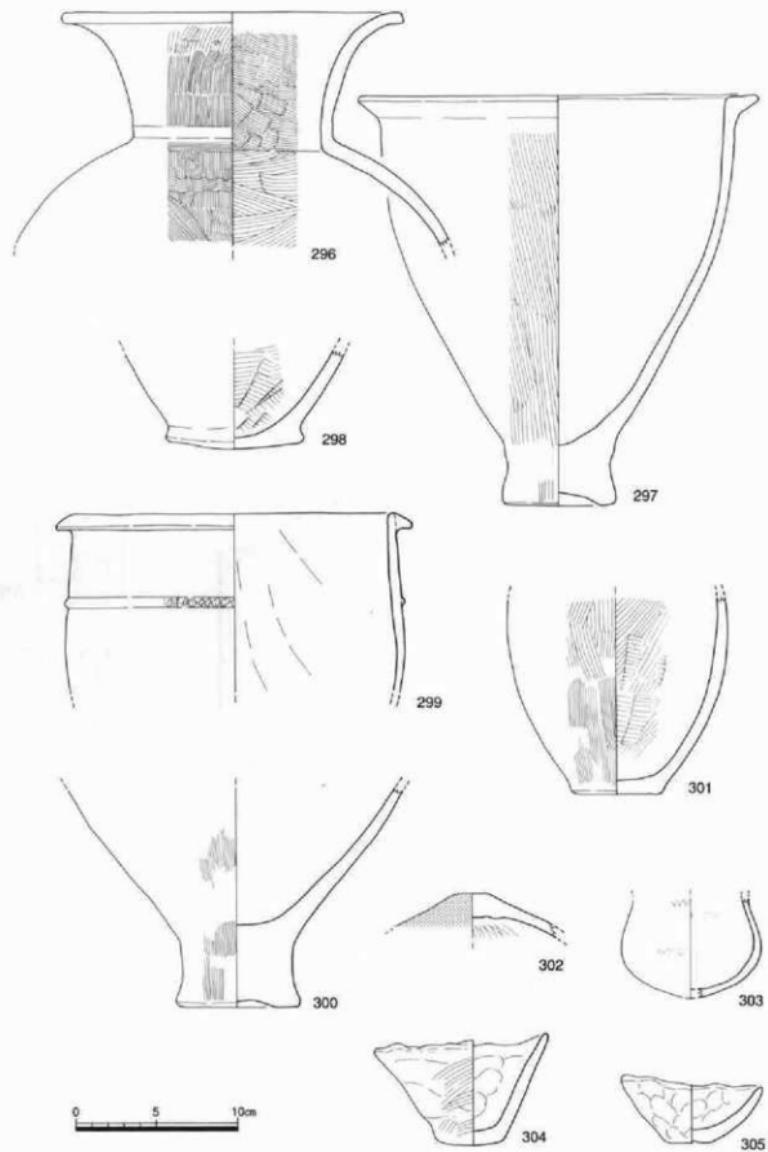


Fig.122 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図 (1/3)

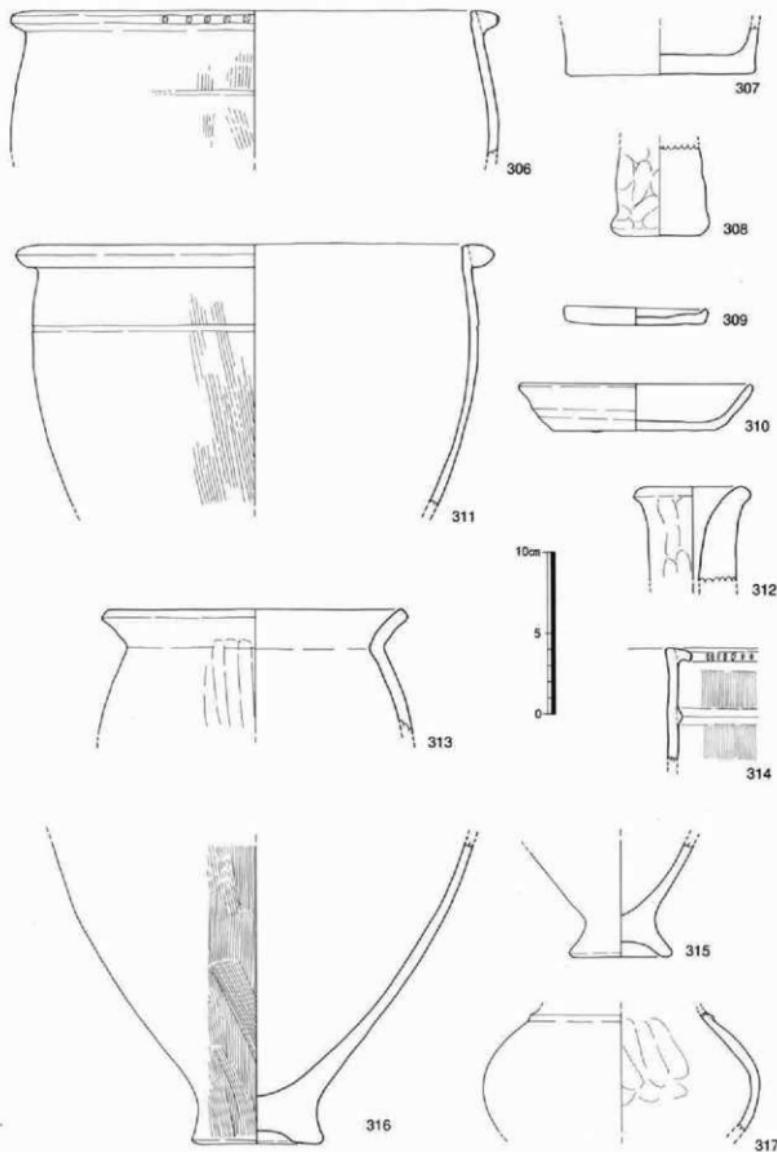


Fig.123 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図40（1/3）

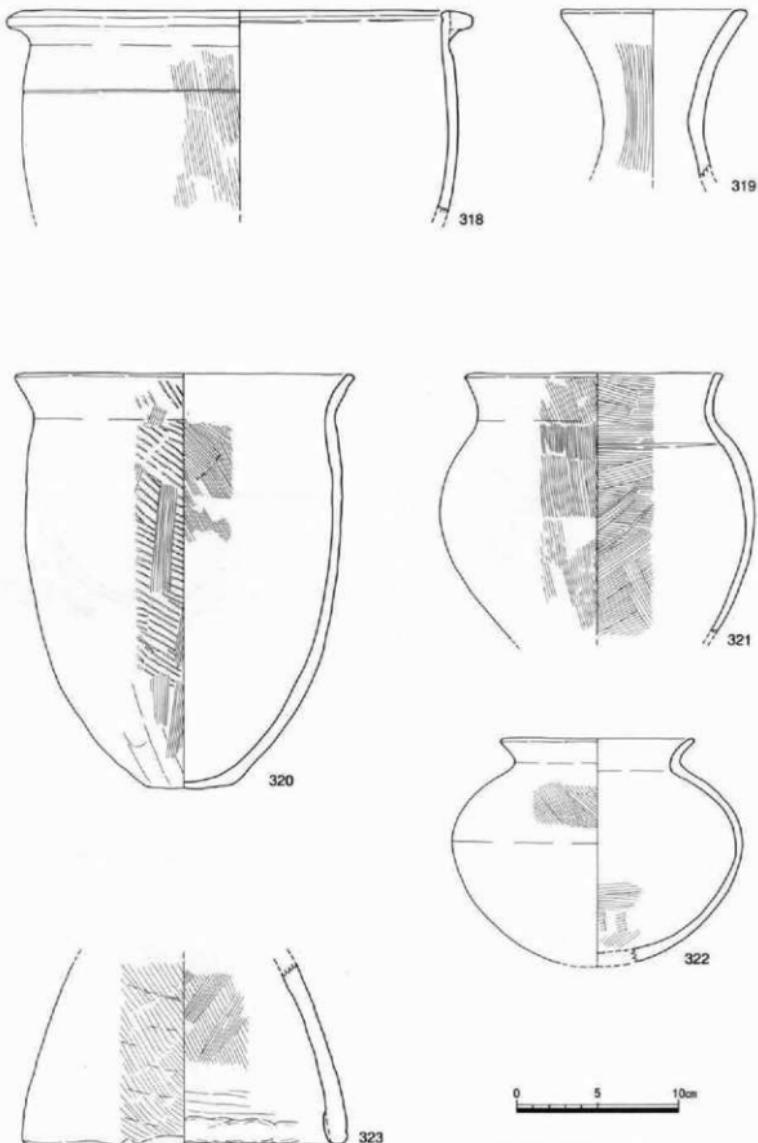


Fig.124 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図① (1/3)

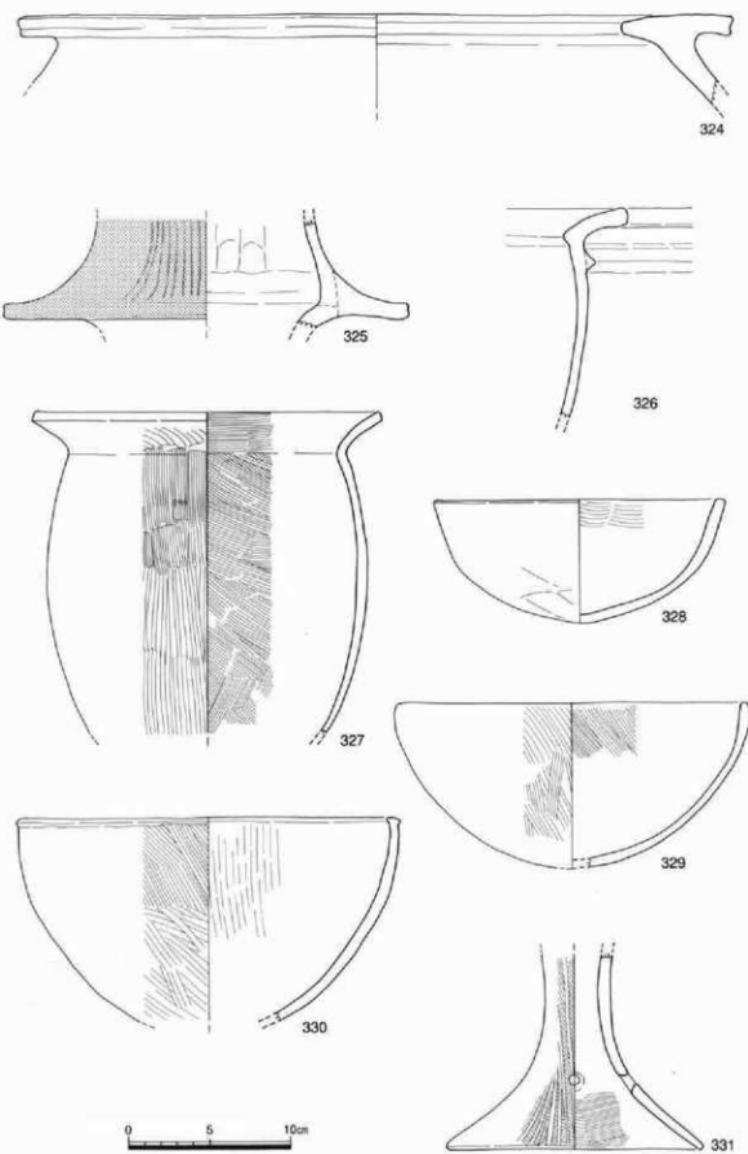


Fig.125 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図④（1/3）

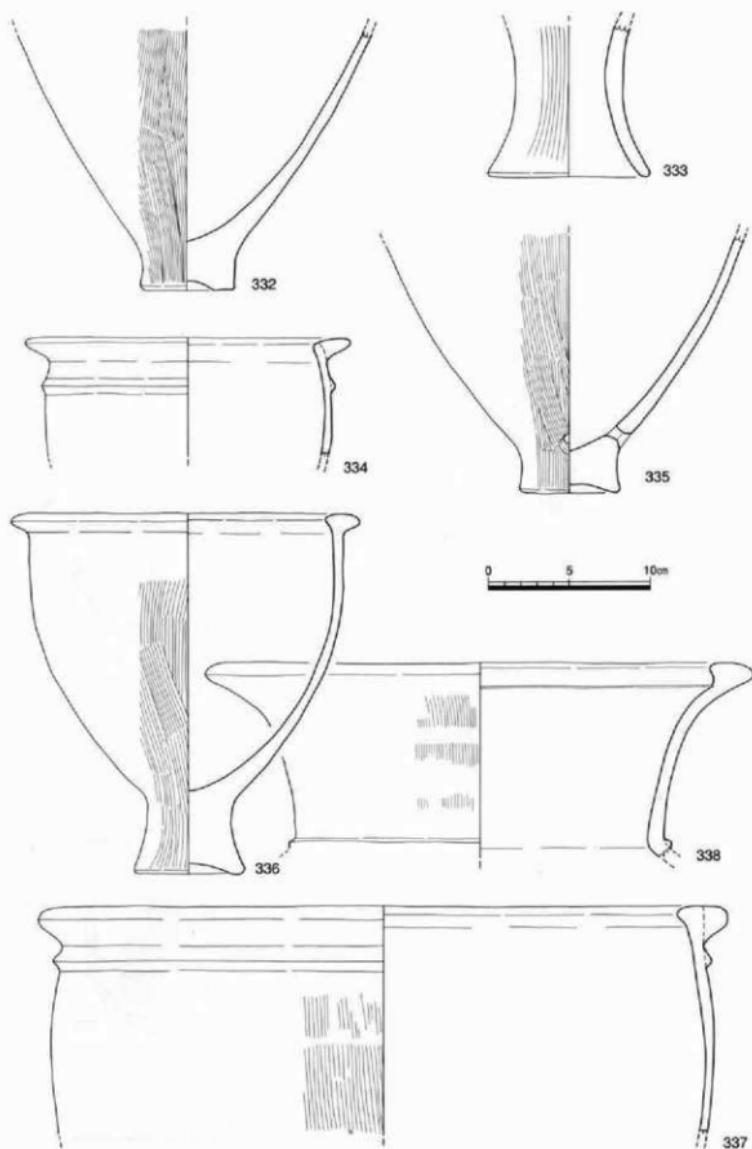


Fig.126 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図43（1/3）

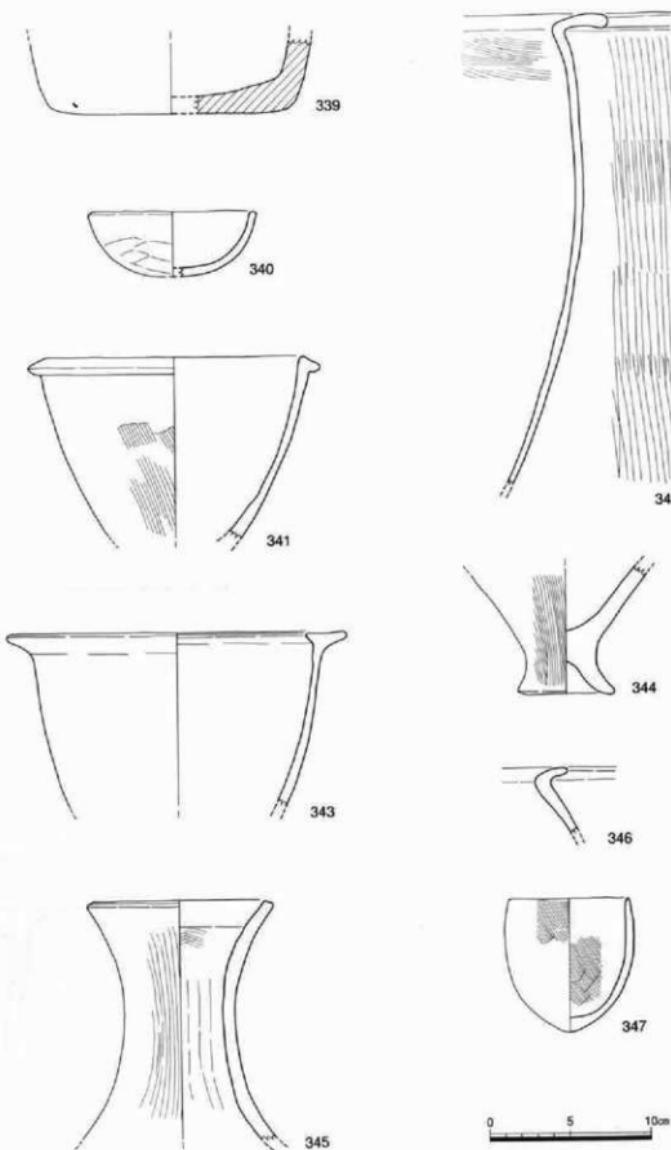
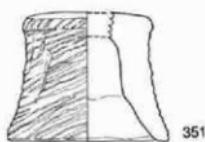
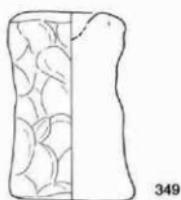
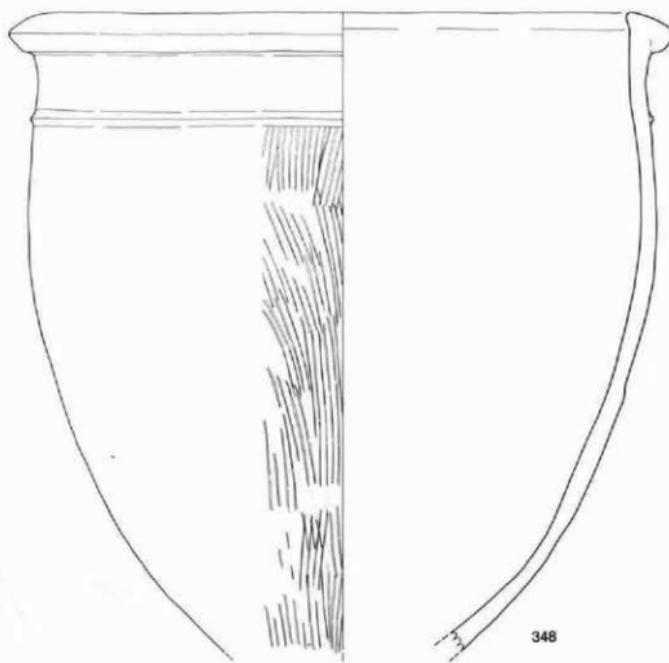


Fig.127 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図録（1/3）



0 5 10cm

Fig.128 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図④（1/3）

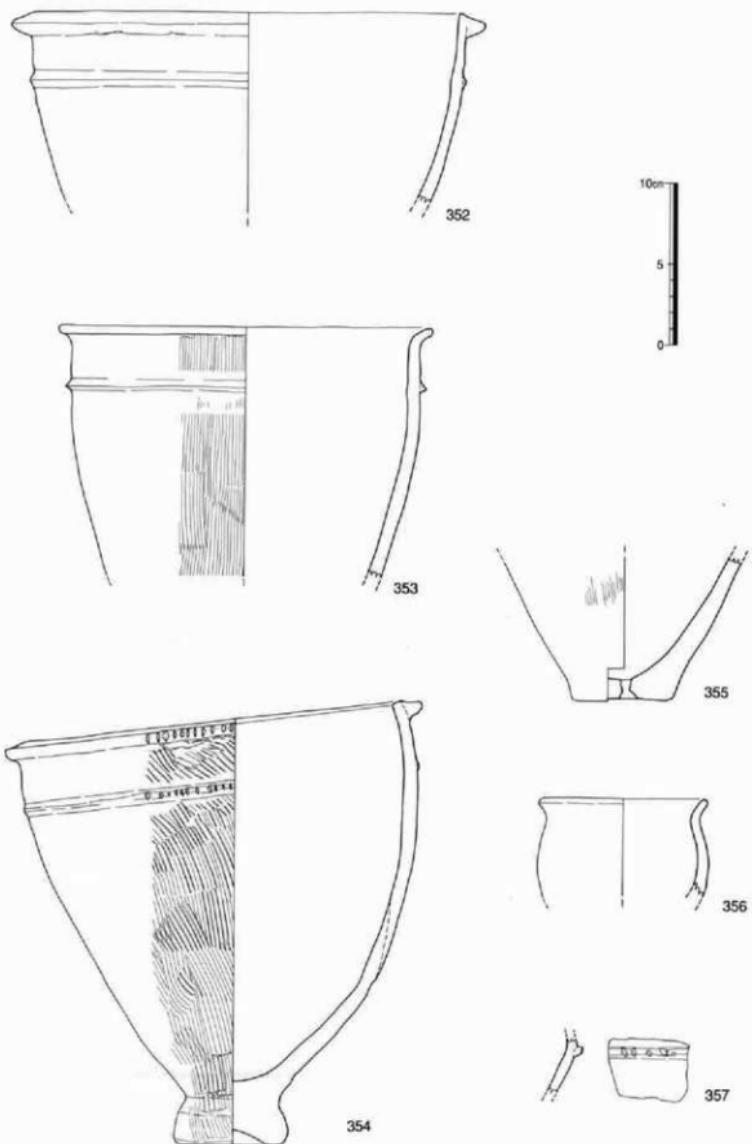


Fig.129 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑥ (1/3)

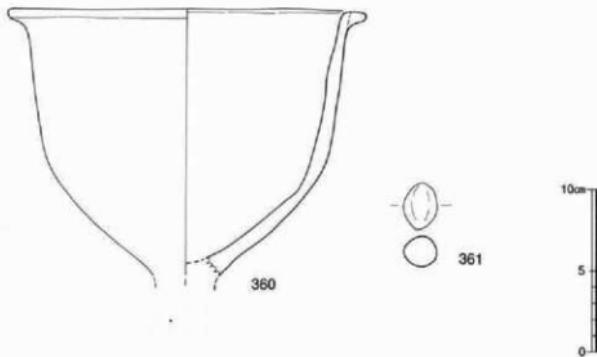
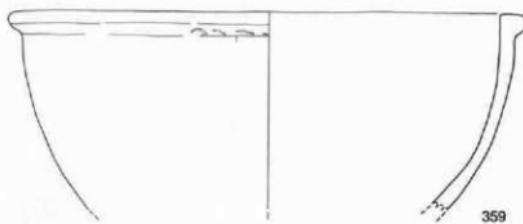
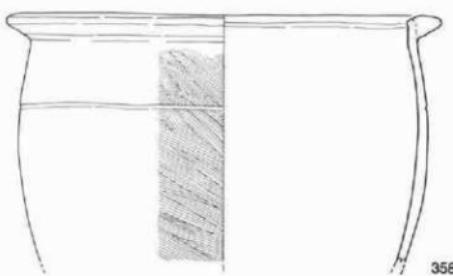


Fig.130 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図⑦（1/3）

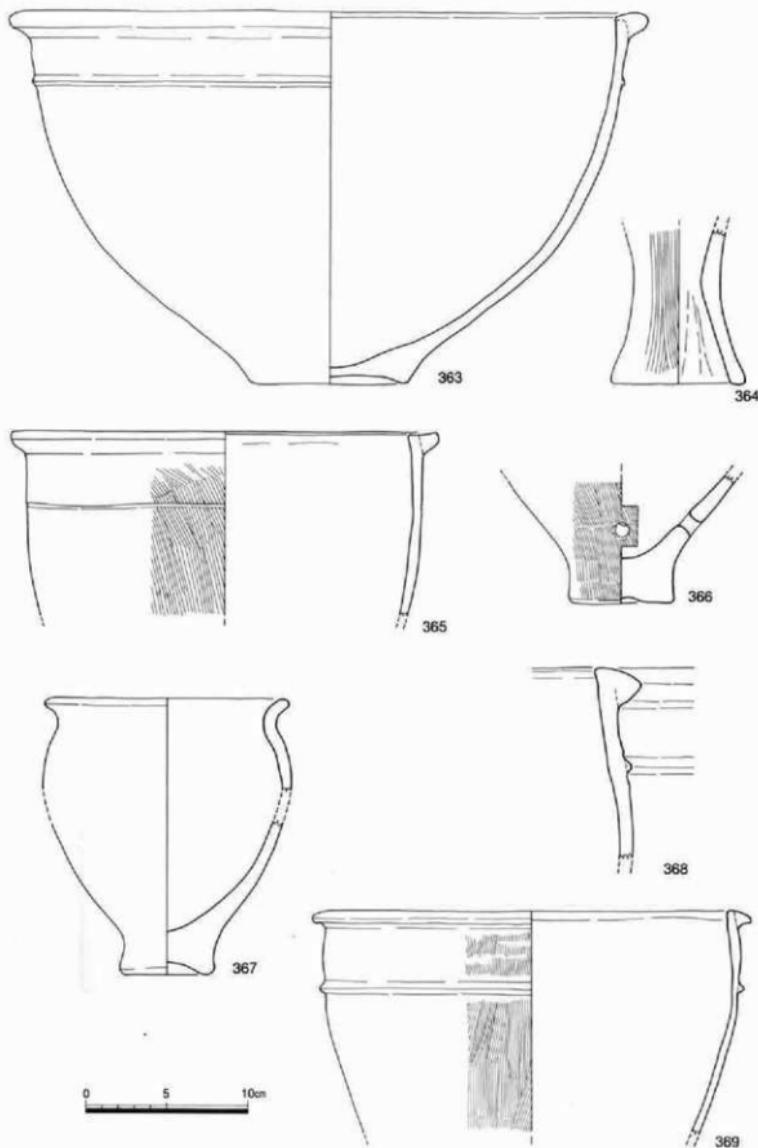


Fig.131 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図④（1/3）

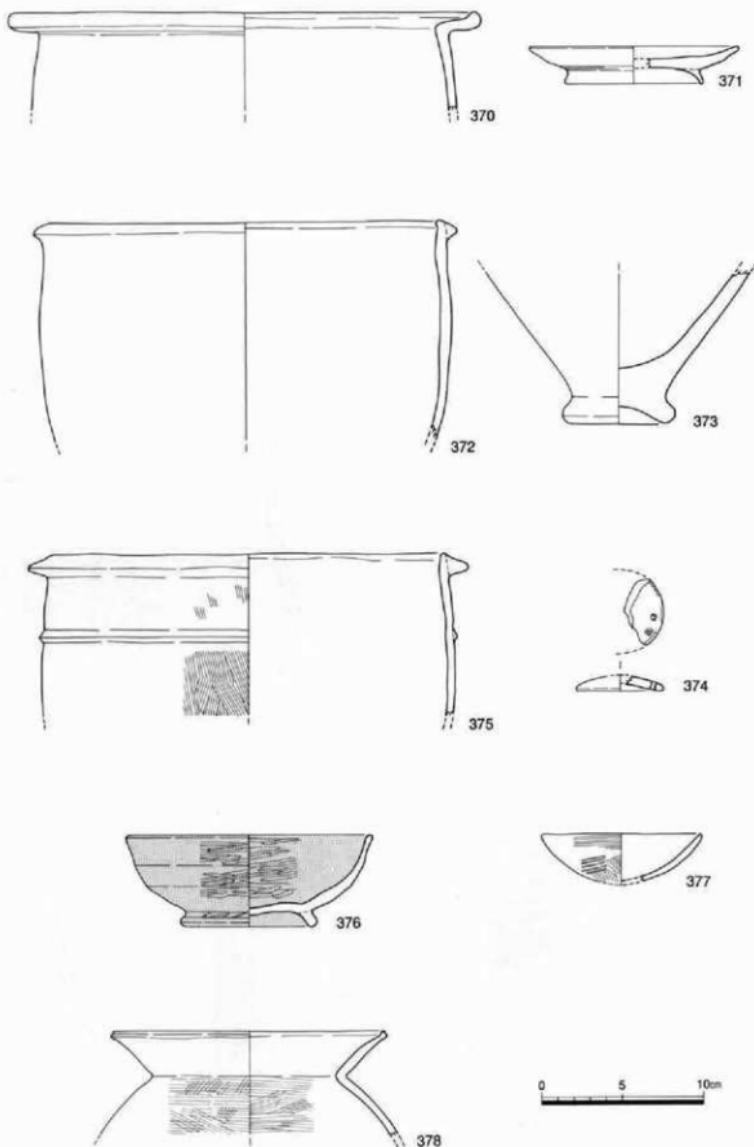


Fig.132 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図49（1/3）

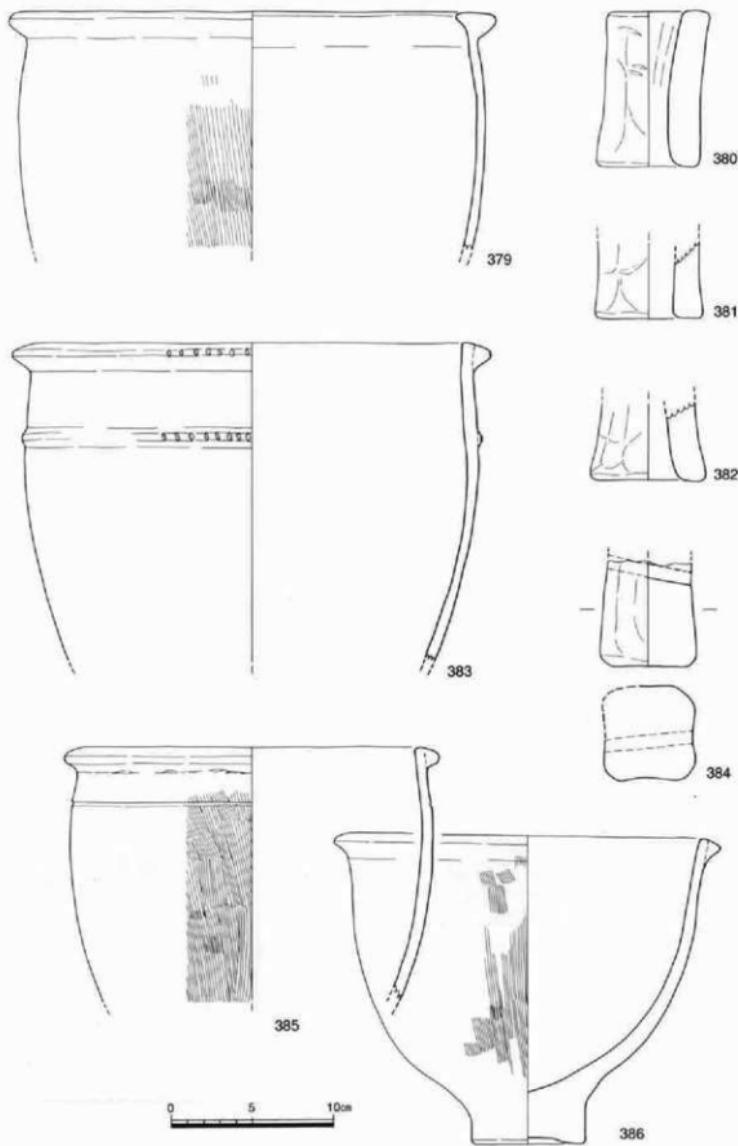


Fig.133 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図50（1/3）

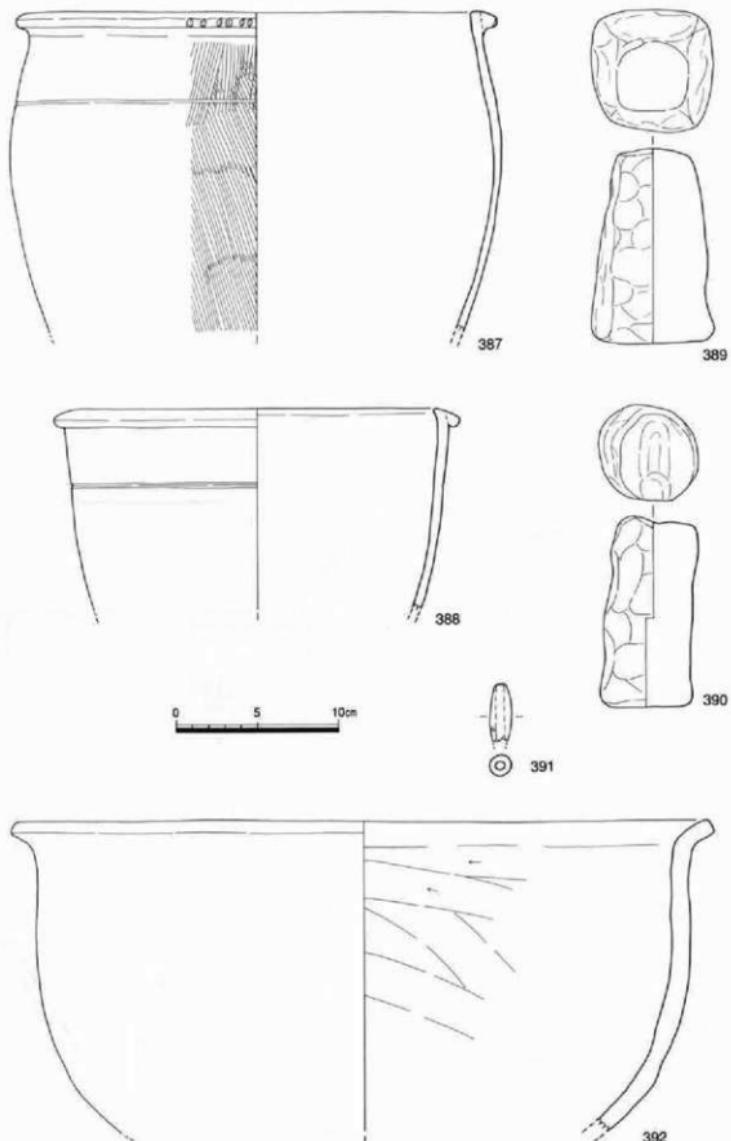


Fig.134 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図5) (1/3)

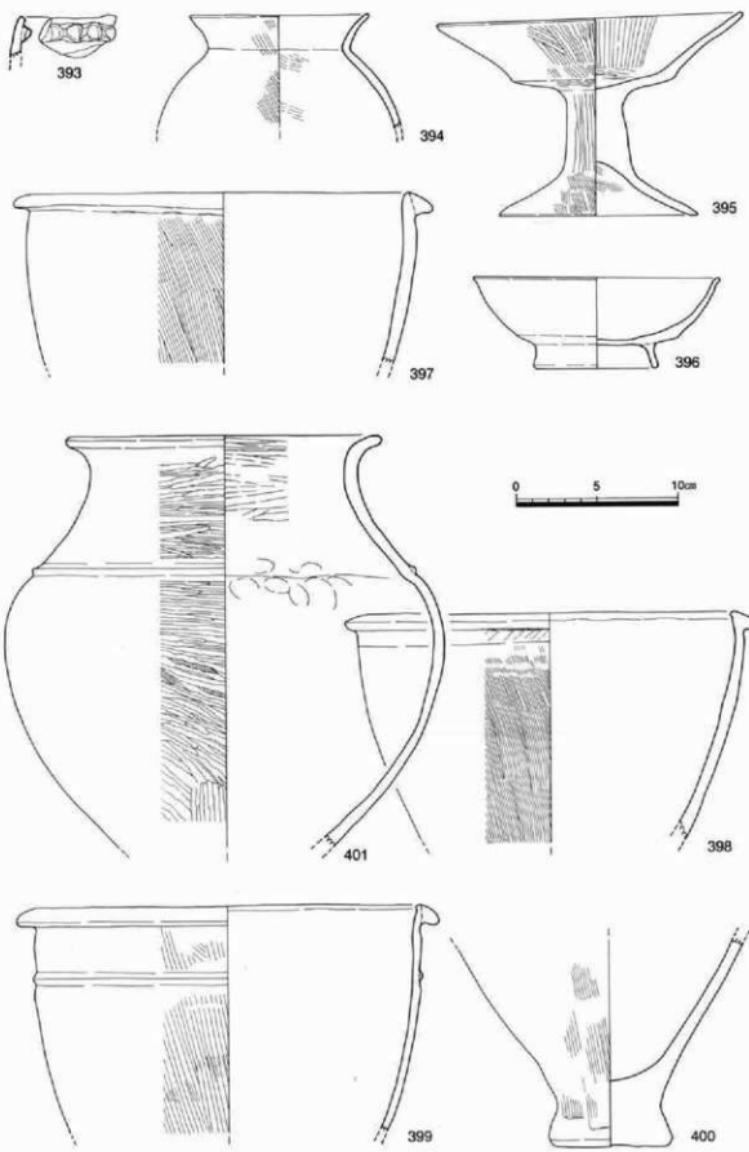


Fig.135 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図52（1/3）

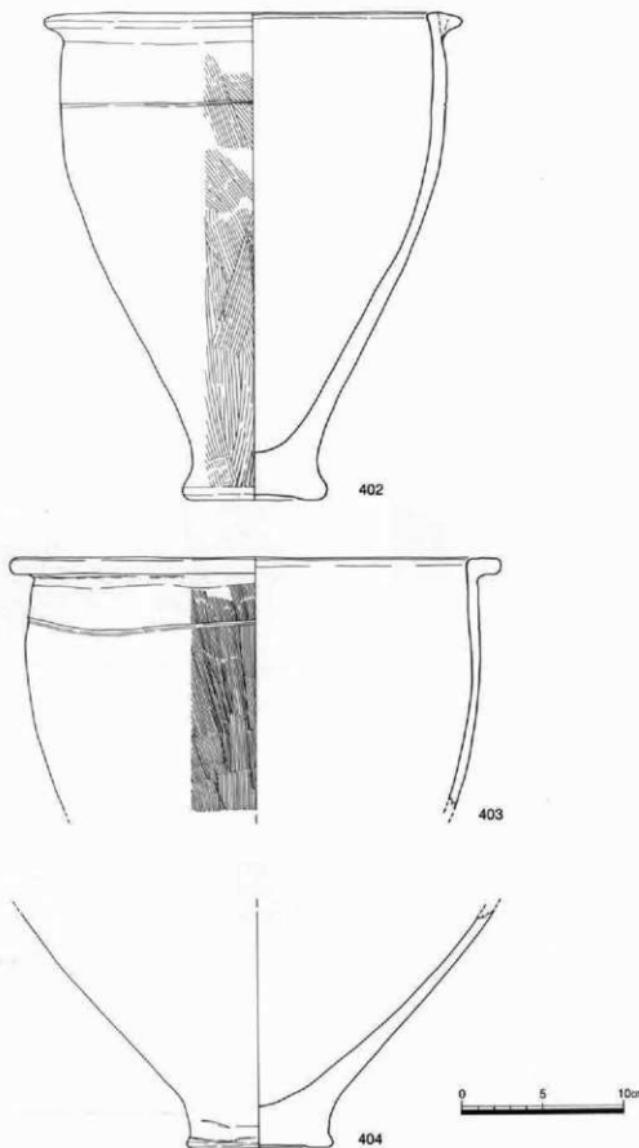


Fig.136 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図53 (1/3)

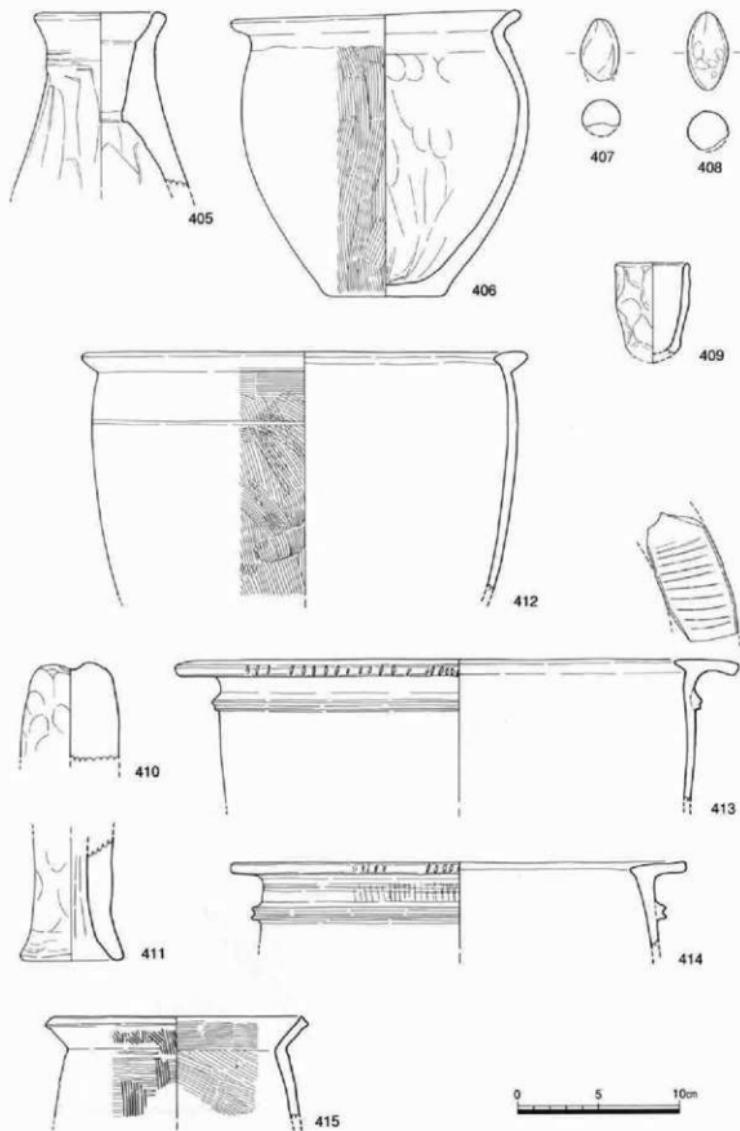


Fig.137 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図59（1/3）

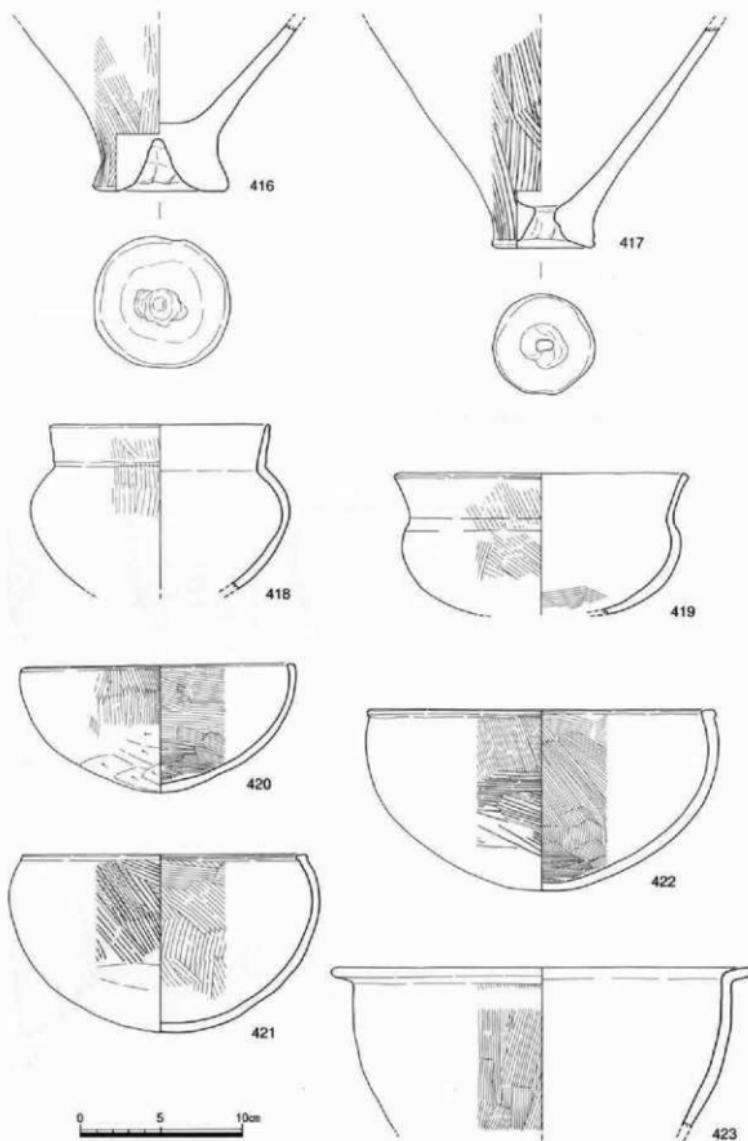


Fig.138 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図55（1/3）

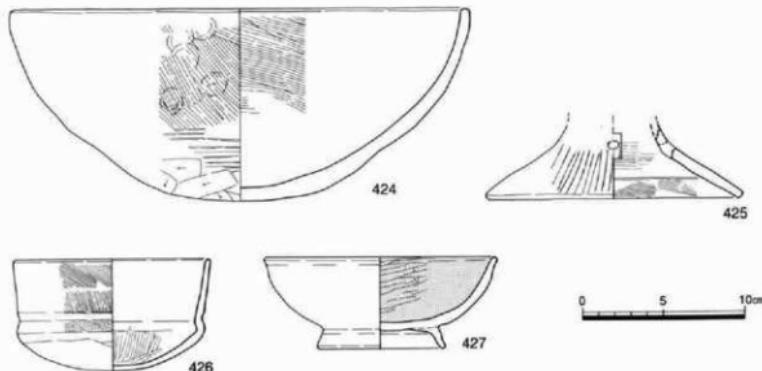


Fig.139 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図5 (1/3)

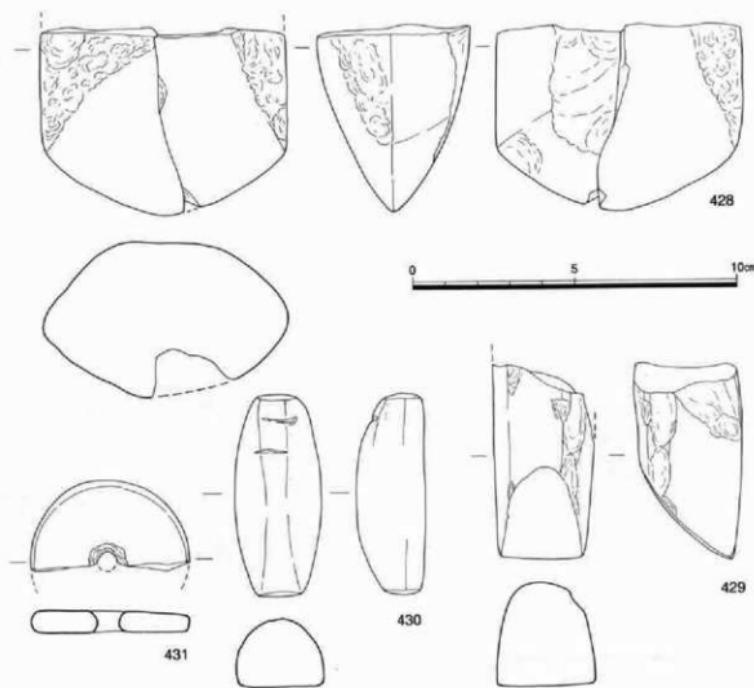


Fig.140 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図5 (2/3)

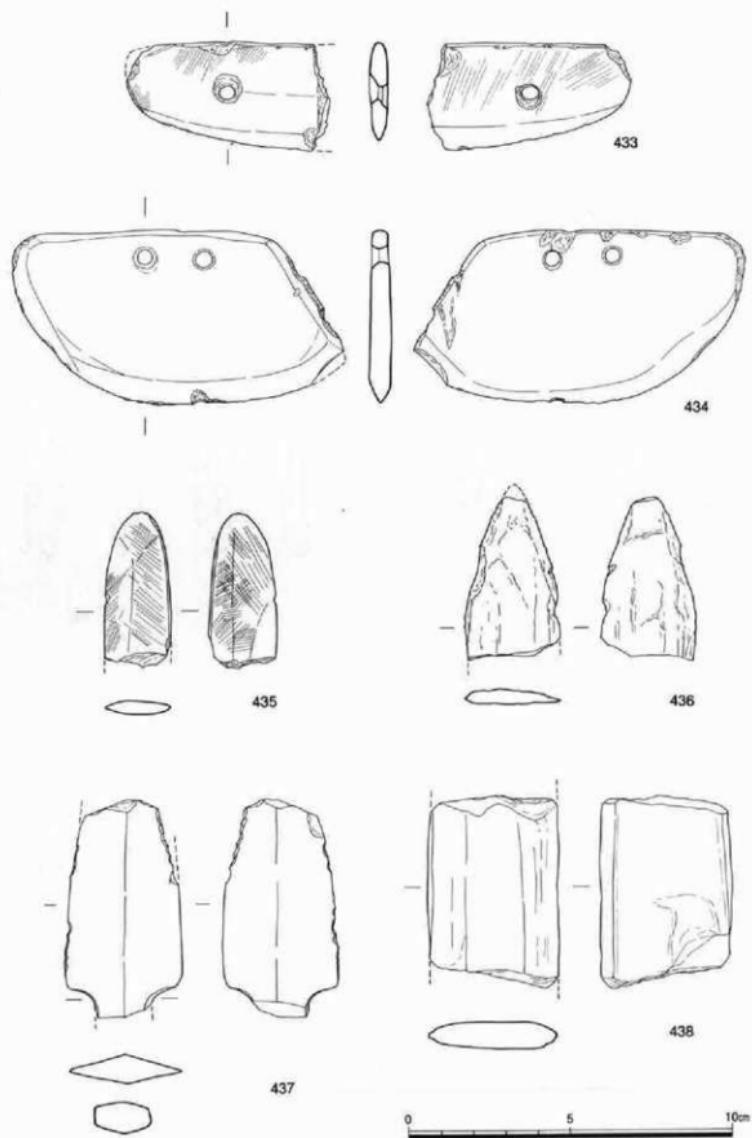
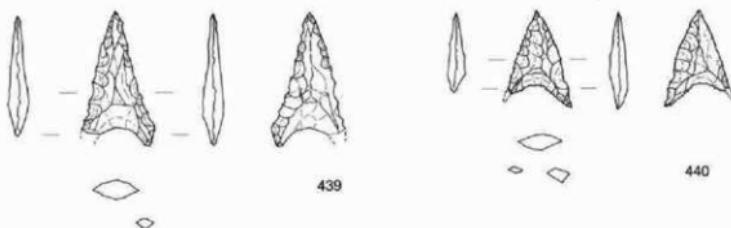
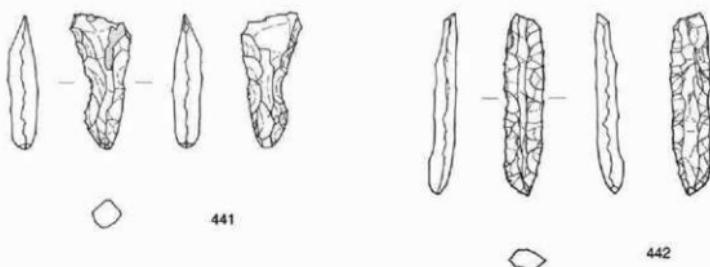


Fig.141 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図8 (2/3)



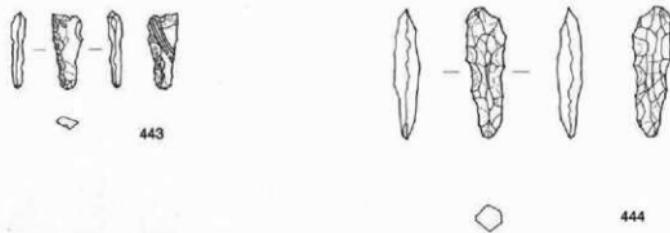
439

440



441

442



443

444



Fig.142 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物実測図59（2/3）

No.	遺物番号	部位	種別	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	残存	口縁部	外腹面	内腹面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R-N	
1	2SK0008	男生	甕		18.0			口縁部 1/6	横ナデ	刷毛	刷毛		明茶褐色	砂粒多	ほぼ良	「く」の字状		1	
2	2SK0008	男生	甕		11.2			口縁部 1/6	横ナデ	刷毛	ケズリ		明茶褐色	砂粒含	やや不良	底部に奥部1 条有		2	
3	2SK0013	男生	甕		12.6			上半部	横ナデ	刷毛	不明				良			3	
4	2SK0052	土師	环		14.1	9.5		ほぼ完形	横ナデ	刷毛	刷毛	刷毛			良好			4	
5	2SK0060	男生	甕		15.0			口縁部 1/8	横ナデ	ケズリ	?		明茶褐色	砂粒少	やや良	「く」の字状	口縁部に画有	5	
6	2SK0060	男生	甕					口縁部 1/6	横ナデ	?	ナデ		明茶褐色	砂粒多	やや良	「く」の字状	口縁部は外反する	6	
7	2SK0060	男生	甕		30.0			口縁部 1/3	横ナデ	刷毛	ナデ		黒茶色	砂粒多	良好	及/無		7	
8	2SK0065	男生	甕		6.2			底部のみ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	赤茶色	砂粒多	やや良		底部は上げ底状	9	
9	2SK0065	男生	甕		8.2			底部のみ	刷毛	刷毛	ナデ	未調整	白茶色	砂粒多	不良			8	
10	2SK0065	男生	甕		5.7			底部のみ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	灰黄色	砂粒多	不良	底部は上げ底状		10	
11	2SK0065	男生	甕		27.0			口縁部 1/10	横ナデ				黄茶色	砂粒含	やや良	通し字状	負担部の内面を 削りぬね上	13	
12	2SK0065	男生	甕		29.2			口縁部 1/10	横ナデ				深茶褐色 内深明茶色	砂粒含	良	通し字状	剥離げ部分を削 りぬねにまかせ	14	
13	2SK0065	男生	甕		15.1			口縁部 1/3	横ナデ	刷毛	ナデ		白灰色	砂粒含	良	「く」の字状	体部行彫り	15	
14	2SK0065	男生	甕		6.3	5.0	18.6	HII定形	横ナデ	刷毛	?	?	ナデ	白灰色	砂粒含	良	直立	頭部に突済1 条有	16
15	2SK0065	男生	高环		24.0			口縁部 1/4	横ナデ				赤茶色	砂粒含	良	T字状	全面万遍り	12	
16	2SK0065	男生	高环		24.0			口縁部 1/6	横ナデ				明茶褐色	砂粒含	良	T字状	頭部に画有	11	
17	2SK0075	男生	甕		16.4	4.0	30.9	HII定形	横ナデ	刷毛	ケズリ	未調整	薄茶色	砂粒含	良	「く」の字状		19	
18	2SK0081	男生	甕		17.6	10.2	22.0	1/2	横ナデ	刷毛	未調整		白茶色	砂粒含	やや不良	「く」の字状		21	
19	2SK0081	男生	甕		19.2			上半部	横ナデ	刷毛	刷毛		白茶色	砂粒多	やや不良	「く」の字状		20	
20	2SK0081	男生	甕		37.9			口縁部 1/6	横ナデ	刷毛	刷毛		灰茶色	砂粒多	やや不良	「く」の字状		22	
21	2SK0087	男生	蓋		33.8	12.0		1/3	横ナデ	刷毛	枝り痕		茶色	砂粒含	良好	蓋部に画有		23	
22	2SD0089	男生	甕		36.2			口縁部 1/6	横ナデ		ナデ		赤褐色	砂粒含	良	通し字状	底部に焼成後 隙孔	28	
23	2SD0089	男生	甕		6.5			底部のみ	刷毛	ナデ	ナデ	未調整	薄茶色	砂粒多	良	つまみ部上面 の調整はナデ		26	
24	2SD0089	男生	蓋					つまみ部 のみ	刷毛	刷毛	シボリ		外周赤褐色 内深茶色	砂粒含	良			27	
25	2SD0089	男生	鉢		15.3	5.8	7.4	1/3	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	?	明茶色 黒灰色	砂粒多	良	就端部に削が るが接合しない		25
26	2SD0089	男生	鉢		13.0	14.6	19.5	HII定形	横ナデ	刷毛	横ナデ	横ナデ	明茶色 黒灰色	砂粒含	良	外反	端部に画有		24
27	2SK0099	男生	甕		15.8			口縁部 1/3	横ナデ	刷毛	刷毛		灰茶色	砂粒多	不良	「く」の字状	端部に削有 み日有	30	
28	2SK0099	男生	甕		17.6			口縁部 1/3	横ナデ	刷毛	刷毛		淡茶色	砂粒多	良	外反	底部は上げ底 状	29	
29	2SD0100	男生	甕		8.5			底部のみ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	外周茶色 内白茶色	砂粒多	やや良	底部は上げ底 状		31	
30	2SK0108	男生	甕		6.9			底部のみ	刷毛	不明	不明	ナデ	外周茶色 内灰茶色	砂粒多	やや不良	全体外面に貼 付安寺1条有		32	
31	2SK0108	男生	甕		27.8			口縁部 1/3	横ナデ	刷毛	ナデ		薄明茶色	砂粒含	良	城/越 脚部外面に貼 付安寺1条有		33	
32	2SK0109	男生	甕		21.1			約1/4	横ナデ	ナデ	ナデ		明茶色	砂粒多	やや良	外反		34	
33	2SK0123	男生	甕		25.8			口縁部 1/8	横ナデ	刷毛	刷毛		淡茶褐色	砂粒多	良	「く」の字状	2次焼成を受 けた	36	
34	2SK0123	男生	甕					上半部	刷毛	ナデ			暗茶色	砂粒多	ほぼ良	全体部は8.6cm		35	
35	2SK0125	男生	小甕		5.2			口縁部 1/3	横ナデ	刷毛	ナデ		淡赤褐色	砂粒多	良	わざかに 外反	口縁部に画有		37
36	2SK0131	男生	鉢		13.0			口縁部 1/8					暗褐色	砂粒多	ほぼ良	わざかに 内湾		38	
37	2SK0131	土師A	环		15.0	6.4	1/3	手すく ね底形	手すく ね底形	手すく ね底形	手すく ね底形		暗褐色	精良	ほぼ良	わざかに 内湾		39	
38	2SK0147	黒B	环		8.4			口縁部 1/6	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	内黒茶色	精良	良好	外反		46	
39	2SK0147	黒B	环		11.4	6.6	4.8	HII定形 底部	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	外茶褐色	精良	良			48	
40	2SK0147	黒B	环					口縁部 1/3	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	黑色	精良	良好	外反		47	

Tab.12 梅島遺跡(第2次調査)出土遺物観察表①

No.	遺構番号	部位	種別	器種	口径 ^(cm)	底径 ^(cm)	高さ ^(cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	B-No.
41	ZSK0147	土師	皿	10.4	7.3	2.0		ほぼ完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	ナデ	回転ぎり	明赤褐色	精良	良好	わずかに内汚		40
42	ZSK0147	土師	皿	10.5	7.0	2.2		完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	ナデ	回転ぎり	淡茶褐色	ほぼ精良	良好	わずかに外反	外底面に粘土が付着している	41
43	ZSK0149	弥生	甕		4.2			底部のみ	ナデ	ナデ	ナデ	横ナデ	浅灰褐色	精良	良		底部は上手底状		49
44	ZSK0150	弥生	甕		10.6			下半部	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	良				50
45	ZSK0160	上層	弥生	鉢	14.0	5.0	6.0	完形	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	良	内汚		52
46	ZSK0160	上層	弥生	器台	11.7	13.2	14.1	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	横ナデ	横ナデ	横ナデ	淡灰褐色	砂粒少	ほぼ良	外反	底面部の面は接着地しない	53
47	ZSK0160	上層	弥生	甕	26.8	10.4	27.0	1112 ¹ 定形	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒多	やや不良	窓いくく	窓いくくの字状	54
48	ZSK0160	上層	弥生	甕	26.8	7.8	24.8	1112 ¹ 定形	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	良	窓いくくの字状		58
49	ZSK0160	上層	弥生	甕	33.6	8.6	34.1	1112 ¹ 定形	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良	窓いくくの字状		63
50	ZSK0160	上層	弥生	甕	27.6	10.3	25.4	1112 ¹ 定形	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒少	やや良	窓いくくの字状		59
51	ZSK0160	上層	弥生	甕	35.4	9.0	34.6	1112 ¹ 定形	横ナデ	刷毛	横ナデ	刷毛	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	やや良	窓いくくの字状		61
52	ZSK0160	上層	弥生	甕	27.0	11.5	26.0	2 / 3	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	良	窓いくくの字状		60
53	ZSK0160	上層	弥生	甕	36.0			上半部 1 / 3	横ナデ	刷毛	ナデ			明茶褐色	砂粒少	ほぼ良	窓いくくの字状	体部外周中段に突帯1条有	62
54	ZSK0160	上層	弥生	甕	26.5	7.5	27.5	3 / 4	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	オサエ	淡茶褐色	砂粒少	良	窓いくくの字状		57
55	ZSK0160	上層	弥生	甕	34.0			上半部 1 / 3	横ナデ	刷毛	ナデ			茶褐色	砂粒多	やや良	窓いくくの字状		55
56	ZSK0160	上層	土	甕	32.0			上半部 2 / 3	横ナデ	横ナデ	横ナデ			淡茶褐色	砂粒少	良	窓いくくの字状		64
57	ZSK0160	上層	弥生	甕	26.0			上半部 1 / 4	横ナデ	刷毛	ナデ			茶褐色	砂粒多	ほぼ良	窓いくくの字状	城ノ越タイプ	56
58	ZSK0160	下層	弥生	甕		6.5		下半部	粗く 研磨	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	乳褐色	精良	良		外側丹池り	51
59	ZSK0170	弥生	甕	环	18.0		8.0	1 / 6	不明	刷毛	刷毛	刷毛	不明	明赤褐色	砂粒多	良	横く外反		65
60	ZSK0170	弥生	甕					口縁部 鉢片	横ナデ	横ナデ	横ナデ	ナデ		淡赤褐色	砂粒多	やや不良	城ノ越	体部外面上位に突帯1条有	68
61	ZSK0170	弥生	甕		21.2		32.9	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	刷毛	刷毛	ナデ	赤褐色	砂粒多	良好	外反	口縁部に弱目有	70
62	ZSK0170	弥生	甕		17.6	4.0	24.7	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	刷毛	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒少	良	窓いくくの字状		69
63	ZSK0170	弥生	甕		6.6			底部 1 / 2	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良			66
64	ZSK0170	弥生	甕		30.0			口縁部 1 / 6	横ナデ	ナデ	ナデ			淡茶褐色	砂粒多	良	外反		67
65	ZSK0170	弥生	甕		7.2			底部のみ	刷毛	ナデ	刷毛	刷毛	ナデ	乳褐色	砂粒少	ほぼ良			71
66	ZSK0180	弥生	甕		18.0	9.0	25.5	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	ナデ	不明	不明	明赤褐色	砂粒多	良	外反	脛部に陶板文様有	76
67	ZSK0171	土師	皿		10.6	7.6	1.8	口縁部 1 / 8	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	素切り	明赤褐色	精良	良	わずかに内汚		72
68	ZSK0171	黒	椀			9.0		底部 1 / 2	横ナデ	瓦剥き	瓦剥き	瓦剥き	横ナデ	灰黑色	精良	良			73
69	ZSK0172	A?	高环			17.2		脚底部 1 / 8	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良		底部の面は櫻地しない	75
70	ZSK0172	弥生	甕					口縁部 鉢片	横ナデ	不明	ナデ			淡茶褐色	砂粒多	やや不良	城ノ越	タイプ	74
71	ZSK0181	弥生	鉢		11.0			口縁部 1 / 8	横ナデ	刷毛	ナデ			暗褐色	砂粒少	良	内縫	口縁下外縁に沈線1条有	77
72	ZSK0184	弥生	环		13.0	7.6	3.2	1 / 6	横ナデ	不明	横ナデ	横ナデ	窓切り	淡茶褐色	精良	やや不良	わずかに外反		78
73	ZSK0184	土師	椀		13.0			1 / 6	横ナデ	瓦剥き	不明			内底茶褐色	砂粒少	やや不良	わずかに外反		79
74	ZSK0185	黒A	甕		7.1			底部のみ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒多	ほぼ良			81
75	ZSK0185	弥生	甕		27.0			口縁部 1 / 6	横ナデ	刷毛	ナデ			明赤褐色	砂粒多	良	城ノ越	タイプ	80
76	ZSK0190	弥生	甕		11.4	6.3	10.3	2 / 3	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒少	良	丁字状	全縫合あり	82
77	ZSK0190	弥生	甕		24.0			上半部 1 / 4	横ナデ	刷毛	ナデ			明茶褐色	砂粒少	良	城ノ越	タイプ	84
78	ZSK0190	弥生	甕		5.8			底部のみ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	良	城ノ越	タイプ	83
79	ZSK0190	弥生	甕		29.0	5.7	36.0	ほぼ完形	不明	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒多	不良	城ノ越	タイプ	85
80	ZSK0191	弥生	甕		27.6			2 / 3	横ナデ	刷毛	ナデ			茶褐色	砂粒多	ほぼ良	城ノ越	タイプ	86

Table.13 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物観察表②

No.	遺構番号	部位	種別	目録番号	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存 口縁部 1/8	口縁部 外表面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形状 城ノ越	備考	R-Nr.
81	2SK0192	弥生	甕		34.0			横ナデ	刷毛	ナデ		乳白色	砂粒含	不良	口縁部裏面に見みる 器底外側に三重型 底足は上げ燒成	89	
82	2SK0191	弥生	甕		6.8			底部のみ	刷毛	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒含	良	底部は上げ燒成	92	
83	2SK0192	弥生	甕		7.0			底部のみ	刷毛	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒含	ほぼ良	底部は上げ燒成	91	
84	2SK0192	弥生	支脚	5.0	6.1	9.2	定形	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	良	上面と下面は くぼむ	93	
85	2SK0192	弥生	支脚	5.5	6.3	9.2	定形	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	良	上面と下面は くぼむ	94	
86	2SK0192	弥生	甕		23.0			口縁部 1/8	横ナデ	刷毛	ナデ		茶褐色	砂粒多	良	城ノ越 タイプ	88
87	2SK0192	弥生	甕		27.2			上半部 1/4	横ナデ	刷毛	ナデ		茶褐色	砂粒多	良	城ノ越 タイプ	87
88	2SK0192	弥生	甕		32.0			口縁部 1/6	横ナデ	刷毛	ナデ		暗茶褐色	砂粒多	良	城ノ越 タイプ	90
89	2SK0193	弥生	甕		16.0			上半部 1/5	不明	不明			淡灰褐色	砂粒含	良	「く」の 字状	95
90	2SK0194	弥生	甕					細片		刷毛	ナデ		茶褐色	砂粒含	良	体部内面に源 有	96
91	2SK0198	弥生	甕		15.0			上半部 1/4	横ナデ	刷毛	刷毛		淡茶褐色	砂粒少	良	「く」の 字状	97
92	2SK0201	弥生	甕					細片	横ナデ	刷毛	ナデ		淡茶褐色	砂粒少	良	城ノ越 タイプ	98
93	2SK0205	弥生	甕					細片	横ナデ	横ナデ	ナデ		茶褐色	砂粒少	良	「く」の 字状 裏面に直有	99
94	2SK0206	弥生	甕	4.5	6.2	12.5	ほぼ定形	横ナデ	刷毛	不明	不明	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良 わずかに 内溝	100	
95	2SK0206	弥生	甕	9.0				1/2	横ナデ	刷毛	刷毛	ナデ	茶褐色	砂粒少	ほぼ良 直立	101	
96	2SK0206	弥生	甕					口縁部 細片	横ナデ	刷毛	刷毛		淡茶褐色	砂粒少	良	「く」の 字状 裏有	102
97	2SK0207	弥生	甕	25.2	8.0	28.1	ほぼ定形	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ		暗褐色	砂粒多	ほぼ良	城ノ越 タイプ	104
98	2SK0207	弥生	甕	26.6				上半部 1/2	横ナデ	刷毛	ナデ		茶褐色	砂粒多	ほぼ良	城ノ越 タイプ	105
99	2SK0207	弥生	甕	7.0				1/5		ナデ	ナデ	ナデ	赤褐色	砂粒多	良		103
100	2SK0210	弥生	甕	13.6				口縁部 1/4	横ナデ	刷毛	刷毛		淡茶褐色	砂粒少	やや不良 直立	口縁部裏面に直 有	116
101	2SK0210	弥生	甕	18.0				口縁部 1/4	横ナデ	刷毛	刷毛		茶褐色	砂粒少	良	「く」の 字状 裏有	114
102	2SK0210	弥生	甕	22.0				口縁部 1/4	横ナデ	横割り	刷毛		淡灰褐色	砂粒多	不良	「く」の 字状 裏有	115
103	2SK0210	弥生	甕	17.2	4.5	33.5	ほぼ定形	横ナデ	刷毛	刷毛	ナデ		茶褐色	砂粒含	良	はば直立	113
104	2SK0210	上層	土器	环	9.4	5.3	定形	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		茶褐色	砂粒少	やや不良 内溝	口縁部裏面に直 有 直立	108
105	2SK0210	上層	土器	环	10.7	4.5	定形	横ナデ	刷毛	刷毛	不明		淡赤褐色	砂粒少	やや不良 内溝	口縁部裏面に直 有 内溝	106
106	2SK0210	上層	土器	环	12.8	5.8	ほぼ定形	横ナデ	横割り	ナデ	ナデ		淡灰褐色	砂粒多	不良	「く」の 字状 内溝	107
107	2SK0210	上層	弥生	鉢	19.5			口縁部 のみ	横ナデ	刷毛	横ナデ		淡茶褐色	砂粒少	良	「く」の 字状	111
108	2SK0210	上層	土器	鉢	15.6			1/3	横ナデ	不明	ナデ		淡茶褐色	砂粒少	良	はば直立	112
109	2SK0210	上層	弥生	甕?	16.1	34.1	ほぼ定形	横ナデ	刷毛	刷毛	ナデ		茶褐色	砂粒含	良好	背反 腹部に直有	148
110	2SK0210	上層	弥生	甕	20.0			上半部	横ナデ	刷毛	刷毛		淡茶褐色	砂粒少	良	口縁部裏面に直 有 直立	110
111	2SK0210	上層	土器	高环	11.2			脚部のみ		不明	不明		淡茶褐色	砂粒少	直立 ゆるやかに 外反		109
112	2SK0210	上層	弥生	甕?				口縁部 細片	横ナデ	不明	刷毛		淡棕褐色	砂粒含	良好	「く」の 字状 直立	437
113	2SK0210	下層	弥生	甕	14.3			底部欠損	横ナデ	刷毛	刷毛		淡茶褐色	砂粒多	ほぼ良	口縁部裏面に直 有 直立	139
114	2SK0210	下層	弥生	甕	20.5			上半部	横ナデ	刷毛	刷毛		茶褐色	砂粒少	直立 直立する	直立する	126
115	2SK0210	下層	弥生	甕	20.5			2/3	横ナデ	刷毛	刷毛		茶褐色	砂粒少	ほぼ良	はば直立 直立する	125
116	2SK0210	下層	弥生	鉢	14.8			1/2	横ナデ	不明	ナデ		淡茶褐色	砂粒含	良好	織く外反	439
117	2SK0210	下層	弥生	甕	11.0			上半部	横ナデ	刷毛	刷毛		茶褐色	砂粒少	直立		117
118	2SK0210	下層	弥生	高环	14.8			脚部のみ	不明	不明	不明		淡茶褐色	精良	やや不良	3ヶ所に穿孔 底部の前面に直 有	119
119	2SK0210	下層	弥生	高环	11.4			脚部のみ	刷毛	刷毛	横ナデ		茶褐色	精良	良	3ヶ所に穿孔 化粧土を施す	118
120	2SK0210	下層	弥生	器台	14.4	18.0	20.0	1/2	横ナデ	ヨコナ	ナデ		淡茶褐色	砂粒少	直立	底部の前面に直 有	121

Tab.14 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物観察表③

No.	遺構番号	部位	種別	器種	口径(cm)	直径(cm)	高さ(cm)	残存	口縁部	外表面	体内部	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R-N	
121	2SK0210	下層	弥生	器台	14.0			口縁部のみ	研毛 印き	研毛 ナデ			淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良	内側に強く屈曲		123		
122	2SK0210	下層	弥生	器台	18.0			1/2	口縁部	研毛 印き	研毛 ナデ	研毛	叩き	明茶褐色	砂粒少	ほぼ良	外側に強く屈曲	焼成しない	122	
123	2SK0210	下層	弥生	器台	14.4	20.0	17.6	1/2	横ナデ	研毛 ナデ	研毛 ナデ	研毛	叩き	暗茶褐色	砂粒少	ほぼ良	内側に強く屈曲	焼成部の表面は焼成しない	124	
124	2SK0217	弥生	鉢	16.2		7.7		1/2	横ナデ	磨擦	ナデ			淡茶褐色	砂粒多	良	内溝	口縁部は直立する	127	
125	2SK0217	弥生	鉢	26.4				1/4	横ナデ	研毛	ナデ			茶褐色	砂粒少	ほぼ良	城ノ越	体部上位外表面に焼成上条有	128	
126	2SK0220	弥生	鉢					2/3	横ナデ	研毛	ナデ			淡茶褐色	砂粒少	やや不良	「く」の字状		130	
127	2SK0220	弥生	鉢	18.0	6.0	36.1		1/2定形	横ナデ	研毛	研毛	研毛	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	良	外反	頭部は直立する	133	
128	2SK0220	弥生	鉢	17.0				2/3	横ナデ	研毛	研毛			淡茶褐色	砂粒多	良	外反	頭部は直立する	131	
129	2SK0220	弥生	支脚					完形	(上部) ナデ	叩き	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良	上部中央に上方から1条有		129	
130	2SK0220	弥生	鉢	23.8				上半部	横ナデ	研毛	研毛			茶褐色	砂粒少	良	外反	頭部は直立する	132	
131	2SK0242	弥生	鉢					細片	横ナデ	研毛	研毛			淡茶褐色	砂粒多	良	内外面に凹凸有	口縁部上部に彫り目有	134	
132	2SK0245	弥生	鉢	9.4				口縁部 1/6	横ナデ	研毛	不明			赤褐色	砂粒多	良	「く」の字状	頭部は直立する	135	
133	2SK0246	弥生	鉢	31.5				上半部	横ナデ	研毛	ナデ			暗褐色	砂粒多	ほぼ良	城ノ越	体部上位外表面に焼成1条有	136	
134	2SK0249	弥生	鉢	25.0				口縁部 1/4	横ナデ	研毛	研毛			淡茶褐色	砂粒含	良	城ノ越	頭部に強く外反	137	
135	2SK0250	弥生	鉢	27.0				口縁部 のみ	横ナデ	ナデ	ナデ			暗褐色	砂粒少	ほぼ良	外反	口縁部前面に強く外反	頭部は直立せず味	138
136	2SK0251	土師	皿	9.0	7.0	1.3		ほぼ完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	あ切り	淡茶褐色	砂粒少	良	外方に聞く		139	
137	2SK0251	弥生	器台			8.5		2/3			ナデ	ナデ	横ナデ	淡茶褐色	砂粒含	良			140	
138	2SK0251	弥生	鉢	24.0				口縁部 1/4	横ナデ	研毛	ナデ			暗褐色	砂粒多	良	城ノ越	体部上位外表面に焼成1条有	141	
139	2SK0251	弥生	器台	盛合?	28.6			口縁部 1/4	横ナデ	研毛	ナデ			茶褐色	砂粒含	1/2不良	頭部の面は焼成しない		142	
140	2SK0251	弥生	鉢			7.2		下半部	横ナデ	叩き	叩き	横ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒多	良	体部最下位に乳孔有	外方に聞く	143	
141	2SD0260	弥生	鉢					細片	横ナデ	研毛	ナデ			赤褐色	砂粒含	不良	T字状		148	
142	2SD0260	弥生	鉢					細片	横ナデ	不明	ナデ			淡茶褐色	砂粒多	良	城ノ越	体部上位外表面に焼成1条有	149	
143	2SD0260	弥生	鉢					細片	横ナデ	不明	不明			暗赤褐色	粗粒	ほぼ良	T字状	口縁部前面に強く外反	150	
144	2SD0260	弥生	高環	17.6				脚底部 4/5	磨き	ナデ	横ナデ	横ナデ	明赤褐色	砂粒少	良	丁字状		151		
145	2SD0260	土師	环	12.4	7.3	3.0		ほぼ完形	横ナデ	横ナデ	不明	不明	鋸切り	淡赤褐色	良	やや不良	わずかに外反		144	
146	2SD0260	土師	环	13.4	8.6	2.9		ほぼ完形	横ナデ	横ナデ	回輪	鋸切り	横ナデ	淡赤褐色	良	やや不良	外方に聞く		145	
147	2SD0260	土師	环	14.0	7.6	3.6	1/3	横ナデ	横ナデ	回輪	鋸切り	不明	不明	鋸切り	淡赤褐色	良	外方に聞く		146	
148	2SD0260	青磁	碗	17.0				口縁部 1/4						青磁有彩色 黒斑点有	精良	良	外反	体部外表面に黒斑点有	147	
149	2SK0262	土師	环	13.0	7.5	3.4	1/2	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	是切り	淡赤褐色	ほぼ精良	良	外方に聞く		152		
150	2SK0262	土師	环	14.0	8.3	3.8	1/3	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	是切り	淡茶褐色	砂粒少	良	外方に聞く		153		
151	2SK0262	土師	环	12.8	7.3	3.7		完形	不明	不明	不明	不明	不明	淡青灰色	砂粒少	不良	外方に聞く	伝統内面に淡青有	154	
152	2SD0270	土師	豆?	31.0				口縁部 1/6	横ナデ	研毛	ナデ			淡青灰色	精良	ほぼ良	城ノ越	伝統内面に淡青有	159	
153	2SD0270	土師	豆?					口縁部 細片	横ナデ	横ナデ	ナデ			淡灰色	砂粒多	良	頭部肥厚		160	
154	2SD0270	土師	土鍋	49.0				口縁部 1/4	横ナデ	研毛	研毛			暗茶褐色	砂粒含	良	わずかに外反		157	
155	2SD0270	土師	土鍋					細片	横ナデ	研毛	横ナデ			暗褐色	ほぼ精良	良	玉縁状		156	
156	2SD0270	瓦質	环	20.0	14.0	1.4		横ナデ	ナデ	研毛				淡墨灰褐色	砂粒多	やや不良	大きく述反		158	
157	2SD0270	土師	环	11.6	7.0	3.4		ほぼ完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	水切り	淡茶褐色	精良	良	外方に聞く		155	
158	2SD0270	青磁	皿	11.6	1.5	4.0		ほぼ完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	水切り	淡青灰色	精良	良	内溝	内底見込みの輪郭	161	
159	2SD0270	磁器	皿	12.0	4.2	3.2	1/3	施釉	施釉	施釉	施釉	露胎	露胎	上手手形	精良	ほぼ良	外反	内底見込みに目立つ有	163	
160	2SD0270	磁器	皿	12.1	5.1	3.6	1/2	施釉	施釉	施釉	施釉	露胎	露胎	上手手形	精良	ほぼ良	内溝	内底見込みの輪郭	162	

Tab.15 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物観察表④

No.	遺構番号	部位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	口縁部	外表面	内底面	外底面	色調	粘土	焼成	口縁部形状	備考	R-N.
161	2SD0270	器窓	皿	13.8	4.5	2.9	1/6	施釉	施釉	施釉	露胎	新玉瓦灰色 和田青白	はぼれ目	良	内酒	小口見込みの器 輪郭に墨を塗る	164	
162	2SD0270	乗付	器窓	7.4	3.3	2.8	1/3	施釉	施釉	施釉	施釉	新玉白色 和田青白	精良	良好	はぼ直立	外縁にシニカニ 印記による施文有	166	
163	2SD0270	乗付	器窓	8.4	3.3	4.5	1/2	施釉	施釉	施釉	施釉	新玉白色 和田青白	精良	良好	はぼ直立	外縁に削開り 文有	167	
164	2SD0270	乗付	碗	10.2	4.1	5.2	2/3	施釉	施釉	施釉	施釉	新玉白色 和田青白	精良	良好	はぼ直立		171	
165	2SD0270	乗付	碗	10.0	4.0	4.9	1/2	施釉	施釉	施釉	施釉	新玉白色 和田青白	精良	良好	はぼ直立		170	
166	2SD0270	乗付	碗	10.9	4.5	5.6	2/3	施釉	施釉	施釉	施釉	新玉白色 和田青白	精良	良好	はぼ直立		169	
167	2SD0270	乗付	碗	10.0	4.0	4.9	1/2	施釉	施釉	施釉	施釉	新玉白色 和田青白	精良	良好	はぼ直立	高台見込みに手標 の「少鹽」文有	168	
168	2SD0270	乗付	皿	14.4	8.4	3.1	1/4	施釉	施釉	施釉	施釉	新玉白色 和田青白	精良	良好	ゆるく内溝		172	
169	2SD0270	陶器	器窓	11.8	8.2	8.2	1/4	施釉	施釉	施釉	施釉	新玉青褐色 和田青白	精良	良好	内縁に折 曲げる		165	
170	2SK0277	弥生	甕	17.0	5.5	21.1	はぼ定形	横ナデ	刷毛	刷毛	ナデ	茶褐色	砂粒少	はぼ良	口縁部に面 有	口縁部に面 有	188	
171	2SK0277	弥生	高环	25.0			口縁部 1/6	横ナデ	施削り	横ナデ		黒灰色	砂粒少	はぼ良	外反		175	
172	2SK0277	弥生	高环				口縁部 断片	横ナデ	横ナデ	横ナデ		淡赤褐色	精良	良	外反		176	
173	2SK0277	弥生	鉢	20.8		11.9	はぼ定形	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	良	わざかに 内溝 有	口縁部上面 に面有	174	
174	2SK0277	弥生	鉢	27.4			1/3	横ナデ	刷毛	刷毛		淡灰茶色	砂粒少	良	内溝 有	口縁部に面 有	195	
175	2SK0277	弥生	甕	16.0	18.4	20.1	はぼ定形	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	良	口縁部に不 明瞭な面有		173	
176	2SK0278	弥生	甕				底部のみ			横ナデ	横ナデ	淡茶褐色	砂粒多	良				177
177	2SK0299	弥生	鉢				口縁部 断片	横ナデ	刷毛	刷毛		淡茶褐色	砂粒多	良	わざかに 内溝 有	口縁部上面 に面有	178	
178	2SK0290	弥生	甕	28.6			上半部 1/2	横ナデ	刷毛	ナデ		茶褐色	砂粒多	良	輪ノ繩 タイブ	底部上位外縁 に波状1条有	179	
179	2SK0282	土師	鉢	11.0			上半部 1/8	横ナデ	横ナデ	横ナデ		明茶褐色	砂粒少	やや不良	ひらく		180	
180	2SK0284	弥生	甕	13.0			底部のみ		刷毛	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒多	良				184
181	2SK0284	弥生	甕	29.0			口縁部 1/8	横ナデ	刷毛	ナデ		淡茶褐色	砂粒多	やや不良	地ノ繩 タイブ	底部上位外縁に施 付1条有	182	
182	2SK0284	弥生	甕	27.0			口縁部 1/4	横ナデ	刷毛	ナデ		茶褐色	砂粒多	良	地ノ繩 タイブ	底部上位外縁に施 付1条有	183	
183	2SK0284	弥生	甕	32.6			口縁部 1/8	横ナデ	刷毛	ナデ		茶褐色	砂粒多	良	地ノ繩 タイブ	底部上位外縁に施 付1条有	181	
184	2SK0286	弥生	鉢	16.0			口縁部 1/4	横ナデ	横ナデ	横ナデ		赤褐色	砂粒少	良好	外反		185	
185	2SK0290	弥生	甕	5.7			底部のみ			ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒少	良				186
186	2SK0295	土師	甕	13.4	8.2	2.9	はぼ定形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	施削り	淡茶褐色	精良	はぼ良	外方へ ひらく		202	
187	2SK0295	土師	甕	12.8	7.2	3.3	はぼ定形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	施削り	淡茶褐色	精良	はぼ良	外方へ ひらく		201	
188	2SK0295	土師	甕	12.8	7.8	3.0	1/2	横ナデ	横ナデ	横ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	良	わざかに 内溝 有		187	
189	2SK0299	弥生	鉢	15.6			1/3	横ナデ	不明	刷毛	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	やや不良	「く」の 字状	口縁部上面 に面有	197	
190	2SK0299	弥生	鉢	15.0		8.7	1/3	横ナデ	ナデ	ナデ		淡灰茶色	砂粒少	やや良	「く」の 字状	口縁部上面 に面有	196	
191	2SK0299	弥生	鉢	20.0	6.0	17.1	はぼ定形	横ナデ	刷毛	刷毛	ナデ	茶褐色	砂粒多	良	「く」の 字状	口縁部上面 に面有	191	
192	2SK0299	弥生	甕	10.0			上半部 1/3	横ナデ	刷毛	刷毛		黒灰色	砂粒多	はぼ良	「く」の 字状	口縁部上面 に面有	190	
193	2SK0299	弥生	鉢	22.4			15.7	はぼ定形	横ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒多	良	「く」の 字状	口縁部上面 に面有	192	
194	2SK0299	弥生	鉢	13.3		11.0	はぼ定形	横ナデ	刷毛	刷毛	ナデ	茶褐色	砂粒少	はぼ良	口縁部上面は 不整形		193	
195	2SK0299	弥生	鉢	25.6		11.5	4/5	横ナデ	刷毛	刷毛	ナデ	淡茶褐色	砂粒少	はぼ良	内溝 有	通幅に面有	194	
196	2SK0299	弥生	甕	17.4			上半部 1/3	横ナデ	ナデ	ナデ		淡茶褐色	砂粒少	良	「く」の 字状	口縁部上面 に面有	189	
197	2SK0299	弥生	高环	30.0			环部 1/3	不明	不明	不明		淡茶褐色	砂粒多	良	外反	口縁部厚 口縁部厚	200	
198	2SK0299	弥生	高环	32.0	18.6	24.0	はぼ定形	不明	不明	不明	刷毛	淡茶褐色	砂粒多	やや不良	横外反		199	
199	2SK0299	弥生	高环		17.8		脚部のみ		横ナデ	横ナデ	横ナデ	淡茶褐色	砂粒少	はぼ良	「く」の 字状	通幅に面有	198	
200	2SD0300	弥生	甕	14.0		13.0	1/3	横ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒多	はぼ良	「く」の 字状		203	

Tab.16 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物観察表(⑤)

No.	道標	番号	層位	種類	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	残存 部	口縁部 横ナデ	体外面 横ナデ	体内面 横ナデ	内底面 横ナデ	外底面 横ナデ	色調 横ナデ	胎土 横ナデ	使成 横ナデ	口縁部 横ナデ	形状 横ナデ	備考	R-No.		
201	2SD0300		弥生	甕	23.0			口縁部 横ナデ 1/3	刷毛	刷毛				淡茶褐色	砂粒多	良	口縁部前面 有	「く」の字状	口縁部前面 有	205		
202	2SD0300		弥生	甕				口縁部 横ナデ	刷毛	ナデ				茶褐色	砂粒多	良	城ノ越 タイプ			206		
203	2SD0300		弥生	甕		6.2		底部のみ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒少	ほぼ良					207	
204	2SD0300	1547	甕	甕	2.2			底部のみ	手づくね	手づくね	手づくね	手づくね	手づくね	暗褐色	精良	ほぼ良					208	
205	2SD0300	?	勾玉 (未)					完形													209	
206	2SD0300		弥生	甕	20.0			口縁部 横ナデ 1/3	刷毛	横ナデ				明茶褐色	砂粒少	良	横く外反		口縁部前面 有		204	
207	2SK0302		弥生	甕	34.0			上半部 横ナデ 1/2	横ナデ	ナデ	ナデ			暗褐色	砂粒多	良	「く」の字状	口縁部前面 有	口縁部前面 有		210	
208	2SK0307		弥生	甕	22.0			上半部 横ナデ 1/2	横ナデ	叩き	ナデ			暗褐色	砂粒含	良	「く」の字状	口縁部前面 有	口縁部前面 有		214	
209	2SK0307		弥生	甕	13.2			口縁部 横ナデ 1/3	横ナデ	叩き	刷毛	ナデ		淡茶褐色	砂粒少	ほぼ良	「く」の字状	口縁部前面 有	口縁部前面 有		213	
210	2SK0307		土師?	甕	13.4	17.2		1/3	横ナデ	叩き	ナデ	ナデ	叩き	暗褐色	砂粒含	良	「く」の字状	口縁部前面 有	口縁部前面 有		212	
211	2SK0307		弥生	鉢	18.0	10.4		ほぼ完形	横ナデ	叩き	刷毛	刷毛	刷毛	陶削り	泥赤褐色	砂粒多	ほぼ良	つまみたれ して外反	口縁部前面 有	口縁部前面 有		215
212	2SK0307		弥生	高环		9.4		面部のみ	刷毛	刷毛	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横赤褐色	精良	良	脚部に3ヶ所 孔有				217	
213	2SK0307		弥生	高环	21.6			底部欠損	不明	刷毛	刷毛			淡茶褐色	精良	良	大きく肩方 へかくろ	脚部に穿孔有			216	
214	2SK0307		土師	甕	14.0			口縁部 横ナデ 1/6	横ナデ	刷毛	刷毛	刷毛	刷毛	陶削り	茶褐色	砂粒含	やや不良	「く」の字状	口縁部をつ まとげる	口縁部をつ まとげる		211
215	2SK0310		灰釉 陶器	环	11.4	3.6	3.6	ほぼ完形	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	露胎	暗褐色	精良	良	横く内済	口縁部の一部 に施釉を施す	口縁部に施 釉有		218
216	2SK0312		弥生	甕	8.0	7.0	14.8	ほぼ完形	横ナデ	刷毛	刷毛	ナデ	ナデ	暗茶褐色	精良	良	横く内済	内側に施釉を施す	口縁部に施 釉有		219	
217	2SK0312		弥生	甕		5.9		底部のみ	刷毛	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	暗褐色	砂粒多	良					220	
218	2SK0320		弥生	甕				口縁部 横ナデ	横ナデ	刷毛	ナデ			茶褐色	砂粒多	不良	城ノ越 タイプ				221	
219	2SK0320		弥生	甕		6.3		底部のみ	不明	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	不良	底部は上げ底 状				222	
220	2SD0330		青磁	碗	17.0			口縁部 横ナデ 1/4	施釉	施釉	施釉			素地茶褐色 施釉茶褐色	精良	良好	体部内面に施 釉外反		体部内面に施 釉外反		223	
221	2SK0341		弥生	甕				横ナデ	刷毛	ナデ				茶褐色	砂粒含	ほぼ良	城ノ越 タイプ	体部に外反に施 釉有	「く」の字状	口縁部をつ まとげる	225	
222	2SK0341		弥生	甕		20.0		口縁部 横ナデ 1/6	横ナデ	刷毛	刷毛			暗褐色	砂粒含	ほぼ良	城ノ越 タイプ	口縁部は施 釉有	口縁部は施 釉有		224	
223	2SD0350		弥生	高环				口縁部 横ナデ 横片	不明	不明	不明			黄褐色	砂粒含	不良	二重口縁 状				230	
224	2SD0350		弥生	甕	27.0			口縁部 横ナデ 1/8	不明	不明	不明			淡茶褐色	砂粒含	不良	「く」の字状	口縁部は肥 厚し厚唇を持つ			227	
225	2SD0350		弥生	甕		6.1		底部のみ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒含	ほぼ良					229	
226	2SD0350		弥生	甕		6.4		底部のみ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒含	良					228	
227	2SD0350		弥生	甕	21.0			口縁部 横ナデ 1/4	横ナデ	刷毛	刷毛			淡茶褐色	砂粒含	やや不良	外反	頭部は直立す る			226	
228	2SD0350		弥生	筒形 土器	29.0			筒形のみ	横ナデ	跳躍	跳躍			丹塗り	砂粒含	良好	筒形部に直面 有				231	
229	2SK0355		調文	甕				口縁部 横ナデ	横ナデ	ナデ	ナデ			淡茶褐色 内側茶褐色	精良	良好	わざ子に刷毛 丸ひらき	日安帶有	日安帶有		440	
230	2SK0369		弥生	甕		27.0		1/4	横ナデ	刷毛	ナデ			濃茶褐色	砂粒含	ほぼ良	城ノ越 タイプ	体部に外反に施 釉有	「く」の字状	口縁部に施 釉有	232	
231	2SK0369		弥生	甕	28.0			口縁部 横ナデ 1/6	横ナデ	刷毛	ナデ			濃茶褐色	砂粒含	ほぼ良	城ノ越 タイプ	口縁部に施 釉有	口縁部に施 釉有		233	
232	2SK0369		弥生	甕		7.2		底部のみ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	暗褐色	砂粒含	良		体部部に施釉有	外反から穿孔有		234	
233	2SK0378		染付	甕	14.6	9.6	4.3	1/3	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	施釉	白色	砂粒少	良	達く内済				236
234	2SK0378		弥生	甕	20.0			口縁部 横ナデ 1/6	不明	不明	不明			淡茶褐色	精良	不良	「く」の字状	部壁が厚い			235	
235	2SK0380		弥生	甕		7.0		底部のみ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒含	良					237	
236	2SD0381		弥生	甕	23.4			口縁部 横ナデ 1/3	横ナデ	不明	ナデ			淡茶褐色	砂粒多	やや不良	城ノ越 タイプ				240	
237	2SD0381		弥生	甕				口縁部 横ナデ	横ナデ	刷毛				淡茶褐色	砂粒含	ほぼ良	城ノ越 タイプ	体部上部外反に施 釉有	「く」の字状	口縁部上部外反に施 釉有	239	
238	2SD0381		弥生	甕		22.6		口縁部 横ナデ 1/2	横ナデ	刷毛	ナデ			暗褐色	砂粒含	ほぼ良	城ノ越 タイプ	体部上部外反に施 釉有	「く」の字状	口縁部上部外反に施 釉有	242	
239	2SD0381		弥生	甕	27.0			口縁部 横ナデ 1/3	横ナデ	刷毛	ナデ			淡茶褐色	砂粒多	ほぼ良	城ノ越 タイプ	体部上部外反に施 釉有	「く」の字状	口縁部上部外反に施 釉有	241	
240	2SD0381		弥生	甕		7.4		底部のみ	不明	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	良					238	

Tab.17 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物観察表⑥

No.	遺構番号	部位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存 口縁部	外縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	「口縁部 形状」	備考	R-N.	
241	2SK0393	再生	甕	13.0			1/6	口縁部 横ナデ	不明	不明				淡赤褐色	砂粒多	やや不良	二重口縁 (復旧工)		243	
242	2SK0394	再生	浅鉢		1/3	3		施釉	施釉	刷毛	施釉	施釉	施釉	白色	精良	良好	外反へ 折曲げ		244	
243	2SK0430	再生	甕	21.8	53.1	1/2	横ナデ	刷毛	施削り		刷毛	施削り	施削り	砂粒多	良好	二重口縁			252	
244	2SK0406	再生	甕	26.0			1/6	口縁部 横ナデ	刷毛	ナデ				赤褐色	砂粒多	良	横ノ破 タイプ	体部に凹凸面 に沈陥し条有	245	
245	2SK0406	再生	甕		4.4		1/2		刷毛		横ナデ	横ナデ	赤褐色	砂粒含	良		外反 施削り面有	施削り平仕上げ版	246	
246	2SK0415	再生	甕	18.0			1/6	口縁部 横ナデ	刷毛	施削り				赤褐色	砂粒多	ほば良	「く」の 字状	部部上仕面に壓 り付く突起1条有	247	
247	2SK0415	再生	甕	18.0			1/8	口縁部 横ナデ	刷毛	ナデ				乳茶色	砂粒少	良	城ノ破 タイプ	部部上仕面に壓 り付く突起1条有	248	
248	2SK0422	再生	甕	26.0			1/10	横ナデ	横ナデ	ナデ				茶褐色	砂粒含	ほば良	城ノ破 タイプ	部部上仕面に壓 り付く突起1条有	249	
249	2SK0423	再生	甕		10.2				刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒含	ほば良	底部のみ	底部は直角	250	
250	2SK0430	瓦器	甕	16.6	7.0	5.5	1/3	丸窓孔	施削き	施削き	施削き	施削き	施削き	灰褐色	精良	良	わざかに 内湾		251	
251	2SK0443	三脚	桶					定形	手づ くね	手づ くね	手づ くね	手づ くね	手づ くね	暗茶褐色	精良	良	内湾		253	
252	2SK0460	鍋底	甕				1/6	体部	叩き ナデ					紫褐色	砂粒少	良	二重口縁	把手2ヶ所?	254	
253	2SK0464	土壁	高坏		6.2			膏部のみ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	精良	良		丁字状	255	
254	2SK0484	再生	甕				1/6	口縁部 粗片	丹垂り	丹垂り	ナデ			淡茶色	精良	良	口縁部面部に 面有り且て有		256	
255	2SK0493	再生	甕	25.0			1/6	口縁部 横ナデ	刷毛	ナデ				淡茶色	砂粒含	ほば良	横ノ破 タイプ	全体上仕面に壓 り付く突起1条有	257	
256	2SK0497	再生	甕	18.0			1/3	口縁部 横ナデ	刷毛	ナデ				淡茶褐色	砂粒含	ほば良	外反		258	
257	2SK0551	再生	甕	26.0			1/6	口縁部 横ナデ	刷毛	ナデ				淡赤褐色	砂粒含	やや不良	横ノ破 タイプ		259	
258	2SK0553	再生	甕				1/6	口縁部 粗片	横ナデ	ナデ				丹垂り	精良	良	「く」の 字状		260	
259	2SK0556	土壁	坏	15.2	6.5	4.2	定形	不明	不明	不明	不明	不明	不明	茶褐色	精良	不良	外方へ開く 肥厚せせる		261	
260	2SK0568	土壁	桶	39.0			1/6	口縁部 横ナデ	ナデ	ナデ				淡灰褐色	砂粒含	良	「く」の 字状		262	
261	2SK0600	滑石	石鍋	25.0			1/8	口縁部 粗片									内湾	認有	263	
262	2SD0640	滑石	石鍋				1/8	口縁部 粗片	ノミ痕	ノミ痕	ノミ痕						認有(C類) 切断面有		265	
263	2SK0645	再生	甕	14.4	7.1	1/2	横ナデ	刷毛	刷毛	刷毛	不明	施削り	淡茶褐色	砂粒多	やや不良	わざかに 内湾			266	
264	2SK0676	再生	甕	12.7				上半部	横ナデ	刷毛	刷毛			淡茶褐色	砂粒少	ほば良	「く」の 字状	口縁部に面有	267	
265	2SK0678	再生	高坏	12.9				膏部のみ	刷毛	刷毛	横ナデ	横ナデ	横ナデ	淡茶褐色	砂粒多	やや不良	成壊部の面は 接続しない		268	
266	2SD0680	再生	甕	12.0	5.0	18.0	1/2	施削	施削	施削	施削	施削	施削	赤褐色	砂粒多	ほば良	外反 施削有	底部に燒付材 且て有	270	
267	2SD0680	陶器	縹香 立て	11.6	9.0	12.2	1/3	施削	施削	施削	施削	施削	施削	乳茶色	精良	良	直立 肥厚		272	
268	2SD0680	土壁	五連?	30.6			1/3	口縁部 粗片	横削り	横削り	不明			暗灰色	砂粒含	やや不良	凸出 押さえ	各1+所現在	271	
269	2SD0680	糸付	甕	13.4	8.0	2.2	1/2	施削	施削	施削	施削	施削	施削	白色	施食	良	外反		272	
270	2SK0700	再生	甕	22.5	7.2	42.7	ほぼ定形	横ナデ	刷毛	刷毛	刷毛	刷毛	刷毛	淡茶褐色	砂粒多	やや不良	外反 底部	底部に網み目 且て有	302	
271	2SK0700	再生	甕	22.0			1/5	横ナデ	刷毛	刷毛				茶褐色	砂粒含	良	「く」の 字状		303	
272	2SK0710	土壁	甕	8.6	7.0	1.2	ほぼ定形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	赤褐色	淡茶褐色	砂粒含	良	外方に ひらく	277	
273	2SK0710	土壁	甕	8.8	8.0	1.3	5/6	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	赤褐色	淡茶褐色	砂粒含	良	外反		278
274	2SK0710	土壁	甕	8.8	7.7	1.1	ほぼ定形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	赤褐色	淡茶褐色	砂粒含	良	外方に ひらく		278
275	2SK0710	土壁	甕	8.9	7.5	1.1	5/6	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	赤褐色	淡茶褐色	精良	良	外方に ひらく		276
276	2SK0710	土壁	甕	9.0	7.0	1.1	定形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	赤褐色	淡黑灰色	ほば良	ほば良		284	
277	2SK0710	土壁	甕	9.0	7.7	1.3	定形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	赤褐色	精良	良	外方に ひらく		281	
278	2SK0710	土壁	甕	9.2	6.8	1.5	3/4	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	赤褐色	砂粒多	ほば良	外方に ひらく		286	
279	2SK0710	土壁	甕	9.6	7.7	1.1	ほぼ定形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	赤褐色	砂粒含	ほば良	ほば良	わざかに 外反		287
280	2SK0710	土壁	甕	9.4	7.1	1.3	ほぼ定形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	赤褐色	砂粒含	良	内湾		283	

Tab.18 梅島遺跡(第2次調査)出土遺物観察表⑦

No.	通構番号	層位	種別	岩種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	口縁部	体外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R-Nr.
281	ZSK0710	土層	皿	9.4	7.4	1.3	完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	直切り	淡赤褐色	砂粒合	はぼ良	むずかに内清		286	
282	ZSK0710	土層	皿	9.4	7.7	1.3	完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	直切り	暗褐色	砂粒合	はぼ良	むずかに外清		285	
283	ZSK0710	土層	皿	9.3	7.7	1.0	ほぼ完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	直切り	暗褐色	山口精良	良	外方にひらく		279	
284	ZSK0710	土層	皿	9.5	8.0	1.1	1/2	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	直切り	茶褐色	山口精良	良	むずかに外反		288	
285	ZSK0710	土層	皿	9.6	8.0	1.0	完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	直切り	淡茶褐色	山口精良	はぼ良	外方にひらく		283	
286	ZSK0710	土層	皿	9.7	8.2	1.8	ほぼ完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	直切り	淡灰褐色	砂粒合	良	外方にひらく		290	
287	ZSK0709	土層	皿	10.2	6.8	2.0	2/3	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	直切り	茶褐色	砂粒合	良	外方にひらく		273	
288	ZSK0709	土層	环	12.2	8.0	3.0	1/2	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	直切り	明赤褐色	精良	やや不良	はぼ直立		274	
289	ZSK0710	土層	皿?	15.6	11.6	3.0	1/2	横ナデ	横ナデ	横ナデ	ナデ	直あり	板状銀	山口精良	はぼ良	端部肥厚		293	
290	ZSK0710	土層	环	16.4	10.6	3.0	1/3	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	直切り	暗褐色	山口精良	良	むずかに外反		289	
291	ZSK0710	瓦器	碗	16.2	6.3	6.8	3/4	西脇み	西脇み	西脇み	西脇み	ナデ	淡灰褐色	砂粒少	やや不良	高台込込みに圓柱 足里(直見引)有		300	
292	ZSK0710	I層	青磁	碗	16.0		1/3	口縁部	施釉	施釉	施釉		淡綠青色	精良	はぼ良	わざかに外反	或業系	292	
293	ZSK0710	I層	青磁	碗	15.5		1/4	环部	施釉	施釉	施釉		淡綠青色	山口精良	はぼ良	むずかに内清	同業系	291	
294	ZSK0711	弥生	高杯				1/4	横ナデ	刷毛	ナデ			明赤褐色	精良	良	全面に丹塗り		295	
295	ZSK0711	弥生	鉢	19.6	8.4	10.6	1/3	刷毛	刷毛	刷毛	強いナデ		淡灰褐色	砂粒少	やや不良	内清	高台込込みに圓柱 足里(直見引)有		294
296	ZSK0720	弥生	碗	21.0			1/3	口縁部	刷毛	刷毛	刷毛		赤褐色	砂粒多	はぼ良	外反	脚部は直立		296
297	ZSK0720	弥生	碗	24.8	7.0	25.3	1/4	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ		暗褐色	砂粒合	良	城ノ越	外見上に圓形 印記は見る		297
298	ZSK0736	弥生	碗			8.4	底部のみ	不明	刷毛	刷毛	刷毛		淡茶褐色	砂粒多	やや不良	城ノ越		304	
299	ZSK0728	弥生	碗			22.0	上半部	横ナデ	不明	ナデ			淡赤褐色	砂粒多	やや不良	城ノ越	タイプ		298
300	ZSK0730	弥生	碗			7.6	底部のみ	刷毛	不明	不明	ナデ		淡灰褐色	砂粒多	良	底部に圓柱 足里(直見引)有		299	
301	ZSK0736	弥生	碗			5.7	下半部	3/4	刷毛	刷毛	刷毛		茶褐色	山口精良	はぼ良	底部はわずかに 上昇状		303	
302	ZSK0736	弥生	蓋				頂部のみ	豊磨き	豊磨き	豊磨き		内面刮削跡	砂粒少	良	外側丹塗り		305		
303	ZSK0736	弥生	蓋				下半部	1/4	刷毛	ナデ			淡茶褐色	精良	はぼ良			306	
304	ZSK0736	弥生	鉢	10.7	4.0	6.8	4/5	ナデ	刷毛	ナデ	ナデ		淡茶褐色	砂粒多	良	外方に圓形 凹	口縁部は不整	308	
305	ZSK0736	弥生	鉢	8.6	2.8	4.2	4/5	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		暗茶褐色	砂粒多	良	むずかに内清	口縁部は不整	307	
306	ZSK0737	弥生	鉢	30.0			口縁部	1/8	横ナデ	刷毛	ナデ		茶褐色	砂粒少	はぼ良	城ノ越	口縁部は斜面 底部は圓柱	309	
307	ZSK0737	弥生	鉢	(2.4型)	11.6		底部のみ	豊磨き	豊磨き	豊磨き	ナデ		茶褐色	砂粒多	良	外方に圓形 凹	黒色磨研	310	
308	ZSK0742	弥生	支脚			6.0	底部のみ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		淡茶褐色	砂粒少	はぼ良			311	
309	ZSK0760	土層	皿	8.9	8.6	1.1	1/2	横ナデ	横ナデ	横ナデ	ナデ	直切り	淡茶褐色	山口精良	やや不良	外方に圓形 凹	外底面に板状 底部に圓柱	312	
310	ZSK0760	土層	皿	14.4	10.0	2.9	完形	横ナデ	横ナデ	横ナデ	不明	直切り	淡茶褐色	精良	やや不良	外底面に板状 底部に圓柱		313	
311	ZSK0765	弥生	鉢	29.4			口縁部	1/3	横ナデ	刷毛	ナデ		淡茶褐色	砂粒多	良	城ノ越	体部上斜面 底部に圓柱	314	
312	ZSK0785	弥生	器台	7.2			口縁部	1/3	ナデ	ナデ	ナデ		淡茶褐色	砂粒少	はぼ良	外反		318	
313	ZSK0766	弥生	鉢	19.0			口縁部	1/4	横ナデ	ナデ	ナデ		茶褐色	砂粒多	良	城ノ越	「く」の字狀	315	
314	ZSK0785	弥生	鉢				口縁部	細片	横ナデ	刷毛	ナデ		淡褐色	砂粒少	良	城ノ越	口縁部に圓柱	316	
315	ZSK0785	弥生	鉢			6.4	底部のみ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		内足部 外足部褐色	砂粒合	はぼ良	底部は上げ底 状		317	
316	ZSK0785	弥生	壺			8.0	下半部	ナデ	刷毛	ナデ	ナデ		淡茶褐色	砂粒合	やや不良	底部は上げ底 状		320	
317	ZSK0785	弥生	壺				1/6	豊磨き	ナデ				暗褐色	山口精良	はぼ良	城ノ越	頭部に貼り付 く字狀	319	
318	ZSK0790	弥生	壺	28.6			上半部	横ナデ	刷毛	ナデ			暗茶褐色	砂粒多	やや不良	外方に圓形 凹	体部上斜面 に圓柱	322	
319	ZSK0787	弥生	器台	11.6			上半部	1/3	横ナデ	刷毛	ナデ		淡茶褐色	砂粒少	良	城ノ越	「く」の字狀	321	
320	ZSK0800	弥生	壺	21.0	5.6	25.6	3/4	横ナデ	豊磨	刷毛	不明	ナデ	暗褐色	砂粒多	やや不良	口縁部に圓柱 有		326	

Tab.19 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物観察表⑧

No.	遺構番号	層別	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	厚高 (cm)	残存	口縁部	外側面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形状	備考	R-N	
321	2SK0800	弥生	甕	16.0				底部欠損	横ナデ	刷毛	刷毛		淡茶褐色	砂粒含	やや不良	「く」の字状	口縁端部に面有	325	
322	2SK0800	弥生	甕	12.0			18.0	1/4	横ナデ	刷毛	ナデ	刷毛	淡茶褐色	砂粒含	やや不良	「く」の字状	底部端部に面有	324	
323	2SK0800	弥生	器台	20.0				底部 1/4		叩き	刷毛	横ナデ	横ナデ	淡茶褐色	砂粒少	やや良			323
324	2SK0810	弥生	甕	44.0				口縁部 1/6					淡茶褐色	砂粒少	11±0.1	T字状 端部に面有	外円面彫り	327	
325	2SK0810	弥生	簡形上器	25.0				器部のみ	晴文	横ナデ	ナデ		淡茶褐色	11±0.1	良	器部に面有	圓錐端部に面有 並立亞柱付有	328	
326	2SK0820	弥生	甕					口縁部 端片	横ナデ	ナデ	不明		淡茶褐色	砂粒含	やや不良	「く」の字状	口縁端部に面有	332	
327	2SK0820	弥生	甕	21.6				底部欠損	横ナデ	刷毛	刷毛		茶褐色	砂粒多	良	「く」の字状	口縁端部に面有	335	
328	2SK0820	弥生	甕	18.0			7.5	1/2	横ナデ	ナデ	刷毛	ナデ	剖削	淡赤褐色	砂粒多	やや不良	外方にかけた 氣泡有	口縁端部に面有	331
329	2SK0820	弥生	甕	21.7			19.2	1/4	横ナデ	横ナデ	刷毛	不明	不明	淡茶褐色	砂粒多	不良	内削し 肥厚	口縁端部はつまら て盛りあがる	330
330	2SK0820	弥生	甕	23.6				1/4	横ナデ	刷毛	刷毛		淡茶褐色	砂粒多	良	わざかに 内削有	現在は1ヶ所 空孔有	329	
331	2SK0820	弥生	環坏	16.0				脚部 1/2		刷毛	刷毛	ナデ	刷毛	明茶褐色	精良	やや不良	底部は上げ底 状		333
332	2SK0829	弥生	甕	5.8				下半部		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒含	良			337
333	2SK0829	弥生	器台	10.0				底部 1/3		刷毛	横ナデ	横ナデ	明茶褐色	11±0.1	良		器部上笠外面に 取り付け突起1条	器部上笠外面に 取り付け突起1条	336
334	2SK0840	上層	弥生	甕	20.0			口縁部 1/2	横ナデ	横ナデ	ナデ		淡茶褐色	砂粒多	良	城ノ破 タイプ	器部上笠外面に 取り付け突起1条	340	
335	2SK0840	上層	弥生	甕	6.2			下半部		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡茶褐色	砂粒多	良			341
336	2SK0840	上層	弥生	甕	21.4	5.8	22.2	1/4	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒少	11±0.1	城ノ破 タイプ	体部上笠外面に 取り付け突起1条	342	
337	2SK0840	上層	弥生	甕	42.6			口縁部 1/6	横ナデ	横ナデ	ナデ		淡茶褐色	11±0.1	良	城ノ破 タイプ	器部上笠外面に 取り付け突起1条	339	
338	2SK0840	上層	弥生	甕	34.0			口縁部 1/3	横ナデ	横ナデ	刷毛		淡茶褐色	砂粒多	良	外削し 内削有	削除し倒立置	338	
339	2SK0855	滑石	石鍋	14.6				底部 1/4										343	
340	2SK0862	弥生	甕	10.4	4.0	1/3		横ナデ	手持ち 鋸割り	横ナデ	横ナデ	手持ち 鋸割り	淡茶褐色	砂粒多	良	わざかに 外反	城ノ破 タイプ	344	
341	2SK0866	弥生	甕	18.0				上半部 1/3	横ナデ	刷毛	ナデ		暗茶褐色	砂粒多	やや不良	城ノ破 タイプ	器部上笠外面に 肥厚	345	
342	2SK0866	弥生	甕					口縁部 端片	横ナデ	刷毛	ナデ		暗茶褐色	砂粒多	良	誰い「く」 の字状		346	
343	2SK0868	弥生	甕	21.0				口縁部 1/6	横ナデ	ナデ	ナデ		淡茶褐色	砂粒含	良	T字状	底部は上げ底 状	350	
344	2SK0880	弥生	甕	6.0				底部のみ	刷毛	ナデ	ナデ	横ナデ	褐色	砂粒多	良	口縁端部に面有		351	
345	2SK0880	弥生	器台	11.5				1/2	横ナデ	刷毛	ナデ		淡茶褐色	11±0.1	やや良		体部上笠外面に 取り付け突起1条	352	
346	2SK0887	弥生	甕					口縁部 端片	横ナデ	横ナデ	横ナデ		明茶褐色	精良	良	誰い「く」 の字状	底部は炎る	353	
347	2SK0897	弥生	甕	7.5			8.2	1/4	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	淡茶褐色	11±0.1	わざかに 内削有	器部上笠外面に 取り付け突起1条	354		
348	2SK0900	弥生	甕	41.0	39.5			1/2	横ナデ	刷毛	ナデ		淡茶褐色	砂粒多	やや良	城ノ破 タイプ		365	
349	2SK0900	弥生	支脚	7.0	7.7	11.6		11±0.1	定形	指押え			指押え	淡茶褐色	精良	やや良		362	
350	2SK0915	弥生	甕	19.0				1/8	横ナデ	刷毛	不明			淡茶褐色	砂粒多	やや不良	「く」の 字状		356
351	2SK0915	弥生	器台	8.0	10.0	8.0	1/5		叩き	ナデ	ナデ	叩き	淡茶褐色	砂粒少	やや良		体部上笠外面に 取り付け突起1条	355	
352	2SK0918	弥生	甕	29.2				口縁部 1/5	横ナデ	ナデ	ナデ		淡茶褐色	砂粒含	ほほ良	城ノ破 タイプ	体部上笠外面に 取り付け突起1条	359	
353	2SK0918	弥生	甕	23.0				1/4	横ナデ	刷毛	ナデ		暗茶褐色	砂粒多	やや不良		圓錐端部に面有 並立亞柱付有	358	
354	2SK0918	弥生	甕	26.0	7.0	27.3	1/2	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	茶褐色	砂粒含	やや良	城ノ破 タイプ	底部に穿孔?	357	
355	2SK0918	弥生	甕	6.2				底部のみ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	赤茶褐色	砂粒多	やや不良			360	
356	2SK0922	弥生	甕	10.4				口縁部 1/4	不明	不明	不明		淡茶褐色	砂粒少	不良	「く」の 字状	体部端部に面有 並立亞柱付有	361	
357	2SK0925	圓文	甕					体部端片	ナデ?	ナデ?			明茶褐色	精良	やや良		体部上笠外面に 沈縛1条有	441	
358	2SK0940	弥生	甕	26.6				上半部 1/3	横ナデ	刷毛	ナデ		淡茶褐色	砂粒含	やや良	城ノ破 タイプ		365	
359	2SK0940	弥生	甕	32.0				上半部 1/5	横ナデ	ナデ	ナデ		淡茶褐色	砂粒含	やや良	城ノ破 タイプ		364	
360	2SK0960	弥生	甕	22.0				1/2	横ナデ	ナデ	ナデ		淡茶褐色	砂粒少	やや不良	城ノ破 タイプ		366	

Tab.20 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物観察表⑨

No.	遺物番号	層位	種別	器形	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	残存	口縁部	外表面	体内部	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形状	備考	R-N.
361	28SK0960	土鋪?	土淨	29.6				完底			直痕			淡赤褐色	精良	やや不良			367
362	28SK0970	滑石	石鍋	19.5				底部	泡磨き	直痕	直痕							日類?	368
363	28SK0980	弥生	鉢	26.4	23.0	9.7	1/4	横ナデ	泡磨き	ナデ	ナデ	ナデ	淡褐色	砂粒少	ほぼ良		城ノ越 東部土上外底に毫 り付け変形なし有	373	
364	28SK0980	弥生	器台	8.3				口縁部 底部	刷毛	ナデ	楕ナデ	楕ナデ	淡茶褐色	砂粒少	やや良		城ノ越 東部の湖は擴 張する	372	
365	28SK0980	弥生	甕	15.0				口縁部 1/4	横ナデ	刷毛	不明		淡赤褐色	織紋合	やや良		城ノ越 体部上位外底に沈澱1条有	371	
366	28SK0980	弥生	甕	6.5				底部のみ	刷毛	横ナデ	不明	ナデ	淡褐色	織紋合多	やや不良		城ノ越 体部最下位に穿 孔有	370	
367	28SK0980	弥生	甕	27.0	3.8	17.0	1/4	横ナデ	泡磨き	ナデ	ナデ	ナデ	黒褐色	砂粒多	不良	「く」の 字状	泥漬は上げて洗 る	369	
368	28SK1010	弥生	甕	29.0				口縁部 細片	小明	不明			淡褐色	砂粒多	不良		城ノ越 東部土上外底に毫 り付け変形なし有	374	
369	28SK1057	弥生	甕	13.0				上半部 1/8	横ナデ	刷毛	ナデ		淡灰褐色	砂粒少	良		城ノ越 東部土上外底に毫 り付け変形なし有	377	
370	28SK1035	弥生	甕	26.0				口縁部 1/4	横ナデ	刷毛	不明	ナデ	淡褐色	砂粒少	やや良	「く」の 字状	口縫端部は上方に 底部に毫	375	
371	28SK1039	土師	皿	8.6	2.3	1/3	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	横ナデ	淡乳褐色	精良	ほぼ良	「く」の 字状	外方に大き い高台は開き気 味	376	
372	28SK1060	弥生	甕	5.4				口縁部 1/2	横ナデ	刷毛	ナデ		淡茶褐色	砂粒合	やや良		城ノ越 タイプ	379	
373	28SK1060	弥生	甕	27.0	7.0			底部 1/2		ナデ	ナデ	ナデ	淡灰褐色	砂粒少	やや不良		城ノ越 東部土上外底に毫 り付け変形なし有	378	
374	28SK1074	弥生	甕	15.2				口縁部 1/4	横ナデ	刷毛	ナデ		淡茶褐色	織紋合	やや不良	「く」の 字状	口縫端部は上方に 底部に毫	380	
375	28SK1076	弥生	甕	10.0				口縁部 1/6	横ナデ	刷毛	ナデ		暗褐色	砂粒合	やや不良	城ノ越 タイプ	外方に大き い高台	381	
376	28SK1091	下層	黒B	碗	17.0	8.4	5.7	1/2	横ナデ	泡磨き	泡磨き	泡磨き	ナデ	黒褐色	精良	良	外反		384
377	28SK1091	下層	弥生	鉢	30.0	3.0	1/4	横ナデ	刷毛	ナデ			茶褐色	精良	ほぼ良	「く」の 字状	外方にひらく	382	
378	28SK1091	下層	弥生	甕	6.3			口縁部 1/2	横ナデ	刷毛	ナデ		淡茶褐色	砂粒少	やや良	「く」の 字状	口縫端部はつまみ 出し巻をつくる	383	
379	28SK1129	弥生	甕	15.0				上半部 1/2	横ナデ	刷毛	ナデ		淡茶褐色	砂粒合	やや良	城ノ越 タイプ	外方に大き い高台	390	
380	28SK1130	弥生	支脚	6.4	9.5	3/4	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	明茶褐色	精良	ほぼ良	「く」の 字状	わざかに ひらく	387	
381	28SK1130	弥生	支脚	29.4	6.7			底部 3/4		ナデ			明茶褐色	精良	ほぼ良			388	
382	28SK1130	弥生	支脚	7.2				底部 1/2		ナデ			明茶褐色	精良	ほぼ良			389	
383	28SK1133	弥生	甕	29.4				上半部 1/2	横ナデ	横ナデ	ナデ		暗褐色	砂粒多	不良	城ノ越 タイプ	口縫と外底間に毫 りぬけあり	391	
384	28SK1135	弥生	支脚	23.8	5.8			底部 3/4		ナデ	ナデ	ナデ	明茶褐色	精良	ほぼ良		体部は質く大 きの他底面有	392	
385	28SK1153	弥生	甕	29.6				上半部 1/3	横ナデ	刷毛	ナデ		暗褐色	砂粒多	やや不良	城ノ越 タイプ	体部上位外底に 底部はわずかに 沈澱1条有	393	
386	28SK1154	弥生	甕	25.0	7.1	19.2	1/4	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	暗茶褐色	織紋合多	やや良	城ノ越 タイプ	底部はわずかに 上位底	394	
387	28SK1154	弥生	甕	4.5				口縁部 1/6	横ナデ	刷毛	ナデ		暗褐色	砂粒多	やや不良	城ノ越 タイプ	体部上位外底に 底部はわずかに 沈澱1条有	395	
388	28SK1157	弥生	甕	5.4				口縁部 1/4	横ナデ	刷毛	ナデ		淡灰褐色	砂粒合	やや不良	城ノ越 タイプ	体部上位外底に 底部はわずかに 沈澱1条有	396	
389	28SK1157	弥生	支脚	7.5	12.0			完形	ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	明茶褐色	精良	ほぼ良			397	
390	28SK1157	弥生	支脚	43.6	5.8	11.8		完形	ナデ	ナデ			未調整	茶褐色	精良	ほぼ良	円柱タイプ	398	
391	28SK1158	土鋪?	土鋪	—				一部欠損						茶褐色	精良	ほぼ良	穿孔の直徑は 毫ミ用	400	
392	28SK1158	弥生	鉢	11.2				口縁部 1/3	横ナデ	ナデ	難削り		暗茶褐色	砂粒多	やや不良	「く」の 字状	端部に面有	399	
393	28SK1159	圓文	甕	19.0				口縁部 細片	横ナデ				黒茶褐色	ほぼ良	ほぼ良	底部は大さ い	底部は大さ い	401	
394	28SK1160	弥生	甕	15.2				口縁部 1/4	不規	刷毛	不明		灰褐色	砂粒合	不良	「く」の 字状		402	
395	28SK1160	土師	高杯	25.8	12.3	12.5	1/2	泡磨き	泡磨き	泡磨き	泡磨き	泡磨き	泡茶褐色	砂粒少	良	外方に ひらく		403	
396	28SK1161	土師	碗	25.2	7.3	5.6	3/4	横ナデ	横ナデ	不規	不明	ナデ	淡茶褐色	精良	不良	外反		404	
397	28SK1185	弥生	甕	26.0				上半部	横ナデ	刷毛	ナデ		暗褐色	砂粒合	やや不良	城ノ越 タイプ		408	
398	28SK1185	弥生	甕					上半部	横ナデ	刷毛	ナデ		茶褐色	砂粒少	やや良	城ノ越 タイプ		406	
399	28SK1185	弥生	甕					上半部 3/4	横ナデ	刷毛	ナデ		暗茶褐色	砂粒多	やや良	城ノ越 タイプ	体部上位外底に毫 り付け変形なし有	407	
400	28SK1185	弥生	甕	7.6				底部のみ	刷毛	不明	不明	ナデ	暗茶褐色	砂粒多	やや不良			405	

Tab.21 梅島遺跡(第2次調査)出土遺物観察表⑩

No.	遺構番号	幅位	種別	器種	口徑 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	口縁部	体外縁	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部形態	備考	R-N
401	2SK1185	男生	瓶	19.6				1/6	横ナデ	荒削き	荒削き	不明		淡赤褐色	砂粒含	やや不良	外反	底面に墨跡付ける 「」各有有出先地	409
402	2SK1186	男生	甕	25.8	8.8	30.0	1/4	横ナデ	刷毛	ナデ				暗褐色	砂粒含	良好	底ノ施 タイブ	底部上位外縁 に沈焼1条有	412
403	2SK1186	男生	甕	30.2				上半部	横ナデ	刷毛	ナデ			暗褐色	砂粒含	良好	底ノ施 タイブ	底部上位外縁 に沈焼1条有	411
404	2SK1186	男生	甕?	8.0				底部のみ		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	淡褐色	砂粒含	良好			410
405	2SK1192	男生	器台	8.1				口縁部 1/4	横ナデ	ナデ	ナデ	脱脂刷		明茶褐色	砂粒含	良好	外方に ひらく		413
406	2SK1200	男生	甕	17.9	7.6	17.4		ほぼ完形	横ナデ	刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	明茶褐色	砂粒含	良好	「く」の字状		414
407	表土	男生	土押	2.4				2.8	1/2					淡褐色	精良	良好			427
408	表土	男生	土押	2.5				4.8	ほぼ完形					灰褐色	精良	良好			426
409	表土	男生	土押?	4.6				1/2	手づくね	手づくね	ナデ	ナデ	手づくね	灰褐色	精良	良好	はは直立		431
410	表土	男生	支脚	4.5				1/2	ナデ	ナデ	ナデ			淡褐色	精良	良好			425
411	表土	男生	支脚	6.3				1/2		ナデ	横ナデ	横ナデ		淡褐色	砂粒含	良好			424
412	表土	男生	甕	27.4				口縁部 1/2	横ナデ	刷毛	ナデ			橙褐色	砂粒多	良好	底ノ施 タイブ	底部上位外縁 に沈焼1条有	416
413	表土	男生	甕	35.0				口縁部 1/5	横ナデ	横ナデ	ナデ			内外面丹 塗り	砂粒含	良好	丁字状	「」底面に墨跡 「」底面に墨跡1条 「」底面に墨跡1条	422
414	表土	男生	甕	28.2				口縁部 1/5	横ナデ	刷毛	ナデ			内外面丹 塗り	精良	良好	丁字状	「」底面に墨跡 「」底面に墨跡1条 「」底面に墨跡1条	423
415	表土	男生	甕	16.2				口縁部 1/3	横ナデ	刷毛	横ナデ			淡褐色	砂粒含	良好	「く」の字状	口縁部に削 有	418
416	表土	男生	甕	8.4				底部のみ		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	淡褐色	砂粒多	良好	底面に地後 外縁から穿孔		421
417	表土	男生	甕	6.3				底部のみ		刷毛	ナデ	ナデ	ナデ	橙褐色	砂粒含	良好	（非眞造）	底面に地後 内外面から穿孔	420
418	表土	男生	鉢	13.6				口縁部 1/6	横ナデ	刷毛	ナデ			暗褐色	砂粒含	良好	はは直立	内外面から穿孔	430
419	表土	落生?	鉢	8.2				口縁部 1/4	横ナデ	刷毛	刷毛			茶褐色	砂粒多	良好			428
420	表土	男生	鉢	16.9				口縁部 5/6	横ナデ	刷毛	刷毛	刷毛	底削り	淡褐色	砂粒含	良好	内溝 部に墨跡		434
421	表土	男生	鉢	17.6				口縁部 5/6	横ナデ	刷毛	刷毛	ナデ	底削り	橙褐色	砂粒多	良好	内溝 部に墨跡		433
422	表土	男生	鉢	21.5				口縁部 1/4	横ナデ	刷毛	刷毛	刷毛	ナデ	淡褐色	砂粒含	良好	内溝 部の面		436
423	表土	男生	鉢	26.0				口縁部 1/6	横ナデ	刷毛	ナデ			洪橙褐色	砂粒多	良好	「く」の字状 の字状	口縁部の面 をつまみ出す	417
424	表土	男生	鉢	28.2				口縁部 1/3	横ナデ	刷毛	刷毛	ナデ	豊削り	明茶褐色	砂粒含	良好	わざかに 内溝		435
425	表土	男生	高杯	15.9				脚部部 3/4		刷毛	刷毛	横ナデ	横ナデ	淡褐色	砂粒少	良好	穿孔（既成孔）		419
426	表土	土鉢	鉢	12.2				ほぼ完形	横ナデ	刷毛	ナデ	豊削り	豊削り	洪橙褐色	砂粒多	良好	はは直立		429
427	表土	黒A	碗	14.4				1/4	横ナデ	不明	荒削き	ナデ?		淡褐色	精良	良好	外反		432
428	2SK0320	?	先端部 剥離石					先端部 のみ										9	
429	2SK0190	?	剥離川 剥離石					先端部 のみ										8	
430	表土	?	?					完形										10	
431	29-0647	?	粘土質					1/2										7	
433	表土	?	石頭					1/2										2	
434	28D0350	?	石頭					ほぼ完形										1	
435	29-0683	?	磨製 石頭					先端部 のみ										5	
436	28-0718	?	磨製 石頭					先端部 のみ										4	
437	表土	?	磨製 石頭					基部の み										3	
438	2S-0690	?	磨製 石頭					中位 のみ										6	
439	28K0840	?	石頭					ほぼ完形										15	
440	28-0744	?	石頭					ほぼ完形										16	

Tab.22 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物観察表⑪

No.	遺構番号	層位	種別	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	残存	口縁部	外外面	体内面	内底面	外底面	色調	胎土	焼成	口縁部 形状	備考	R/Sn
441	2S-0995	柱付	円筒					ほぼ完形											12
442	2S-0850	柱付	円筒					ほぼ完形											11
443	2SK0840	黒曜石	円筒					ほぼ完形											14
444	2S-0625	柱付	円筒					ほぼ完形											13

Tab.23 梅島遺跡（第2次調査）出土遺物観察表⑫

遺構番号	層位	石材	備考	遺構番号	層位	石材	備考
2S-0089		泥岩?		2S-0753		泥岩?	
2S-0155		タ		2S-0785		タ	未製品か?
2S-0253		タ		2S-1005		タ	
2S-0320		タ		表 土	BT4	タ	
2S-0334		タ		表 土	CJ18	タ	
2S-0350		タ		表 土	CJ18	タ	
2S-0469		タ		表 土		タ	

Tab.24 梅島遺跡（第2次調査）出土石包丁一覧表

遺構番号	層位	石材	製品名	備考
2S-0260		サヌカイト	スクレイバー?	
2S-0290		黒曜石	ポイント?	
2S-0300		サヌカイト	スクレイバー?	
2S-0526		黒曜石	ドリル	
2S-0559		サヌカイト	スクレイバー?	
2S-0567		サヌカイト	鑑	
2S-0700		黒曜石	鑑	
2S-0870		? (片岩)	石劍	
2S-0933		サヌカイト	スクレイバー	
2S-0980		サヌカイト	鑑?	
表 土		緑泥片岩	鑑?	
表 土		サヌカイト	スクレイバー?	

Tab.25 梅島遺跡（第2次調査）出土石器未製品一覧表

遺構番号	層位	石材	製品名	備考
2S-0140		滑石	石鍋	底部?
2S-0147		滑石	?	穿孔有
2S-0350		?	砥石	
2S-0516		?	砥石	
2S-0710	4層	滑石	石鍋	
2S-1130		?	砥石	
表 土		滑石	石鍋	
表 土		滑石	石鍋	

Tab.26 梅島遺跡（第2次調査）出土その他石製品一覧表

遺構	番号	層位	石材	点数	備考	遺構	番号	層位	石材	点数	備考
2S-0059			黒曜石	1		2S-0338			サヌカイト	1	
2S-0064			サヌカイト	1		2S-0340			黒曜石	2	
2S-0065			黒曜石	1		2S-0341			黒曜石	1	
2S-0065			サヌカイト	1		2S-0350			黒曜石	1	
2S-0066			黒曜石	1		2S-0350			黒曜石	2	
2S-0071			サヌカイト	1		2S-0350			サヌカイト	1	
2S-0075			黒曜石	1		2S-0350			サヌカイト	1	
2S-0078			黒曜石	1		2S-0350			サヌカイト	5	
2S-0079			黒曜石	1		2S-0350			サヌカイト	1	
2S-0079			サヌカイト	1		2S-0358			黒曜石	1	
2S-0089			黒曜石	1		2S-0362			黒曜石	1	
2S-0139			黒曜石	1		2S-0364			黒曜石	1	
2S-0154			黒曜石	1		2S-0365			黒曜石	2	
2S-0160			黒曜石	1		2S-0379			黒曜石	1	
2S-0173			サヌカイト	1		2S-0382			黒曜石	3	
2S-0179			黒曜石	1		2S-0383			黒曜石	1	
2S-0190			黒曜石	2		2S-0384			黒曜石	1	
2S-0190			サヌカイト	1		2S-0406			黒曜石	2	
2S-0193			サヌカイト	1		2S-0406			黒曜石	1	
2S-0203			サヌカイト	1		2S-0410			チャート	1	
2S-0206			黒曜石	1		2S-0411			黒曜石	1	
2S-0206			黒曜石	1		2S-0425			黒曜石	3	
2S-0206			サヌカイト	1		2S-0426			黒曜石	1	
2S-0207			黒曜石	2		2S-0430			黒曜石	1	
2S-0210			黒曜石	1		2S-0430			黒曜石	1	
2S-0233			黒曜石	1		2S-0430			黒曜石	1	
2S-0270			黒曜石	2		2S-0430			サヌカイト	1	
2S-0270			黒曜石	1		2S-0430			サヌカイト	1	
2S-0270			黒曜石	1		2S-0431			黒曜石	1	
2S-0270			黒曜石	1		2S-0444			黒曜石	2	
2S-0270			サヌカイト	1		2S-0448			黒曜石	1	
2S-0272			黒曜石	1		2S-0457			黒曜石	1	
2S-0281			黒曜石	1		2S-0465			サヌカイト	1	
2S-0297			黒曜石	1		2S-0467			黒曜石	1	
2S-0299			黒曜石	1		2S-0469			サヌカイト	1	
2S-0300			黒曜石	3		2S-0479			黒曜石	1	
2S-0300			黒曜石	1		2S-0495			黒曜石	1	
2S-0300			サヌカイト	1		2S-0512			黒曜石	1	
2S-0300			サヌカイト	1		2S-0542			黒曜石	2	
2S-0314			黒曜石	1		2S-0542			サヌカイト	1	
2S-0320			黒曜石	2		2S-0548			黒曜石	1	
2S-0327			黒曜石	1		2S-0551			黒曜石	1	
2S-0329			黒曜石	1		2S-0553			黒曜石	1	

Tab.27 梅島遺跡（第2次調査）出土剥片一覧表①

遺構番号	層位	石材	点数	備考	遺構番号	層位	石材	点数	備考
2S-0556		黒曜石	1		2S-0753		サヌカイト	2	
2S-0567		黒曜石	1		2S-0773		サヌカイト	1	
2S-0585		黒曜石	1		2S-0785		黒曜石	1	
2S-0585		サヌカイト	1		2S-0785		サヌカイト	2	
2S-0587		黒曜石	1		2S-0787		黒曜石	1	
2S-0592		黒曜石	2		2S-0790		黒曜石	1	
2S-0592		サヌカイト	1		2S-0794		サヌカイト	1	
2S-0601		黒曜石	4		2S-0799		サヌカイト	1	
2S-0609		黒曜石	1		2S-0803		黒曜石	2	
2S-0613		黒曜石	4		2S-0815		黒曜石	2	
2S-0613		サヌカイト	1		2S-0816		黒曜石	1	
2S-0622		黒曜石	1		2S-0816		サヌカイト	1	
2S-0633		黒曜石	7		2S-0818		黒曜石	1	
2S-0641		黒曜石	1		2S-0820		サヌカイト	1	
2S-0655		黒曜石	1		2S-0820		サヌカイト	1	
2S-0655		黒曜石	1		2S-0822		黒曜石	1	
2S-0656		黒曜石	8		2S-0829		黒曜石	1	
2S-0656		サヌカイト	2		2S-0829		黒曜石	1	
2S-0662		黒曜石	2		2S-0831		黒曜石	1	
2S-0664		黒曜石	1		2S-0840		黒曜石	1	
2S-0672		黒曜石	3		2S-0840		サヌカイト	1	
2S-0673		黒曜石	1		2S-0847		黒曜石	1	
2S-0674		黒曜石	1		2S-0847		サヌカイト	2	
2S-0675		サヌカイト	1		2S-0850		サヌカイト	3	
2S-0675		サヌカイト	1		2S-0870		黒曜石	1	
2S-0680		黒曜石	4		2S-0873		サヌカイト	1	
2S-0680		黒曜石	2		2S-0883		黒曜石	2	
2S-0680		サヌカイト	4		2S-0884		黒曜石	3	
2S-0695		黒曜石	1		2S-0885		黒曜石	1	
2S-0697		サヌカイト	1		2S-0887		サヌカイト	1	
2S-0700		黒曜石	6		2S-0892		サヌカイト	1	
2S-0700		サヌカイト	1		2S-0894		黒曜石	1	
2S-0700		サヌカイト	1		2S-0894		サヌカイト	1	
2S-0710		黒曜石	1		2S-0900		黒曜石	1	
2S-0710		サヌカイト	1		2S-0910		黒曜石	1	
2S-0720		黒曜石	1		2S-0910		サヌカイト	2	
2S-0720		黒曜石	1		2S-0915		黒曜石	1	
2S-0720		黒曜石	1		2S-0920		黒曜石	2	
2S-0720		サヌカイト	3		2S-0920		サヌカイト	2	
2S-0730		黒曜石	1		2S-0922		黒曜石	1	
2S-0747		サヌカイト	1		2S-0941		黒曜石	1	
2S-0749		黒曜石	1		2S-0945		黒曜石	1	
2S-0753		黒曜石	2		2S-0945		サヌカイト	1	

Tab.28 梅島遺跡（第2次調査）出土剥片一覧表②

遺構番号	層位	石材	点数	備考
2S-0960		黒曜石	1	
2S-0968		黒曜石	1	
2S-0975		黒曜石	1	
2S-0977		黒曜石	1	
2S-0980		黒曜石	7	
2S-0980		サスカイト	17	
2S-0995		黒曜石	1	
2S-1000		黒曜石	1	
2S-1000		サスカイト	1	
2S-1003		サスカイト	1	
2S-1006		サスカイト	1	
2S-1010		黒曜石	3	
2S-1010		サスカイト	1	
2S-1011		黒曜石	1	
2S-1018		黒曜石	1	
2S-1018		サスカイト	1	
2S-1020		黒曜石	2	
2S-1025		黒曜石	2	
2S-1040		黒曜石	1	
2S-1056		サスカイト	1	
2S-1100		サスカイト	1	
2S-1103		黒曜石	3	
2S-1103		サスカイト	3	
2S-1121		サスカイト	1	
2S-1125		黒曜石	1	
2S-1129		黒曜石	1	
2S-1130		黒曜石	1	
2S-1133		サスカイト	1	
2S-1138		サスカイト	1	
2S-1144		サスカイト	1	
2S-1155		サスカイト	1	
2S-1159		サスカイト	1	
2S-1160		黒曜石	2	
2S-1162		黒曜石	1	
2S-1171		黒曜石	2	
2S-1171		サスカイト	1	
2S-1173		チャート	1	
2S-1183		サスカイト	1	
2S-1185		黒曜石	1	
2S-1225		黒曜石	1	
表土		黒曜石	44	
表土		サスカイト	18	

Tab.29 梅島遺跡（第2次調査）出土剥片一覧表

4) 小結

今回の調査は、平成3年度に実施したもので、平成11年度になってやっと報告書の刊行をみる。

しかしながら、整理を進めて行くにつれ、調査当時の記録が今回の報告書に掲載するに耐えないものであることが判明した。ひとえに調査担当者の力量不足と怠慢によるものであって、結果的に記録保存の措置として適当であったかどうか批判的にならざるを得ない。

そのなかで、今回の報告で調査中から注目していた周溝状遺構についてと、大量に出土した遺物についてを、事実報告のみという形で報告することとなった。遺構の性格や遺跡の性格については今回論及することができないが、別の機会に場を持てればと考えている。

ともかく、遺跡名だけが独り歩きしていた感のある当遺跡の、遺物だけでも公表できたので、各方面から多くのご教示を得られれば幸いである。

IV. 総括

筑後市内の遺跡に関しては、可能な限り保存に努めているところである。しかし、惜しくも開発などによる掘削や削平が及ぶ区域に関しては、発掘調査による記録保存の措置を余儀なくされている。

今回対象となった県営干拓地等農地整備事業の区域内においても、可能な限り遺跡保存に努めてきたところであるが、残念ながら掘削・削平の及ぶ箇所については筑後西部地区遺跡群の発掘調査として実施をしてきたところである。ただ、これによって多くの記録や資料が蓄積されたことは、筑後市の文化財を知る重要なこととして大きな成果といえ、今後、筑後市の文化財保護の啓発や研究などに生かされていくことであろう。ひとえに文化財にご理解とご協力を頂いた開発事業関係者、並びに調査に参加された作業員の方々の賜と思っている。

さて、筑後西部地区遺跡群の報告は本書をもって完結するが、時間の制約などにより十分な検討がなされないまま本書の刊行に至った。このことを反省し、検討がなされたことについては別書にて随時報告したいと考えている。

おわりに、筑後西部地区遺跡群発掘調査の概要を列記することで総括としたいが、本書に掲載した調査概要は末尾の抄録と重複するためここでは割愛した。また、梅島遺跡（第1次調査）は関連事業の遺跡であるのであわせて掲載した。

1. 梅島遺跡（第1次調査）

1) 遺跡の所在地	福岡県筑後市大字常用字梅島
2) 調査期間	平成2年12月22日～平成3年1月10日
3) 調査面積	約420 m ²
4) 調査担当者	水見秀徳
5) 主な検出遺構	竪穴式住居、溝、竪穴、土壙、ピットなど
6) 主な出土遺物	弥生土器、須恵器、土師器、瓦質土器、白磁など
7) 遺跡の時代と性格	弥生時代中期～後期：集落
8) 報告書名	『梅島遺跡』筑後市文化財調査報告書 1992

2. 櫻崎遺跡

1) 遺跡の所在地	福岡県筑後市大字下北島字櫻崎
2) 調査期間	平成4年7月1日～平成4年12月16日
3) 調査面積	約3,500 m ²
4) 調査担当者	小林勇作
5) 主な検出遺構	道路、掘立柱建物、溝、土壙、ピットなど
6) 主な出土遺物	弥生土器、須恵器、土師器、瓦器、青磁、白磁、粉青沙器、石製品など
7) 遺跡の時代と性格	弥生時代中期～後期：集落、中世～近世：道路
8) 報告書名	『櫻崎遺跡』筑後市文化財調査報告書第9集 1993

3. 井田西中野遺跡

1) 遺跡の所在地	福岡県筑後市大字井田字西中野
2) 調査期間	平成5年11月15日～平成5年11月29日
3) 調査面積	671 m ²
4) 調査担当者	小林勇作
5) 主な検出遺構	溝
6) 主な出土遺物	土師器、白磁、陶器、石製品など
7) 遺跡の時代と性格	中世～近世？：集落
8) 報告書名	『筑後西部地区遺跡群』筑後市文化財調査報告書第15集 1995

4.島田三反田遺跡

- | | |
|-------------|---------------------------------|
| 1) 遺跡の所在地 | 福岡県筑後市大字島田字三反田 |
| 2) 調査期間 | 平成6年9月16日～平成6年12月6日 |
| 3) 調査面積 | 1,360 m ² |
| 4) 調査担当者 | 小林勇作 |
| 5) 主な検出遺構 | 溝、土壤、ピットなど |
| 6) 主な出土遺物 | 弥生土器、須恵器、土師器、青磁、白磁など |
| 7) 遺跡の時代と性格 | 中世～近世：集落 |
| 8) 報告書名 | 『筑後西部地区遺跡群』筑後市文化財調査報告書第15集 1995 |

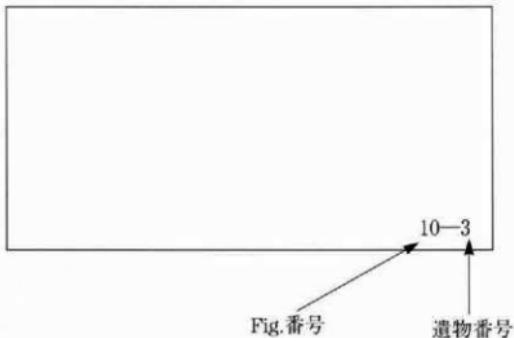
5.古島鳥相遺跡

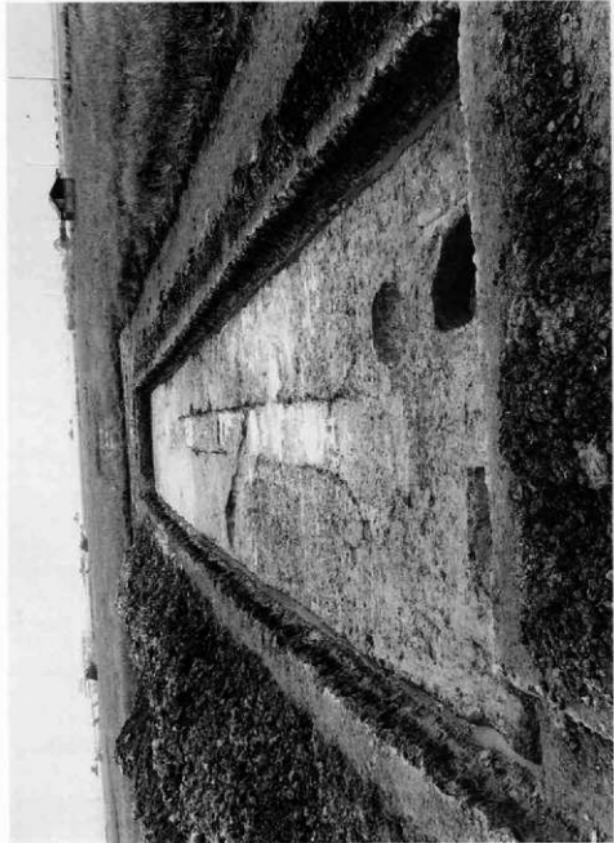
- | | |
|-------------|---------------------------------|
| 1) 遺跡の所在地 | 福岡県筑後市大字古島字鳥相 |
| 2) 調査期間 | 平成6年9月17日～平成6年12月6日 |
| 3) 調査面積 | 1,920 m ² |
| 4) 調査担当者 | 小林勇作 |
| 5) 主な検出遺構 | 土壤、ピットなど |
| 6) 主な出土遺物 | 弥生土器、須恵器、土師器など |
| 7) 遺跡の時代と性格 | 弥生時代後期～中世：集落 |
| 8) 報告書名 | 『筑後西部地区遺跡群』筑後市文化財調査報告書第15集 1995 |

写 真 図 版

凡 例

遺物の写真図版右下の番号は、以下の要領である。





常用ピンセ田道跡調査区全景（東から）



土壤完掘状況（西から）

Pla. 2



水田正吹道路調査区A・B全景（真上から）



調査区A (SB020) 完掘状況（南西から）

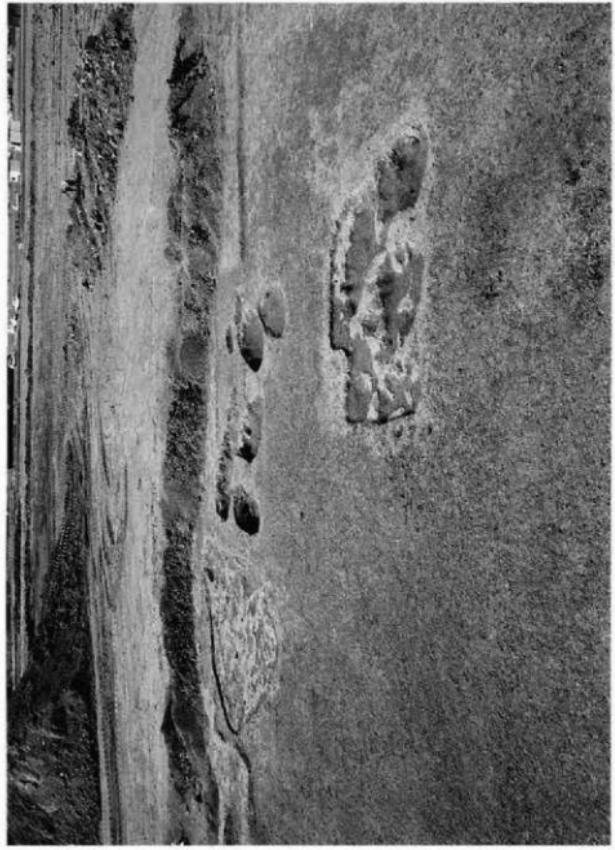


調査区 A (SB030) 検出状況 (南西から)



調査区 A (SB040) 検出状況 (南東から)

Pla. 4



調査区 A 土壌群発掘状況（東から）



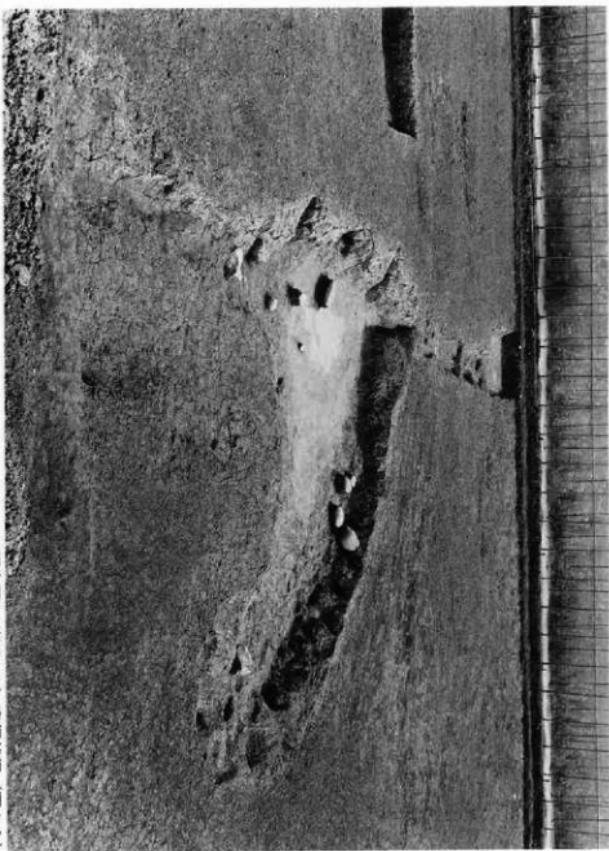
調査区 A (SK005) 遺物出土状況（南から）

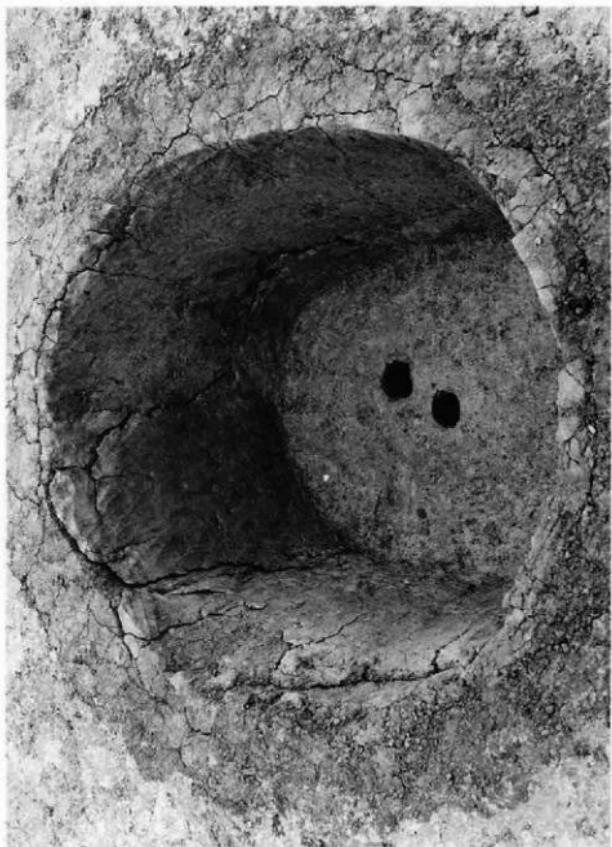


調査区A (SK010) 遺物出土状況（北から）



調査区A (SK015) 遺物出土状況（北から）





調査区B (SK035) 完掘状況（北西から）



調査区B (SK045) 遺物出土状況（南から）

Pla. 8



水田正吹溝跡調査区C全景（真上から）



調査区C (SX100) 遺物出土状況（北東から）



調査区C (S×100) 完掘状況 (南から)



水田正吹遺跡調査区D 全景 (西から)

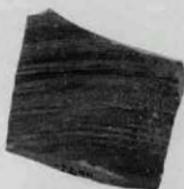
Pla. 10



水田正吹遺跡調査区E 全景（東から）



調査区E (SD137) 完掘状況（南から）





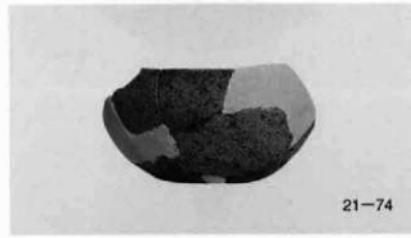
21-70



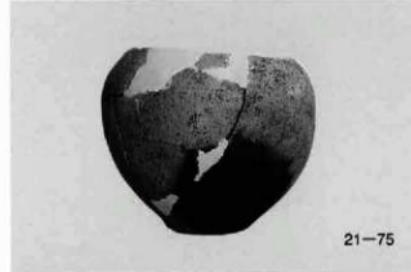
21-72



21-73



21-74



21-75



21-77



21-78



22-86



22-88



22-89



24-92



23-90



25-93



23-91



27-98



27-100



27-101



27-99



島田外屋敷遺跡調査区全景（空中写真：東から）



島田外屋敷遺跡調査区全景（空中写真：西から）



島田外屋敷遺跡調査区 A 全景（空中写真：真上から）



島田外屋敷遺跡調査区 B 全景（空中写真：真上から）



島田外屋敷遺跡調査区C全景（空中写真：真上から）



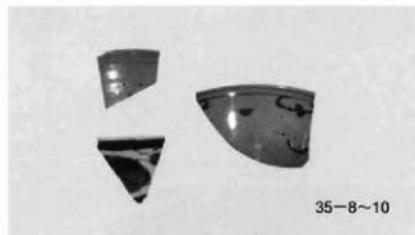
島田外屋敷遺跡調査区D全景（空中写真：真上から）



調査区 D (SK40) 完掘状況 (南から)



調査区 D (SK40) 土層断面 (北から)





37-36



37-47



37-37



37-48



37-38



37-50



37-39



37-52



37-40



37-53



37-43



37-54



37-44



37-56



37-45



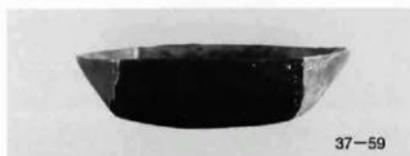
37-57



37-46



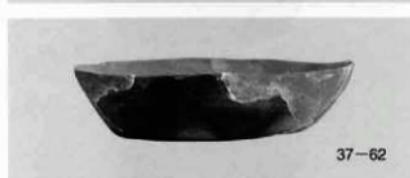
37-58



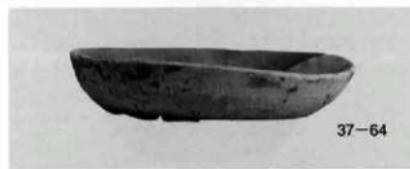
37-59



37-60



37-62



37-64



37-65



37-67



37-68



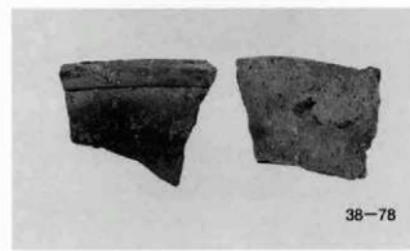
37-71



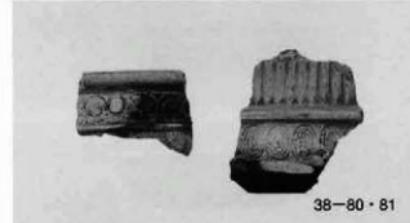
37-72



37-73



38-78



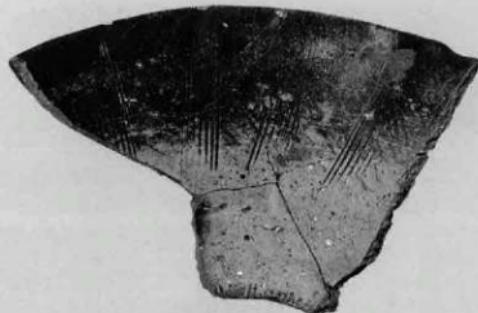
38-80 - 81



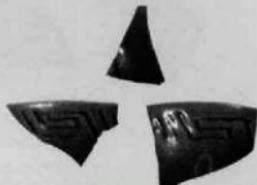
38-82 • 83



38-84



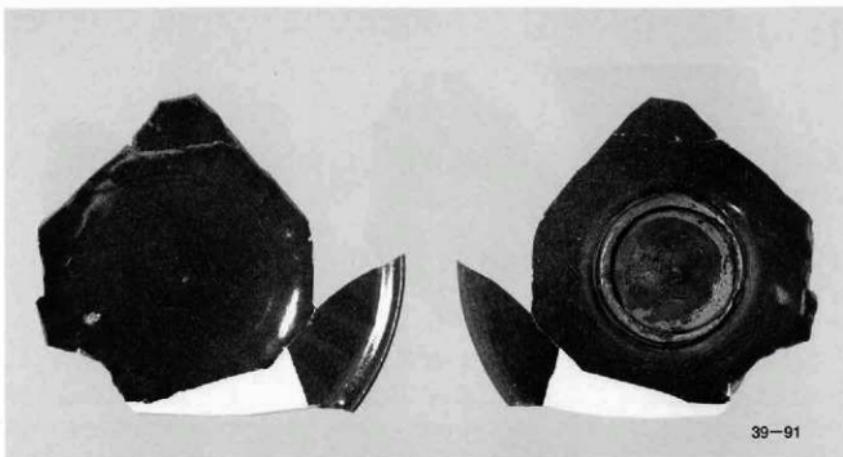
39-86



39-88~90



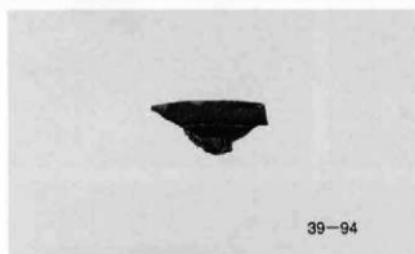
39-87



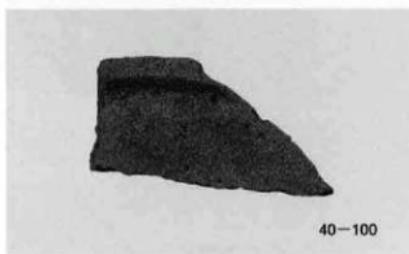
39-91



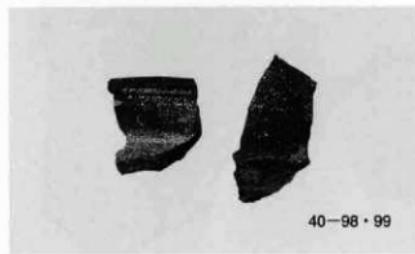
39-92 + 93



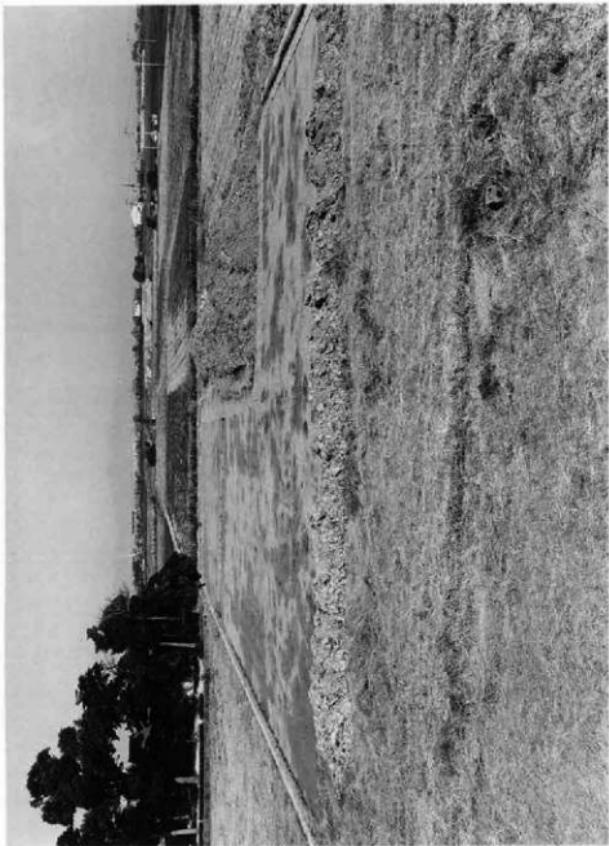
39-94



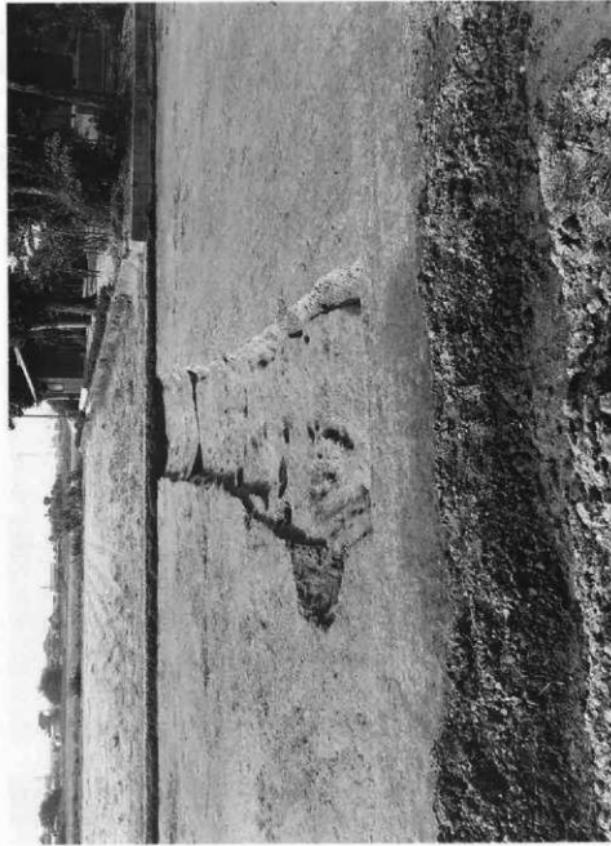
40-100



40-98 + 99



井田栗ノ内遺跡調査区全景（南から）



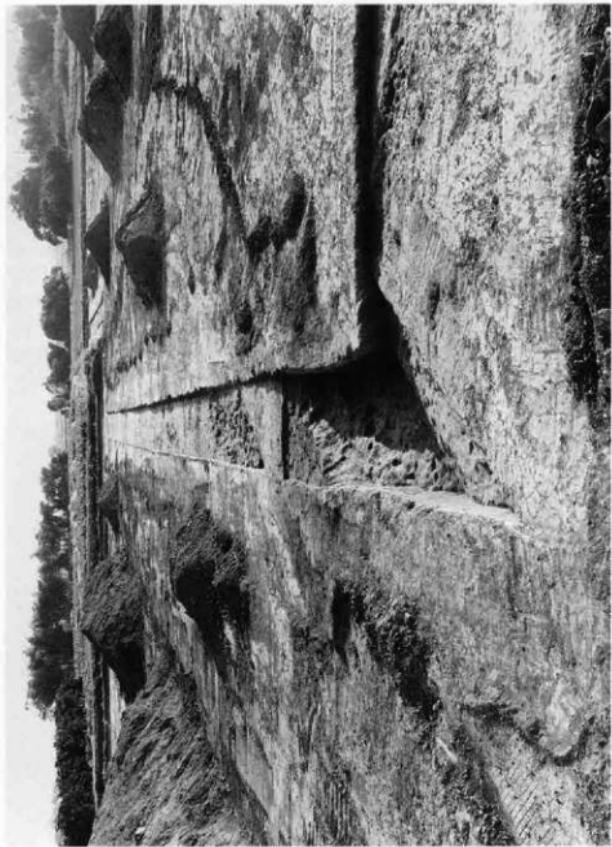
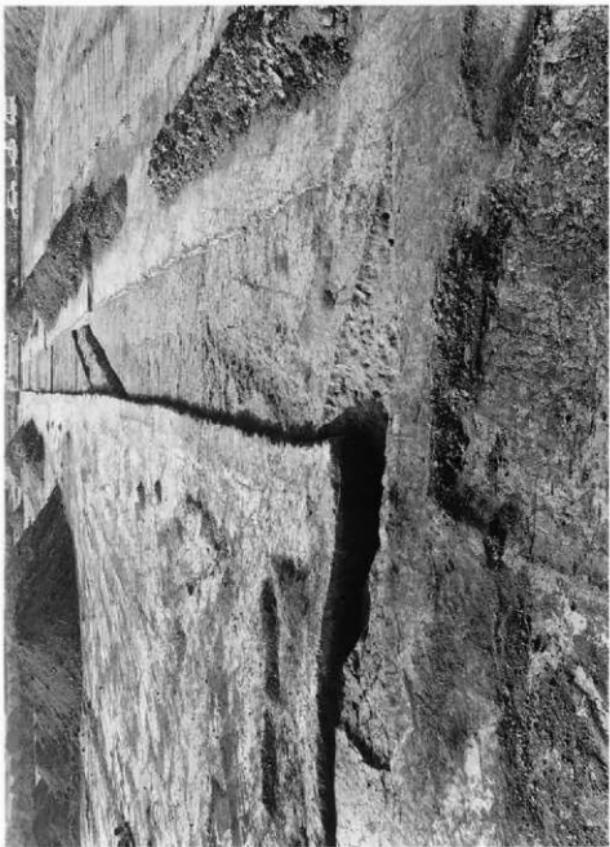
SD 1 完掘状況（東から）



水田伊勢ノ脇遺跡調査区全景①（南から）



水田伊勢ノ脇遺跡調査区全景②（西から）

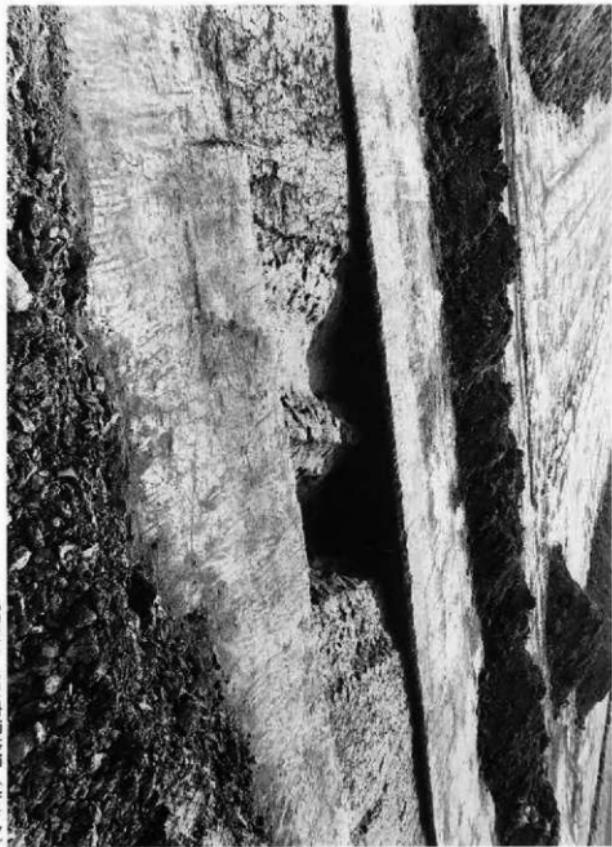




水田伊勢ノ脇遺跡調査区全景⑤（西から）



水田伊勢ノ脇遺跡調査区全景⑥（北から）



SD060・070完掘状況（北から）

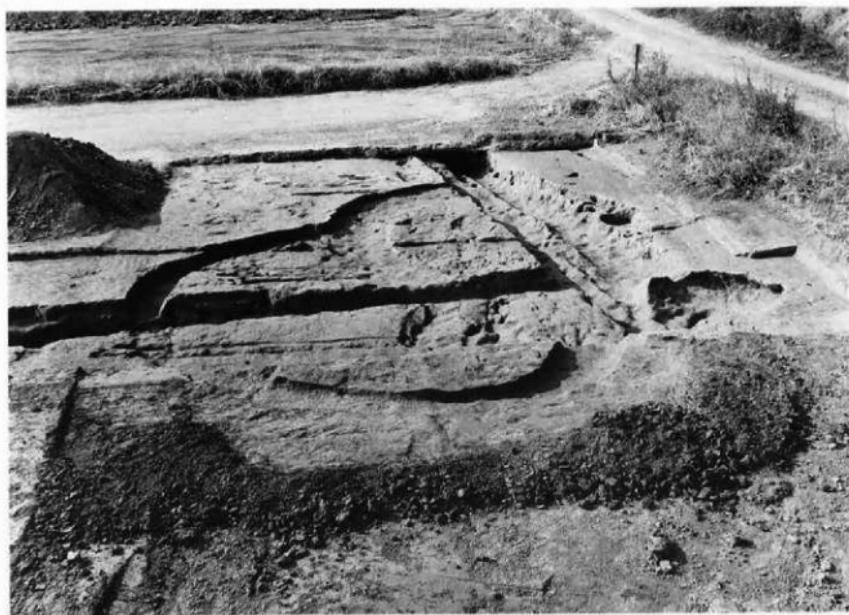


SD010・020完掘状況（西から）

Pla. 28



SD080完掘状況（東から）



SX040・050完掘状況（東から）



SK005完掘状況（北西から）



SK035遺物出土状況①（南から）



SK035遺物出土状況②（南から）



SK135完掘状況（北から）



49-11 • 12



50-28



49-14 • 15



50-20



51-29



50-24



51-30



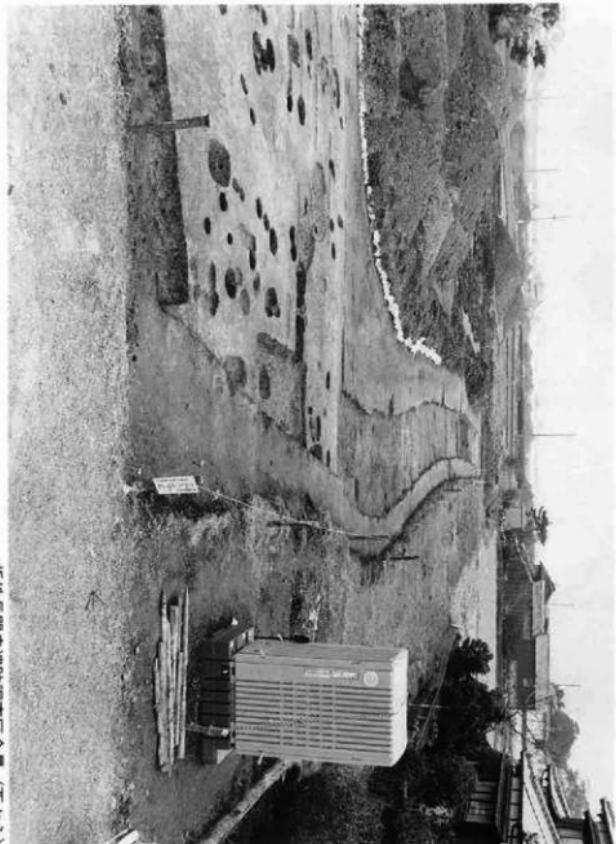
51-31



50-27



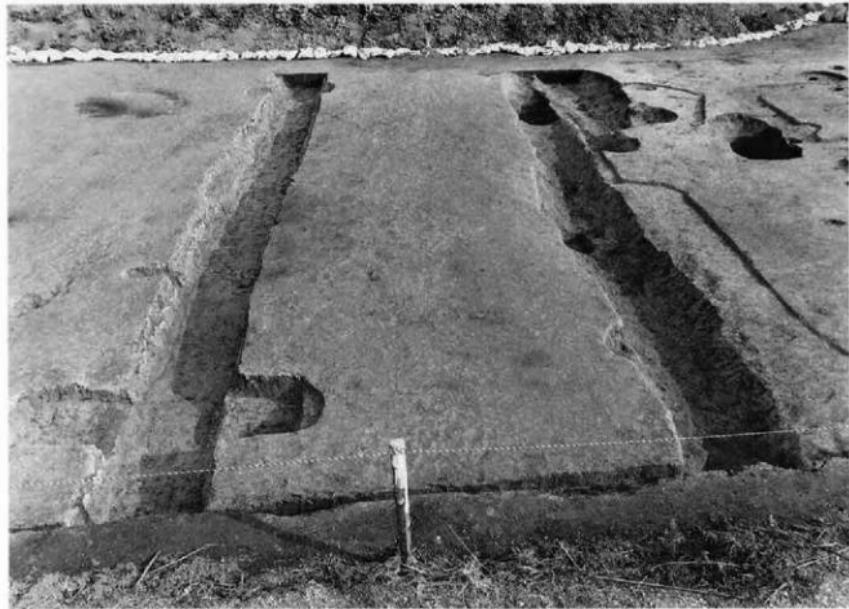
折地長間寺遺跡調査区全景（南から）



折地長間寺遺跡調査区全景（西から）



SD05・10完掘状況（西から）



SD20・30完掘状況（西から）



SD51完掘状況（北から）

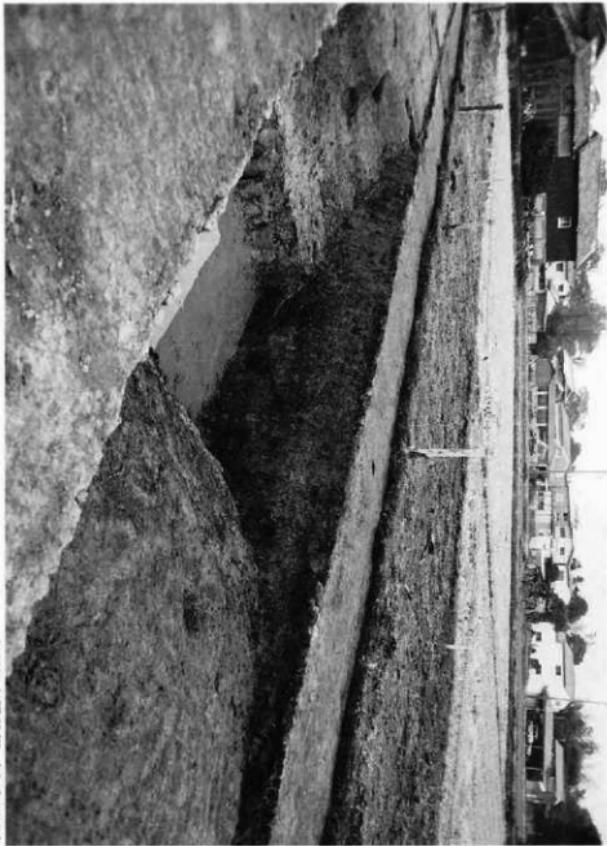


SD52完掘状況（北から）

SK11完掘状況（西から）



SD60完掘状況（南東から）



Pla. 36



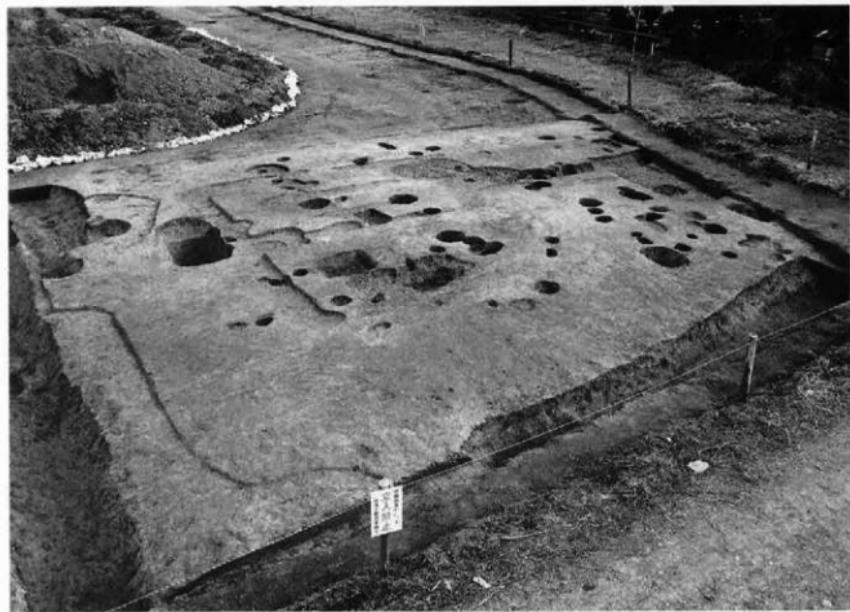
SK23完掘状況（東から）



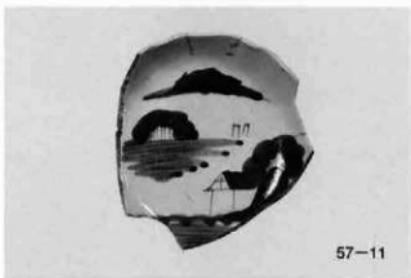
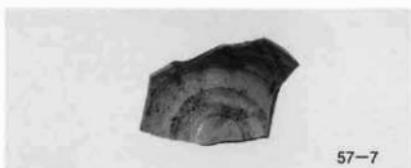
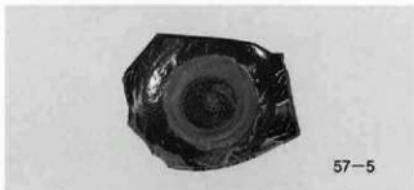
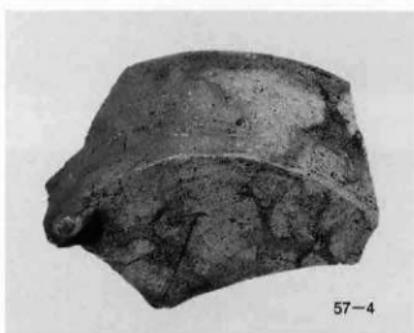
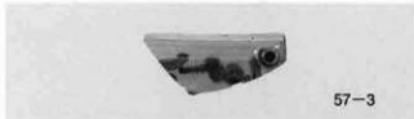
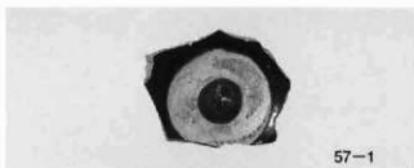
SK42・43完掘状況（西から）



SK50遺物出土状況（西から）



ピット群完掘状況（北西から）





57-15



58-23



57-16



58-26



57-17



58-27



57-18



58-30



58-22



58-32



58-33



59-34



59-35



59-36



59-37



59-38



59-40



60-42



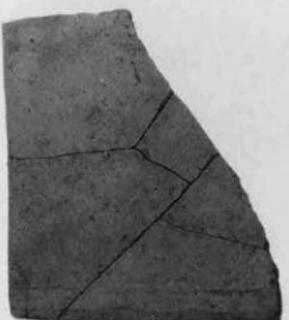
60-43



60-45



60-46



60—48



61—49



61—52



62—56



62—53



62—57



62—54



62—58



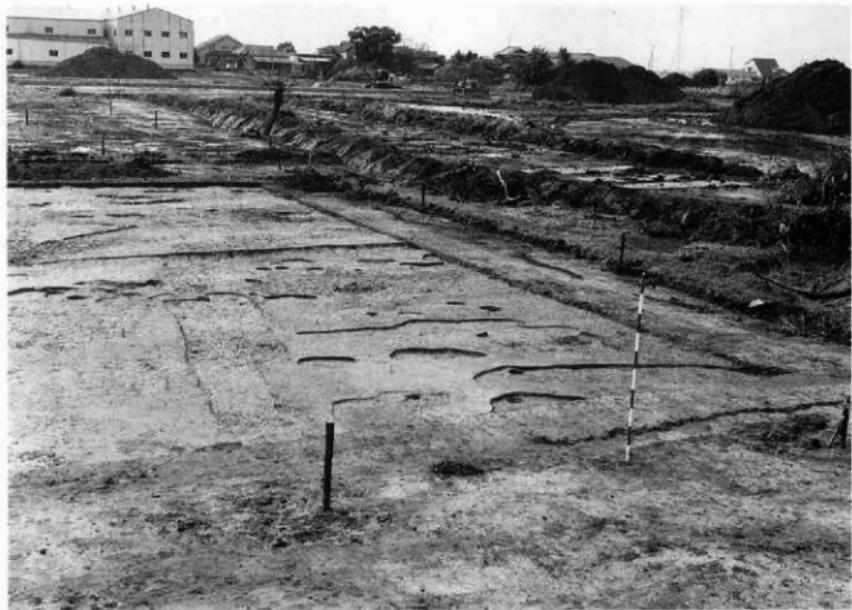
62—55



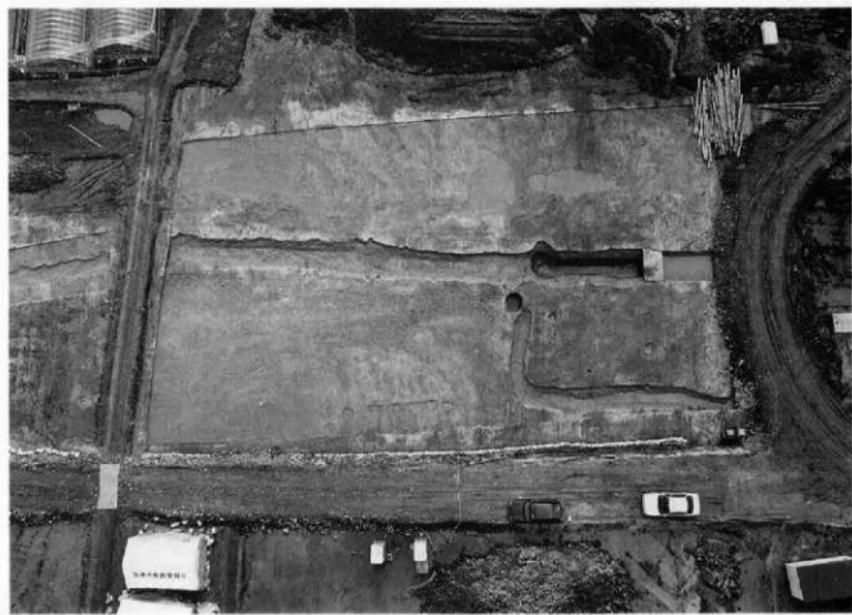
井田堀越遺跡調査区全景（空中写真：東から）



井田堀越遺跡調査区全景（空中写真：西から）



井田堀越遺跡西端部完掘状況（北から）



井田堀越遺跡西部完掘状況（空中写真：真上から）



SD15完掘状況（空中写真：真上から）



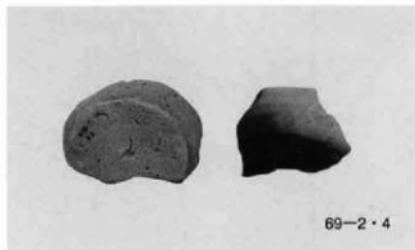
#田畠越道跡東部完掘状況（空中写真：真上から）



SD10木製品（木鏡）出土状況（西から）



SD10木製品（木鏡）出土状況（東から）



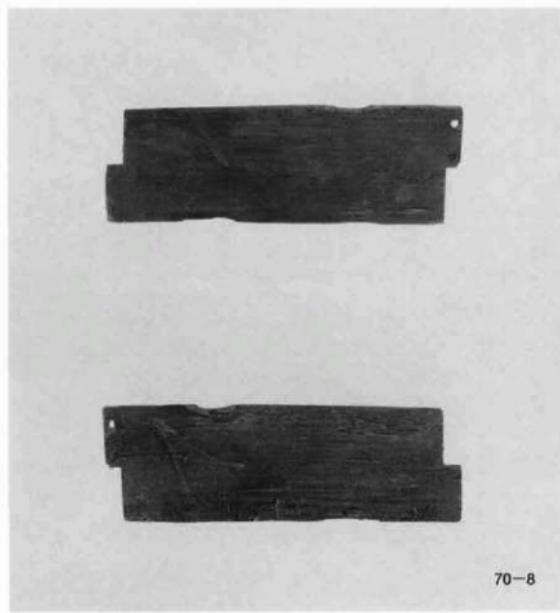
69-2-4



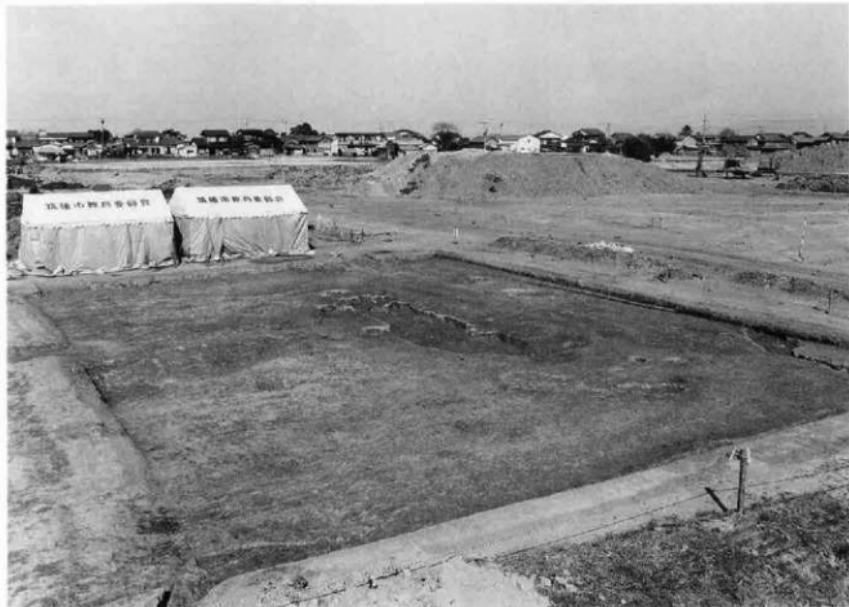
69-5-6



70-7



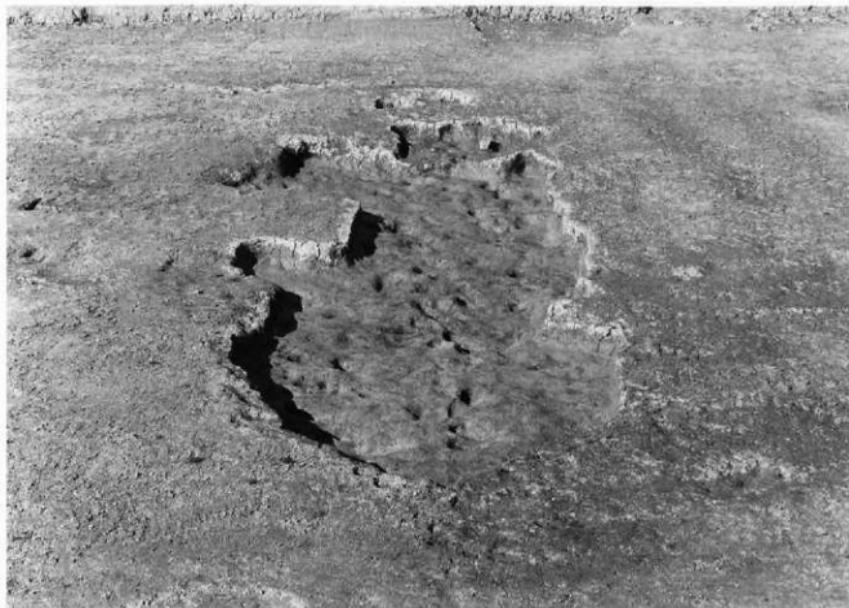
70-8



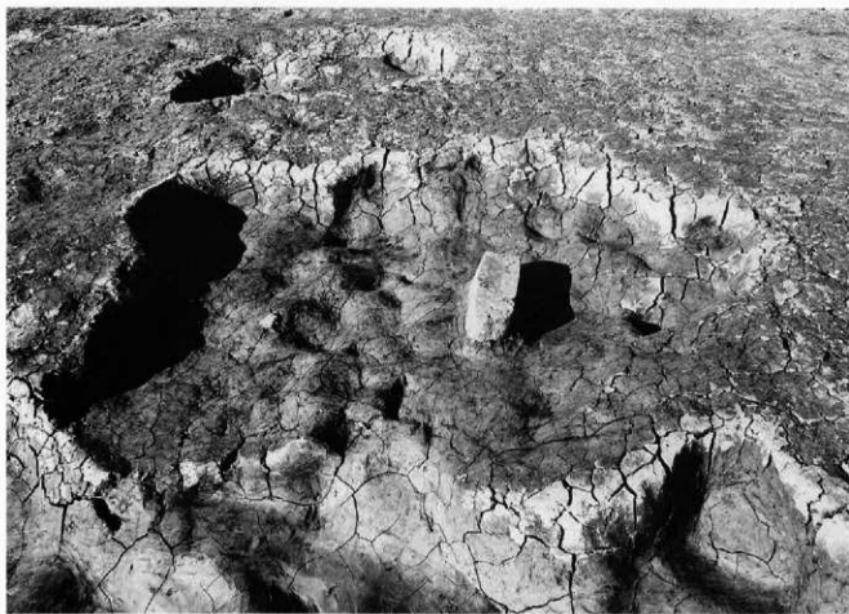
井田下堀越遺跡調査区全景（南から）



SD15穴掘状況（北から）



SK10発掘状況（南から）



SK10遺物出土状況（南から）



77-8



77-16



77-9



77-17



77-10



77-18



77-12



77-13



77-19



77-15



77-21



77-22



77-28



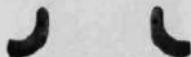
77-25



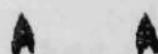
77-29



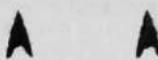
77-26



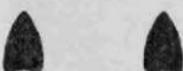
77-31



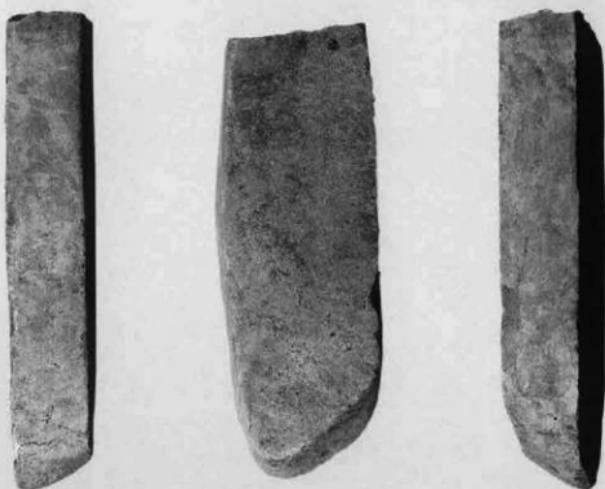
78-32



78-33



78-34



78-35



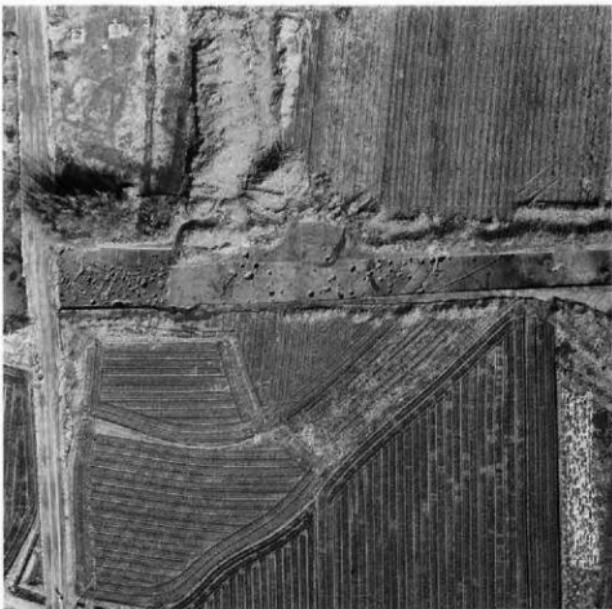
79-36



梅島遺跡第2次調査調査区全景（南から）



梅島遺跡第2次調査北東調査区（上が北）



梅島遺跡第2次調査東西調査区東部分（上が北）



梅島遺跡第2次調査東西調査区西部分（上が北）



梅島遺跡第2次調査中央調査区南半部（東から）



梅島遺跡第2次調査中央調査区北半部（東から）



梅島遺跡第2次調査中央調査区南半部（西から）



梅島遺跡第2次調査中央調査区北半部（西から）



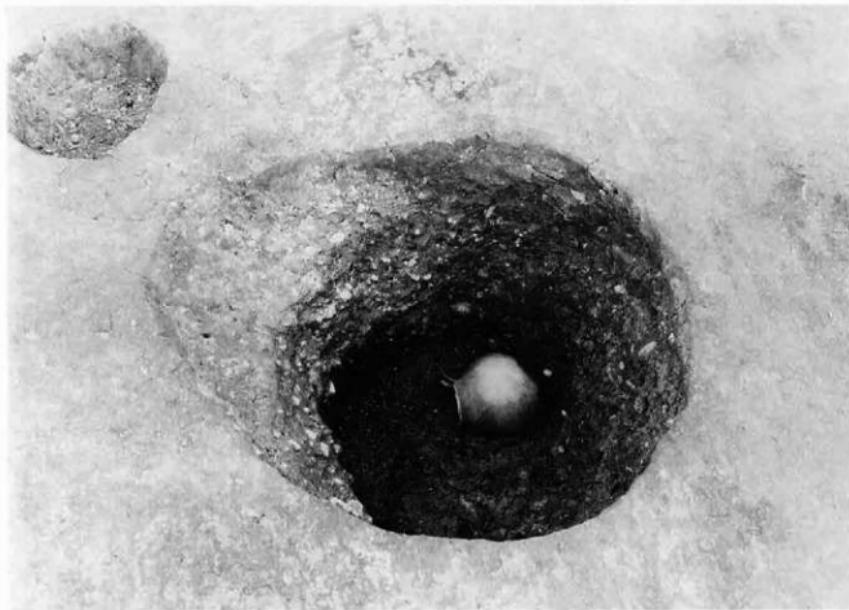
梅島遺跡跡第2次調査中央調査区水没状況



梅島遺跡跡第2次調査東西調査区水没状況



梅島遺跡第2次調査2SK0160遺物出土状況



梅島遺跡第2次調査2SK0170遺物出土状況



梅鳥遺跡第 2 次調查2SK0180遺物出土狀況



梅鳥遺跡第 2 次調查2SK0190遺物出土狀況



梅島遺跡第2次調査2SK0210遺物出土状況



梅島遺跡第2次調査2SK0299遺物出土状況



梅島遺跡第2次調查2SK0311遺物出土狀況



梅島遺跡第2次調查2SK0840遺物出土狀況



84-2



84-4



84-7



84-8



84-9



85-14



85-17



86-18



86-21



87-22



87-23



87-24



87-25



87-26



87-29



87-30



88-34





90-48



91-51



90-49



92-52



91-50



92-53



93-54



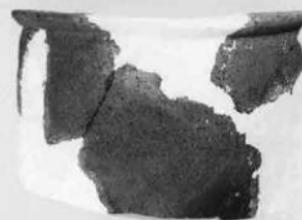
94-59



93-56



94-61



93-57



94-58



94-62



95-64



96-76



95-65



96-78



96-74



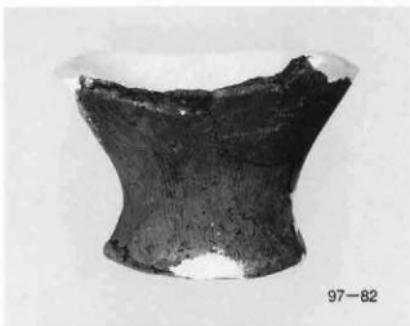
96-75



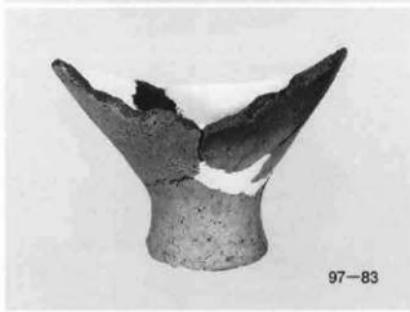
97-79



97-81



97-82



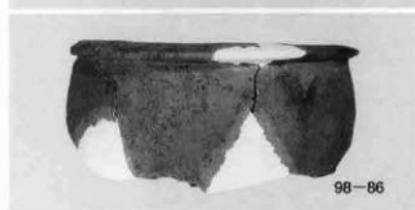
97-83



97-84



97-85



98-86



98-87



98-89



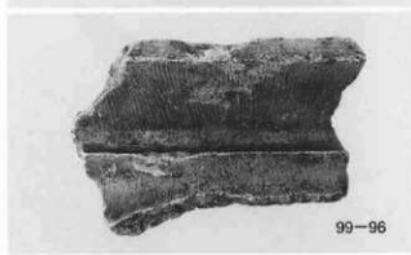
98—91



99—95



99—92



99—96



99—94



99—97



99—98



100—102



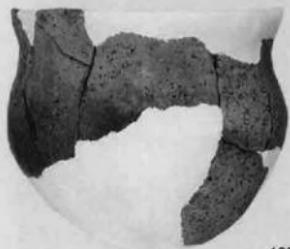
100—106



100—103



100—107



100—108



100—104



100—105



101—109



101-110



101-111



101-112



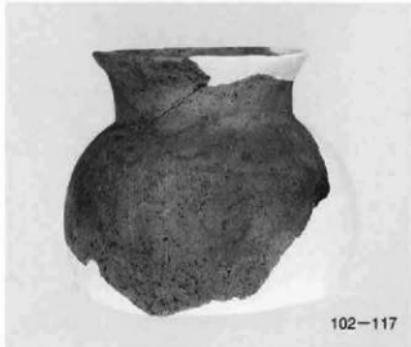
102-113



102-114



102-115



102-117



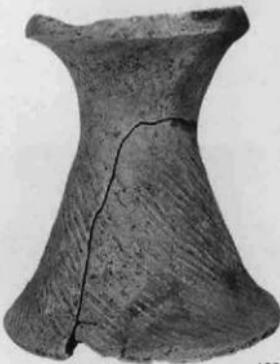
102—118



103—121



102—119



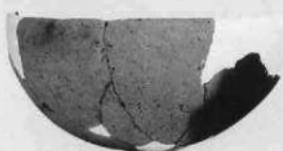
103—122



103—120



103—123



103-124



103-125



103-126



104-127



104-128



104-129



104-130



105-133



105-135



106-147



105-136



106-149



105-138



106-150



105-139



106-151



106-140



106-152



106-144



106-153

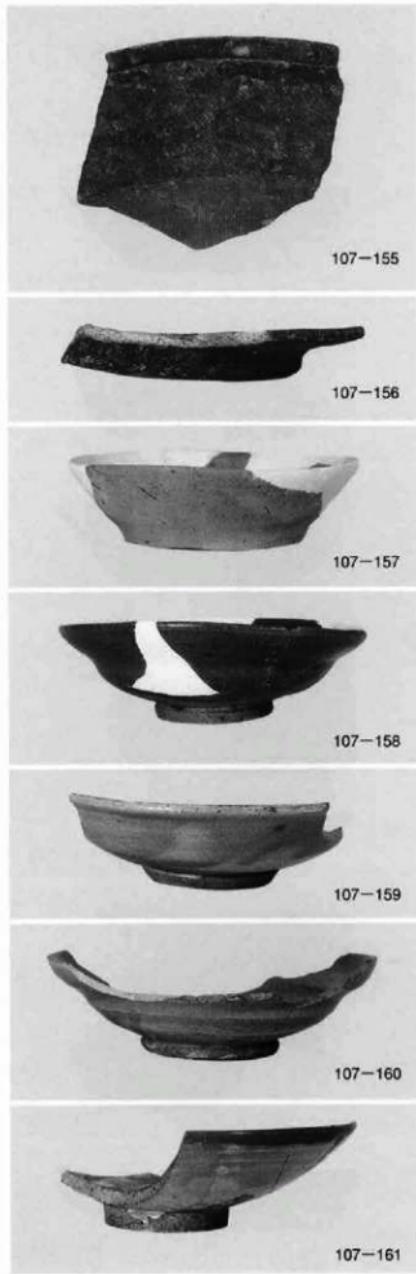


106-145



106-154

106-146





107—169



108—174



107—170



108—175



107—171



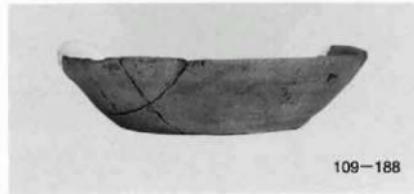
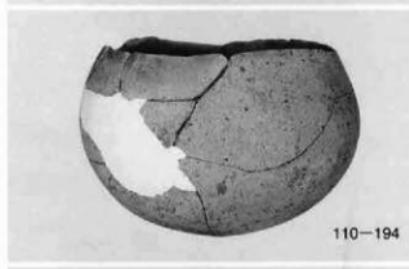
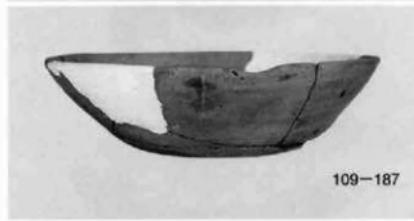
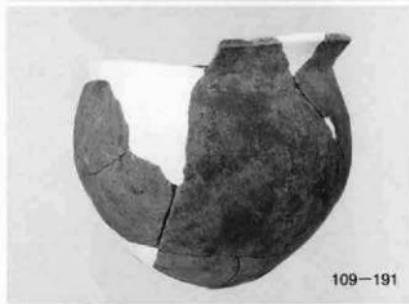
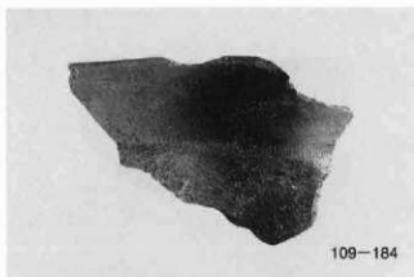
108—178



108—173



108—180





110-197



111-206



110-198



112-208



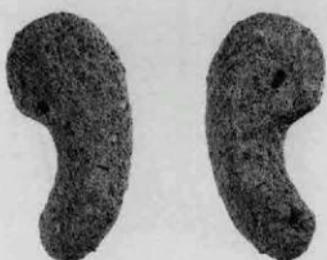
110-199



111-203



112-211



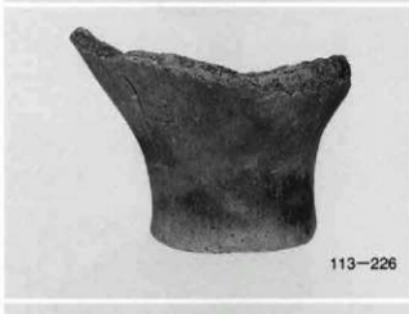
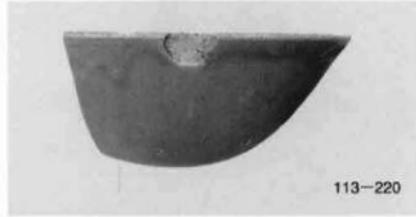
111-205



112-212



112-215





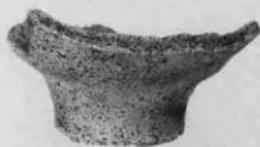
114-230



115-239



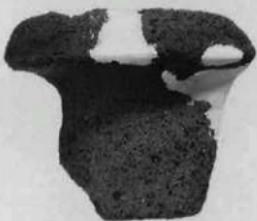
114-231



115-240



114-232



115-241



114-235



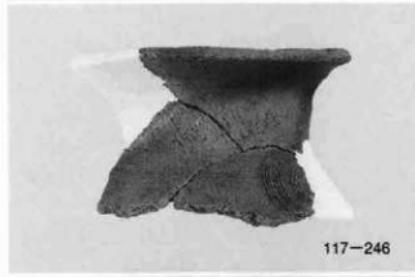
115-237



116-243



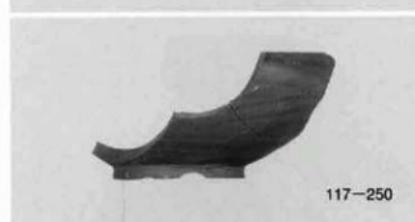
117-245



117-246



117-249



117-250



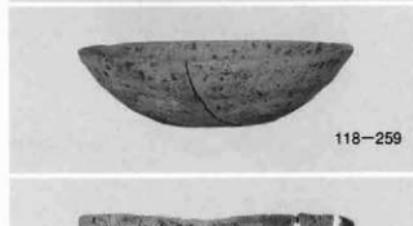
117-251



117-253



118-254



118-259



119-263



119-265



119-266



120-271



119-269



121-273



121-274



120-270



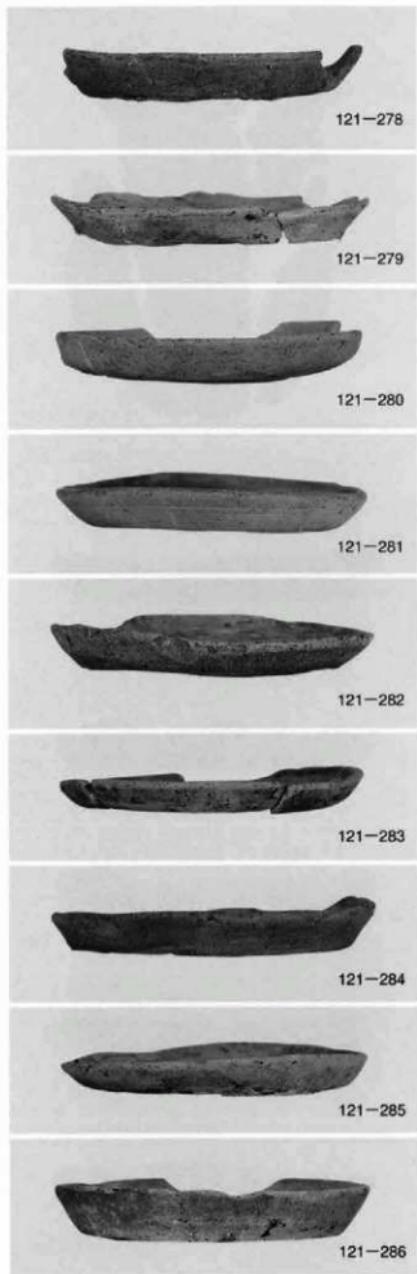
121-275



121-276



121-277





122-296



122-300



122-297



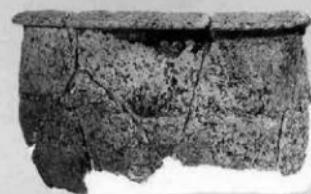
122-301



122-298



122-305



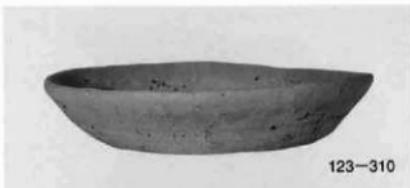
122-299



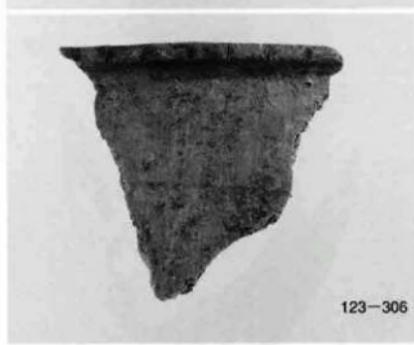
122-304



122-305



123-310



123-306



123-311



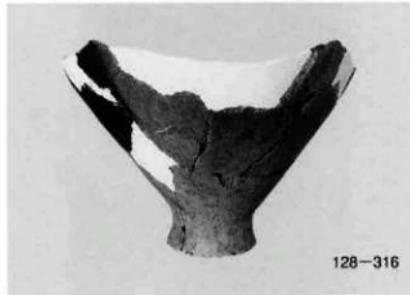
123-307



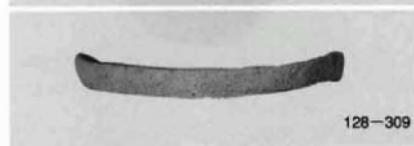
123-315



123-308



128-316



128-309



124-319



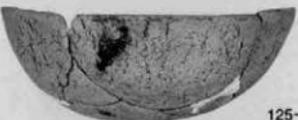
124-322



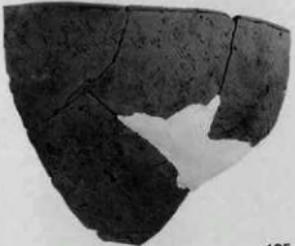
125-325



124-320



125-328



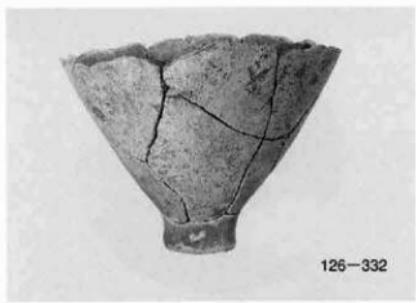
125-330



124-321



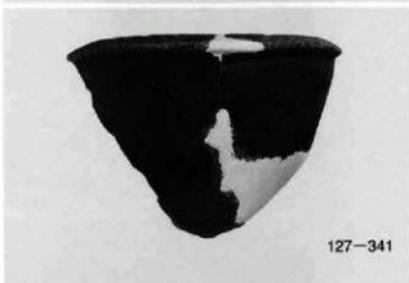
125-331



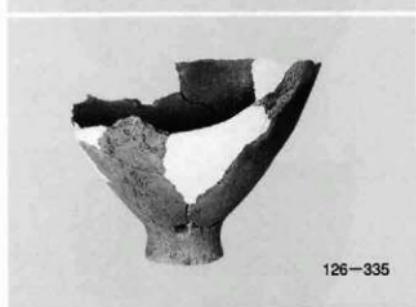
126-332



126-338



127-341



126-335



127-344



126-336



127-345



127-347



129-353



128-348



129-355



129-357



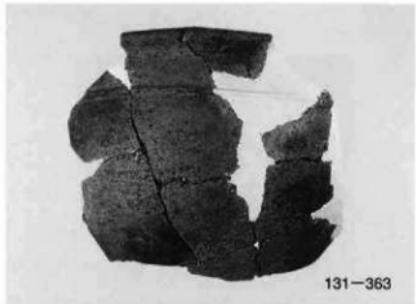
128-349



130-360



130-362



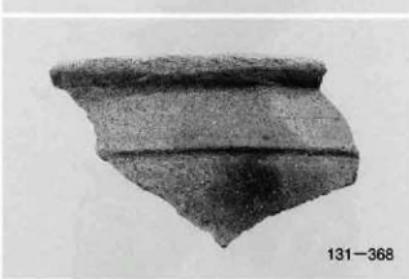
131-363



131-367



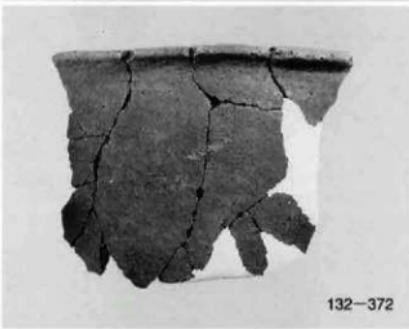
131-363



131-368



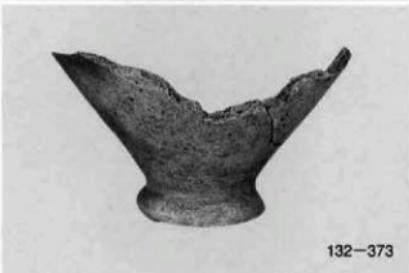
131-364



132-372



131-366



132-373



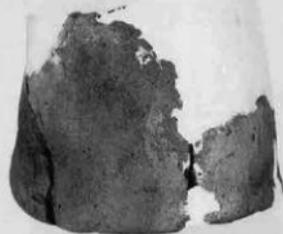
132-376



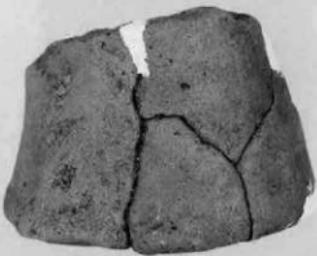
132-378



133-379



133-381



133-382



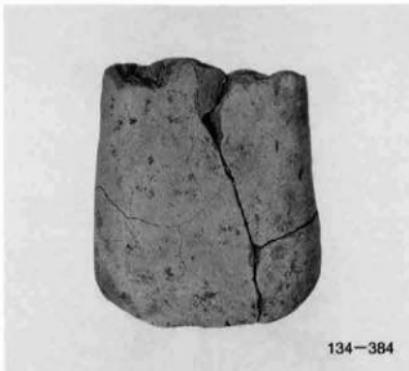
133-380



133-383



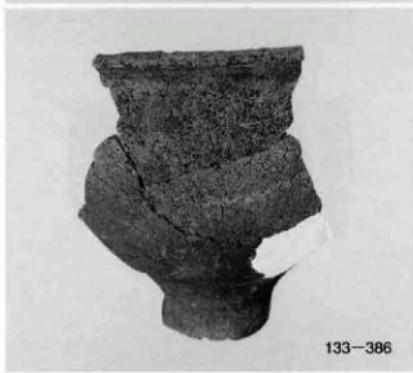
133-387



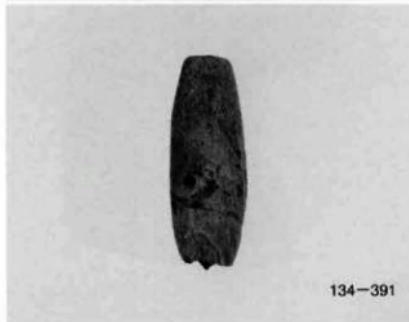
134-384



134-390



133-386



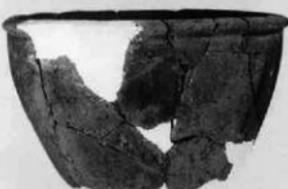
134-391



134-388



134—392



135—398



135—393



135—399



135—394



135—400



135—396



135—397



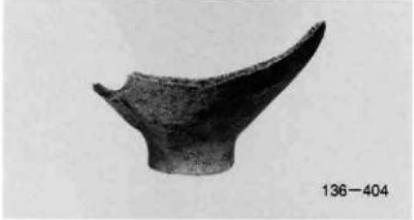
135—401



136-403



137-409



136-404



137-410



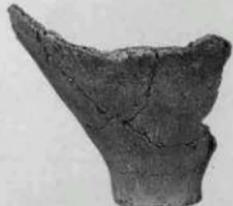
137-406



137-411



138-416



138-417



137-412



138-420



137-413



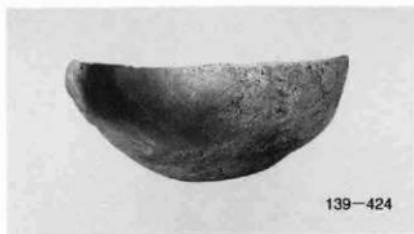
138-421



137-414



138-422



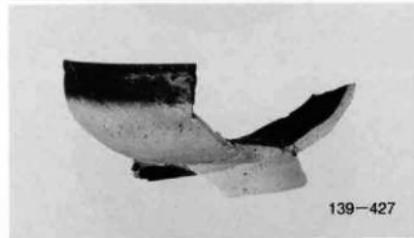
139-424



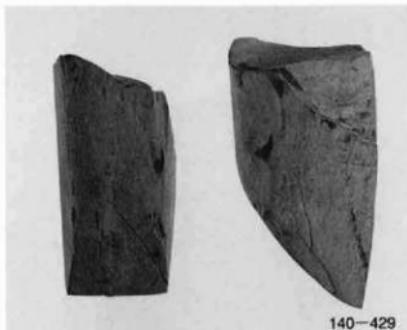
139-425



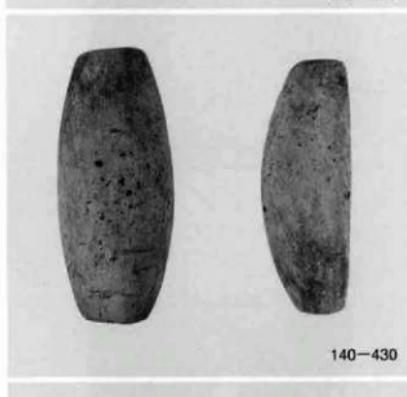
139-426



139-427



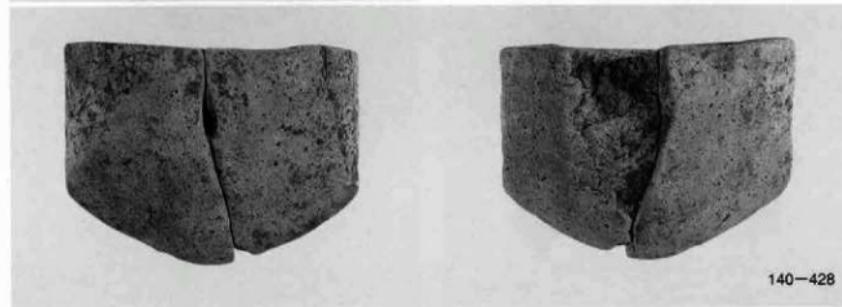
140-429



140-430



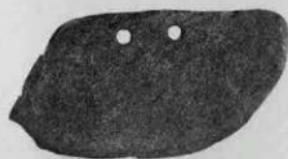
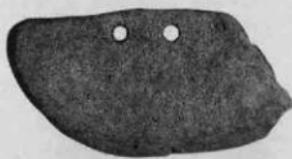
140-431



140-428



141-433



141-434



141-435



141-437



141-436



141-438



142-439



142-440



142-441



142-442



142-443



142-444

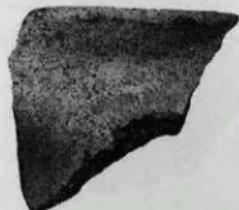




4-3



5-2



4-4



5-3



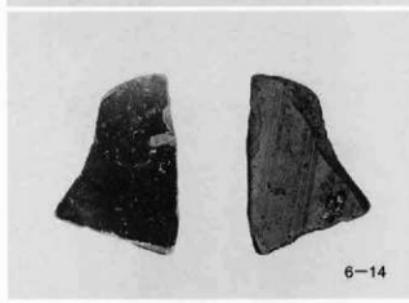
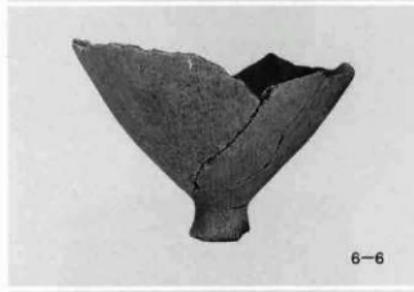
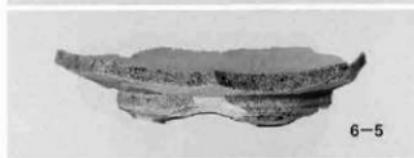
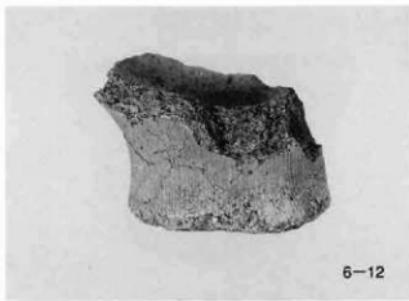
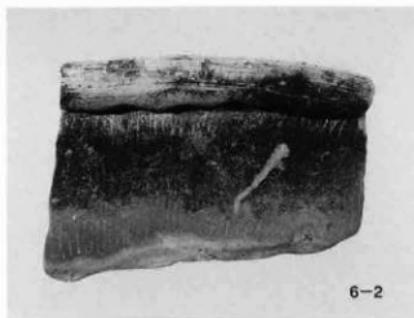
4-6



5-7



6-1





7-1



7-2



7-3



7-5



7-4



7-6



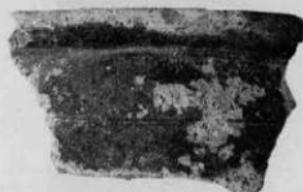
8-2



8-3



8-4



8-5



9-1



9-2



9-3



9-5



10-1



10-2



10-3



10-4



10-5



10-6



10-7



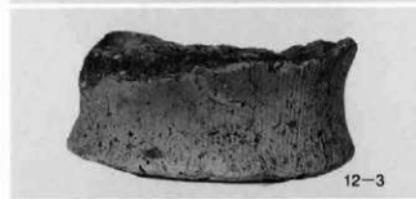
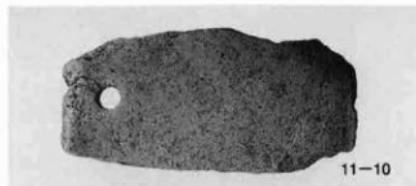
11-1



11-2



11-5





13-5



14-10



14-11



14-14



14-16



14-22



15-1



15-2



15-8



15-9



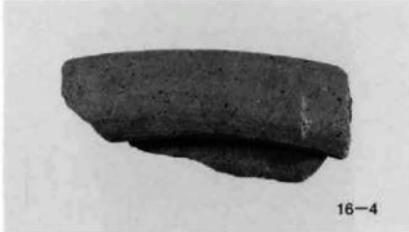
15-10



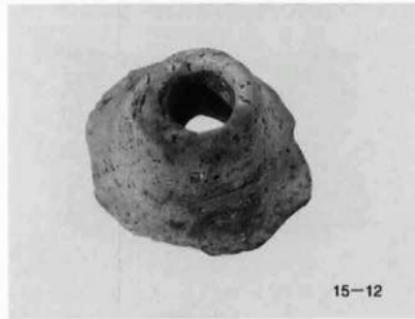
16-1



15-11



16-4



15-12



筑後西部地区遺跡群 II

筑後市文化財調査報告書

第29集

平成12年3月

編集機関 筑後市教育委員会

筑後市大字山ノ井898

印 刷 有限会社 新幸印刷

福岡県三井郡北野町上弓削696-6

